

平成 24 年度 事故やけがなどに関する調査  
報告書

平成 25 年 3 月

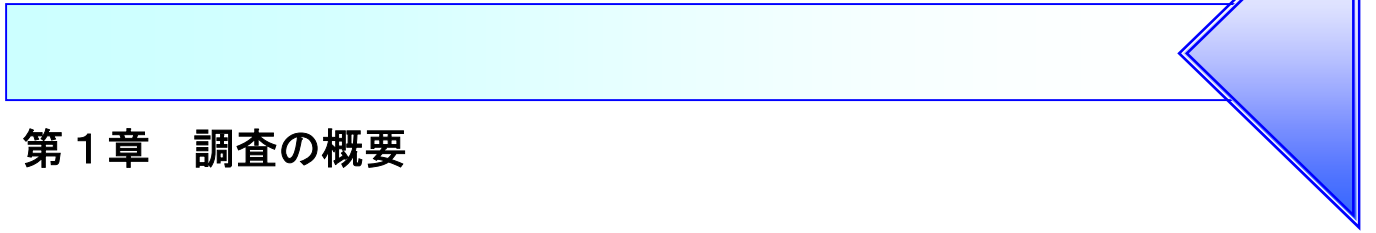
鹿 児 島 市



## ～ 目 次 ～

第1章 調査の概要 .....	1
第2章 乳幼児 .....	5
第3章 小中学生.....	41
第4章 一般.....	85
第5章 高齢者 .....	131
第6章 総括.....	193
第7章 調査票 .....	219





## 第 1 章 調査の概要

## 1 調査の目的

本市では、平成 24 年度からWHO（世界保健機関）が推進するセーフコミュニティに取り組んでおり、このセーフコミュニティでは、データ等の科学的な分析に基づき、事故等の防止策を検討・実施することとしており、既存の統計データ等とともに、本市の事故等の防止策を検討・実施するために必要な基礎データを取得することを目的とする。

## 2 調査地域

鹿児島市全域

## 3 調査方法

	乳幼児	小中学生	一般	高齢者	合計
調査対象	0歳～6歳で未就学児の男女	小学生、中学生の男女	16歳～64歳の男女	65歳以上の男女	
回答者	保護者回答	保護者回答（一部設問については、子どもと一緒に保護者が回答）	本人回答（できない場合は、家族などが可能な範囲で聞き取り等を行い回答）	本人回答（できない場合は、家族などが可能な範囲で聞き取り等を行い回答）	
調査方法	市内に居住する市民を無作為に抽出し、郵送による発送・回収				
配布数	2,000人	2,000人	2,000人	2,000人	8,000人
有効回答数	1,316人	1,274人	943人	1,420人	4,953人
有効回答率	65.8%	63.7%	47.2%	71.0%	61.9%

## 4 調査期間

平成 24 年 8 月 27 日（月）～平成 24 年 9 月 10 日（月）

## 5 調査の基準日

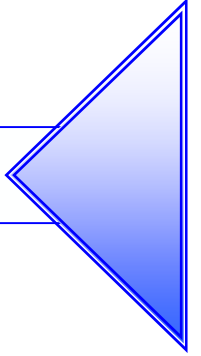
平成 24 年 8 月 1 日（水）

## 6 調査結果利用上の注意

- ① 割合は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、選択肢の合計は100%と一致しない場合がある。
- ② 複数回答の設問における、各選択肢の割合の合計は、原則として100%を超える。
- ③ 割合は、それぞれの設問の回答人数を基礎としている。
- ④ 属性別特徴における人数及び割合については、性別・年齢（学年）を尋ねる設問で無回答だった方を除いている。





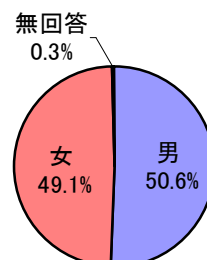


## 第 2 章 乳幼児

## 1 ご家族やお住まいのことについて

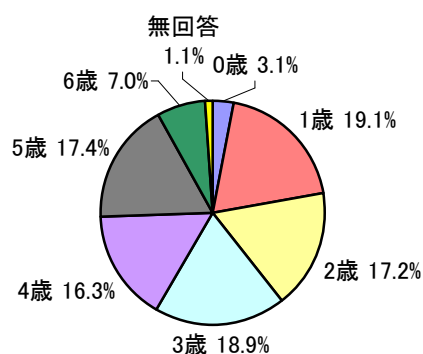
問1 あなた（保護者）のご家族についてお聞きします。

問1(1)対象のお子さんの性別	人数	割合
男	666	50.6%
女	646	49.1%
無回答	4	0.3%
合計	1,316	100.0%

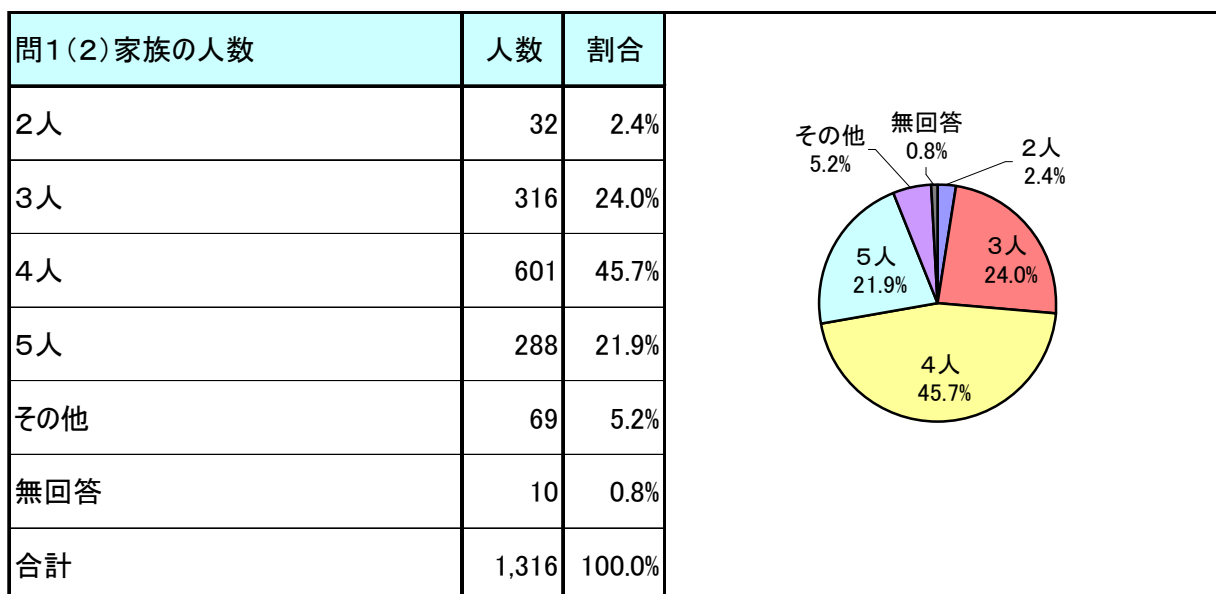


性別については、「男」が50.6%、「女」が49.1%となっている。

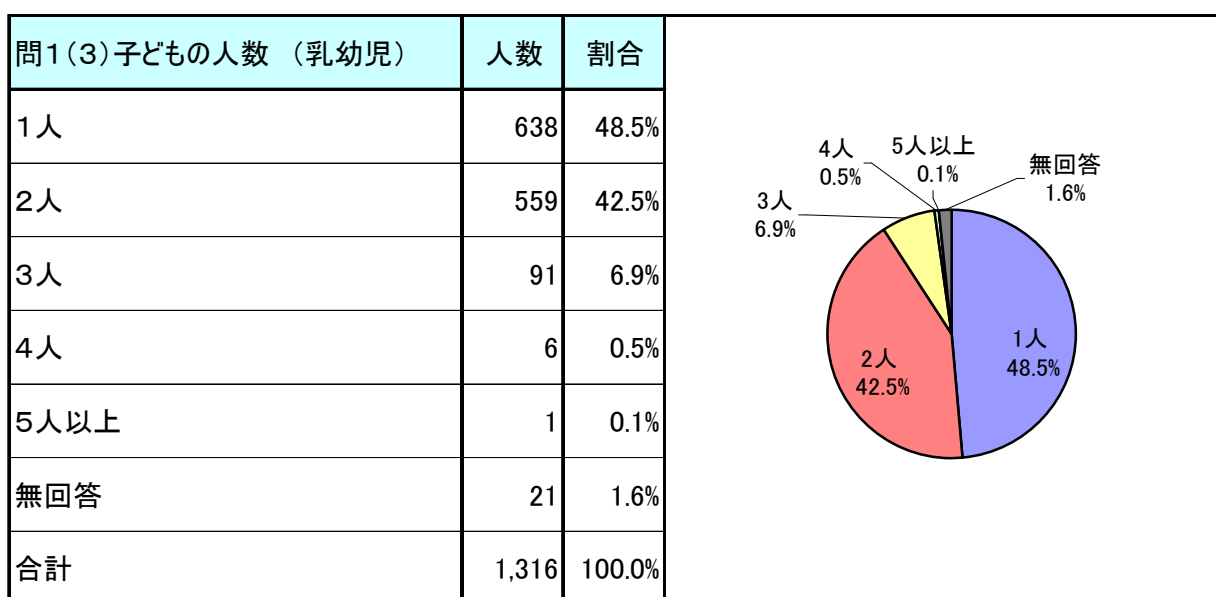
問1(1)対象のお子さんの年齢	人数	割合
0歳	41	3.1%
1歳	251	19.1%
2歳	226	17.2%
3歳	249	18.9%
4歳	214	16.3%
5歳	229	17.4%
6歳	92	7.0%
無回答	14	1.1%
合計	1,316	100.0%



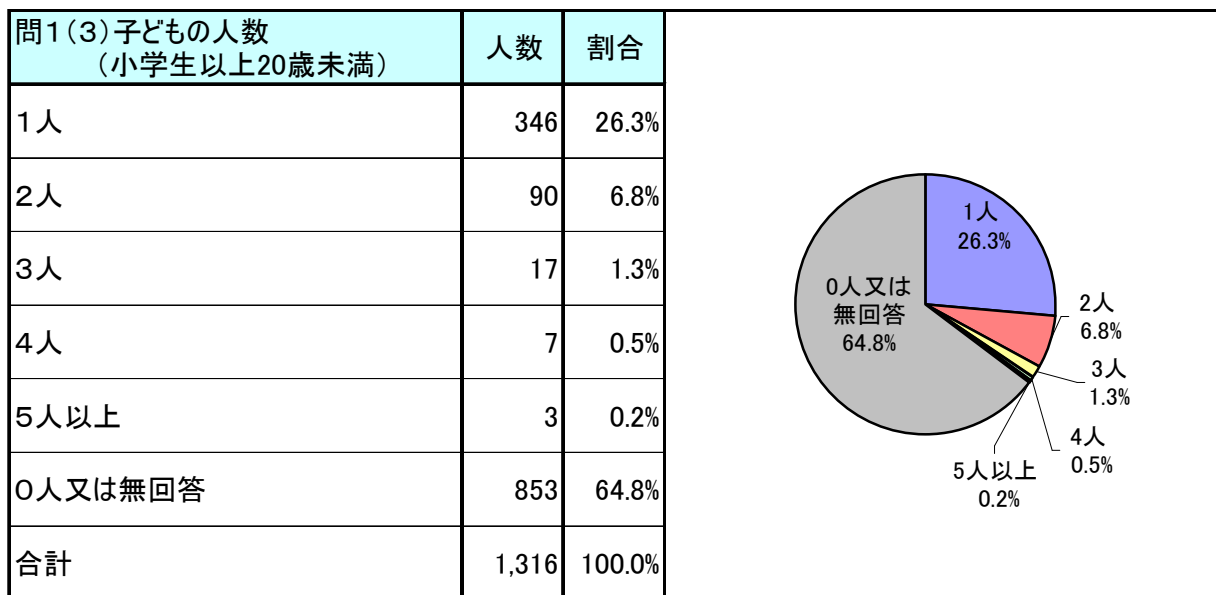
年齢については、「1歳」が19.1%と最も多く、次いで「3歳」が18.9%、「5歳」が17.4%となっている。



家族の人数については、「4人」が45.7%と最も多く、次いで「3人」が24.0%、「5人」が21.9%となっている。

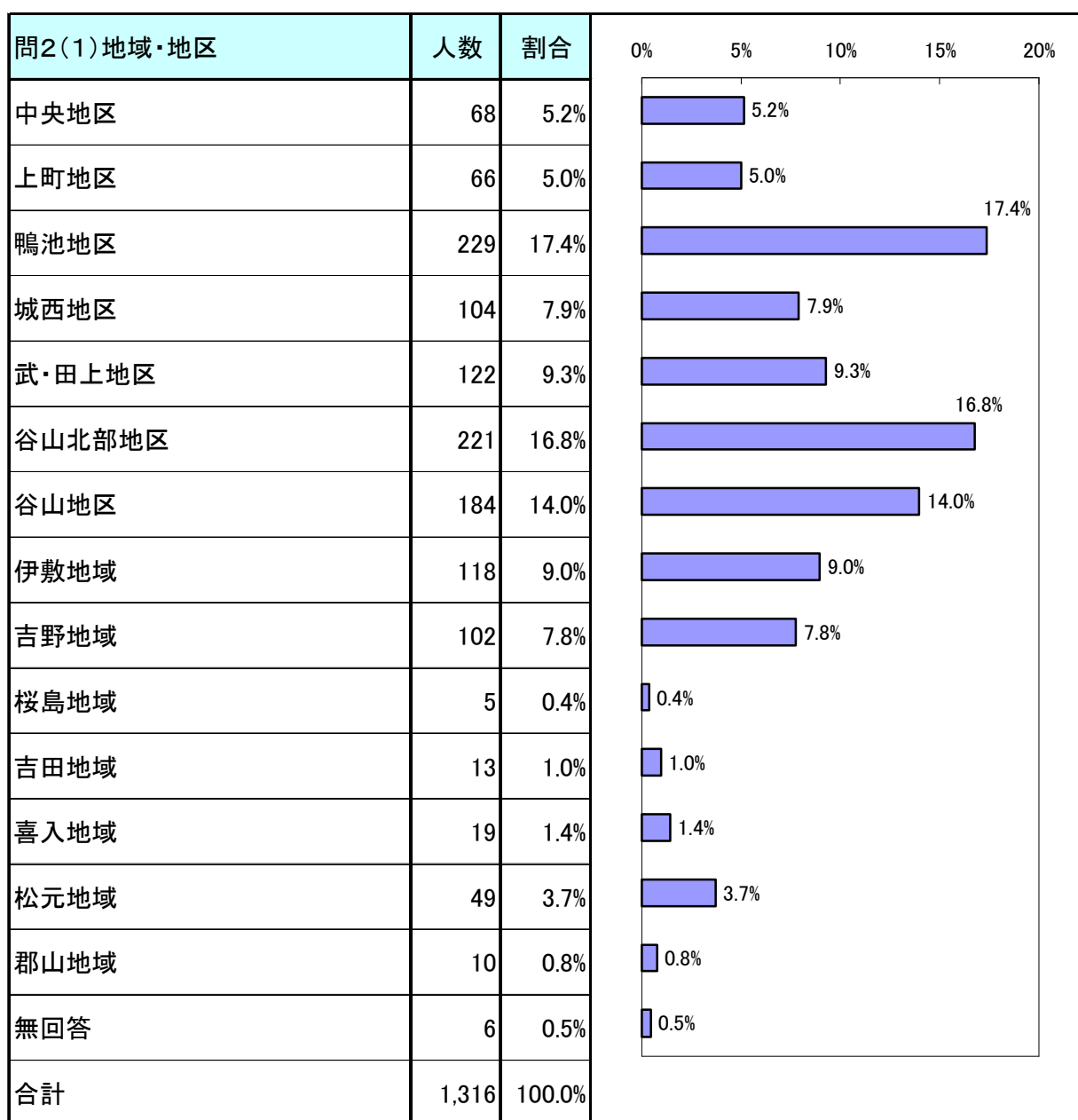


子どもの人数（乳幼児）については、「1人」が48.5%、「2人」が42.5%となっている。



子どもの人数（小学生以上20歳未満）については、「1人」が26.3%、「2人」が6.8%となっている。

問2 あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。

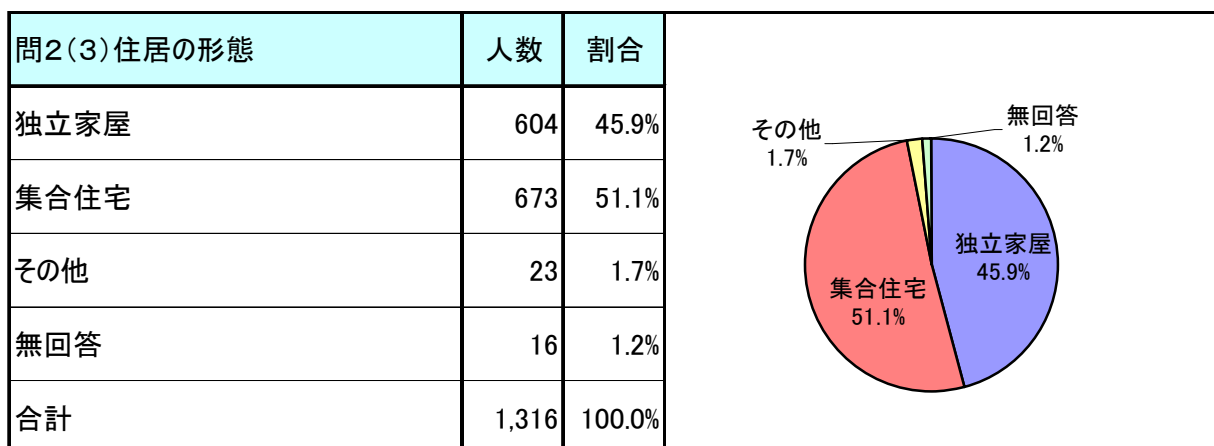


(注) 第五次総合計画に基づく地域・地区

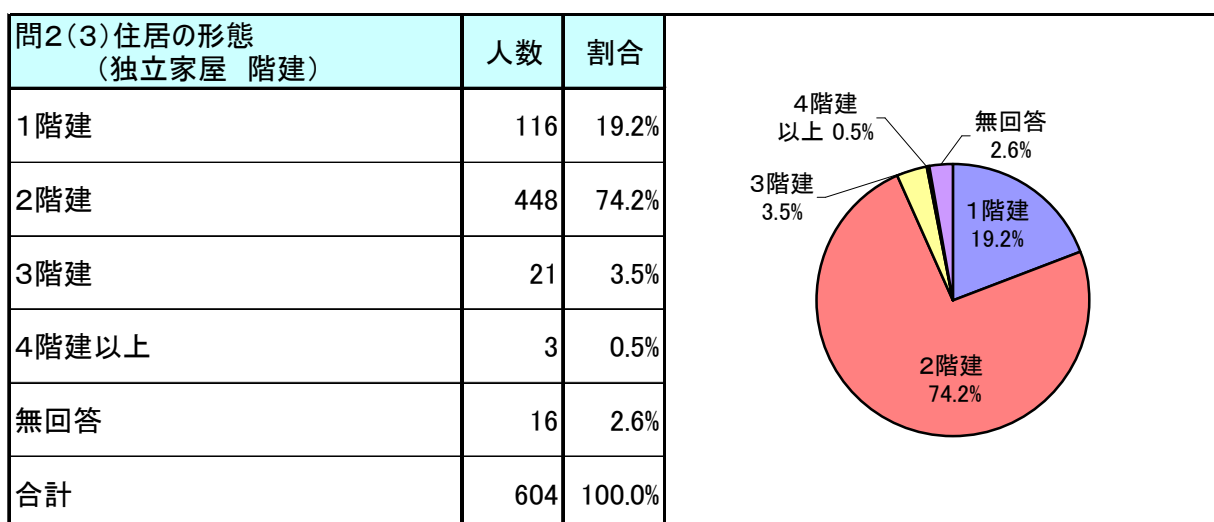
現住所地については、「鴨池地区」が 17.4%と最も多く、次いで「谷山北部地区」が 16.8%、「谷山地区」が 14.0%となっている。

## 問2 (2) 小学校区

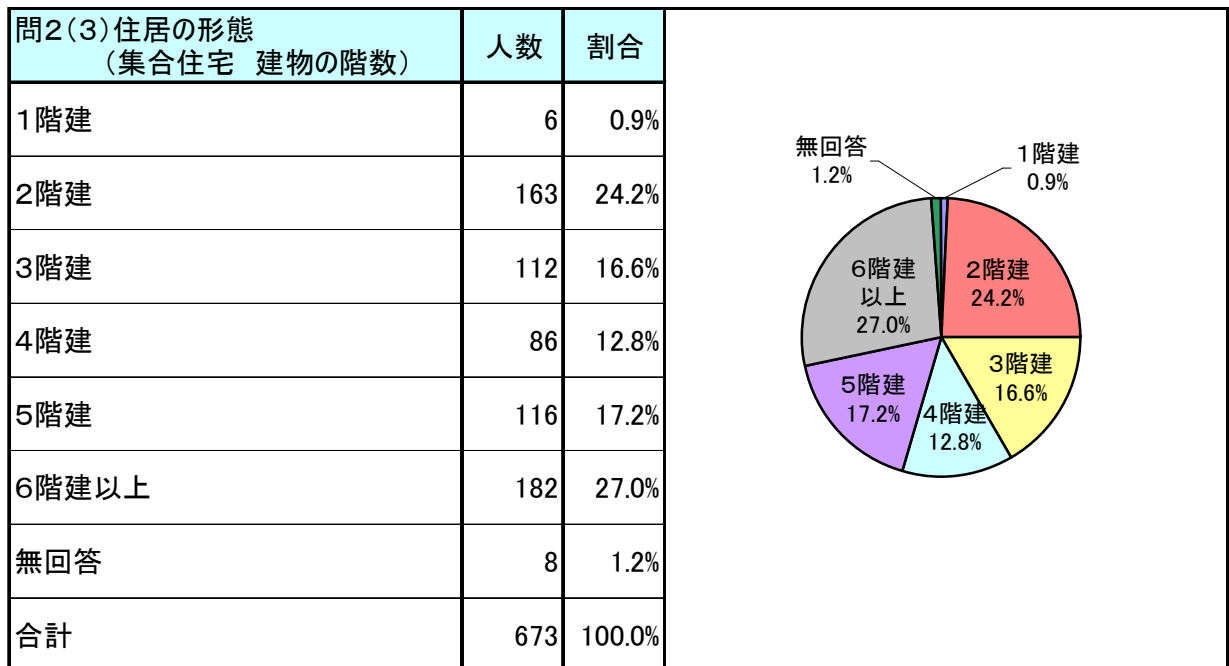
区 分	人数	割合	区 分	人数	割合
吉田小学校	2	0.2%	花野小学校	11	0.8%
本名小学校	3	0.2%	西伊敷小学校	11	0.8%
宮小学校	0	0.0%	伊敷台小学校	21	1.6%
本城小学校	1	0.1%	玉江小学校	35	2.7%
牟礼岡小学校	4	0.3%	小山田小学校	1	0.1%
南方小学校	0	0.0%	犬迫小学校	4	0.3%
花尾小学校	0	0.0%	皆与志小学校	0	0.0%
郡山小学校	11	0.8%	東桜島小学校	2	0.2%
川上小学校	14	1.1%	改新小学校	0	0.0%
吉野小学校	35	2.7%	高免小学校	0	0.0%
吉野東小学校	24	1.8%	黒神小学校	0	0.0%
大明丘小学校	5	0.4%	桜洲小学校	3	0.2%
坂元小学校	16	1.2%	桜峰小学校	0	0.0%
坂元台小学校	13	1.0%	松元小学校	20	1.5%
清水小学校	15	1.1%	東昌小学校	1	0.1%
大龍小学校	7	0.5%	春山小学校	15	1.1%
名山小学校	12	0.9%	石谷小学校	11	0.8%
山下小学校	23	1.7%	谷山小学校	35	2.7%
松原小学校	8	0.6%	西谷山小学校	22	1.7%
城南小学校	7	0.5%	東谷山小学校	35	2.7%
草牟田小学校	20	1.5%	清和小学校	42	3.2%
原良小学校	28	2.1%	和田小学校	34	2.6%
明和小学校	20	1.5%	錦江台小学校	22	1.7%
武岡小学校	16	1.2%	福平小学校	35	2.7%
武岡台小学校	6	0.5%	平川小学校	1	0.1%
西田小学校	20	1.5%	錫山小学校	1	0.1%
武小学校	23	1.7%	中山小学校	49	3.7%
田上小学校	10	0.8%	桜丘西小学校	4	0.3%
西陵小学校	25	1.9%	桜丘東小学校	0	0.0%
広木小学校	22	1.7%	星峯西小学校	1	0.1%
中洲小学校	9	0.7%	星峯東小学校	2	0.2%
荒田小学校	10	0.8%	宮川小学校	13	1.0%
八幡小学校	26	2.0%	皇徳寺小学校	19	1.4%
中郡小学校	22	1.7%	瀬々串小学校	4	0.3%
紫原小学校	37	2.8%	中名小学校	2	0.2%
西紫原小学校	25	1.9%	喜入小学校	11	0.8%
鴨池小学校	19	1.4%	前之浜小学校	2	0.2%
南小学校	15	1.1%	生見小学校	0	0.0%
宇宿小学校	16	1.2%	一倉小学校	0	0.0%
向陽小学校	17	1.3%	無回答	240	18.2%
伊敷小学校	21	1.6%	合 計	1,316	100.0%



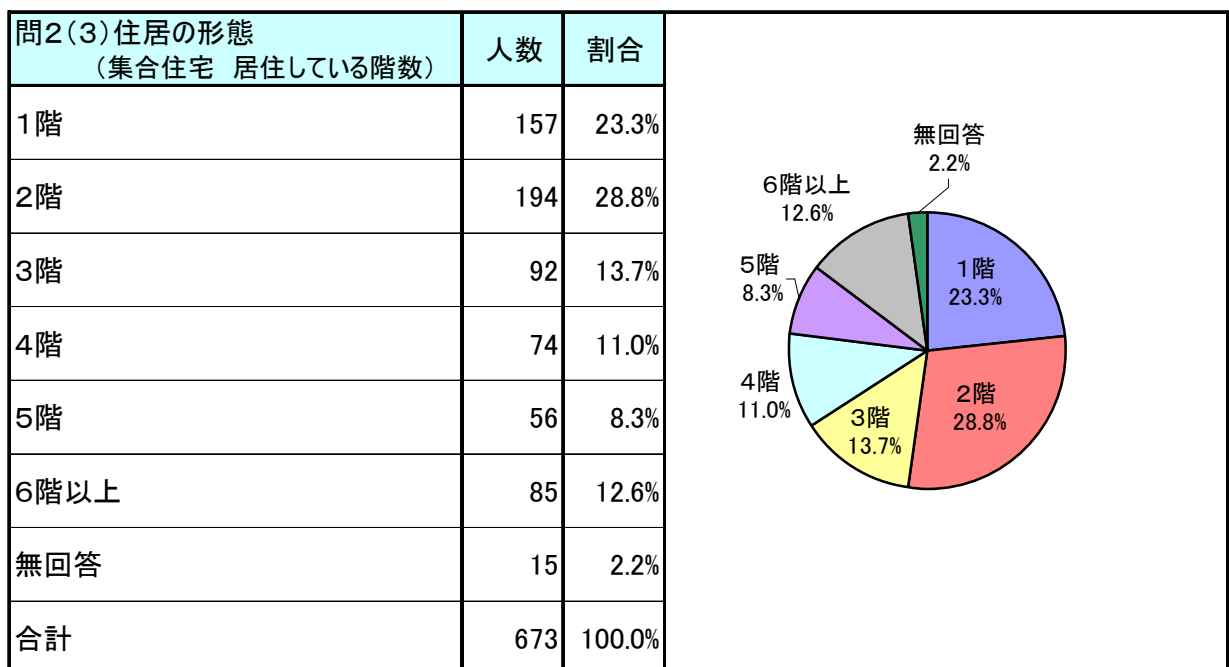
住居の形態については、「集合住宅」が51.1%、「独立家屋」が45.9%となっている。



独立家屋の住居の形態については、「2階建」が74.2%と最も多く、次いで「1階建」が19.2%、「3階建」が3.5%となっている。



集合住宅の建物の階数については、「6階建以上」が27.0%と最も多く、次いで「2階建」が24.2%、「5階建」が17.2%となっている。

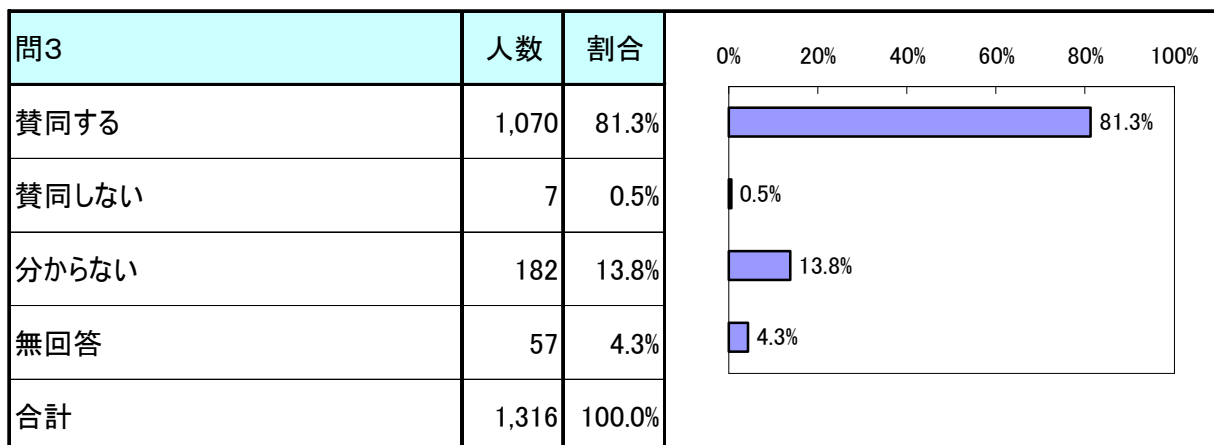


集合住宅の居住している階数については、「2階」が28.8%と最も多く、次いで「1階」が23.3%、「3階」が13.7%となっている。



## 2 セーフコミュニティについて

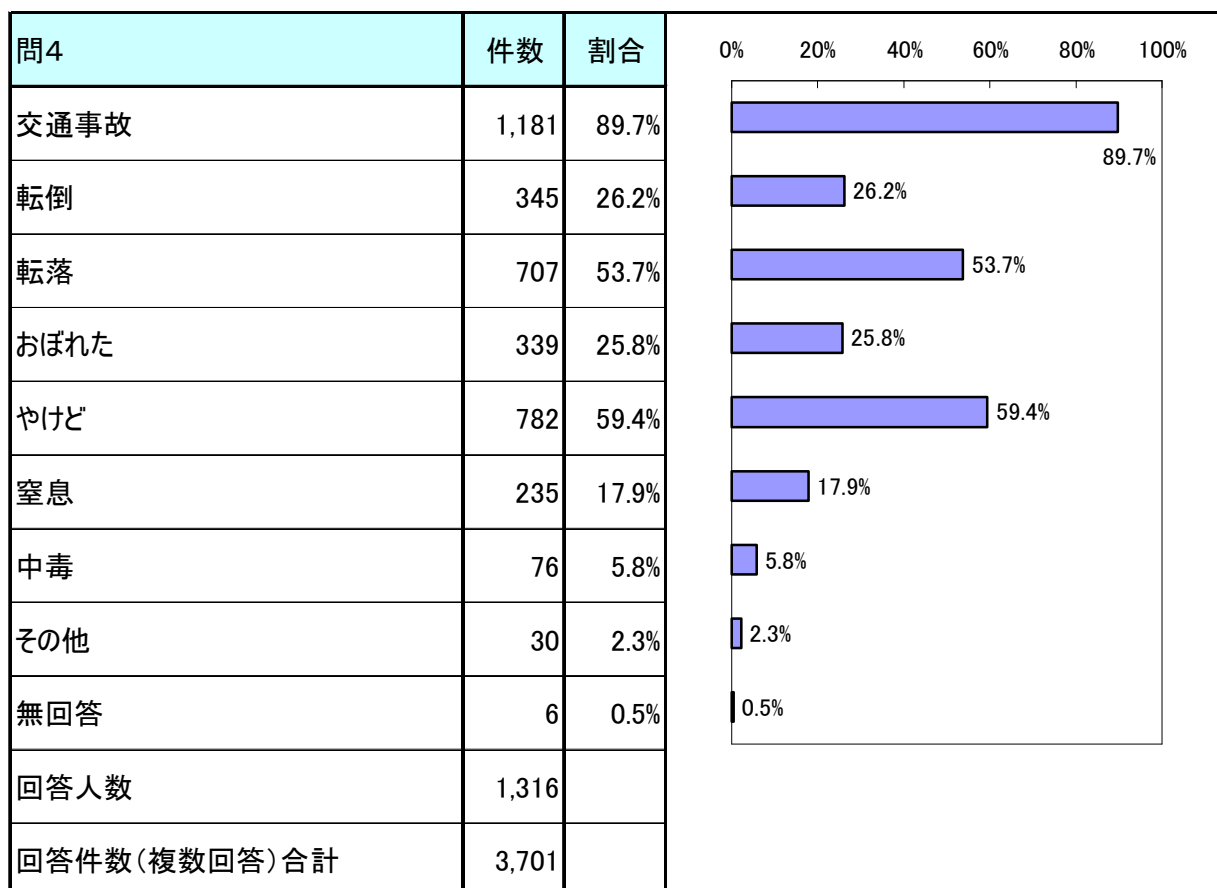
問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなた（保護者）は、この考えについてどう思いますか。（ひとつに○）



セーフコミュニティの考えについては、「賛同する」が81.3%となっている。

### 3 不慮の事故について

問4 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけど、窒息、中毒などをいいますが、一緒に住んでいるお子さんに対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。(3つまで○)



特に注意している不慮の事故については、「交通事故」が89.7%と最も多く、次いで「やけど」が59.4%、「転倒」が53.7%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「誤飲」、「ドアに挟まった」等が挙げられた。

問5 対象のお子さんが、この1年間（平成23年8月～平成24年7月）にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。（ひとつに○）

問5	人数	割合	0%	20%	40%	60%
ある	667	50.7%				
ない	627	47.6%				
無回答	22	1.7%				
合計	1,316	100.0%				

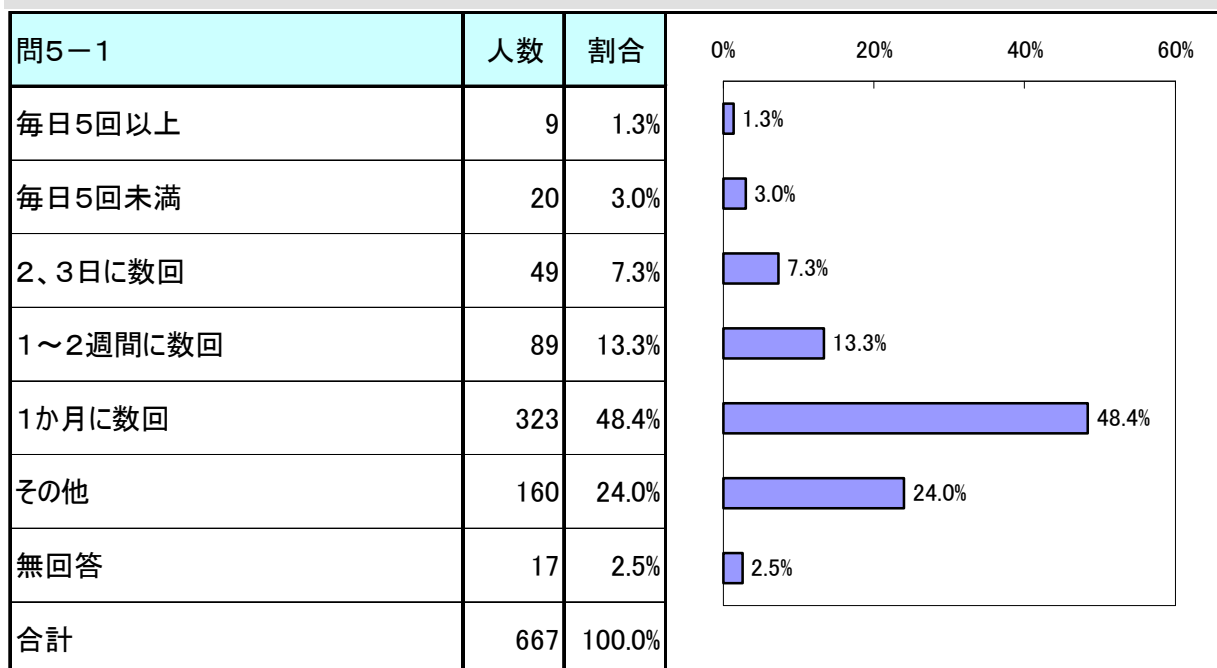
1年間に事故・けがに遭いそうになりヒヤリとしたことについては、「ある」が50.7%、「ない」が47.6%となっている。

#### 【属性別特徴】

性別の女兒、年齢別の3歳以上では、「ない」が「ある」を上回っており、全体と逆の傾向がみられる。

問5	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	667	50.7%	357	53.6%	308	47.7%	299	57.7%	359	45.8%
ない	627	47.6%	296	44.4%	329	50.9%	211	40.7%	412	52.6%
無回答	22	1.7%	13	2.0%	9	1.4%	8	1.5%	13	1.7%
合計	1,316	100.0%	666	100.0%	646	100.0%	518	100.0%	784	100.0%

問5-1 この1年間に対象のお子さんで、ヒヤリとしたことは、どのくらいの頻度でありますか。(一番近いものひとつに○)



1年間に事故・けがに遭いそうになりヒヤリとした頻度については、「1か月に数回」が48.4%と最も多く、次いで「1～2週間に数回」が13.3%、「2、3日に数回」が7.3%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「年に1～2回」、「2～3か月に1回」等が挙げられた。

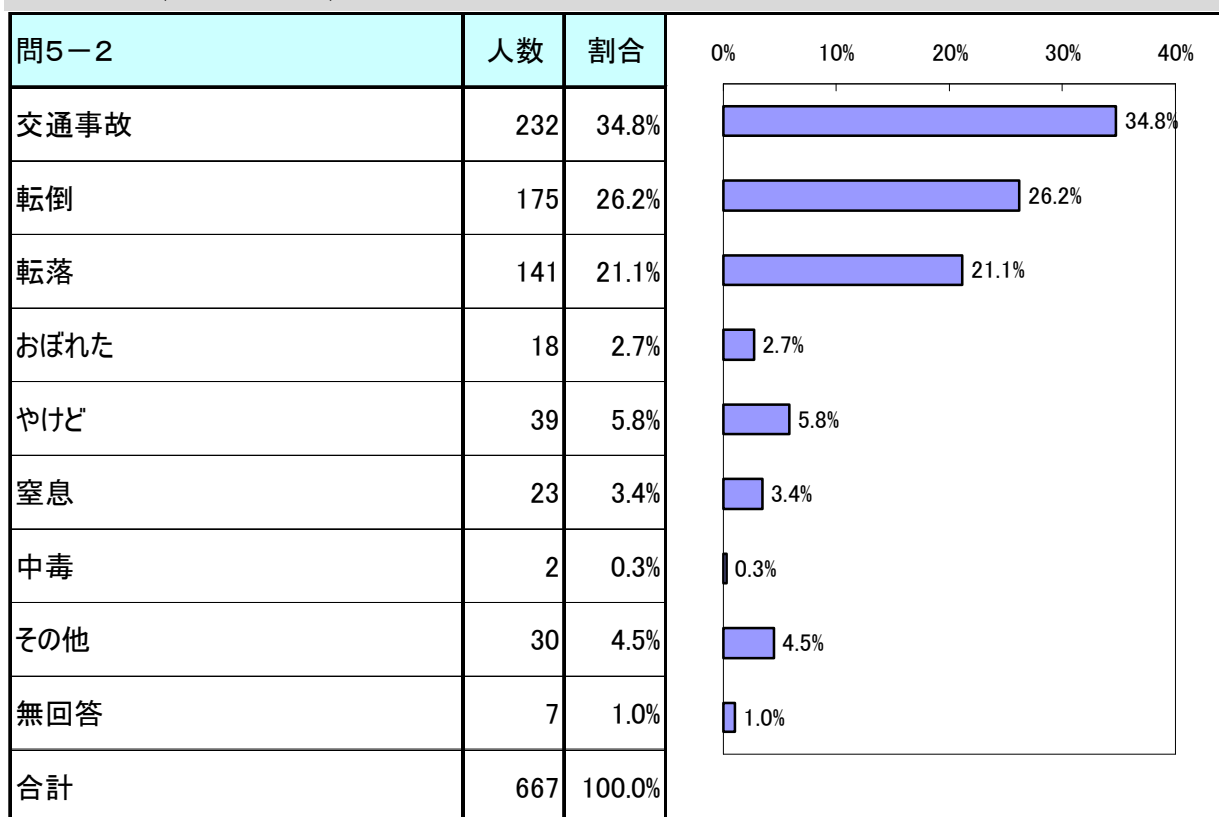
## 【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

年齢別では、2歳以下の「毎日5回以上」、「毎日5回未満」、「2、3日に数回」、「1～2週間に数回」の割合が、いずれも3歳以上を上回っている。

問5-1	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
毎日5回以上	9	1.3%	6	1.7%	3	1.0%	6	2.0%	3	0.8%
毎日5回未満	20	3.0%	10	2.8%	10	3.2%	12	4.0%	8	2.2%
2、3日に数回	49	7.3%	28	7.8%	21	6.8%	28	9.4%	20	5.6%
1～2週間に数回	89	13.3%	49	13.7%	40	13.0%	48	16.1%	41	11.4%
1か月に数回	323	48.4%	167	46.8%	154	50.0%	137	45.8%	180	50.1%
その他	160	24.0%	91	25.5%	69	22.4%	64	21.4%	95	26.5%
無回答	17	2.5%	6	1.7%	11	3.6%	4	1.3%	12	3.3%
合計	667	100.0%	357	100.0%	308	100.0%	299	100.0%	359	100.0%

問5-2 この1年間に対象のお子さんで、一番多くヒヤリとした体験は何ですか。  
(ひとつに○)



1年間に一番多くヒヤリとした体験については、「交通事故」が34.8%と最も多く、次いで「転倒」が26.2%、「転落」が21.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「手（指）を挟んだ」、「誤飲」等が挙げられた。

## 【属性別特徴】

性別では、男児の「交通事故」が38.9%で、女児の30.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、2歳以下で「転落」が32.8%と最も多く、次いで「転倒」が30.1%、「交通事故」が14.4%となっている。また、3歳以上の「交通事故」が51.5%で、3歳以上のヒヤリ体験全体の約半分を占めている。

問5-2	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
交通事故	232	34.8%	139	38.9%	93	30.2%	43	14.4%	185	51.5%
転倒	175	26.2%	87	24.4%	86	27.9%	90	30.1%	82	22.8%
転落	141	21.1%	76	21.3%	65	21.1%	98	32.8%	41	11.4%
おぼれた	18	2.7%	6	1.7%	12	3.9%	9	3.0%	9	2.5%
やけど	39	5.8%	19	5.3%	20	6.5%	24	8.0%	15	4.2%
窒息	23	3.4%	13	3.6%	10	3.2%	15	5.0%	8	2.2%
中毒	2	0.3%	2	0.6%	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%
その他	30	4.5%	12	3.4%	18	5.8%	15	5.0%	15	4.2%
無回答	7	1.0%	3	0.8%	4	1.3%	3	1.0%	4	1.1%
合計	667	100.0%	357	100.0%	308	100.0%	299	100.0%	359	100.0%

問6 対象のお子さんは、この1年間に「事故やけが」の経験がありますか。  
(ひとつに○)

問6	人数	割合	
ある	394	29.9%	
ない	880	66.9%	
無回答	42	3.2%	
合計	1,316	100.0%	

1年間の事故やけがの経験については、「ある」が29.9%、「ない」が66.9%となっている。

#### 【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

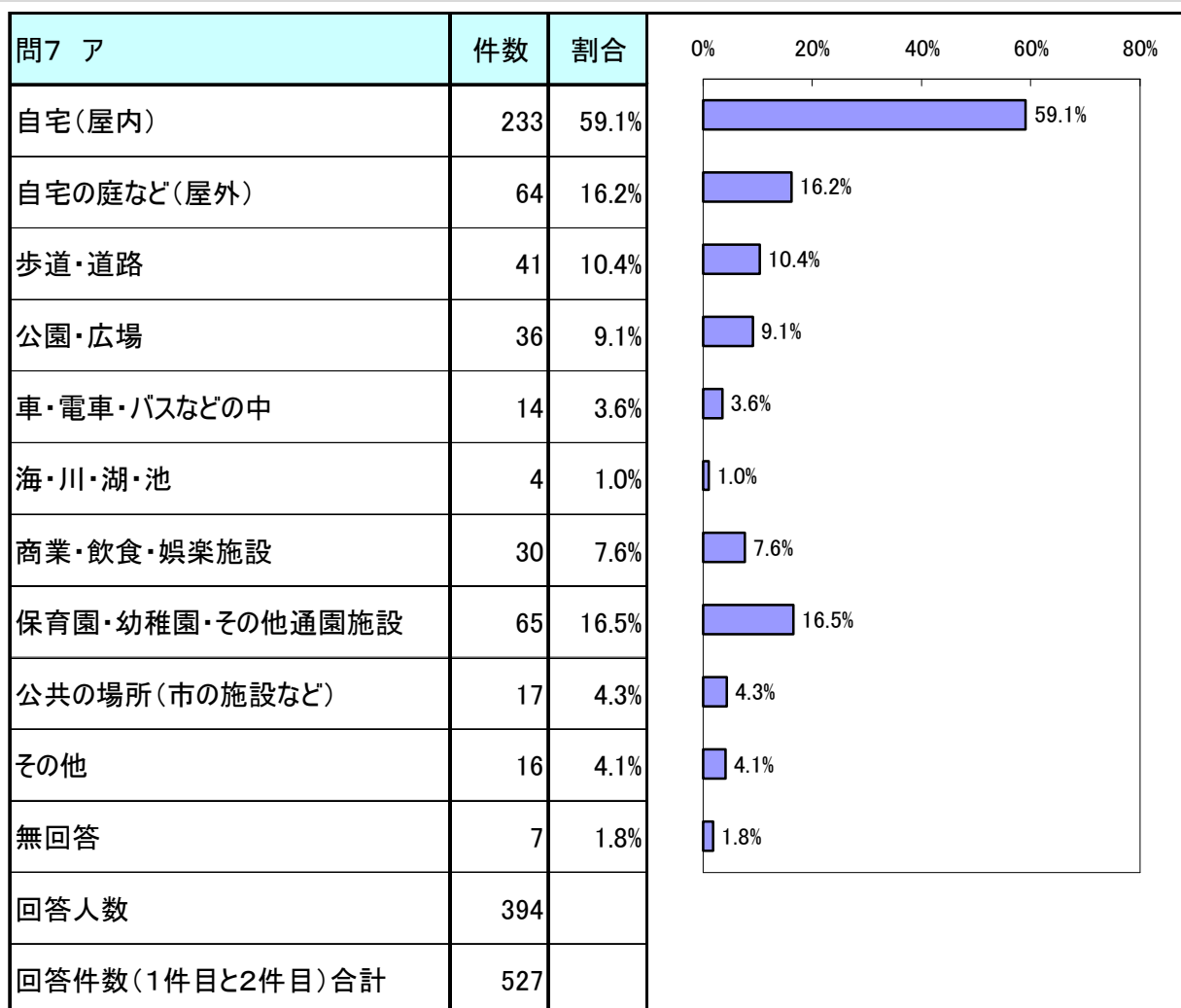
年齢別では、2歳以下の「ある」が34.9%で、3歳以上の26.7%に比べてやや高くなっている。また、2歳以下の約3人に1人(34.9%)、3歳以上の約4人に1人(26.7%)が「ある」と回答している。

問6	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	394	29.9%	209	31.4%	185	28.6%	181	34.9%	209	26.7%
ない	880	66.9%	440	66.1%	436	67.5%	322	62.2%	548	69.9%
無回答	42	3.2%	17	2.6%	25	3.9%	15	2.9%	27	3.4%
合計	1,316	100.0%	666	100.0%	646	100.0%	518	100.0%	784	100.0%



問7 対象のお子さんのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）にあった事故やけがについて、ア：場所、イ：種類、ウ：医療機関の受診の状況、エ：その事故やけがを未然に防ぐことができた可能性を、それぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

#### ア 事故やけがをした場所



事故やけがをした場所については、「自宅（屋内）」が59.1%と最も多く、次いで「保育園・幼稚園・その他通園施設」が16.5%、「自宅の庭など（屋外）」が16.2%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「駐車場」等が挙げられた。

## 【属性別特徴】

性別では、男児の「公園・広場」が12.4%で、女児の5.4%に比べてやや高くなっている。また、女児の「商業・飲食・娯楽施設」が10.8%で、男児の4.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、2歳以下の「自宅（屋内）」が80.7%で、3歳以上の38.8%に比べて非常に高くなっている。また、3歳以上の「保育園・幼稚園・その他通園施設」が27.3%で、2歳以下の4.4%に比べて高くなっている。

問7 ア	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自宅(屋内)	233	59.1%	122	58.4%	111	60.0%	146	80.7%	81	38.8%
自宅の庭など(屋外)	64	16.2%	36	17.2%	28	15.1%	24	13.3%	40	19.1%
歩道・道路	41	10.4%	26	12.4%	15	8.1%	11	6.1%	30	14.4%
公園・広場	36	9.1%	26	12.4%	10	5.4%	13	7.2%	23	11.0%
車・電車・バスなどの中	14	3.6%	8	3.8%	6	3.2%	7	3.9%	7	3.3%
海・川・湖・池	4	1.0%	2	1.0%	2	1.1%	0	0.0%	4	1.9%
商業・飲食・娯楽施設	30	7.6%	10	4.8%	20	10.8%	18	9.9%	12	5.7%
保育園・幼稚園・その他通園施設	65	16.5%	30	14.4%	35	18.9%	8	4.4%	57	27.3%
公共の場所(市の施設など)	17	4.3%	8	3.8%	9	4.9%	8	4.4%	9	4.3%
その他	16	4.1%	11	5.3%	5	2.7%	7	3.9%	9	4.3%
無回答	7	1.8%	4	1.9%	3	1.6%	3	1.7%	4	1.9%
回答人数	394		209		185		181		209	
回答件数(1件目と2件目)合計	527		283		244		245		276	

## イ 事故やけがの種類

問7 イ	件数	割合	
交通事故	12	3.0%	3.0%
転倒	183	46.4%	46.4%
転落	112	28.4%	28.4%
おぼれた	8	2.0%	2.0%
やけど(熱湯、アイロンなど)	58	14.7%	14.7%
異物などの誤飲(たばこの吸殻など)	8	2.0%	2.0%
窒息(のどに食べ物をつまらせたなど)	12	3.0%	3.0%
中毒(洗剤を飲みこんだ、煙を吸ったなど)	5	1.3%	1.3%
ドアなどに挟まった	37	9.4%	9.4%
人や物との接触	38	9.6%	9.6%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	6	1.5%	1.5%
虫にさされた、動物にかまれた	16	4.1%	4.1%
物の落下	5	1.3%	1.3%
その他	22	5.6%	5.6%
無回答	6	1.5%	1.5%
回答人数	394		
回答件数(1件目と2件目)合計	528		

事故やけがの種類については、「転倒」が46.4%と最も多く、次いで「転落」が28.4%、「やけど(熱湯、アイロンなど)」が14.7%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「耳に細い棒(ペン)が入った」等が挙げられた。

## 【属性別特徴】

性別では、男児の「転落」が32.5%で、女児の23.8%に比べてやや高くなっている。年齢別では、2歳以下の「転落」が39.8%で、3歳以上の18.2%に比べて高くなっている。また、3歳以上の「人や物との接触」が13.9%で、2歳以下の5.0%に比べてやや高くなっている。

問7 イ	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
交通事故	12	3.0%	8	3.8%	4	2.2%	3	1.7%	9	4.3%
転倒	183	46.4%	101	48.3%	82	44.3%	81	44.8%	100	47.8%
転落	112	28.4%	68	32.5%	44	23.8%	72	39.8%	38	18.2%
おぼれた	8	2.0%	2	1.0%	6	3.2%	1	0.6%	7	3.3%
やけど(熱湯、アイロンなど)	58	14.7%	30	14.4%	28	15.1%	27	14.9%	29	13.9%
異物などの誤飲(たばこの吸い殻など)	8	2.0%	2	1.0%	6	3.2%	7	3.9%	1	0.5%
窒息(のどに食べ物をつまらせたなど)	12	3.0%	8	3.8%	4	2.2%	7	3.9%	5	2.4%
中毒(洗剤を飲みこんだ、煙を吸ったなど)	5	1.3%	2	1.0%	3	1.6%	5	2.8%	0	0.0%
ドアなどに挟まった	37	9.4%	17	8.1%	20	10.8%	14	7.7%	23	11.0%
人や物との接触	38	9.6%	20	9.6%	18	9.7%	9	5.0%	29	13.9%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	6	1.5%	4	1.9%	2	1.1%	3	1.7%	3	1.4%
虫に刺された、動物にかまれた	16	4.1%	7	3.3%	9	4.9%	8	4.4%	8	3.8%
物の落下	5	1.3%	1	0.5%	4	2.2%	1	0.6%	4	1.9%
その他	22	5.6%	10	4.8%	12	6.5%	6	3.3%	16	7.7%
無回答	6	1.5%	4	1.9%	2	1.1%	2	1.1%	4	1.9%
回答人数	394		209		185		181		209	
回答件数(1件目と2件目)合計	528		284		244		246		276	

## ウ 医療機関の受診

問7 ウ	件数	割合	
家庭などの手当てで済んだ	302	76.6%	76.6%
医療機関に1回通院した	99	25.1%	25.1%
医療機関に2回以上通院した (している)	103	26.1%	26.1%
医療機関に入院した(している)	3	0.8%	0.8%
その他	10	2.5%	2.5%
無回答	7	1.8%	1.8%
回答人数	394		
回答件数(1件目と2件目)合計	524		

医療機関の受診については、「家庭などの手当てで済んだ」が76.6%と最も多く、次いで「医療機関に2回以上通院した(している)」が26.1%、「医療機関に1回通院した」が25.1%となっている。

## 【属性別特徴】

性別では、女兒の「家庭などの手当てで済んだ」が81.1%で、男児の72.7%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、2歳以下の「家庭などの手当てで済んだ」が84.5%で、3歳以上の68.9%に比べて高くなっている。また、3歳以上の「医療機関に2回以上通院した（している）」が36.4%で、2歳以下の14.9%に比べて高くなっている。

問7 ウ	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家庭などの手当てで済んだ	302	76.6%	152	72.7%	150	81.1%	153	84.5%	144	68.9%
医療機関に1回通院した	99	25.1%	56	26.8%	43	23.2%	53	29.3%	45	21.5%
医療機関に2回以上通院した (している)	103	26.1%	60	28.7%	43	23.2%	27	14.9%	76	36.4%
医療機関に入院した(している)	3	0.8%	3	1.4%	0	0.0%	2	1.1%	1	0.5%
その他	10	2.5%	6	2.9%	4	2.2%	7	3.9%	3	1.4%
無回答	7	1.8%	5	2.4%	2	1.1%	2	1.1%	5	2.4%
回答人数	394		209		185		181		209	
回答件数(1件目と2件目)合計	524		282		242		244		274	

## エ 未然に防ぐことができた可能性

問7 エ	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
防ぐことができた	324	82.2%							82.2%
防ぐことはできなかった	67	17.0%							17.0%
わからない	126	32.0%							32.0%
無回答	7	1.8%							1.8%
回答人数	394								
回答件数(1件目と2件目)合計	524								

未然に防ぐことができた可能性については、「防ぐことができた」が82.2%と最も多く、次いで「分からない」が32.0%、「防ぐことはできなかった」が17.0%となっている。

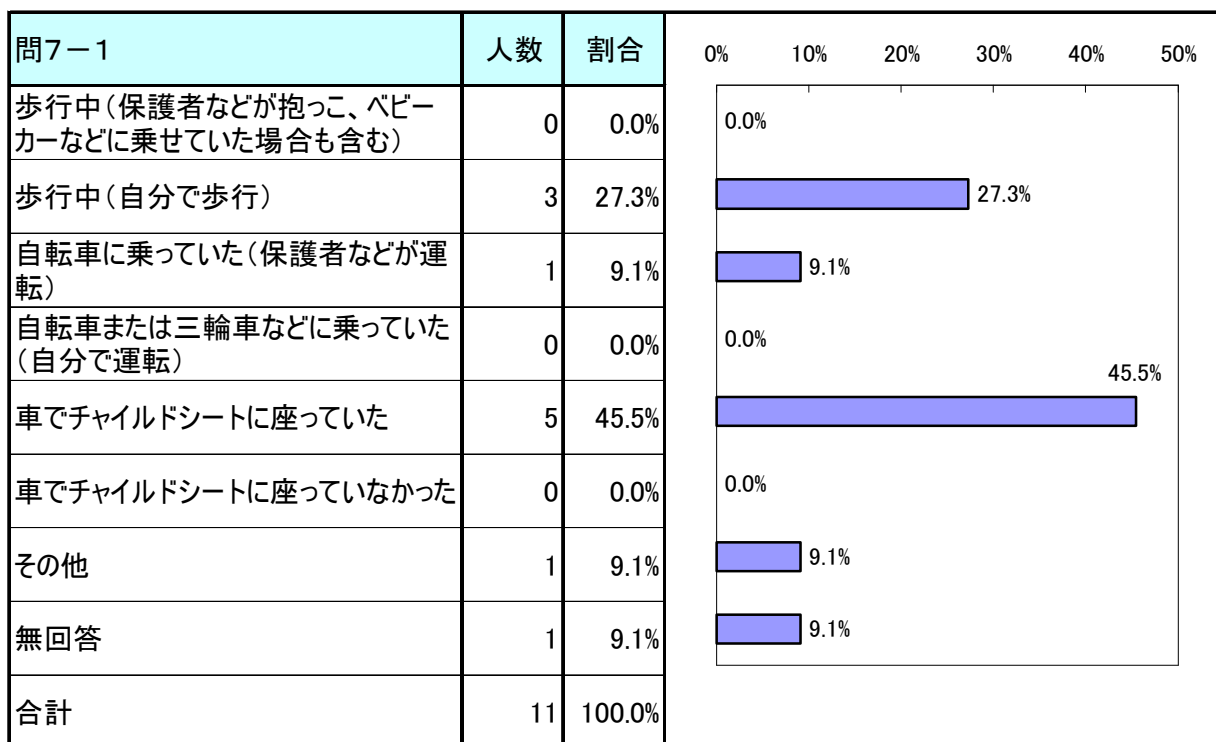
## 【属性別特徴】

性別では、女兒の「防ぐことができた」が86.5%で、男児の78.5%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、2歳以下の「防ぐことができた」が89.0%で、3歳以上の75.6%に比べて高くなっている。

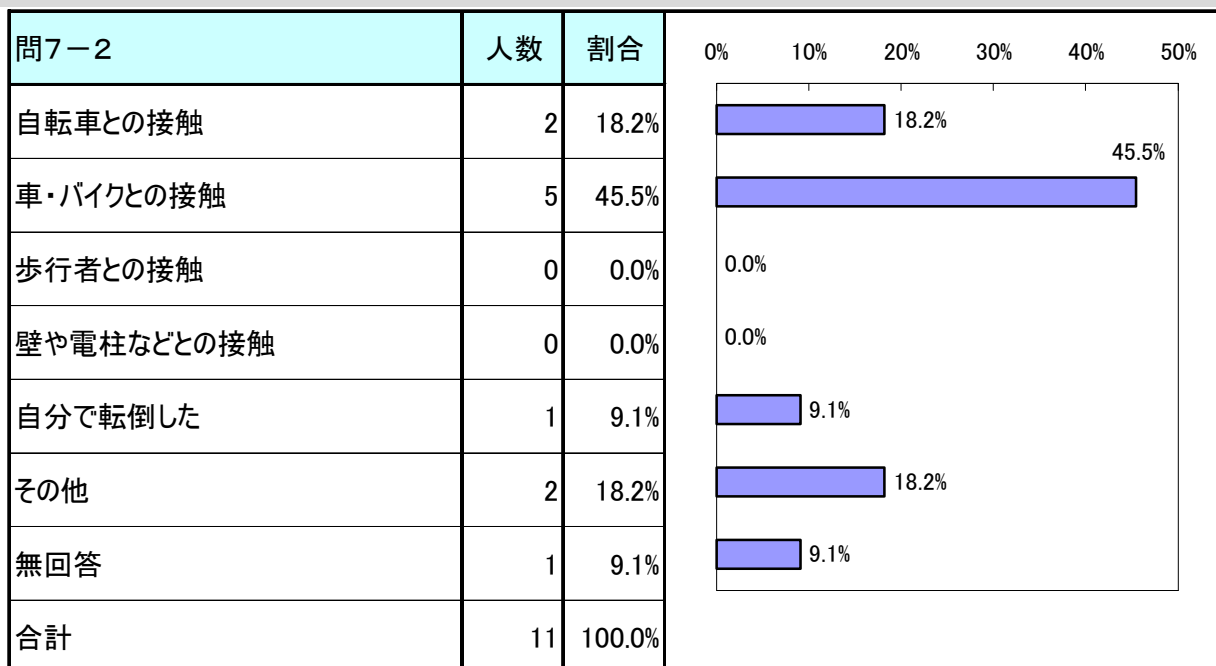
問7 エ	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
防ぐことができた	324	82.2%	164	78.5%	160	86.5%	161	89.0%	158	75.6%
防ぐことはできなかった	67	17.0%	43	20.6%	24	13.0%	26	14.4%	41	19.6%
わからない	126	32.0%	71	34.0%	55	29.7%	55	30.4%	70	33.5%
無回答	7	1.8%	4	1.9%	3	1.6%	2	1.1%	5	2.4%
回答人数	394		209		185		181		209	
回答件数(1件目と2件目)合計	524		282		242		244		274	

## 問7-1 交通事故時の対象のお子さんの状況（ひとつに○）



交通事故時の状況については、「車でチャイルドシートに座っていた」が45.5%、「歩行中（自分で歩行）」が27.3%、「自転車に乗っていた（保護者などが運転）」が9.1%となっている。

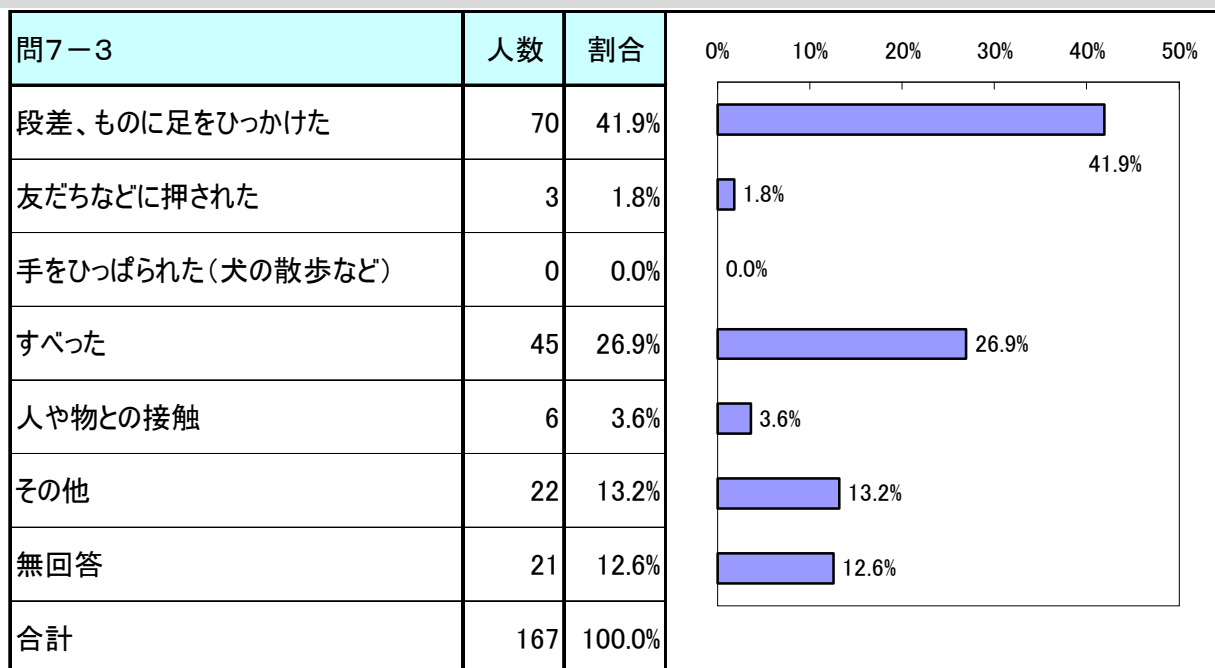
## 問7-2 交通事故の原因（ひとつに○）



交通事故の原因については、「車・バイクとの接触」が45.5%、「自転車との接触」が18.2%、「自分で転倒した」が9.1%となっている。



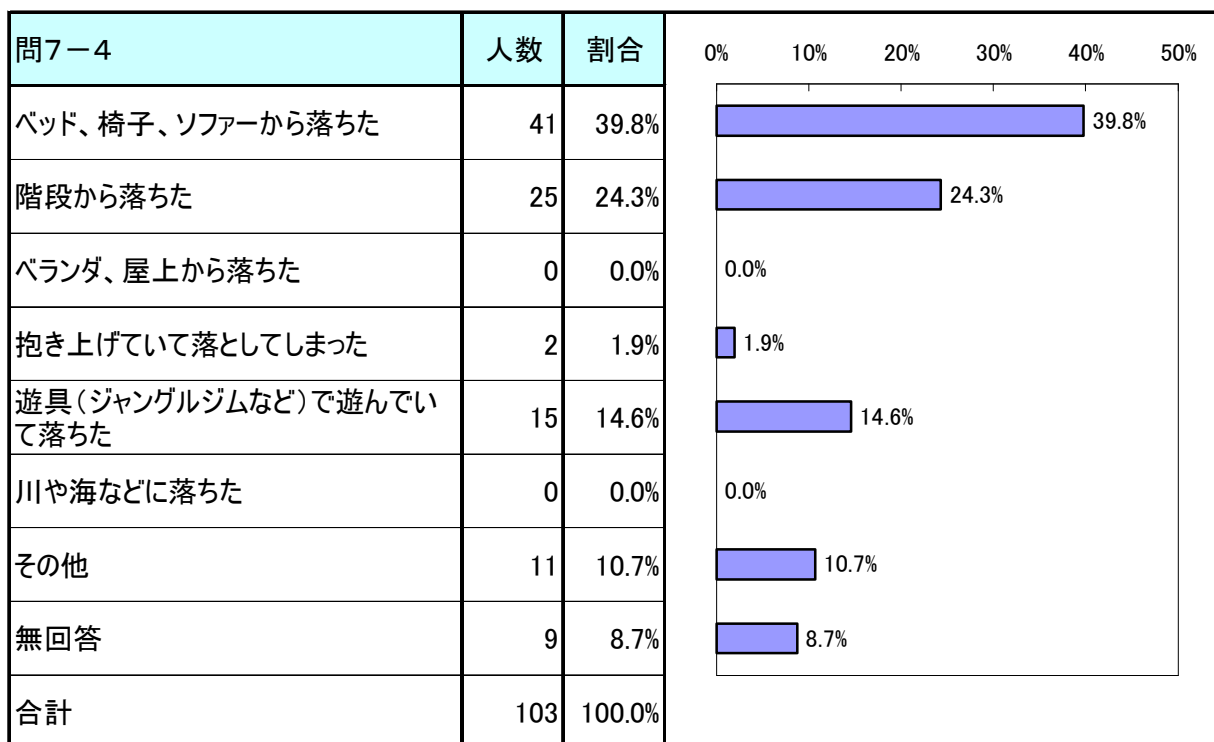
## 問7-3 転倒の原因（ひとつに○）



転倒の原因については、「段差、ものに足をひっかけた」が41.9%と最も多く、次いで「すべった」が26.9%、「人や物との接触」が3.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「いすや自転車等で転倒した」、「坂道でつまずいた」等が挙げられた。

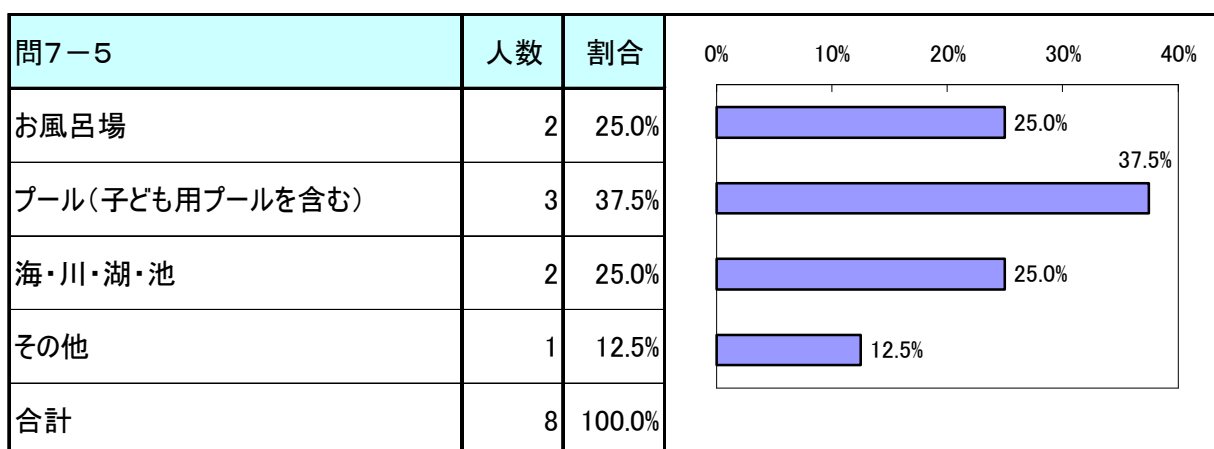
## 問7-4 転落の原因（ひとつに○）



転落の原因については、「ベッド、椅子、ソファから落ちた」が39.8%と最も多く、次いで「階段から落ちた」が24.3%、「遊具（ジャングルジムなど）で遊んでいて落ちた」が14.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「縁側から落ちた」、「車に乗ろうとして落ちた」、「カートから落ちた」等が挙げられた。

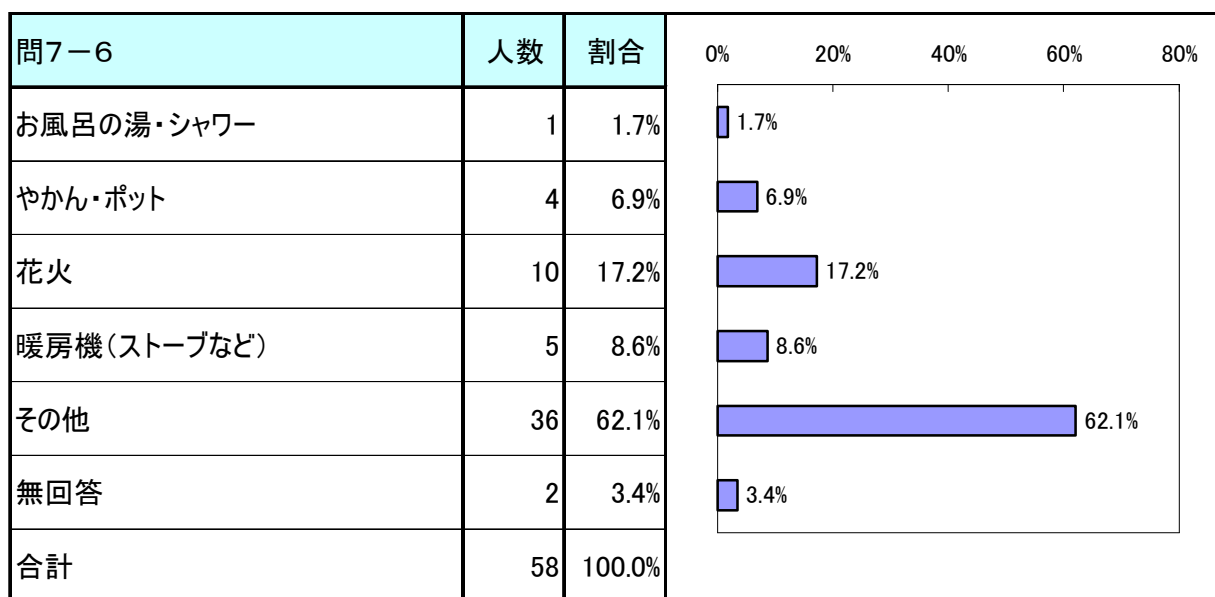
## 問7-5 おぼれた場所（ひとつに○）



おぼれた場所については、「プール（子ども用プールを含む）」が37.5%、「お風呂場」、「海・川・湖・池」が25.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「公園の噴水」が挙げられた。

## 問7-6 やけどの原因（ひとつに○）

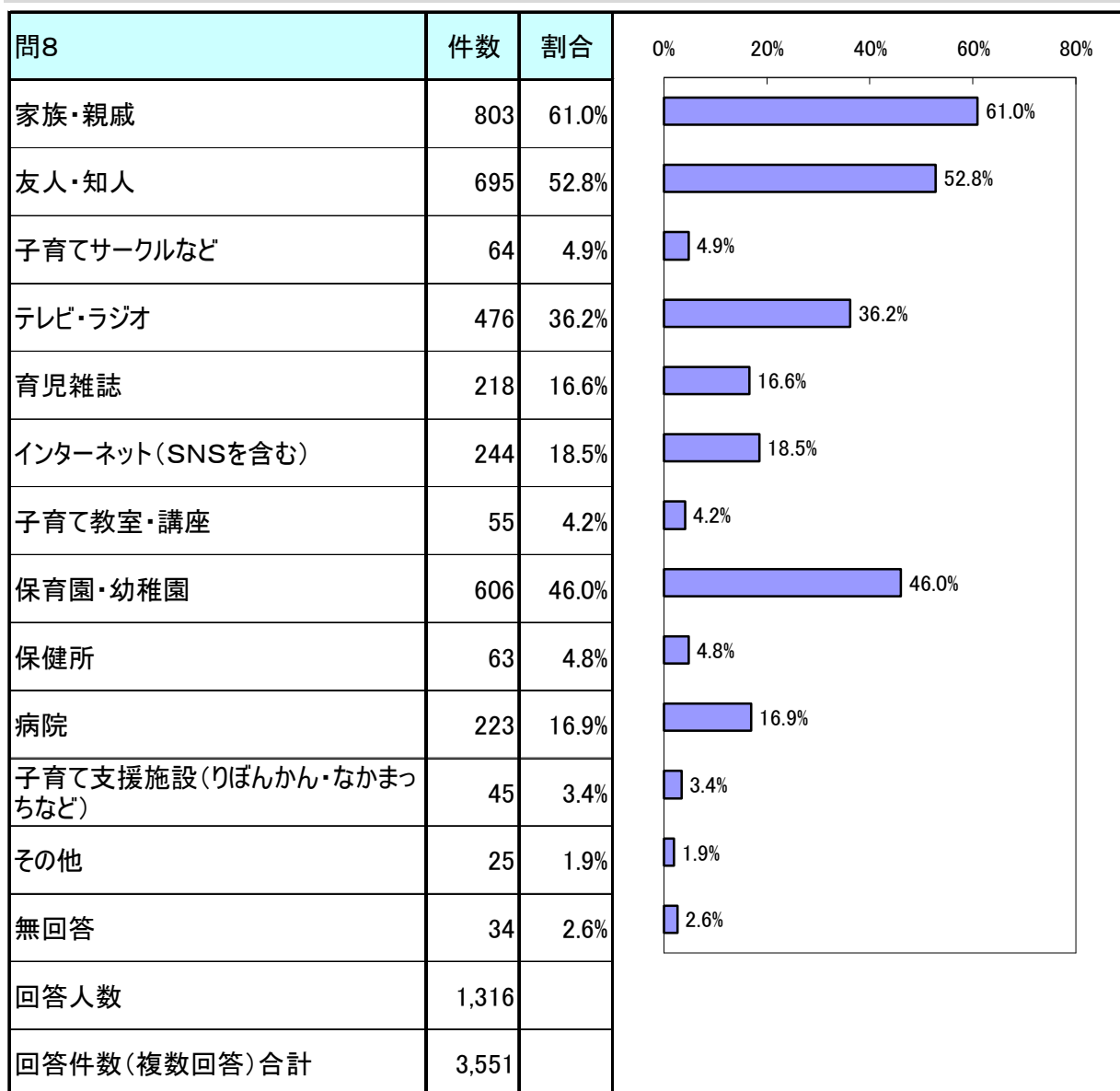


やけどの原因については、「花火」が 17.2%と、「暖房機（ストーブなど）」が 8.6%、「やかん・ポット」が 6.9%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「アイロン」、「ホットプレート」、「炊飯器の蒸気」等が挙げられた。

問8 お子さんの事故やけがの予防に関する情報は、なに（どこ）から得ていますか。  
また、お子さんの事故やけがの予防のために、より充実して欲しいと思うものは、  
なに（どこ）ですか。（3つまで○）

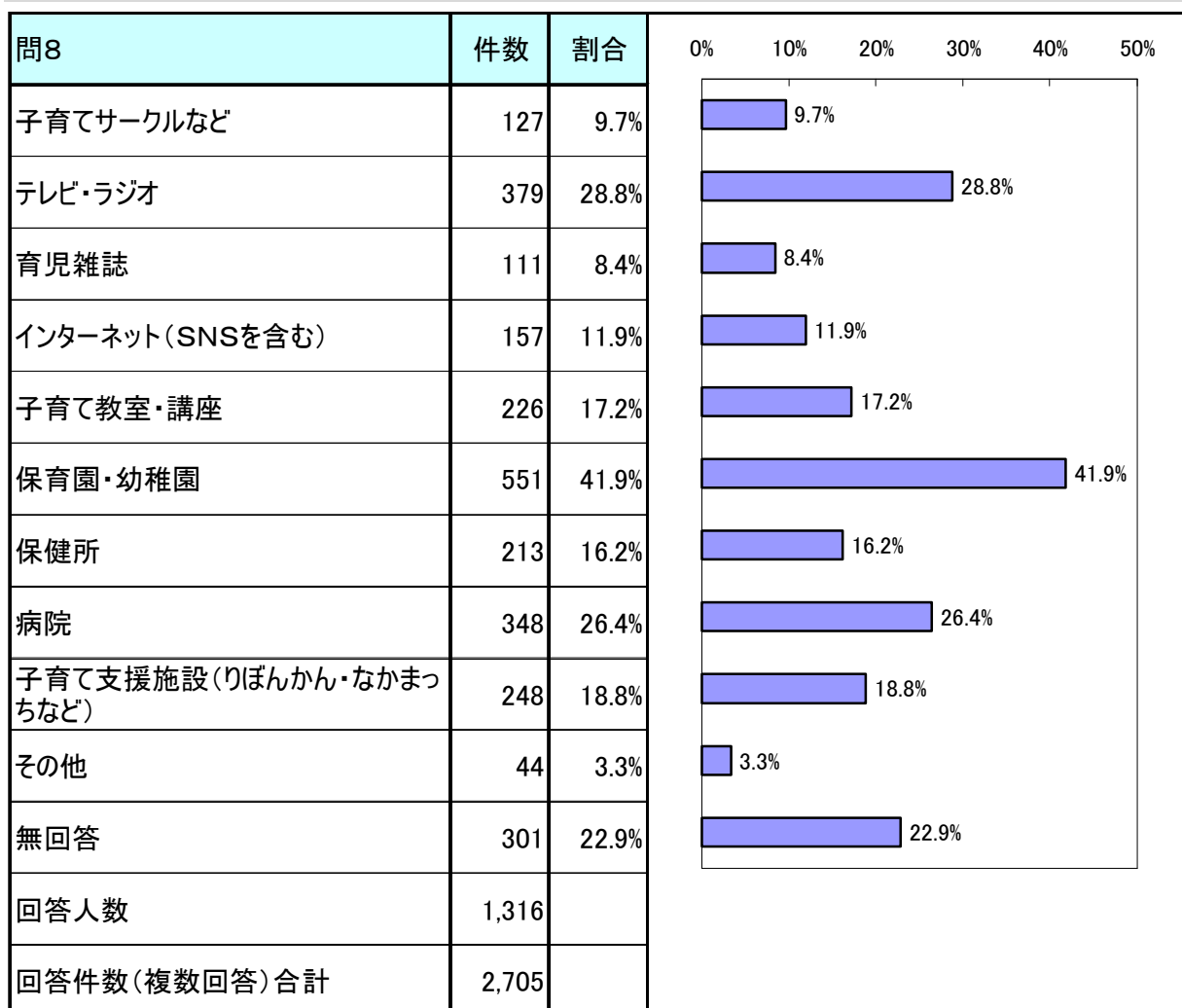
問8 お子さんの事故やけがの予防に関する情報は、なに（どこ）から得ていますか。  
（3つまで○）



事故やけがの予防に関する情報源については、「家族・親戚」が61.0%と最も多く、次いで「友人・知人」が52.8%、「保育園・幼稚園」が46.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「新聞」、「職場」、「母子手帳」等が挙げられた。

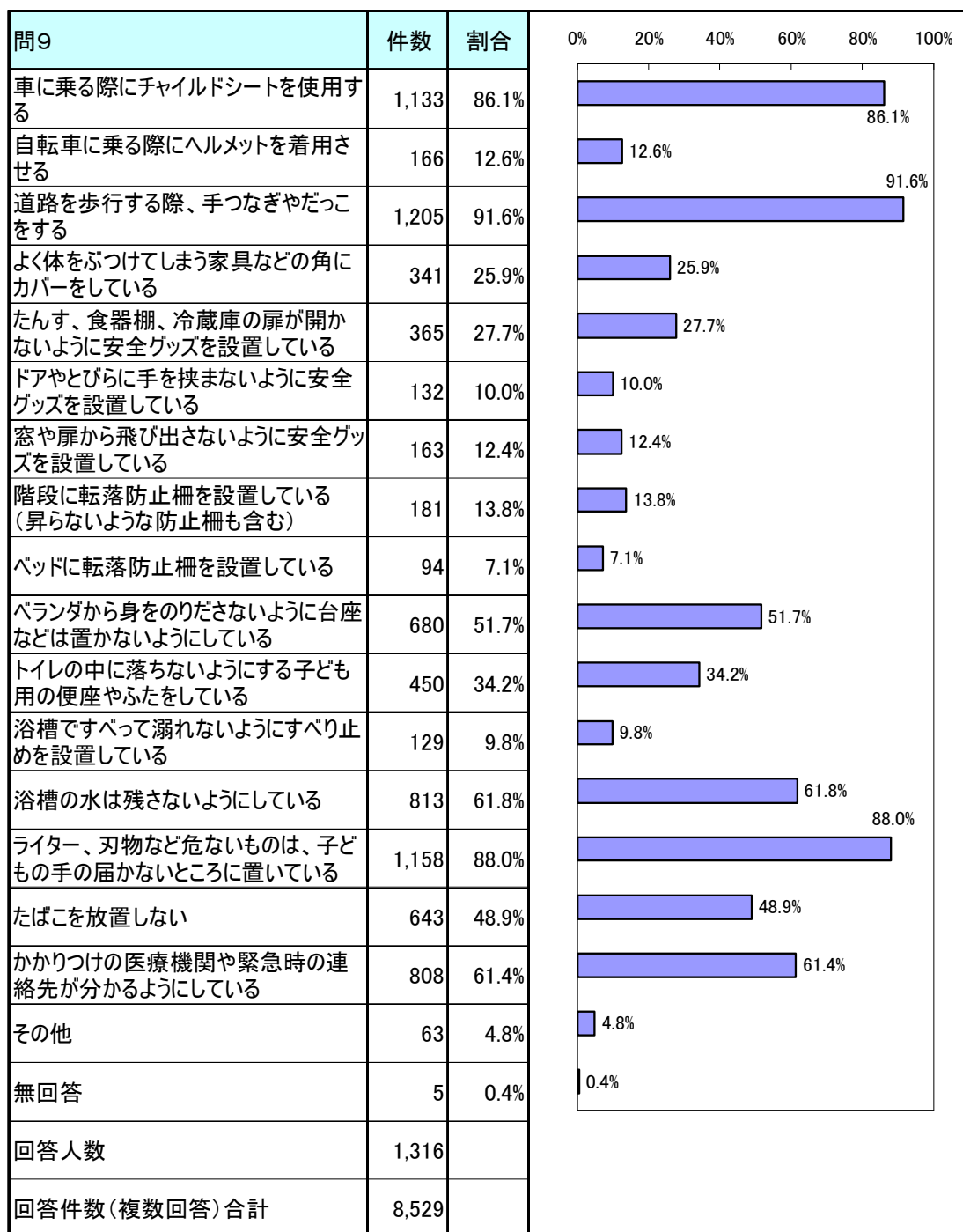
問8 お子さんの事故やけがの予防のために、より充実して欲しいと思うものは、なに（どこ）ですか。（3つまで○）



事故やけがの予防のために充実して欲しい情報源については、「保育園・幼稚園」が41.9%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が28.8%、「病院」が26.4%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「地域・町内会」、「広報誌」、「新聞」等が挙げられた。

問9 あなた(保護者)は、日頃からどのような子どもの安全対策をとっていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

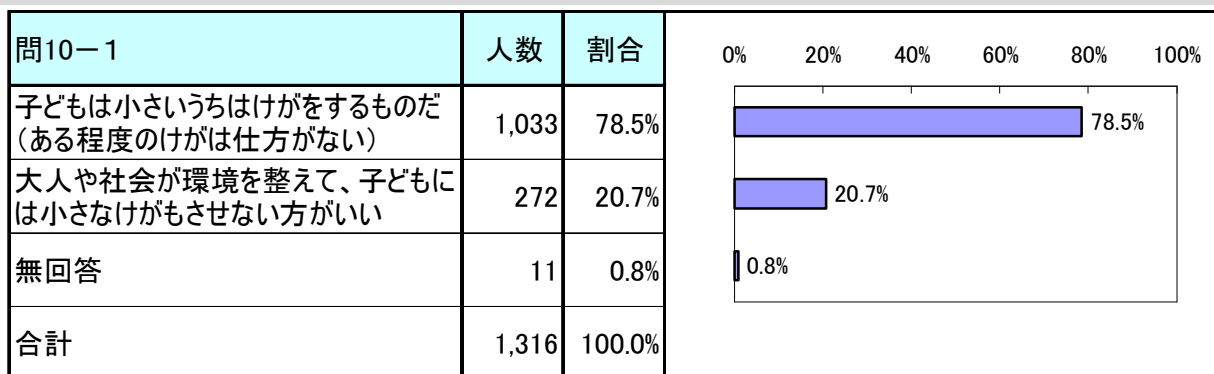


安全対策については、「道路を歩行する際、手つなぎやだっこをする」が91.6%と最も多く、次いで「ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている」が88.0%、「車に乗る際にチャイルドシートを使用する」が86.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「危ないことをその都度教える」、「家の遊ぶところにマットを敷いている(転んでも衝撃が少ない)」等が挙げられた。

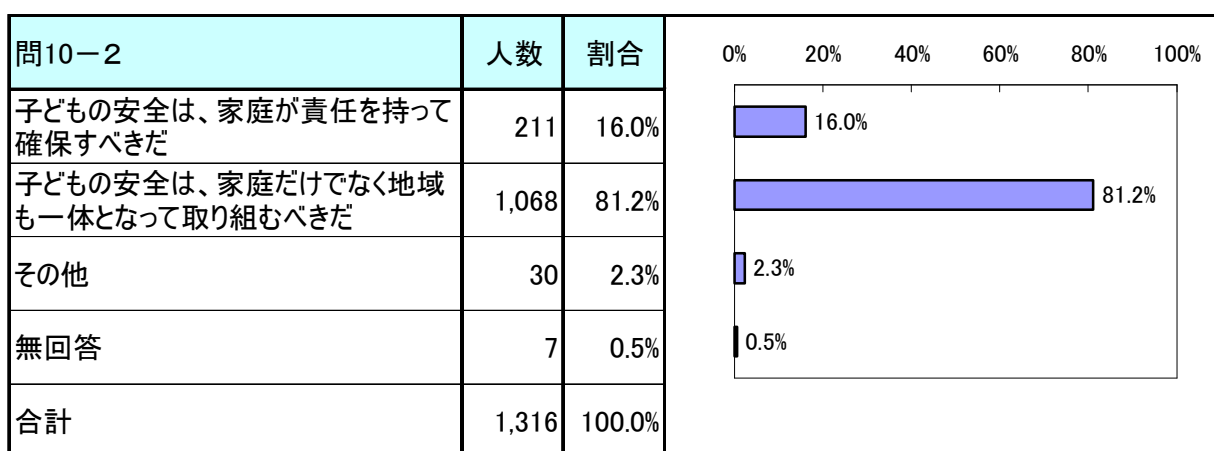
問10 あなた（保護者）の子どもの安全に関する考え方についてお聞きします。

問10-1 子どものけがについて（ひとつに○）



子どものけがについての考え方については、「子どもは小さいうちはけがをするものだ（ある程度のけがは仕方がない）」が78.5%、「大人や社会が環境を整えて、子どもには小さなけがもさせない方がいい」が20.7%となっている。

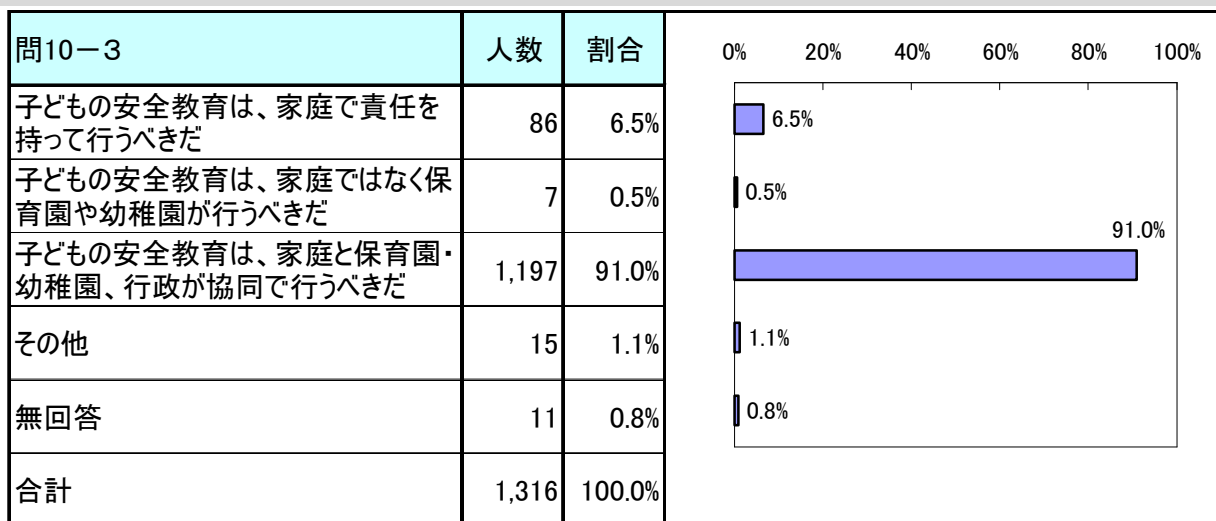
問10-2 子どもの安全について（ひとつに○）



子どもの安全についての考え方については、「子どもの安全は、家庭だけでなく地域も一体となって取り組むべきだ」が81.2%、「子どもの安全は、家庭が責任を持って確保すべきだ」が16.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「家族、地域・子ども自身も気をつけるべき」、「家族が中心、地域・行政は補助的」等が挙げられた。

## 問10-3 子どもの安全教育について（ひとつに○）



子どもの安全教育についての考え方については、「子どもの安全教育は、家庭と保育園・幼稚園、行政が協同で行うべきだ」が91.0%と最も多く、次いで「子どもの安全教育は、家庭で責任を持って行うべきだ」が6.5%、「子どもの安全教育は、家庭ではなく保育園や幼稚園が行うべきだ」が0.5%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「あらゆる機会が教育の場であるため、限定せずに広く呼びかける必要がある」、「子どもの安全教育は家庭が主体、保育園・幼稚園、行政がサポートすべき」等が挙げられた。



## 問 11 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

ある程度のけがは仕方ないこともあると思いますが、やはり出来る限り周りが環境を整えてあげるべきだと思います。

また、最近はさまざまな犯罪も多いため、家庭内でのけがだけではなく地域の安全も強く望むところです。

知識のなかった事により子どもが事故・けがをした場合、親の責任だと責め立てず、そのようなことのないように知識、情報を親には教えておくべきだと思います。

知識や情報があれば親は子どものためにできることは懸命にしたいと思います。

仕事が忙しいため、子どもの成長がよくみえていない部分があり、いつの間にかできないことが出来るようになっていて、危険な行為や事故につながっています。指に小さなやけどで済みましたが、届かないと思っていたところがもう届くようになっていたり、段差を登れるようになっていたり自分(親)ももっと注意が必要だと反省しました。

けがをして覚えていくこともあると思います。前を見ていなかったからぶつかった、周りを良く見ていなくてけがをした、大人でも紙で手を切ったりすることもある。そうしたことで、あ一紙でも手を切ることがあるのだと知ることも出来る。でもやけど、交通事故のようなものは、ころぶ、ぶつかるとは、話が違う。大人が事故は怖いものだとして、未然に防ぐことが大事だと思います。予防とけがをして知る。二通りの方法があると思います。

キケンと認識できる歳までは、ある程度の体験や経験が必要かもしれません。「痛い」や「危ない」と気づかせる工夫が知りたいです。

事故やけがなど予防できればとてもいいことだと思いますが、あまりにも予防、予防といって危険なことが何もない生活をして、子どもたち自身の危険予防察知能力も低下すると思います。大事なのは子どもの知識、意識を高めることではないでしょうか。

親は子どもがけがや事故にあわないように注意しながら生活しています。乳幼児がいれば、誤飲しないように危険なものは置かず、全て撤去する等、子どもの成長に合わせて対応も考えなければならぬ。しかし今現在、社会ではいろんな事件や事故など起きている。親と地域、学校(保育所・幼稚園等)が一緒になり、ひとつになって子どもたちを守っていかなければならないと思う。

家の中でおもちゃが散乱し、ふんだり、つまずいたりするときがある。これを機にもう一度、安全を考慮した環境作りをしてみたいと思う。また年齢が上がるにつれ、外に出る機会も増えるため、今後は交通事故防止についても教育していきたいと思う。

子どもが7~8ヶ月のときにやけどをしました。ラーメンに手を突っ込み、気を付けていたのですが一瞬の出来事でした。お祭りのときだったので救護係の方がやけどした手を冷やし続け、指示をもらい、そのまま病院に行きました。先生は「やけどは最初の30分の手当(対処)で全てが決まる」とおっしゃっていました。私はやけどしたら「氷や水で冷やす」ということは知っていましたが、「最低30分は冷やし続ける」ということは知りませんでした。そのときの救護係の方に感謝しました。

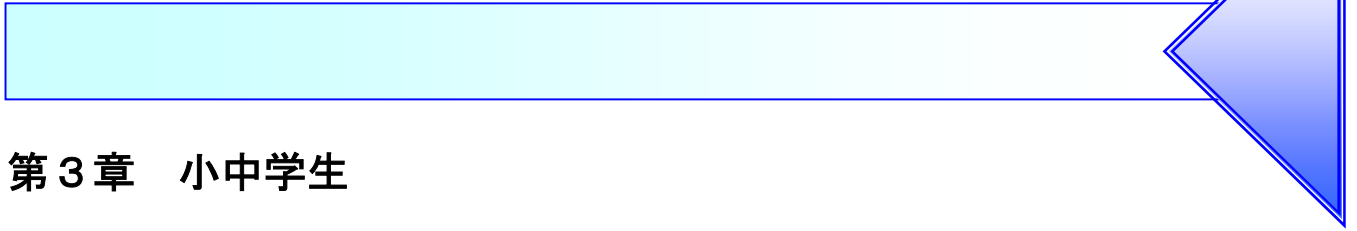
<p>4歳になり、ある程度危険なことが理解できており、この1年間ではさほど大きなけがはなかった。2～3歳のときには、食べ物を詰まらせて窒息しかかったり、ふいに飛び出して事故に遭いそうになったりとヒヤッとすることが多かった。私は、溺れた子どもを見たこともあり、お風呂には特に注意している。保健所等の健診時に危険予知能力を高めるための活動も大切になると思う。</p>
<p>家でできることはできる限り頑張っていこうと思いますが、交通事故など不慮の事故には大人が全員で気をつけるよう、私自身も他の子どもたちに対しても気をつけていきたいと思います。</p>
<p>2階ベランダの塀をおもちゃの車を足場にして登り、屋根からコンクリートの地面に落ちてしまいました。頭蓋骨を骨折しましたが、現在は後遺症もなく元気に過ごしています。事故当時は、1階で私が洗濯をしていて、2階のベランダに行ったときに下を見たら落ちていました。</p> <p>ベランダに柵をつけていたら未然に防げる事故でした。事故後、ベランダに柵を付けてもらう工事をしました。</p>
<p>買い物の駐車場でのことですが、車より小さい背丈の子をよく手もつなはず歩いている保護者がいます。駐車場内はスピードが出ている車もいるので、我が子を守るのも親の役目だと思います。</p> <p>手をつなぎ、一緒に歩く心掛けが必要だと思います。ファミリーカーは特に高くなっているので、止まっている車と車の間から飛び出してくる子でヒヤッとすることがよくあります。そういったチラシや、お店の方も看板なりを設置した方がいいのではないかと思います。</p>
<p>チャイルドシートや転落防止柵は一時期しか使わないので、不要になったものは市が引き取り、貸し出しするシステムがあると助かる。一時期しか使わないのに結構価格が高いので柵はなかなか購入に至らない。実家のある市では、社会福祉協議会がその役割を担っている。「消費者庁 子どもを事故から守る！プロジェクトのメールマガジン」がとても参考になる。メールが来るたびに、気が引き締まります。</p> <p>子どもは大人のすることをよく見て真似するので、日ごろから大人が交通ルールを守ったり、危ないことを子どもの前で出来るだけしないようにしないといけないと思います。まずは大人の意識改革が必要だと思います。</p>
<p>味噌汁に手を入れてしまい、危うく火傷をするところでした。すぐに冷やし、特に大事には至りませんでした。それからは、汁物は必ず最後にテーブルに置くようにし、前より注意して手の届かないところへ置くように心掛けています。ほんの小さなものでも口に入れるので、こまめに掃除をし、なるべく口に入れないようにも心掛けています。未然に防げることも多いと思うので、これからも気をつけていきたいと思います。</p>
<p>子どもの成長にけがはつきもので、それで子ども自身の危険に対する能力も高まると思う。</p>

小さなすり傷は仕方のないことで、強い子を育てるのに必要だと思いますが、命に関わることは予防できることがたくさんあります。子育て<4つの離さない>の中で、手を離さない、目を離さないとあります。子どもを伸び伸びと育てたい気持ちもありますが、手を離さないように、目を離さないように見守っていきたいです。

2人の子どもがいるので、ついつい下の子への安全確認が上の子よりゆるくなっている自分がいました。でも改めて気をつけようと思えるきっかけになりました。ありがとうございます。保健センターなどの集会がありますが、ほとんどが第1子目の親が対象で2人目以降のお母さんたちは新しい情報や、同じ歳の子どもを持つ母親同士の関係が希薄で、かなり孤立していると思います。大変とは思いますが、何か集まりの機会を増やすと、また人間関係もよくなり、もっと子どもたちを守ろうという気持ちの輪が広がると思います。

予防しても防ぎきれないことも多いので、けがの後の対処法も詳しく知りたいです。成長段階にある子どもはきちんと治療、対応していないと、成長して大きくなってから影響が出てくることも多いようです。市民のひろばなど、けが、事故の統計をのせて、子を持つ親だけでなく、地域など多くの人知れるように情報があると意識が高まるのではと思います。

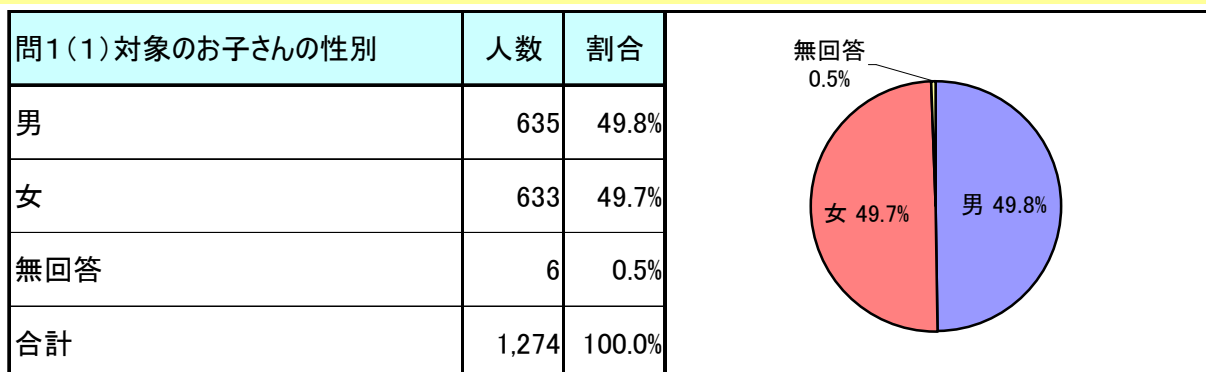




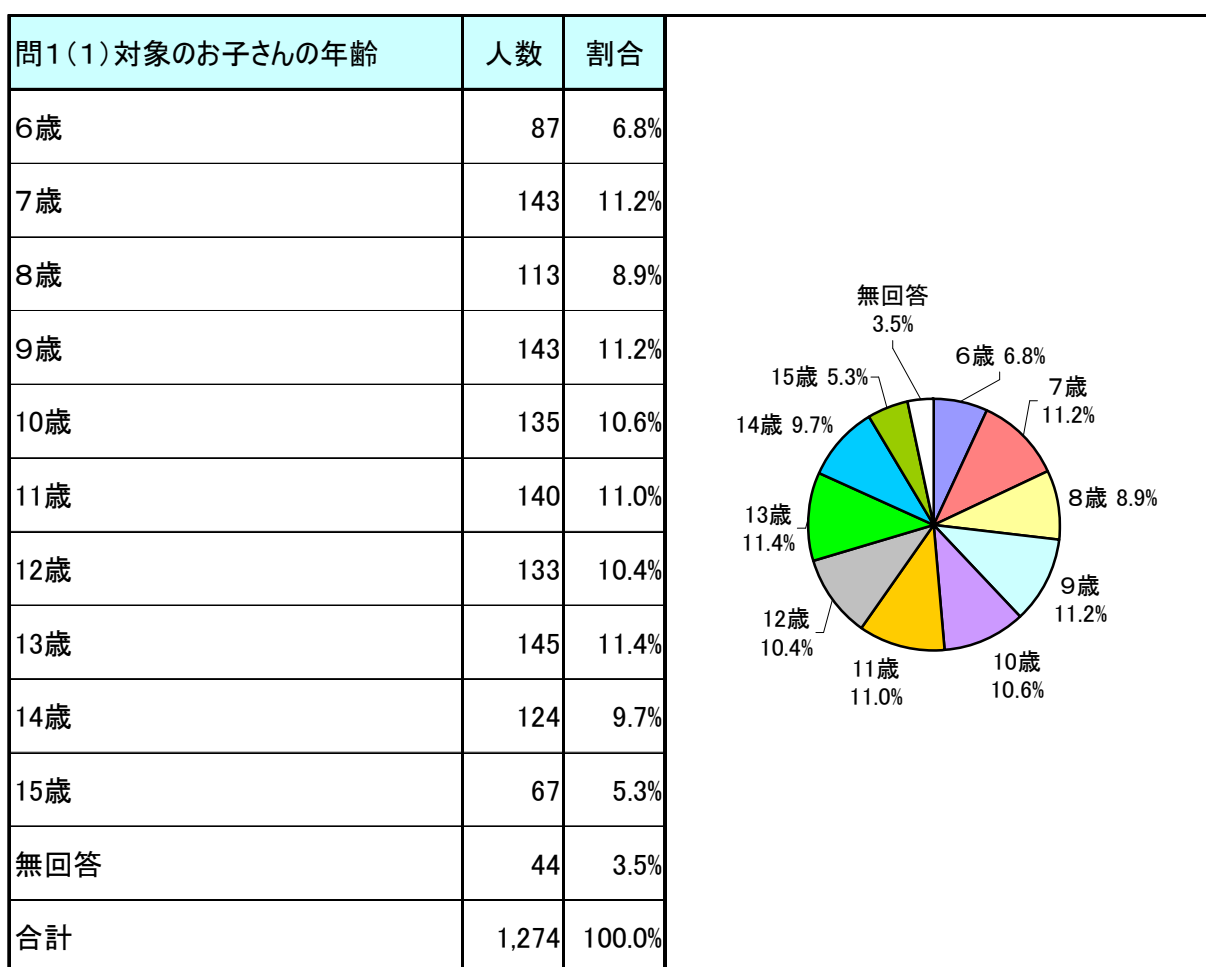
### 第3章 小中学生

## 1 ご家族やお住まいのことについて

問1 あなた（保護者）のご家族についてお聞きします。

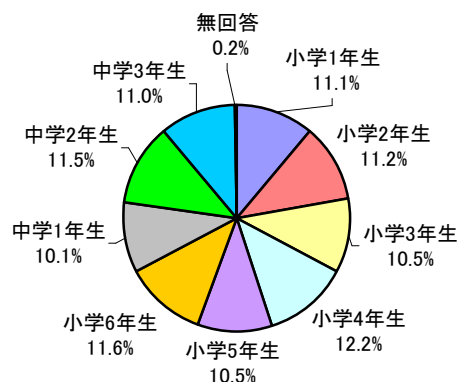


性別については、「男」が49.8%、「女」が49.7%となっている。



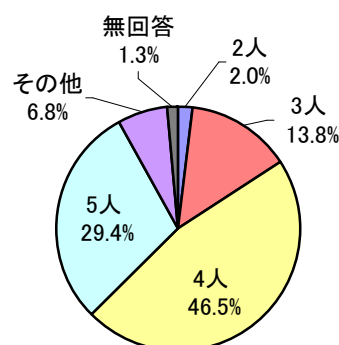
年齢については、「13歳」が11.4%と最も多く、次いで「7歳」と「9歳」が11.2%となっている。

問1(1)対象のお子さんの学年	人数	割合
小学1年生	141	11.1%
小学2年生	143	11.2%
小学3年生	134	10.5%
小学4年生	156	12.2%
小学5年生	134	10.5%
小学6年生	148	11.6%
中学1年生	129	10.1%
中学2年生	146	11.5%
中学3年生	140	11.0%
無回答	3	0.2%
合計	1,274	100.0%

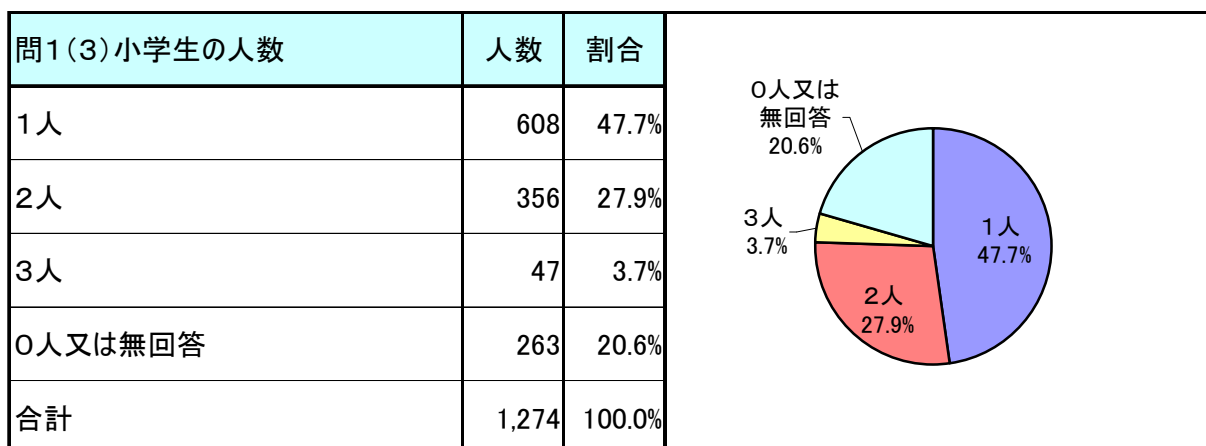


学年については、「小学4年生」が12.2%と最も多く、次いで「小学6年生」が11.6%、「中学2年生」が11.5%となっている。

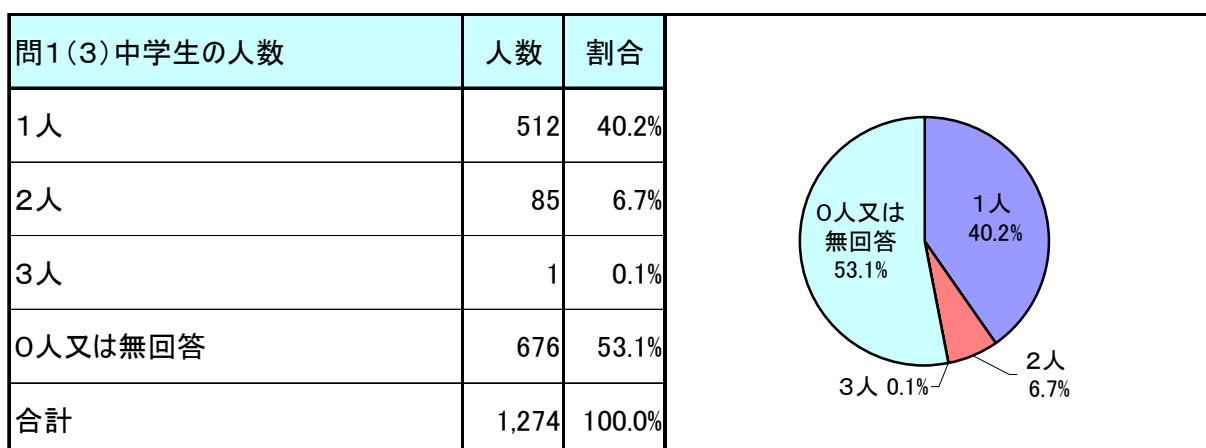
問1(2)家族の人数	人数	割合
2人	26	2.0%
3人	176	13.8%
4人	593	46.5%
5人	375	29.4%
その他	87	6.8%
無回答	17	1.3%
合計	1,274	100.0%



家族の人数については、「4人」が46.5%と最も多く、次いで「5人」が29.4%、「3人」13.8%となっている。

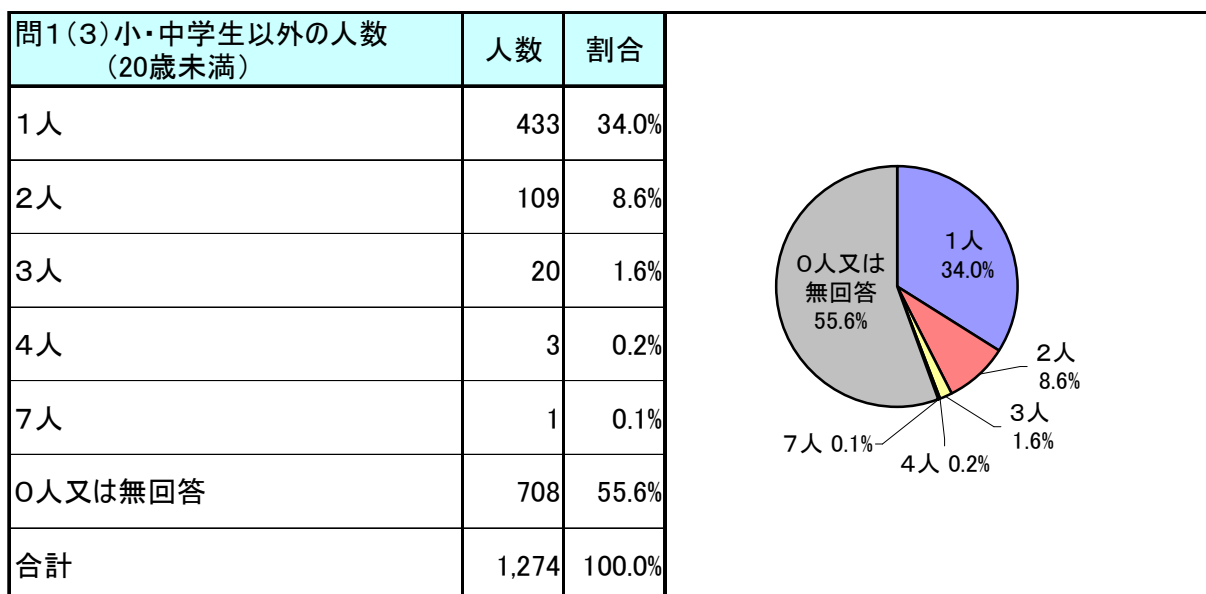


子どもの人数（小学生）については、「1人」が47.7%と最も多く、次いで「2人」が27.9%、「3人」が3.7%となっている。

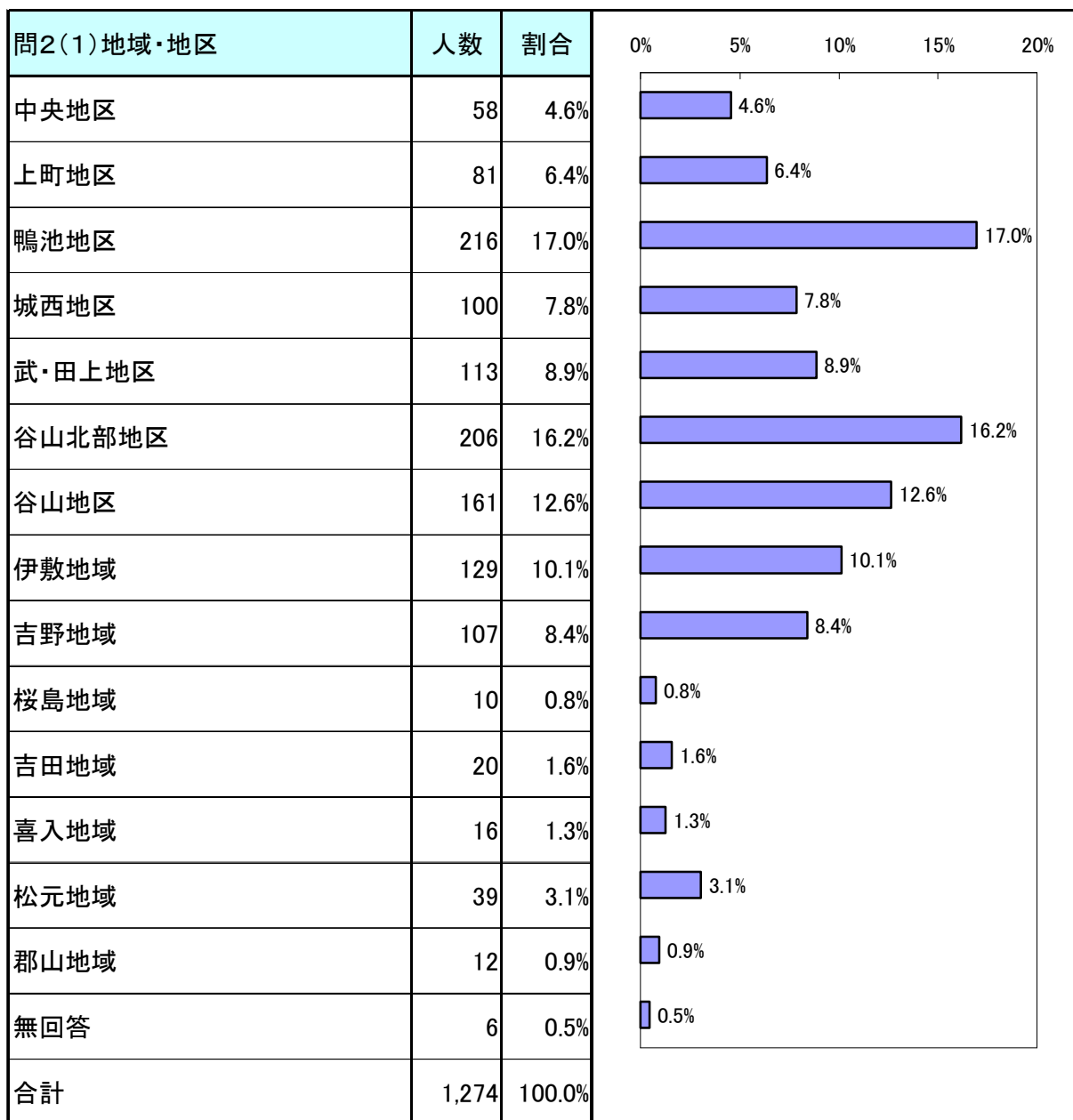


子どもの人数（中学生）については、「1人」が40.2%、「2人」が6.7%となっている。





子どもの人数（小・中学生以外の20歳未満）については、「1人」が34.0%、「2人」が8.6%となっている。

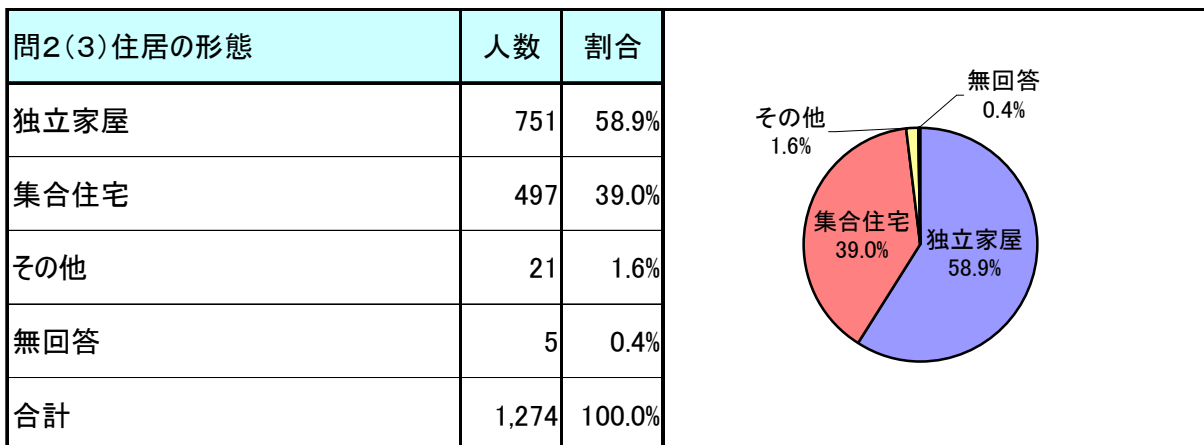


(注) 第五次総合計画に基づく地域・地区

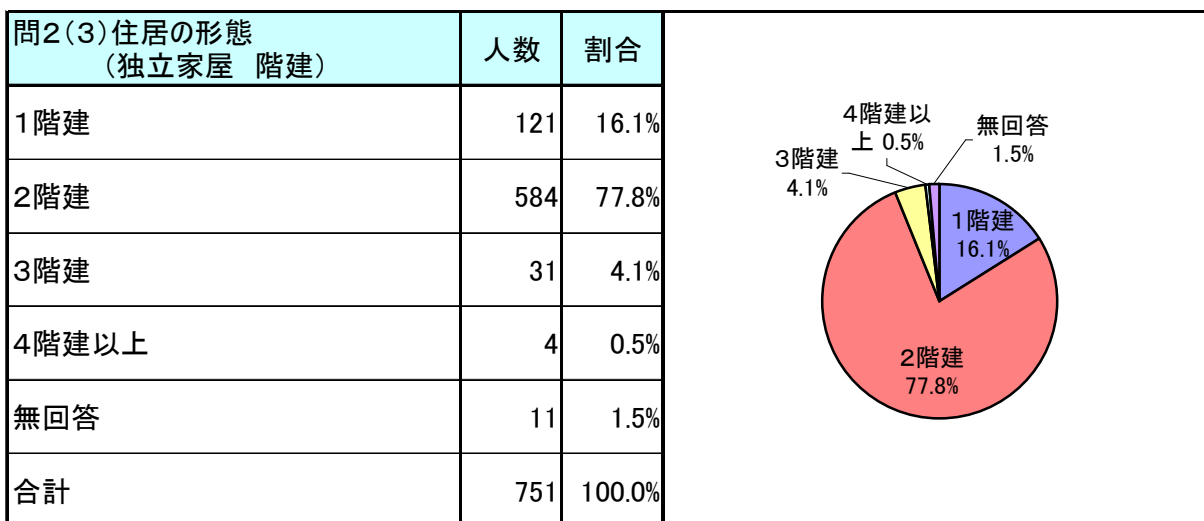
現住所地については、「鴨池地区」が 17.0%と最も多く、次いで「谷山北部地区」が 16.2%、「谷山地区」が 12.6%となっている。

## 問2 (2) 小学校区

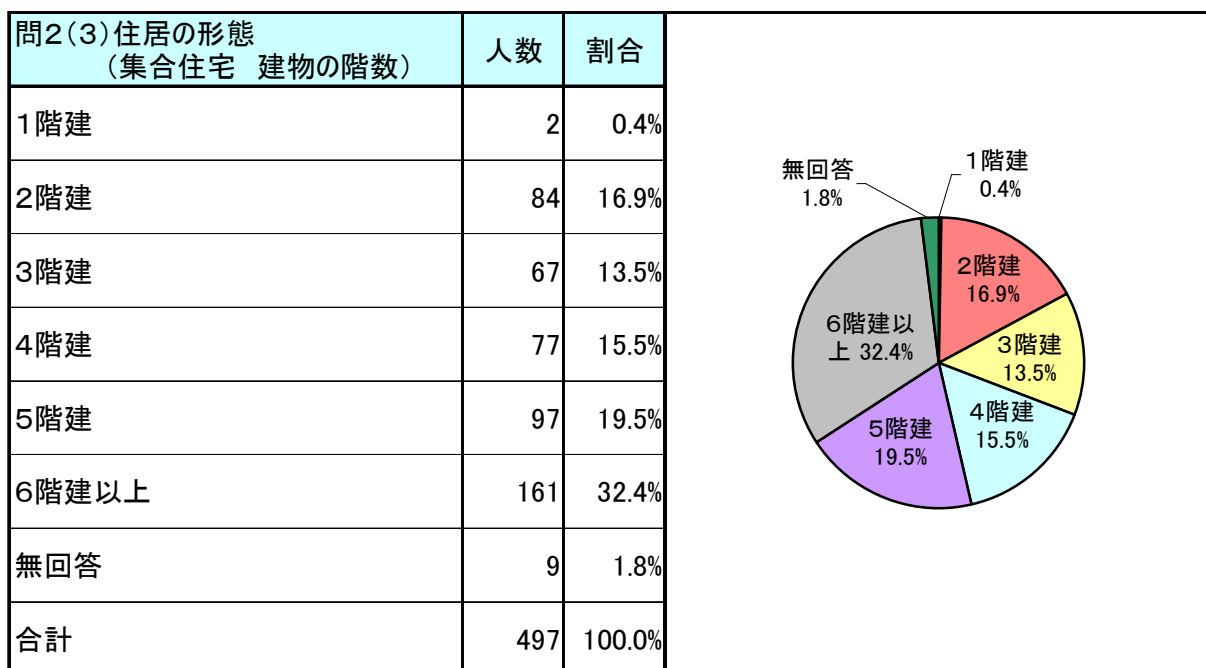
区 分	人数	割合	区 分	人数	割合
吉田小学校	4	0.3%	花野小学校	16	1.3%
本名小学校	9	0.7%	西伊敷小学校	23	1.8%
宮小学校	1	0.1%	伊敷台小学校	30	2.4%
本城小学校	0	0.0%	玉江小学校	34	2.7%
牟礼岡小学校	4	0.3%	小山田小学校	3	0.2%
南方小学校	3	0.2%	犬迫小学校	1	0.1%
花尾小学校	1	0.1%	皆与志小学校	3	0.2%
郡山小学校	8	0.6%	東桜島小学校	2	0.2%
川上小学校	19	1.5%	改新小学校	0	0.0%
吉野小学校	43	3.4%	高免小学校	0	0.0%
吉野東小学校	30	2.4%	黒神小学校	0	0.0%
大明丘小学校	17	1.3%	桜洲小学校	6	0.5%
坂元小学校	16	1.3%	桜峰小学校	1	0.1%
坂元台小学校	11	0.9%	松元小学校	20	1.6%
清水小学校	20	1.6%	東昌小学校	0	0.0%
大龍小学校	18	1.4%	春山小学校	11	0.9%
名山小学校	14	1.1%	石谷小学校	7	0.5%
山下小学校	16	1.3%	谷山小学校	55	4.3%
松原小学校	5	0.4%	西谷山小学校	23	1.8%
城南小学校	10	0.8%	東谷山小学校	42	3.3%
草牟田小学校	17	1.3%	清和小学校	34	2.7%
原良小学校	24	1.9%	和田小学校	35	2.7%
明和小学校	29	2.3%	錦江台小学校	17	1.3%
武岡小学校	11	0.9%	福平小学校	15	1.2%
武岡台小学校	16	1.3%	平川小学校	1	0.1%
西田小学校	25	2.0%	錫山小学校	3	0.2%
武小学校	31	2.4%	中山小学校	39	3.1%
田上小学校	21	1.6%	桜丘西小学校	16	1.3%
西陵小学校	22	1.7%	桜丘東小学校	15	1.2%
広木小学校	13	1.0%	星峯西小学校	20	1.6%
中洲小学校	16	1.3%	星峯東小学校	12	0.9%
荒田小学校	13	1.0%	宮川小学校	20	1.6%
八幡小学校	26	2.0%	皇徳寺小学校	19	1.5%
中郡小学校	13	1.0%	瀬々串小学校	3	0.2%
紫原小学校	43	3.4%	中名小学校	5	0.4%
西紫原小学校	42	3.3%	喜入小学校	6	0.5%
鴨池小学校	25	2.0%	前之浜小学校	0	0.0%
南小学校	15	1.2%	生見小学校	2	0.2%
宇宿小学校	17	1.3%	一倉小学校	0	0.0%
向陽小学校	17	1.3%	無回答	37	2.9%
伊敷小学校	13	1.0%	合 計	1,274	100.0%



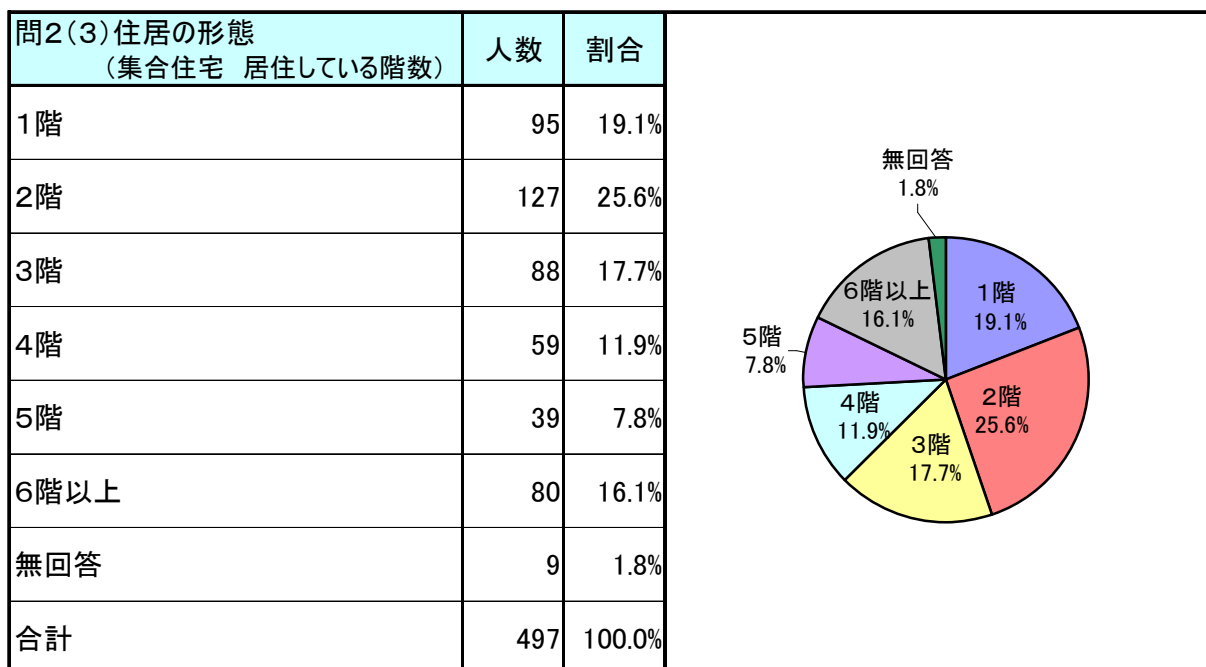
住居の形態については、「独立家屋」が58.9%、「集合住宅」が39.0%となっている。



独立家屋の住居の形態については、「2階建」が77.8%と最も多く、次いで「1階建」が16.1%、「3階建」が4.1%となっている。



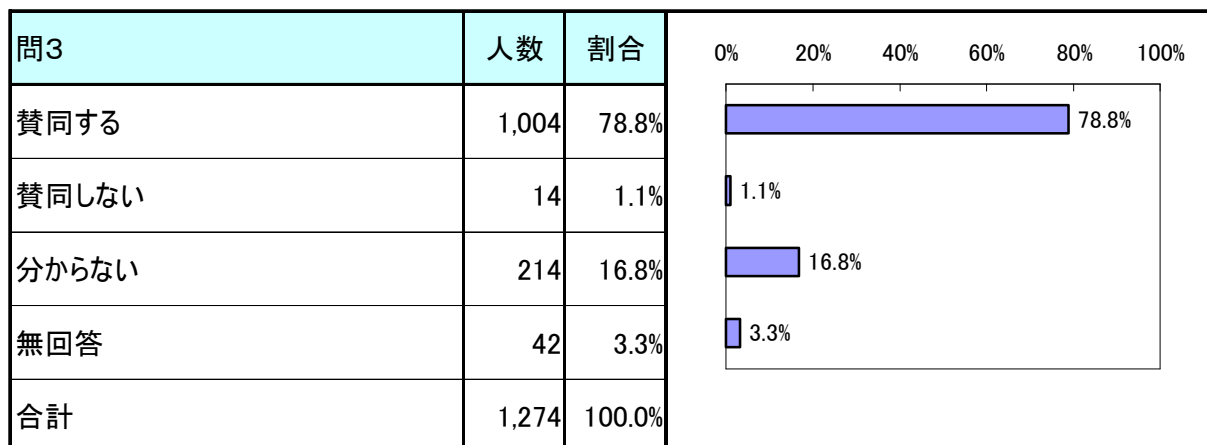
集合住宅の建物の階数については、「6階建以上」が32.4%と最も多く、次いで「5階建」が19.5%、「2階建」が16.9%となっている。



集合住宅の居住している階数については、「2階」が25.6%と最も多く、次いで「1階」が19.1%、「3階」が17.7%となっている。

## 2 セーフコミュニティについて

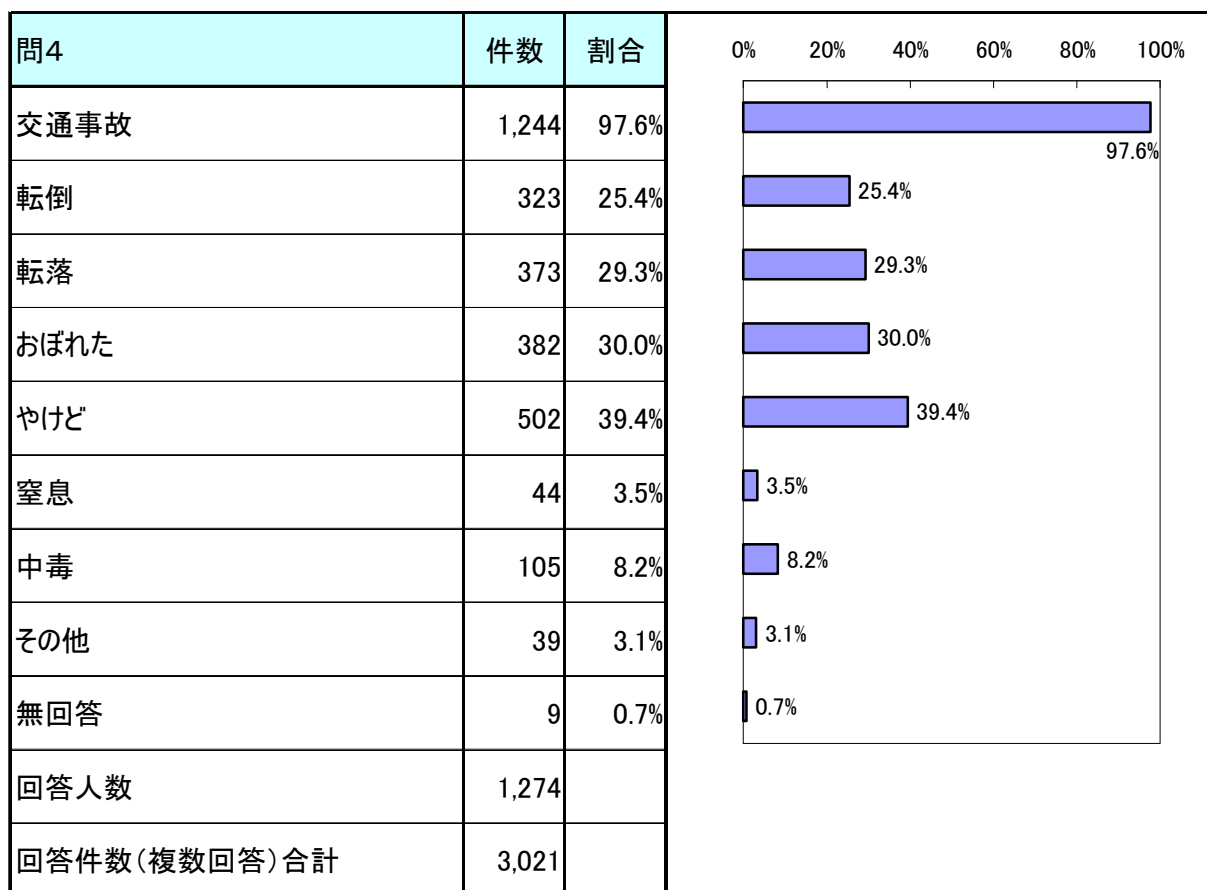
問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなた（保護者）は、この考えについてどう思いますか。（ひとつに○）



セーフコミュニティの考えについては、「賛同する」が78.8%となっている。

### 3 不慮の事故について

問4 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけど、窒息、中毒などをいいますが、対象(封筒の宛名)のお子さん対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。(3つまで○)

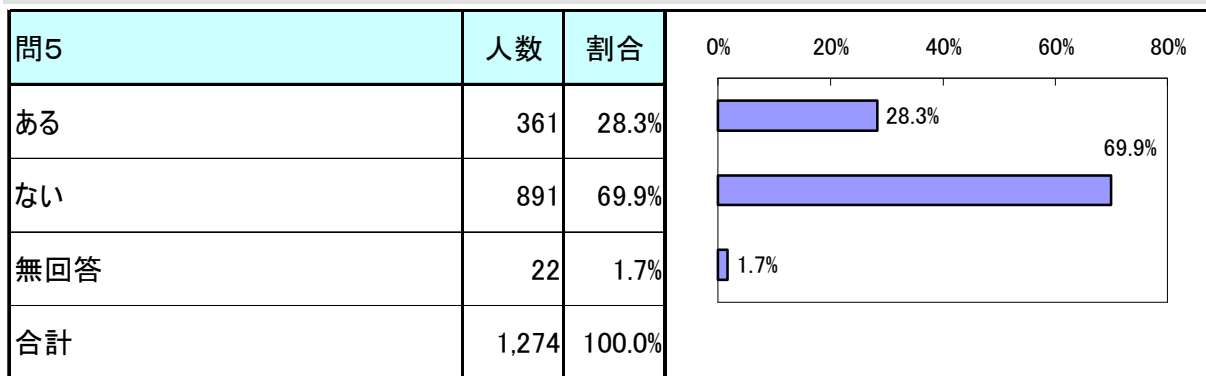


特に注意している不慮の事故については、「交通事故」が97.6%と最も多く、次いで「やけど」が39.4%、「おぼれた」が30.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「災害」、「事件」等が挙げられた。

問5 対象のお子さんが、この1年間（平成23年8月～平成24年7月）にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。（ひとつに○）

問5 対象のお子さんが、この1年間にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。（ひとつに○） **【交通事故】**



交通事故に遭いそうになりヒヤリとしたことについては、「ある」が28.3%、「ない」が69.9%となっている。

**【属性別特徴】**

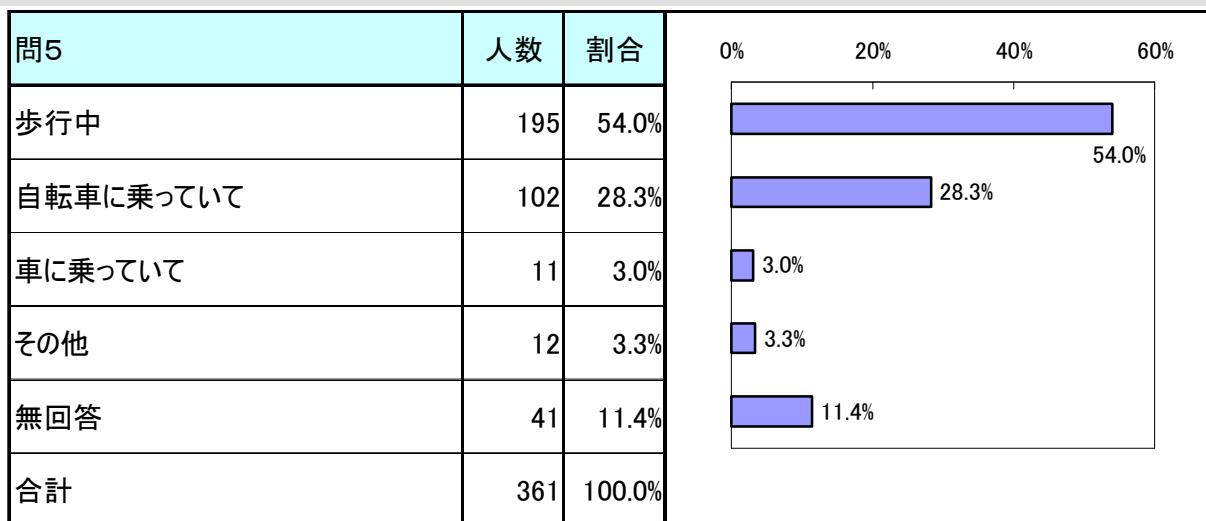
性別では、男の「ある」が30.9%で、女の25.9%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「ある」が33.3%で、小学校高学年の25.8%、中学生の26.0%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	361	28.3%	196	30.9%	164	25.9%	139	33.3%	113	25.8%	108	26.0%
ない	891	69.9%	431	67.9%	455	71.9%	271	64.8%	316	72.1%	302	72.8%
無回答	22	1.7%	8	1.3%	14	2.2%	8	1.9%	9	2.1%	5	1.2%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%



問5 何をしているときですか。(ひとつに○) 【交通事故】



何をしているときに交通事故に遭いそうになったかについては、「歩行中」が54.0%と最も多く、次いで「自転車に乗っていて」が28.3%、「車に乗っていて」が3.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「ボール遊びをされていて」等が挙げられた。

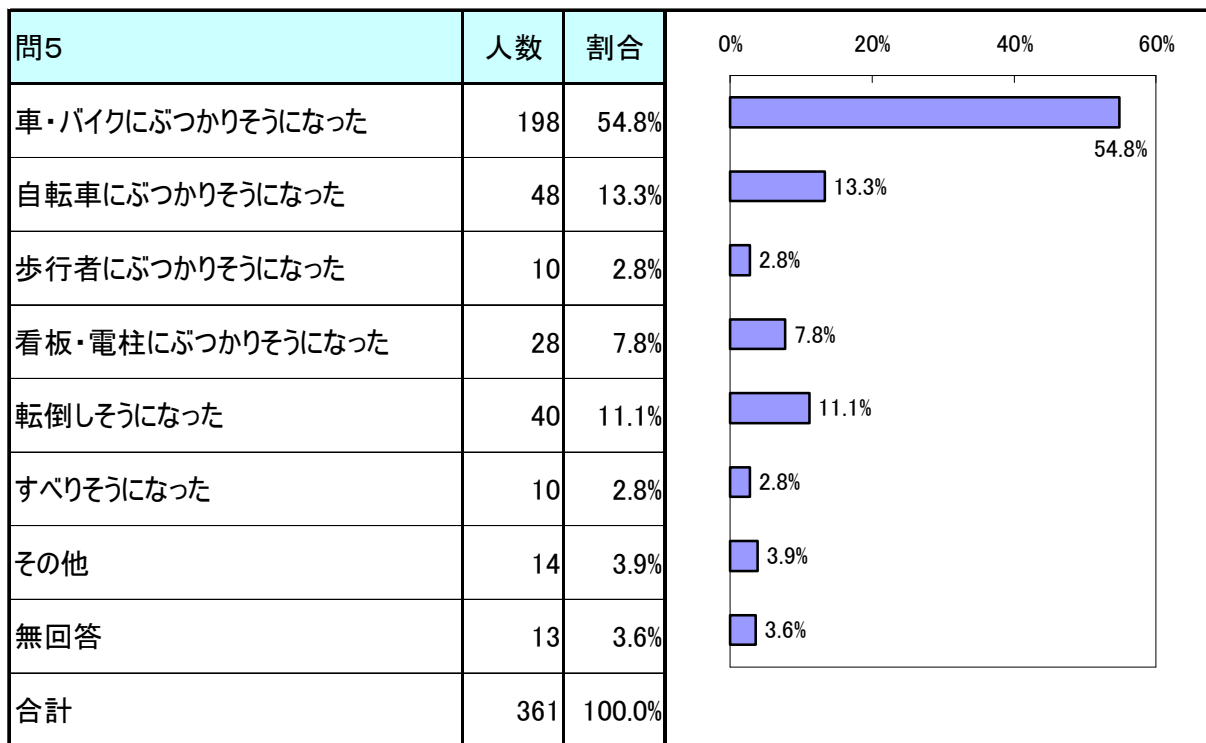
【属性別特徴】

性別では、女の「歩行中」が64.0%で、男の45.4%に比べて高くなっている。また、男の「自転車に乗っていて」が36.7%で、女の18.3%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「歩行中」が71.2%で、小学校高学年の47.8%、中学生の38.9%に比べて高くなっている。また、中学生の「自転車に乗っていて」が44.4%、小学校高学年が36.3%で、小学校低学年の8.6%に比べて高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
歩行中	195	54.0%	89	45.4%	105	64.0%	99	71.2%	54	47.8%	42	38.9%
自転車に乗っていて	102	28.3%	72	36.7%	30	18.3%	12	8.6%	41	36.3%	48	44.4%
車に乗っていて	11	3.0%	7	3.6%	4	2.4%	6	4.3%	2	1.8%	3	2.8%
その他	12	3.3%	11	5.6%	1	0.6%	4	2.9%	5	4.4%	3	2.8%
無回答	41	11.4%	17	8.7%	24	14.6%	18	12.9%	11	9.7%	12	11.1%
合計	361	100.0%	196	100.0%	164	100.0%	139	100.0%	113	100.0%	108	100.0%

問5 何でヒヤリとしましたか。(ひとつに○) 【交通事故】



何で交通事故に遭いそうになりヒヤリとしたかについては、「車・バイクにぶつかりそうになった」が54.8%と最も多く、次いで「自転車にぶつかりそうになった」が13.3%、「転倒しそうになった」が11.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「雨の日の車、傘で前が見えない」、「歩道との段差にはねて車道に出そうになった」、「ブレーキが急にきかなくなった」等が挙げられた。

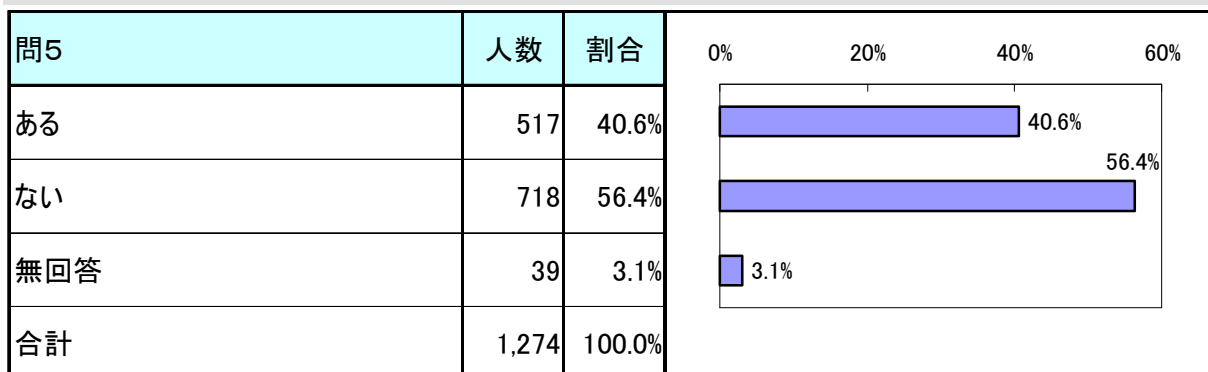
## 【属性別特徴】

性別では、女の「転倒しそうになった」が14.0%で、男の8.7%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校高学年の「転倒しそうになった」が17.7%で、小学校低学年の7.2%、中学生の9.3%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
車・バイクにぶつかりそうになった	198	54.8%	112	57.1%	85	51.8%	78	56.1%	61	54.0%	59	54.6%
自転車にぶつかりそうになった	48	13.3%	22	11.2%	26	15.9%	22	15.8%	13	11.5%	12	11.1%
歩行者にぶつかりそうになった	10	2.8%	6	3.1%	4	2.4%	6	4.3%	2	1.8%	2	1.9%
看板・電柱にぶつかりそうになった	28	7.8%	18	9.2%	10	6.1%	8	5.8%	10	8.8%	10	9.3%
転倒しそうになった	40	11.1%	17	8.7%	23	14.0%	10	7.2%	20	17.7%	10	9.3%
すべりそうになった	10	2.8%	5	2.6%	5	3.0%	2	1.4%	1	0.9%	7	6.5%
その他	14	3.9%	9	4.6%	5	3.0%	8	5.8%	3	2.7%	3	2.8%
無回答	13	3.6%	7	3.6%	6	3.7%	5	3.6%	3	2.7%	5	4.6%
合計	361	100.0%	196	100.0%	164	100.0%	139	100.0%	113	100.0%	108	100.0%

問5 対象のお子さんが、この1年間にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。(ひとつに○) 【転倒】



転倒しそうになりヒヤリとしたことについては、「ある」が40.6%、「ない」が56.4%となっている。

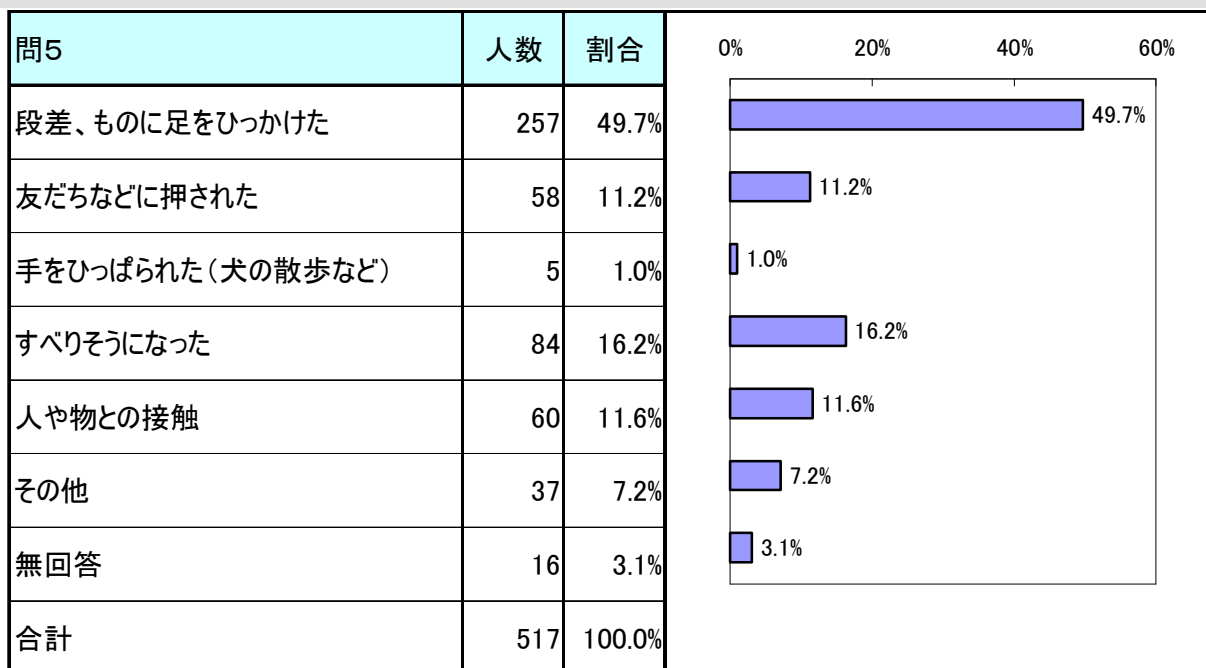
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

学年別では、小学校高学年と中学生で「ない」の割合が「ある」に比べ高いのに対し、小学校低学年では「ある」と「ない」がほぼ同じ割合になっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	517	40.6%	264	41.6%	250	39.5%	203	48.6%	175	40.0%	138	33.3%
ない	718	56.4%	350	55.1%	365	57.7%	204	48.8%	249	56.8%	263	63.4%
無回答	39	3.1%	21	3.3%	18	2.8%	11	2.6%	14	3.2%	14	3.4%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問5 ヒヤリとした原因は何でしたか。(ひとつに○) 【転倒】



転倒しそうになった原因については、「段差、ものに足をひっかけた」が49.7%と最も多く、次いで「すべりそうになった」が16.2%、「人や物との接触」が11.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「自転車に乗っていた時」、「よそ見」等が挙げられた。

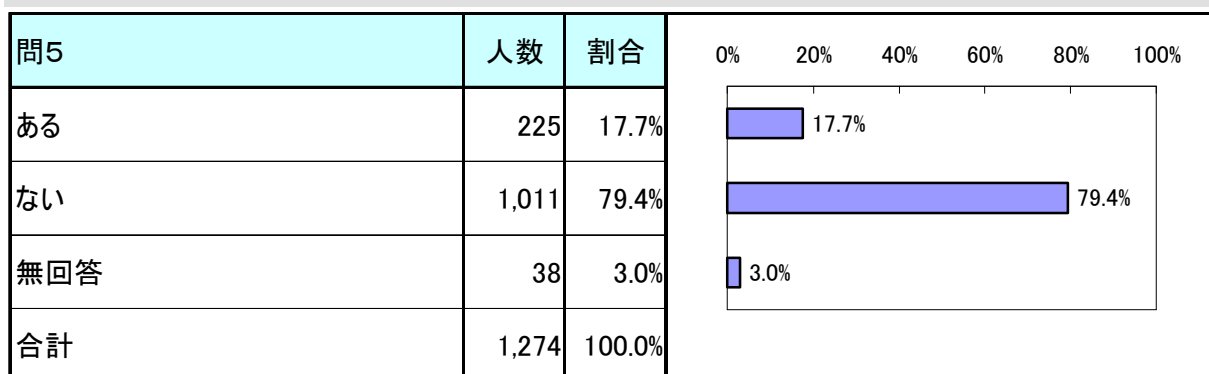
【属性別特徴】

性別では、女の「すべりそうになった」が19.2%で、男の13.6%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「友だちなどに押された」が13.8%、小学校高学年が12.6%で、中学生の5.8%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
段差、ものに足をひっかけた	257	49.7%	133	50.4%	123	49.2%	103	50.7%	83	47.4%	71	51.4%
友だちなどに押された	58	11.2%	36	13.6%	21	8.4%	28	13.8%	22	12.6%	8	5.8%
手をひっぱられた(犬の散歩など)	5	1.0%	0	0.0%	5	2.0%	2	1.0%	2	1.1%	1	0.7%
すべりそうになった	84	16.2%	36	13.6%	48	19.2%	27	13.3%	28	16.0%	29	21.0%
人や物との接触	60	11.6%	32	12.1%	28	11.2%	23	11.3%	21	12.0%	15	10.9%
その他	37	7.2%	16	6.1%	20	8.0%	11	5.4%	14	8.0%	12	8.7%
無回答	16	3.1%	11	4.2%	5	2.0%	9	4.4%	5	2.9%	2	1.4%
合計	517	100.0%	264	100.0%	250	100.0%	203	100.0%	175	100.0%	138	100.0%

問5 対象のお子さんが、この1年間にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。(ひとつに○) **【やけど】**



やけどしそうになりヒヤリとしたことについては、「ある」が17.7%、「ない」が79.4%となっている。

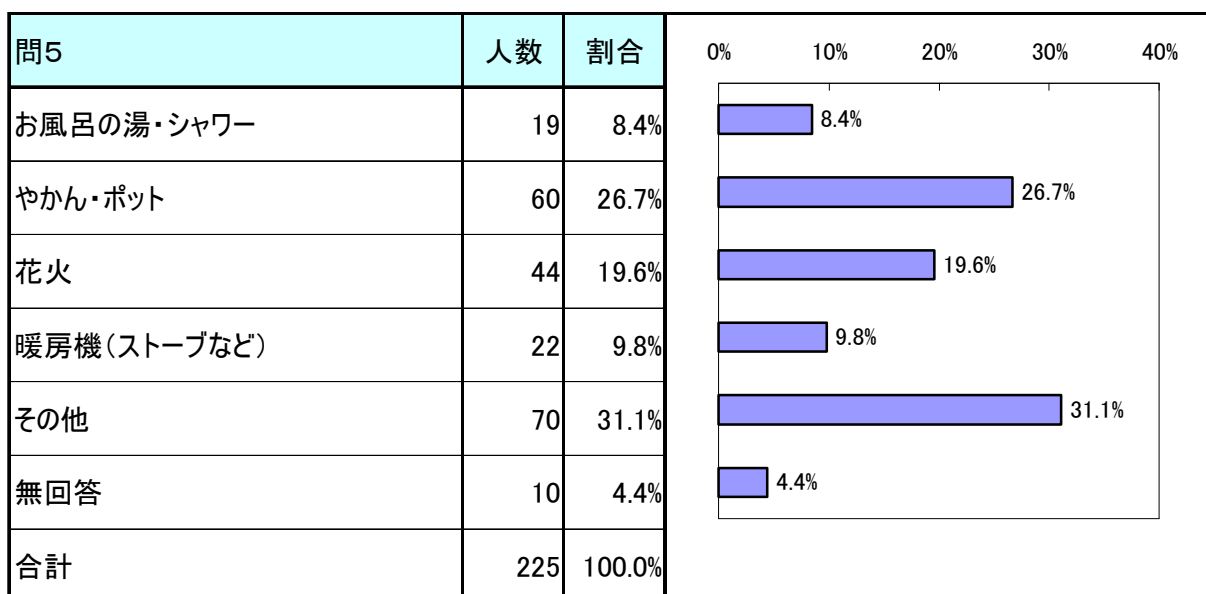
**【属性別特徴】**

性別では、女の「ある」が20.2%で、男の15.3%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校高学年の「ある」が20.3%、小学校低学年が20.1%で、中学生の12.3%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	225	17.7%	97	15.3%	128	20.2%	84	20.1%	89	20.3%	51	12.3%
ない	1,011	79.4%	518	81.6%	487	76.9%	324	77.5%	335	76.5%	350	84.3%
無回答	38	3.0%	20	3.1%	18	2.8%	10	2.4%	14	3.2%	14	3.4%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

## 問5 ヒヤリとした原因は何でしたか。(ひとつに○) 【やけど】



やけどしそうな原因については、「やかん・ポット」が26.7%と最も多く、次いで「花火」が19.6%、「暖房機(ストーブなど)」が9.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「アイロン」、「料理中(の手伝い)」等が挙げられた。

## 【属性別特徴】

性別では、女の「やかん・ポット」が32.0%で、男の19.6%に比べて高くなっている。また、男の「花火」が23.7%で、女の16.4%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「花火」が26.2%で、小学校高学年の18.0%、中学生の11.8%に比べてやや高くなっている。

問5	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
お風呂の湯・シャワー	19	8.4%	10	10.3%	9	7.0%	9	10.7%	7	7.9%	3	5.9%
やかん・ポット	60	26.7%	19	19.6%	41	32.0%	18	21.4%	25	28.1%	16	31.4%
花火	44	19.6%	23	23.7%	21	16.4%	22	26.2%	16	18.0%	6	11.8%
暖房機(ストーブなど)	22	9.8%	11	11.3%	11	8.6%	10	11.9%	4	4.5%	8	15.7%
その他	70	31.1%	29	29.9%	41	32.0%	21	25.0%	34	38.2%	15	29.4%
無回答	10	4.4%	5	5.2%	5	3.9%	4	4.8%	3	3.4%	3	5.9%
合計	225	100.0%	97	100.0%	128	100.0%	84	100.0%	89	100.0%	51	100.0%

問6 対象のお子さんは、この1年間（平成23年8月～平成24年7月）に「事故やけが」の経験がありますか。（ひとつに○）

問6	人数	割合	
ある	353	27.7%	
ない	826	64.8%	
無回答	95	7.5%	
合計	1,274	100.0%	

1年間の事故やけがの経験については、「ある」が27.7%、「ない」が64.8%となっている。

【属性別特徴】

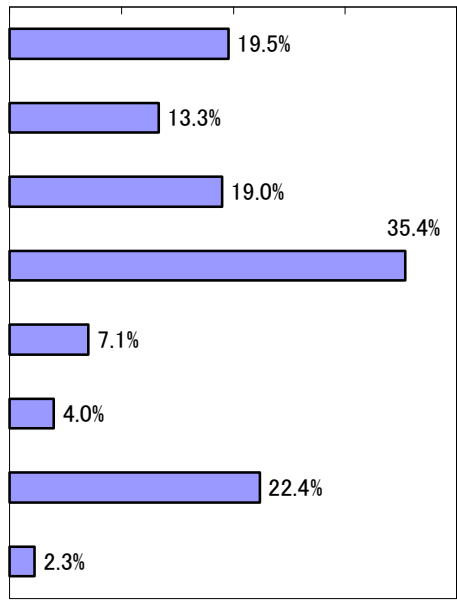
性別では、男の「ある」が31.3%で、女の24.3%に比べてやや高くなっている。学年別では、大きな違いはみられない。

問6	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	353	27.7%	199	31.3%	154	24.3%	123	29.4%	122	27.9%	108	26.0%
ない	826	64.8%	389	61.3%	432	68.2%	269	64.4%	276	63.0%	278	67.0%
無回答	95	7.5%	47	7.4%	47	7.4%	26	6.2%	40	9.1%	29	7.0%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%



問7 対象のお子さんのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）にあった事故やけがについて、ア：活動状況、イ：場所、ウ：種類、エ：けがの状態、オ：医療機関の受診の状況、カ：その事故やけがを未然に防ぐことができた可能性を、それぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

問7 ア 事故やけがをしたときの活動状況

問7 ア	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%
登下校中	69	19.5%					
授業中	47	13.3%					
少年団・部活動	67	19.0%					
遊び(スポーツを含む)	125	35.4%					
お手伝い	25	7.1%					
趣味活動	14	4.0%					
その他	79	22.4%					
無回答	8	2.3%					
回答人数	353						
回答件数(1件目と2件目)合計	434						

事故やけがをしたときの活動状況については、「遊び(スポーツを含む)」が35.4%と最も多く、次いで「登下校中」が19.5%、「少年団・部活動」が19.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「休み時間」、「食事中」等が挙げられた。

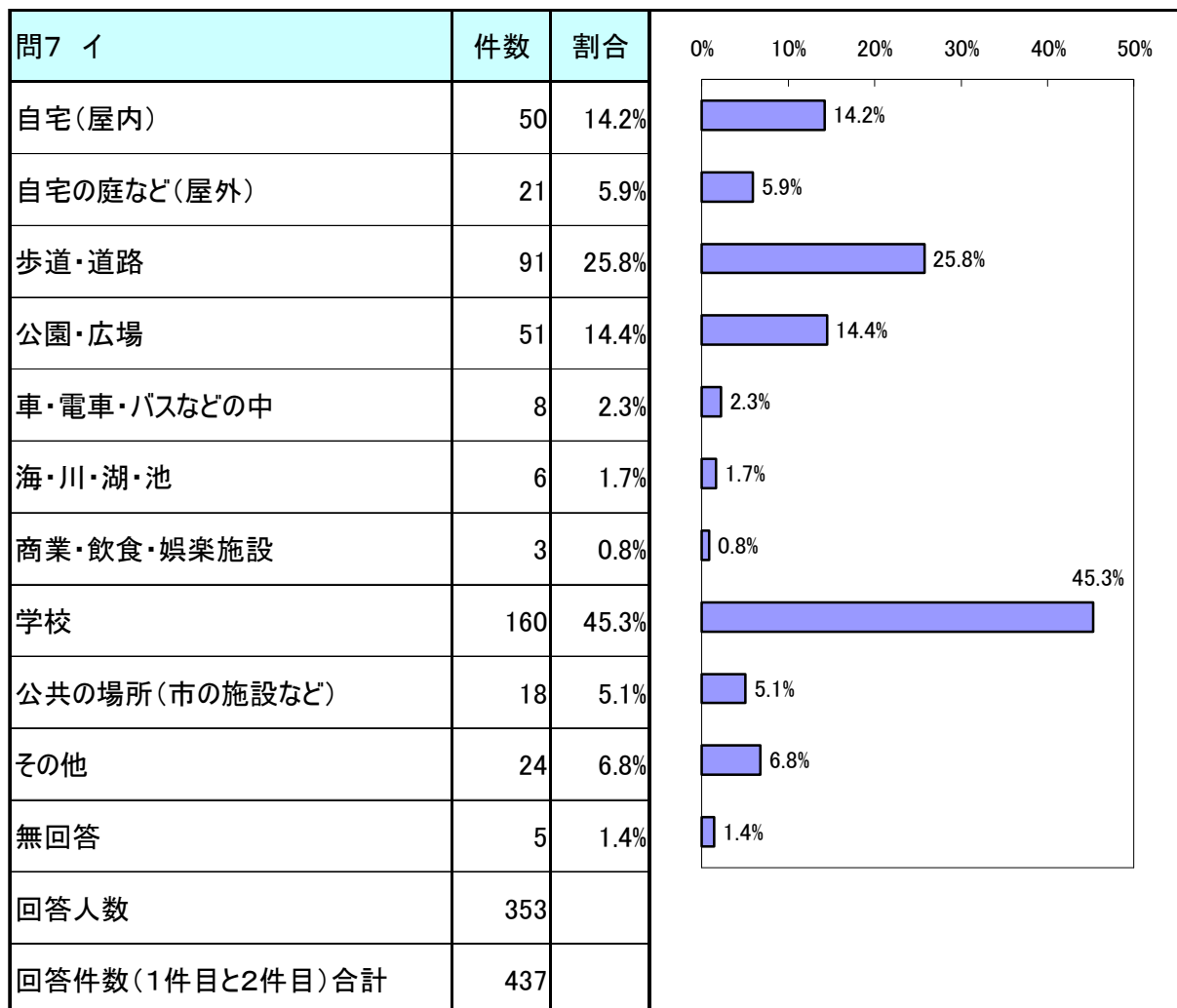
【属性別特徴】

性別では、女の「お手伝い」が12.3%で、男の3.0%に比べてやや高くなっている。

学年別では、中学生の「少年団・部活動」が38.9%で、小学校低学年の5.7%、小学校高学年の14.8%に比べて高くなっている。また、小学校低学年の「遊び（スポーツを含む）」が46.3%、小学校高学年が36.9%で、中学生の21.3%に比べて高くなっている。

問7 ア	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
登下校中	69	19.5%	36	18.1%	33	21.4%	25	20.3%	31	25.4%	13	12.0%
授業中	47	13.3%	19	9.5%	28	18.2%	15	12.2%	15	12.3%	17	15.7%
少年団・部活動	67	19.0%	37	18.6%	30	19.5%	7	5.7%	18	14.8%	42	38.9%
遊び(スポーツを含む)	125	35.4%	73	36.7%	52	33.8%	57	46.3%	45	36.9%	23	21.3%
お手伝い	25	7.1%	6	3.0%	19	12.3%	9	7.3%	10	8.2%	6	5.6%
趣味活動	14	4.0%	9	4.5%	5	3.2%	4	3.3%	2	1.6%	8	7.4%
その他	79	22.4%	45	22.6%	34	22.1%	30	24.4%	31	25.4%	18	16.7%
無回答	8	2.3%	7	3.5%	1	0.6%	3	2.4%	2	1.6%	3	2.8%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	434		232		202		150		154		130	

## 問7 イ 事故やけがをした場所



事故やけがをした場所については、「学校」が45.3%と最も多く、次いで「歩道・道路」が25.8%、「公園・広場」が14.4%となっている。

【属性別特徴】

性別では、女の「学校」が55.2%で、男の37.7%に比べて高くなっている。また、女の「自宅（屋内）」が20.1%で、男の9.5%に比べて高くなっている。

学年別では、中学生の「学校」が61.1%で、小学校低学年の35.0%、小学校高学年の41.8%に比べて高くなっている。また、小学校低学年の「自宅の庭など（屋外）」が13.8%で、小学校高学年の2.5%、中学生の0.9%に比べて高くなっている。

問7 イ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自宅(屋内)	50	14.2%	19	9.5%	31	20.1%	19	15.4%	19	15.6%	12	11.1%
自宅の庭など(屋外)	21	5.9%	14	7.0%	7	4.5%	17	13.8%	3	2.5%	1	0.9%
歩道・道路	91	25.8%	58	29.1%	33	21.4%	31	25.2%	38	31.1%	22	20.4%
公園・広場	51	14.4%	32	16.1%	19	12.3%	16	13.0%	24	19.7%	11	10.2%
車・電車・バスなどの中	8	2.3%	4	2.0%	4	2.6%	3	2.4%	1	0.8%	4	3.7%
海・川・湖・池	6	1.7%	2	1.0%	4	2.6%	2	1.6%	2	1.6%	2	1.9%
商業・飲食・娯楽施設	3	0.8%	1	0.5%	2	1.3%	3	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
学校	160	45.3%	75	37.7%	85	55.2%	43	35.0%	51	41.8%	66	61.1%
公共の場所(市の施設など)	18	5.1%	9	4.5%	9	5.8%	6	4.9%	5	4.1%	7	6.5%
その他	24	6.8%	15	7.5%	9	5.8%	11	8.9%	10	8.2%	3	2.8%
無回答	5	1.4%	5	2.5%	0	0.0%	2	1.6%	1	0.8%	2	1.9%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	437		234		203		153		154		130	

## 問7 ウ 事故やけがの種類

問7 ウ	件数	割合	
交通事故	22	6.2%	6.2%
転倒	189	53.5%	53.5%
転落	29	8.2%	8.2%
おぼれた	3	0.8%	0.8%
やけど(熱湯、アイロンなど)	41	11.6%	11.6%
異物のなどの誤飲(たばこの吸殻など)	0	0.0%	0.0%
窒息(のどに食べ物をつまらせたなど)	0	0.0%	0.0%
中毒(洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど)	0	0.0%	0.0%
ドアなどに挟まった	6	1.7%	1.7%
人や物との接触	64	18.1%	18.1%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	10	2.8%	2.8%
虫にさされた、動物にかまれた	11	3.1%	3.1%
物の落下	5	1.4%	1.4%
暴力(けんか)によるけが	3	0.8%	0.8%
その他	50	14.2%	14.2%
無回答	4	1.1%	1.1%
回答人数	353		
回答件数(1件目と2件目)合計	437		

事故やけがの種類については、「転倒」が53.5%と最も多く、次いで「人や物との接触」が18.1%、「やけど(熱湯、アイロンなど)」が11.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「ボールが当たった」等が挙げられた。

【属性別特徴】

性別では、女の「やけど（熱湯、アイロンなど）」が18.2%で、男の6.5%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「転倒」が59.3%、小学校高学年が59.0%で、中学生の40.7%に比べて高くなっている。

問7 ウ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
交通事故	22	6.2%	18	9.0%	4	2.6%	7	5.7%	5	4.1%	10	9.3%
転倒	189	53.5%	107	53.8%	82	53.2%	73	59.3%	72	59.0%	44	40.7%
転落	29	8.2%	12	6.0%	17	11.0%	15	12.2%	11	9.0%	3	2.8%
おぼれた	3	0.8%	0	0.0%	3	1.9%	3	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
やけど(熱湯、アイロンなど)	41	11.6%	13	6.5%	28	18.2%	12	9.8%	20	16.4%	9	8.3%
異物のなどの誤飲(たばこの吸殻など)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
窒息(のどに食べ物をつまらせたなど)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
中毒(洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ドアに挟まった	6	1.7%	1	0.5%	5	3.2%	2	1.6%	3	2.5%	1	0.9%
人や物との接触	64	18.1%	40	20.1%	24	15.6%	20	16.3%	18	14.8%	26	24.1%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	10	2.8%	5	2.5%	5	3.2%	2	1.6%	5	4.1%	3	2.8%
虫にさされた、動物にかまれた	11	3.1%	4	2.0%	7	4.5%	5	4.1%	2	1.6%	4	3.7%
物の落下	5	1.4%	1	0.5%	4	2.6%	1	0.8%	2	1.6%	2	1.9%
暴力(けんか)によるけが	3	0.8%	2	1.0%	1	0.6%	1	0.8%	1	0.8%	1	0.9%
その他	50	14.2%	28	14.1%	22	14.3%	10	8.1%	15	12.3%	25	23.1%
無回答	4	1.1%	4	2.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.8%	2	1.9%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	437		235		202		152		155		130	

## 問7 エ けがの状態

問7 エ	件数	割合
骨折・ひび	58	16.4%
ねんざ・脱臼・突き指	42	11.9%
打撲・うちみ	93	26.3%
きり傷・さし傷・すり傷	168	47.6%
やけど	41	11.6%
さされ傷・かまれ傷	11	3.1%
その他	15	4.2%
無回答	8	2.3%
回答人数	353	
回答件数(1件目と2件目)合計	436	

けがの状況については、「きり傷・さし傷・すり傷」が47.6%と最も多く、次いで「打撲・うちみ」が26.3%、「骨折・ひび」が16.4%となっている。

【属性別特徴】

性別では、女の「やけど」が18.2%で、男の6.5%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「きり傷・さし傷・すり傷」が61.0%で、小学校高学年の48.4%、中学生の31.5%に比べて高くなっている。また、小学校高学年の「骨折・ひび」が22.1%、中学生が21.3%で、小学校低学年の6.5%に比べて高くなっている。

問7 エ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
骨折・ひび	58	16.4%	35	17.6%	23	14.9%	8	6.5%	27	22.1%	23	21.3%
ねんざ・脱臼・突き指	42	11.9%	24	12.1%	18	11.7%	6	4.9%	14	11.5%	22	20.4%
打撲・うちみ	93	26.3%	53	26.6%	40	26.0%	36	29.3%	29	23.8%	28	25.9%
きり傷・さし傷・すり傷	168	47.6%	90	45.2%	78	50.6%	75	61.0%	59	48.4%	34	31.5%
やけど	41	11.6%	13	6.5%	28	18.2%	13	10.6%	20	16.4%	8	7.4%
さされ傷・かまれ傷	11	3.1%	5	2.5%	6	3.9%	5	4.1%	2	1.6%	4	3.7%
その他	15	4.2%	7	3.5%	8	5.2%	6	4.9%	2	1.6%	7	6.5%
無回答	8	2.3%	7	3.5%	1	0.6%	3	2.4%	1	0.8%	4	3.7%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	436		234		202		152		154		130	



問7 オ 医療機関の受診

問7 オ	件数	割合	
家庭や学校などの手当てで済んだ	204	57.8%	
医療機関に1回通院した	63	17.8%	
医療機関に2回以上通院した(している)	150	42.5%	
医療機関に入院した(している)	4	1.1%	
その他	8	2.3%	
無回答	7	2.0%	
回答人数	353		
回答件数(1件目と2件目)合計	436		

医療機関の受診については、「家庭や学校などの手当てで済んだ」が57.8%と最も多く、次いで「医療機関に2回以上通院した(している)」が42.5%、「医療機関に1回通院した」が17.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「手当てするほどのけがはなかった」等が挙げられた。

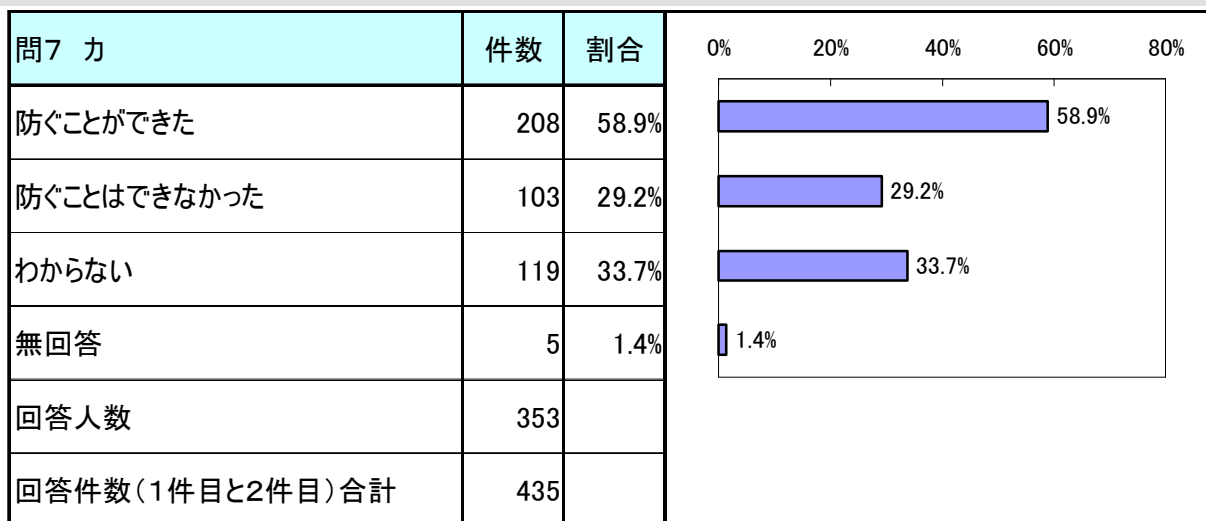
【属性別特徴】

性別では、女の「家庭や学校などの手当てで済んだ」が68.8%で、男の49.2%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「家庭や学校などの手当てで済んだ」が69.1%で、小学校高学年の59.0%、中学生の43.5%に比べて高くなっている。

問7 オ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家庭や学校などの手当てで済んだ	204	57.8%	98	49.2%	106	68.8%	85	69.1%	72	59.0%	47	43.5%
医療機関に1回通院した	63	17.8%	38	19.1%	25	16.2%	22	17.9%	21	17.2%	20	18.5%
医療機関に2回以上通院した(している)	150	42.5%	85	42.7%	65	42.2%	40	32.5%	57	46.7%	53	49.1%
医療機関に入院した(している)	4	1.1%	2	1.0%	2	1.3%	2	1.6%	2	1.6%	0	0.0%
その他	8	2.3%	4	2.0%	4	2.6%	0	0.0%	1	0.8%	7	6.5%
無回答	7	2.0%	7	3.5%	0	0.0%	3	2.4%	1	0.8%	3	2.8%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	436		234		202		152		154		130	

問7 カ 未然に防ぐことができた可能性



事故やけがを未然に防ぐことができた可能性については、「防ぐことができた」が58.9%と最も多く、次いで「わからない」が33.7%、「防ぐことはできなかった」が29.2%となっている。

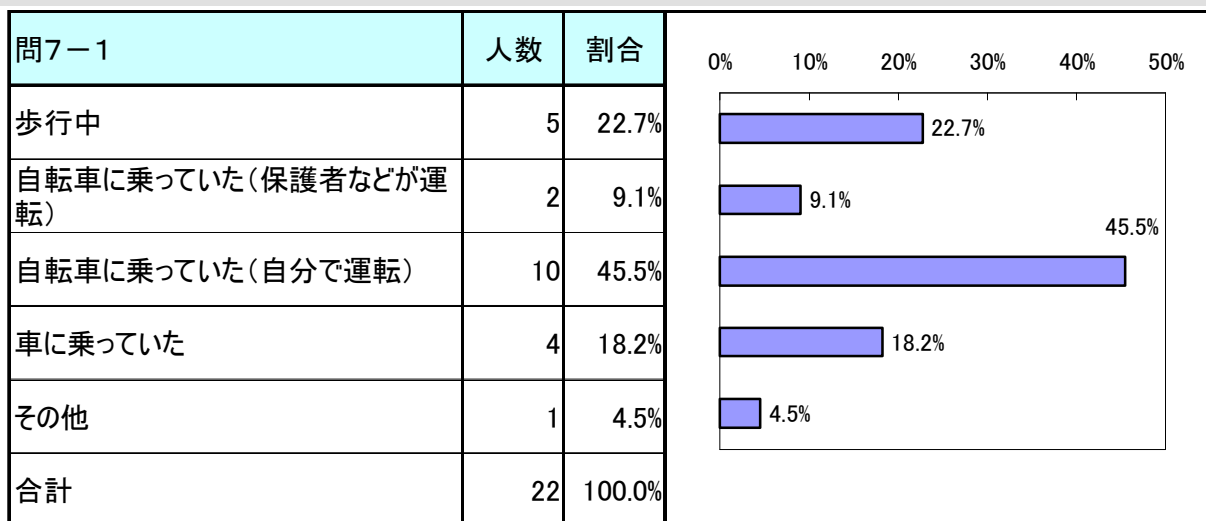
【属性別特徴】

性別では、女の「防ぐことができた」が63.6%で、男の55.3%に比べてやや高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「防ぐことができた」が69.1%、小学校高学年が61.5%で、中学生の44.4%に比べて高くなっている。

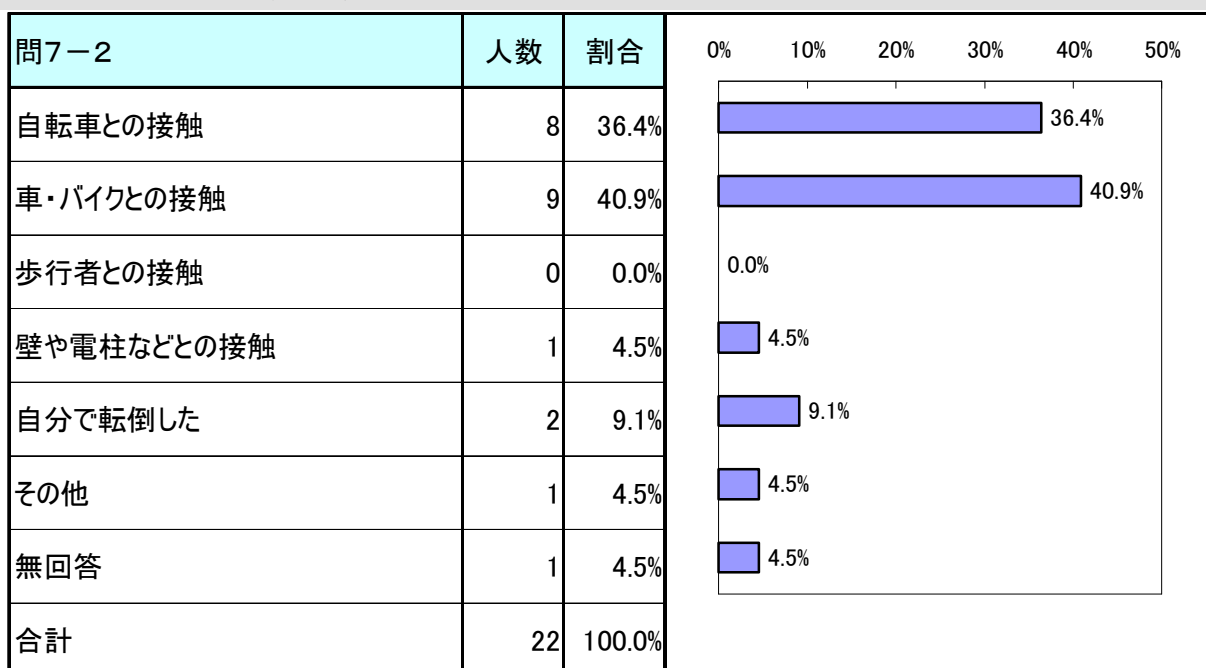
問7 カ	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
防ぐことができた	208	58.9%	110	55.3%	98	63.6%	85	69.1%	75	61.5%	48	44.4%
防ぐことはできなかった	103	29.2%	58	29.1%	45	29.2%	30	24.4%	31	25.4%	42	38.9%
わからない	119	33.7%	61	30.7%	58	37.7%	36	29.3%	45	36.9%	38	35.2%
無回答	5	1.4%	4	2.0%	1	0.6%	1	0.8%	2	1.6%	2	1.9%
回答人数	353		199		154		123		122		108	
回答件数(1件目と2件目)合計	435		233		202		152		153		130	

## 問7-1 交通事故時の対象のお子さんの状況（ひとつに○）



交通事故時の状況については、「自転車に乗っていた（自分で運転）」が45.5%と最も多く、次いで「歩行中」が22.7%、「車に乗っていた」が18.2%となっている。

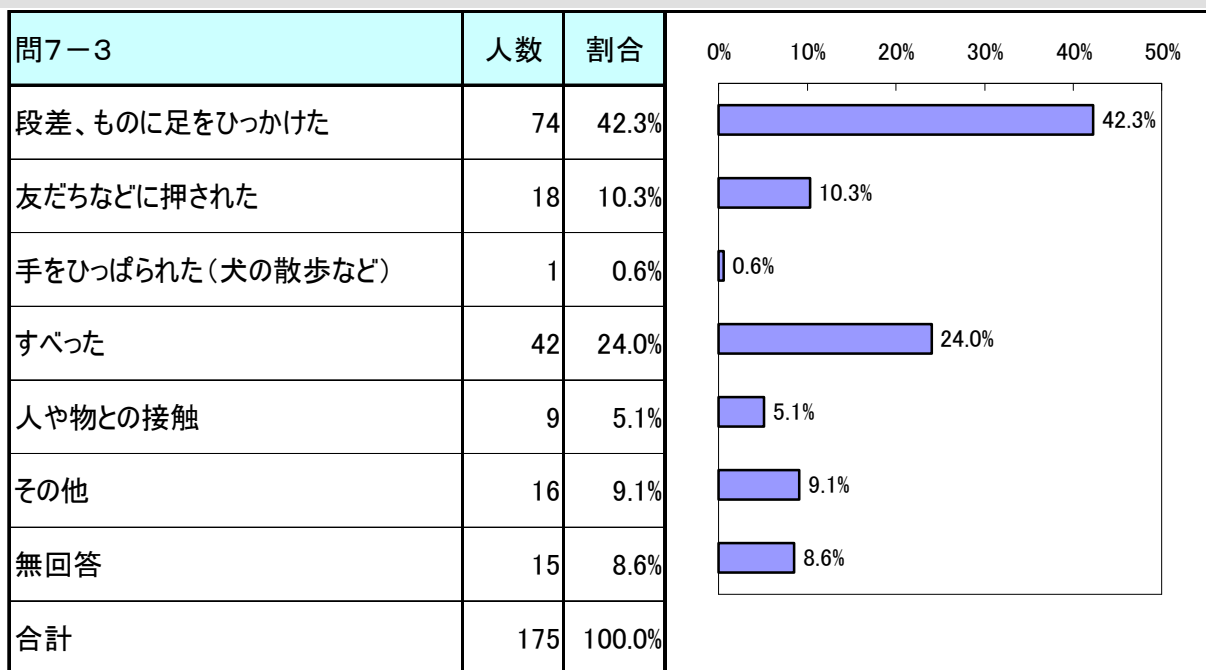
## 問7-2 交通事故の原因（ひとつに○）



交通事故の原因については、「車・バイクとの接触」が40.9%と最も多く、次いで「自転車との接触」が36.4%、「自分で転倒した」が9.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「灰ですべった」が挙げられた。

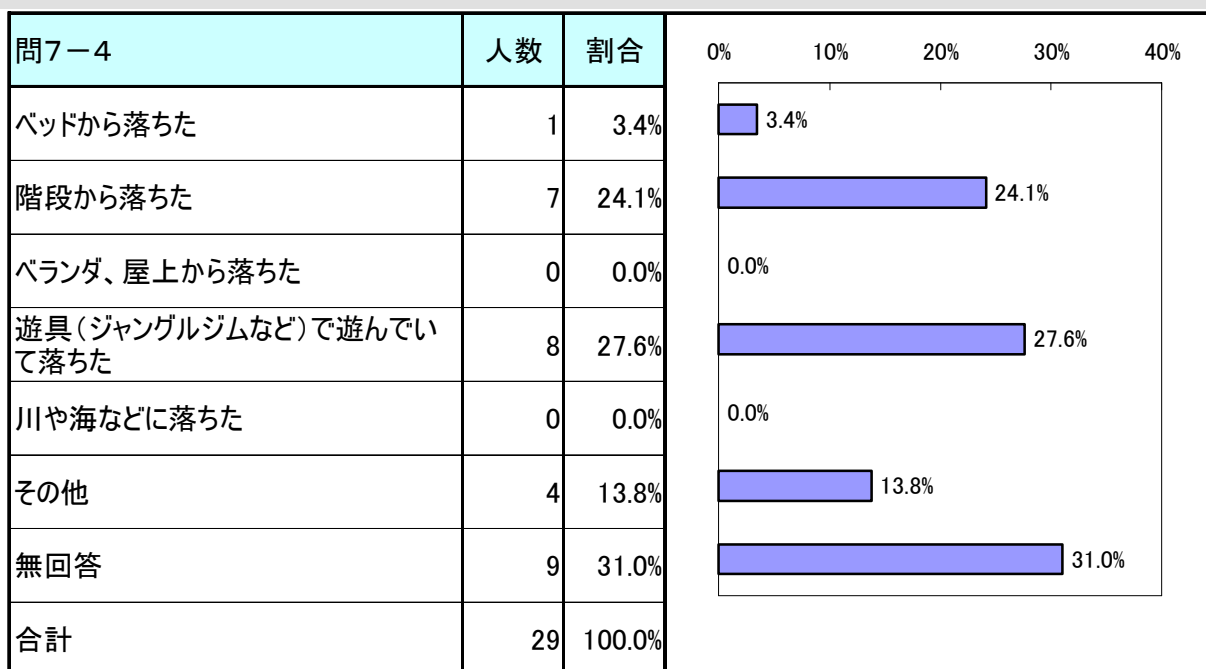
問7-3 転倒の原因（ひとつに○）



転倒の原因については、「段差、ものに足をひっかけた」が42.3%と最も多く、次いで「すべった」が24.0%、「友だちなどに押された」が10.3%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「自転車で転倒」等が挙げられた。

問7-4 転落の原因（ひとつに○）



転落の原因については、「遊具（ジャングルジムなど）で遊んでいて落ちた」が27.6%と最も多く、次いで「階段から落ちた」が24.1%、「ベッドから落ちた」が3.4%となっている。

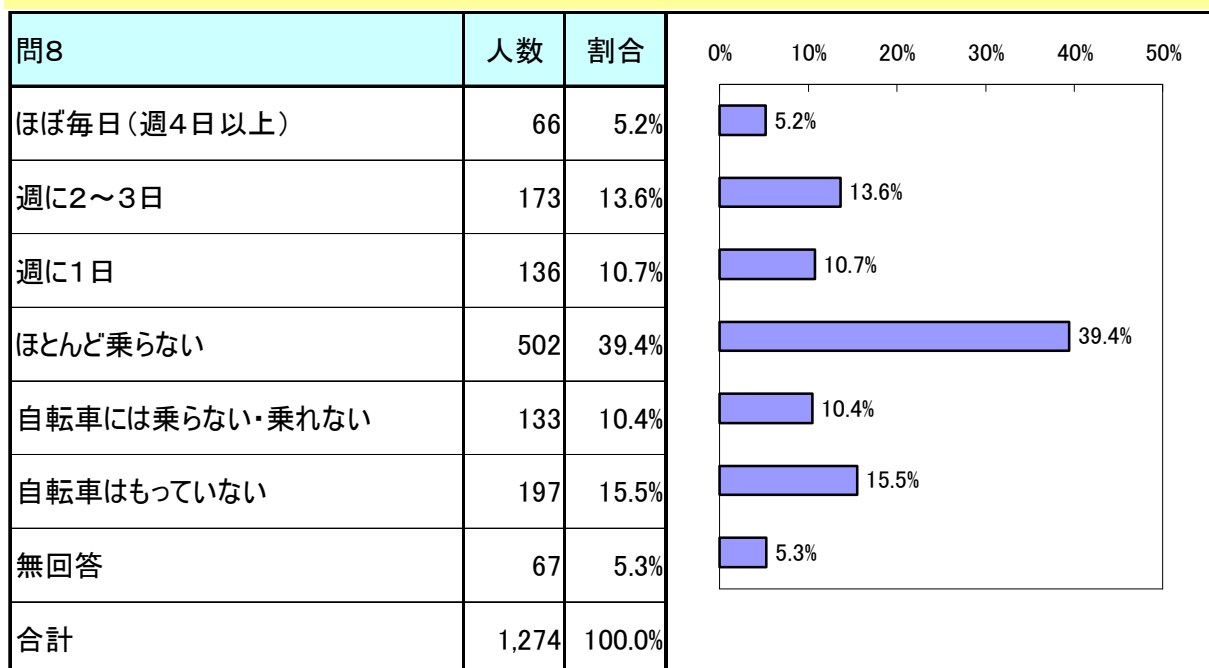
## 問7-5 おぼれた場所

問7-5	人数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
お風呂場	0	0.0%	0.0%
プール	3	100.0%	100.0%
海、川、湖、池	0	0.0%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%
合計	3	100.0%	



おぼれた場所については、「プール」が100.0%となっている。

問8 対象のお子さんは、いつもどのくらいの頻度で自転車に乗りますか。  
(一番近いものひとつに○)



自転車に乗る頻度については、「ほとんど乗らない」が39.4%と最も多く、次いで「自転車はもっていない」が15.5%、「週に2~3日」が13.6%となっている。

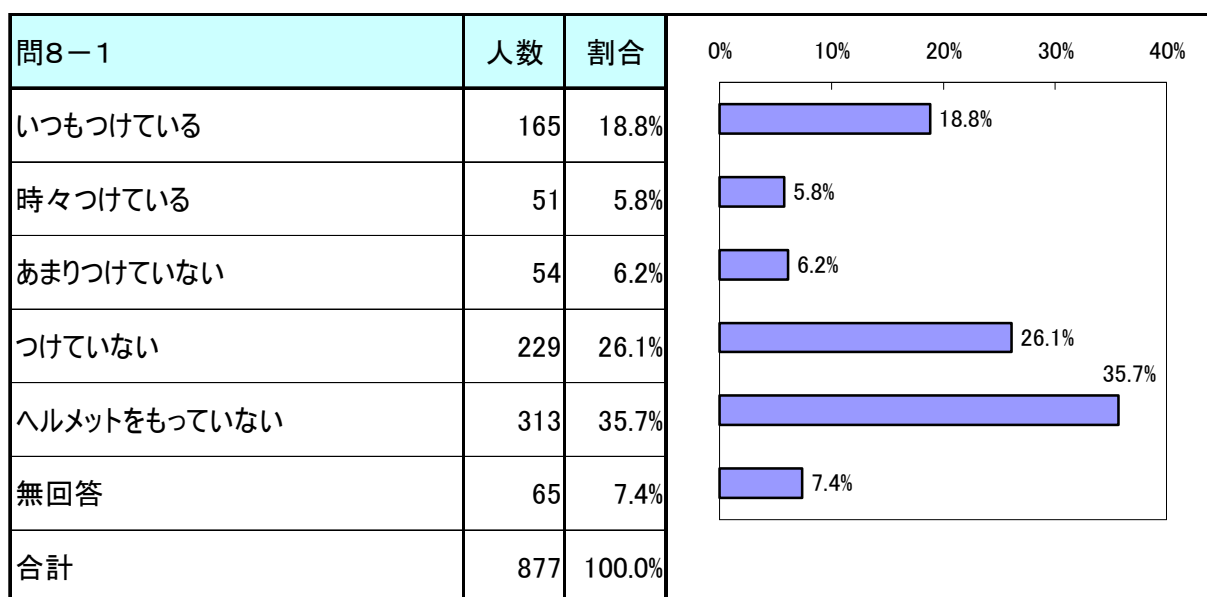
【属性別特徴】

性別では、男の「ほぼ毎日(週4日以上)」と「週に2~3日」と「週に1回」の合計が35.8%で、女の合計の23.1%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「自転車には乗らない・乗れない」が17.7%で、小学校高学年の7.1%、中学生の6.7%に比べて高くなっている。

問8	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日(週4日以上)	66	5.2%	47	7.4%	19	3.0%	8	1.9%	24	5.5%	34	8.2%
週に2~3日	173	13.6%	121	19.1%	51	8.1%	35	8.4%	66	15.1%	71	17.1%
週に1日	136	10.7%	59	9.3%	76	12.0%	45	10.8%	59	13.5%	32	7.7%
ほとんど乗らない	502	39.4%	233	36.7%	269	42.5%	175	41.9%	175	40.0%	151	36.4%
自転車には乗らない・乗れない	133	10.4%	65	10.2%	67	10.6%	74	17.7%	31	7.1%	28	6.7%
自転車はもっていない	197	15.5%	72	11.3%	123	19.4%	67	16.0%	60	13.7%	69	16.6%
無回答	67	5.3%	38	6.0%	28	4.4%	14	3.3%	23	5.3%	30	7.2%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問8-1 対象のお子さんは、自転車に乗るとき、ヘルメットをつけていますか。  
(ひとつに○)



ヘルメットの着用については、「ヘルメットをもっていない」が35.7%と最も多く、次いで「つけていない」が26.1%、「いつもつけている」が18.8%となっている。

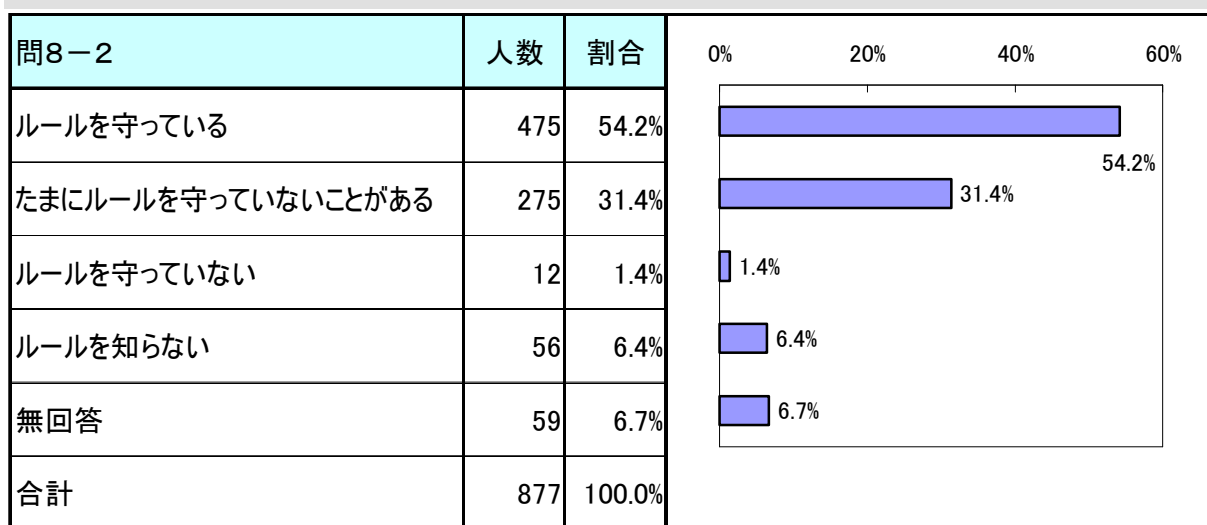
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

学年別では、小学校高学年の「いつもつけている」が28.7%、小学校低学年が20.9%で、中学生の5.6%に比べて高くなっている。また、中学生の「ヘルメットをもっていない」が44.1%、小学校低学年が38.0%で、小学校高学年の26.2%に比べて高くなっている。

問8-1	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
いつもつけている	165	18.8%	97	21.1%	68	16.4%	55	20.9%	93	28.7%	16	5.6%
時々つけている	51	5.8%	26	5.7%	24	5.8%	17	6.5%	30	9.3%	4	1.4%
あまりつけていない	54	6.2%	25	5.4%	29	7.0%	17	6.5%	25	7.7%	12	4.2%
つけていない	229	26.1%	123	26.7%	106	25.5%	57	21.7%	70	21.6%	102	35.4%
ヘルメットをもっていない	313	35.7%	164	35.7%	148	35.7%	100	38.0%	85	26.2%	127	44.1%
無回答	65	7.4%	25	5.4%	40	9.6%	17	6.5%	21	6.5%	27	9.4%
合計	877	100.0%	460	100.0%	415	100.0%	263	100.0%	324	100.0%	288	100.0%

問8-2 対象のお子さんは、ルールを守って自転車に乗っていますか。  
(ひとつに○)



ルールを守って自転車に乗っているかについては、「ルールを守っている」が54.2%と最も多く、次いで「たまにルールを守っていないことがある」が31.4%、「ルールを知らない」が6.4%となっている。

【属性別特徴】

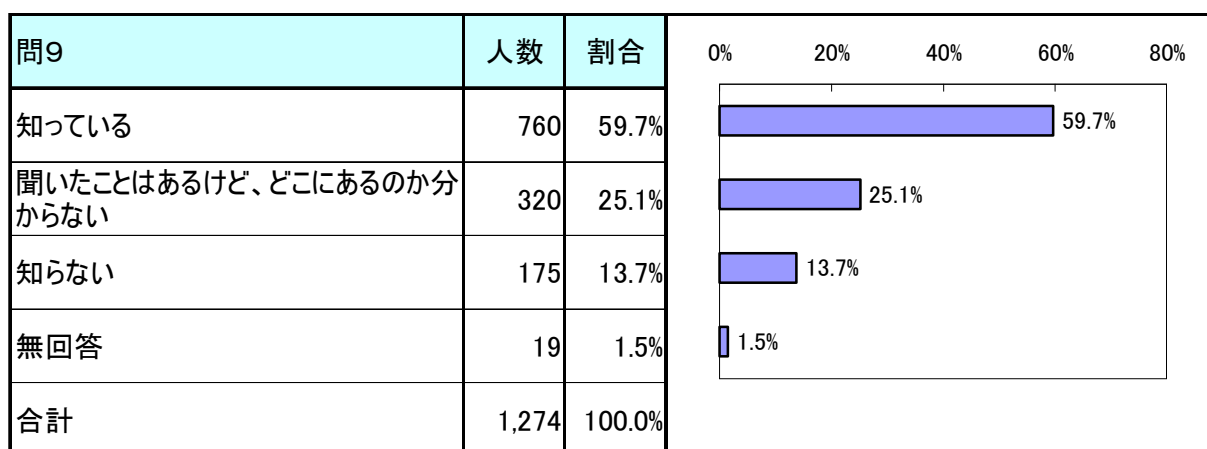
性別では、男の「たまにルールを守っていないことがある」が37.0%で、女の25.1%に比べて高くなっている。

学年別では、小学校低学年の「ルールを知らない」が14.4%で、小学校高学年の2.8%、中学生の3.1%に比べて高くなっている。

問8-2	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ルールを守っている	475	54.2%	233	50.7%	241	58.1%	136	51.7%	182	56.2%	155	53.8%
たまにルールを守っていないことがある	275	31.4%	170	37.0%	104	25.1%	65	24.7%	112	34.6%	98	34.0%
ルールを守っていない	12	1.4%	10	2.2%	2	0.5%	4	1.5%	3	0.9%	5	1.7%
ルールを知らない	56	6.4%	26	5.7%	30	7.2%	38	14.4%	9	2.8%	9	3.1%
無回答	59	6.7%	21	4.6%	38	9.2%	20	7.6%	18	5.6%	21	7.3%
合計	877	100.0%	460	100.0%	415	100.0%	263	100.0%	324	100.0%	288	100.0%



問9 対象のお子さんは、通学路や遊び場付近の「子ども 110 番の家」を知っていますか。(ひとつに○)



子ども 110 番の家の認知度については、「知っている」が 59.7%と最も多く、次いで「聞いたことはあるけど、どこにあるのか分からない」が 25.1%、「知らない」が 13.7%となっている。

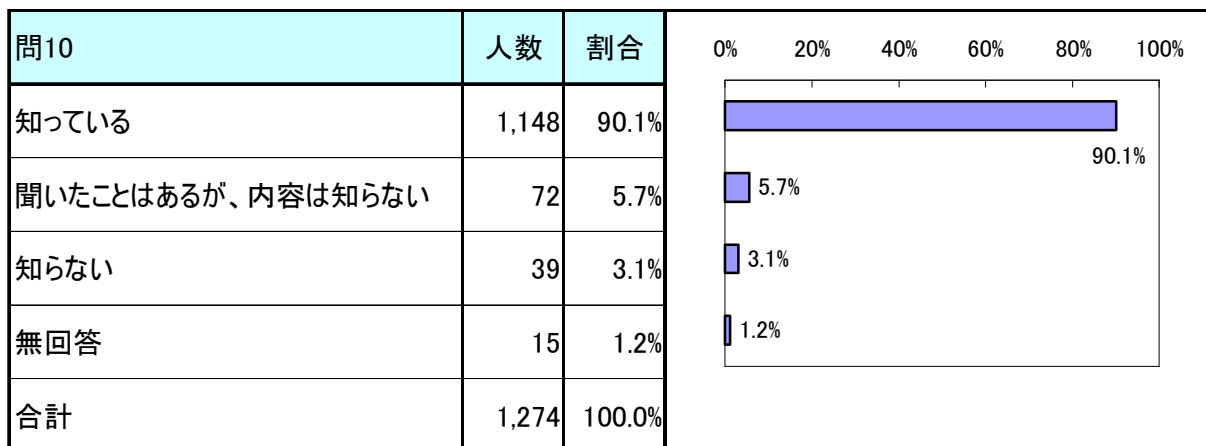
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

学年別では、小学校高学年の「知っている」が 69.2%、中学生が 60.2%で、小学校低学年の 48.8%に比べて高くなっている。

問9	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	760	59.7%	367	57.8%	390	61.6%	204	48.8%	303	69.2%	250	60.2%
聞いたことはあるけど、どこにあるのか分からない	320	25.1%	158	24.9%	159	25.1%	125	29.9%	94	21.5%	101	24.3%
知らない	175	13.7%	99	15.6%	76	12.0%	87	20.8%	35	8.0%	53	12.8%
無回答	19	1.5%	11	1.7%	8	1.3%	2	0.5%	6	1.4%	11	2.7%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問10 対象のお子さんは、「いかのおすし」を知っていますか。(ひとつに○)



「いかのおすし」の認知度については、「知っている」が90.1%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が5.7%、「知らない」が3.1%となっている。

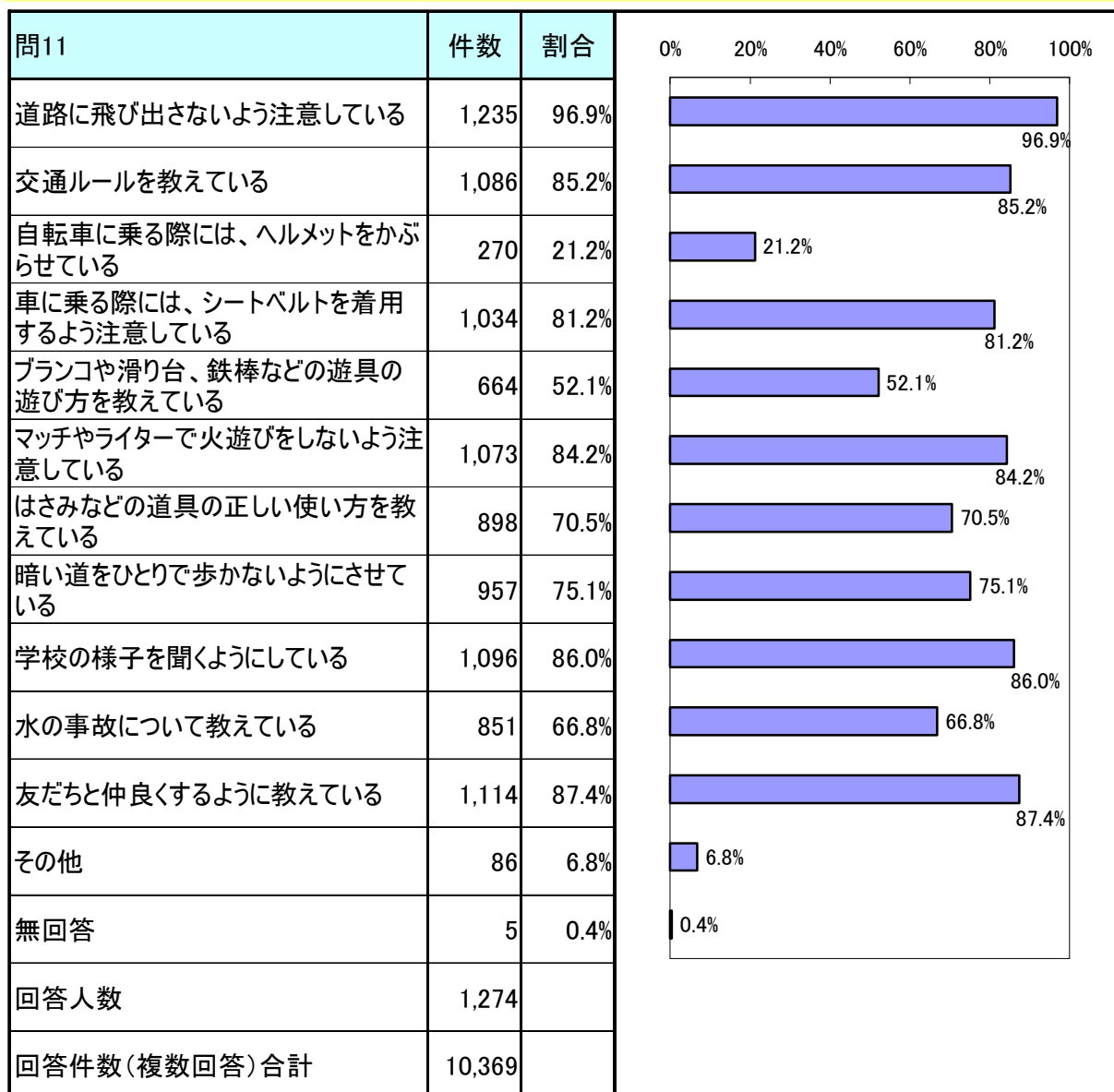
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

学年別では、小学校低学年の「聞いたことはあるが、内容は知らない」と「知らない」の合計が14.4%で、小学校高学年の合計の4.1%、中学生の合計の8.0%に比べてやや高くなっている。

問10	全体		お子さんの性別				学年					
			男		女		小学校低学年		小学校高学年		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	1,148	90.1%	565	89.0%	577	91.2%	352	84.2%	416	95.0%	377	90.8%
聞いたことはあるが、内容は知らない	72	5.7%	35	5.5%	37	5.8%	35	8.4%	13	3.0%	24	5.8%
知らない	39	3.1%	31	4.9%	8	1.3%	25	6.0%	5	1.1%	9	2.2%
無回答	15	1.2%	4	0.6%	11	1.7%	6	1.4%	4	0.9%	5	1.2%
合計	1,274	100.0%	635	100.0%	633	100.0%	418	100.0%	438	100.0%	415	100.0%

問 11 あなた(保護者)は、お子さんが安全に生活するために注意してきたことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

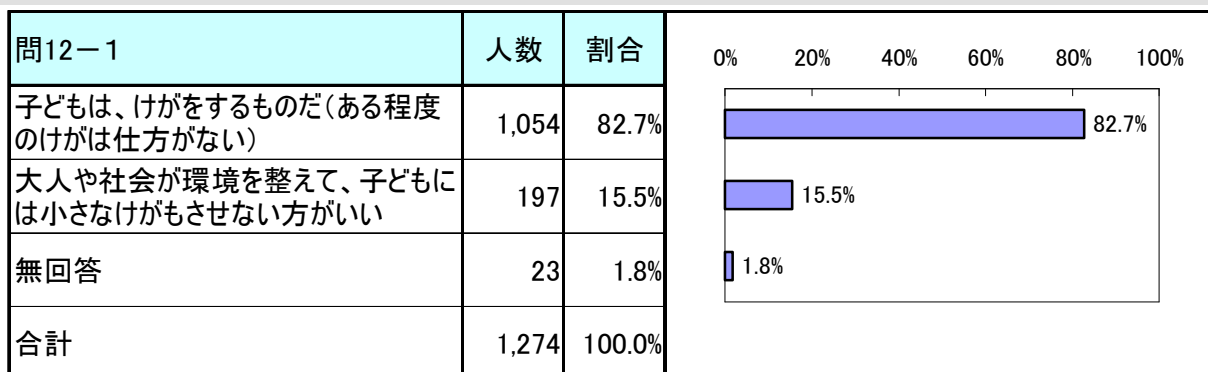


安全な生活のために注意してきたことについては、「道路に飛び出さないよう注意している」が96.9%と最も多く、次いで「友だちと仲良くするように教えている」が87.4%、「学校の様子を聞くようにしている」が86.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「知らない人には、ついていかないように話している」、「不審者に気をつける」等が挙げられた。

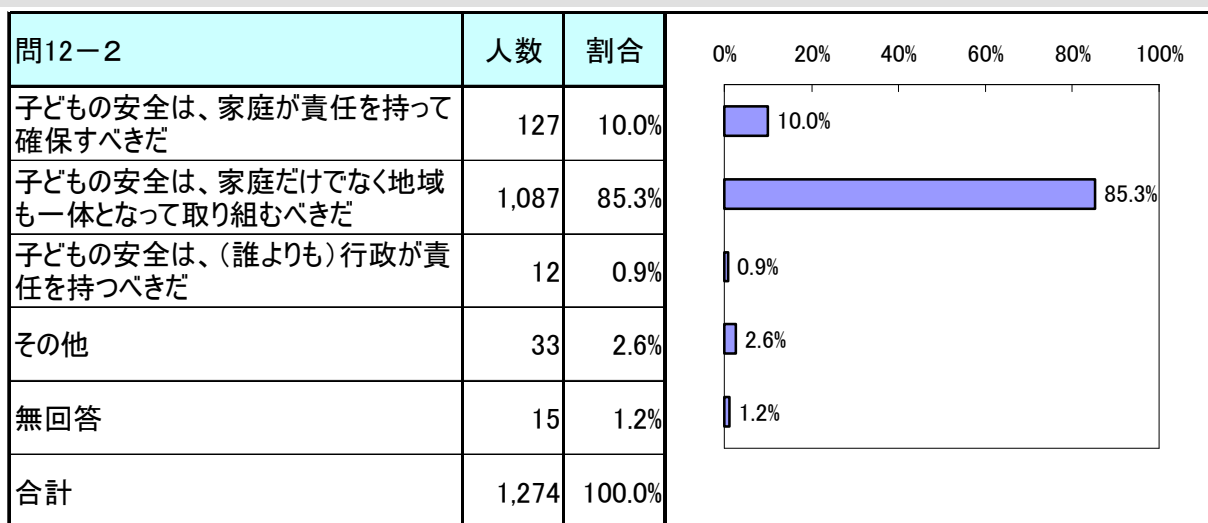
問 12 あなた(保護者)の子どもの安全に関する考え方についてお聞きします。

問 12-1 子どものけがについて (ひとつに○)



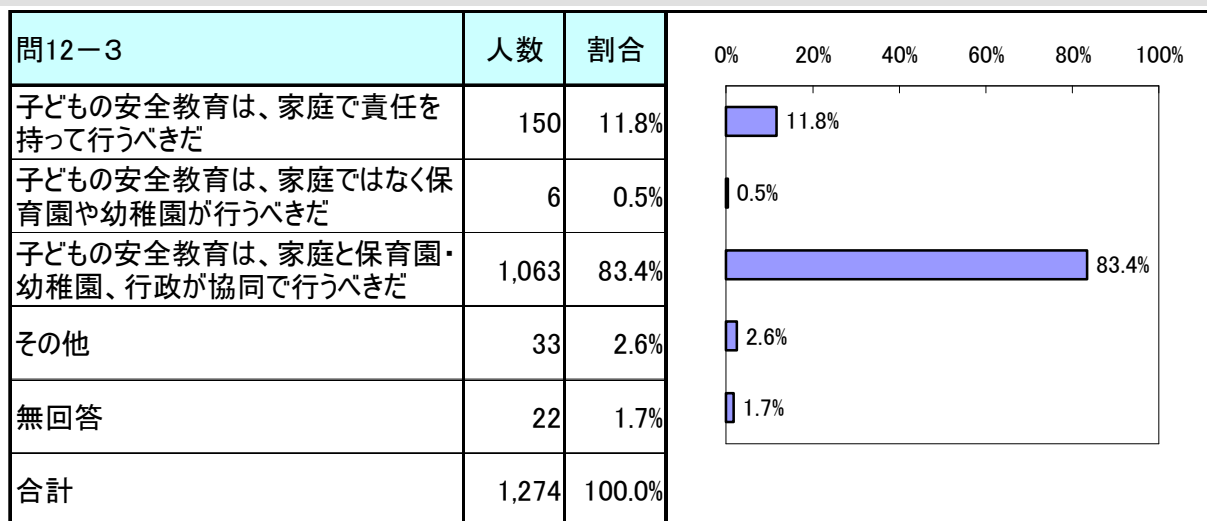
子どものけがについては、「子どもは、けがをするものだ(ある程度のけがは仕方がない)」が 82.7%、「大人や社会が環境を整えて、子どもには小さなけがもさせない方がいい」が 15.5%となっている。

問 12-2 子どもの安全について (ひとつに○)



子どもの安全についての考え方については、「子どもの安全は、家庭だけでなく地域も一体となって取り組むべきだ」が 85.3%と最も多く、次いで「子どもの安全は、家庭が責任を持って確保すべきだ」が 10.0%、「子どもの安全は、(誰よりも)行政が責任を持つべきだ」が 0.9%となっている。

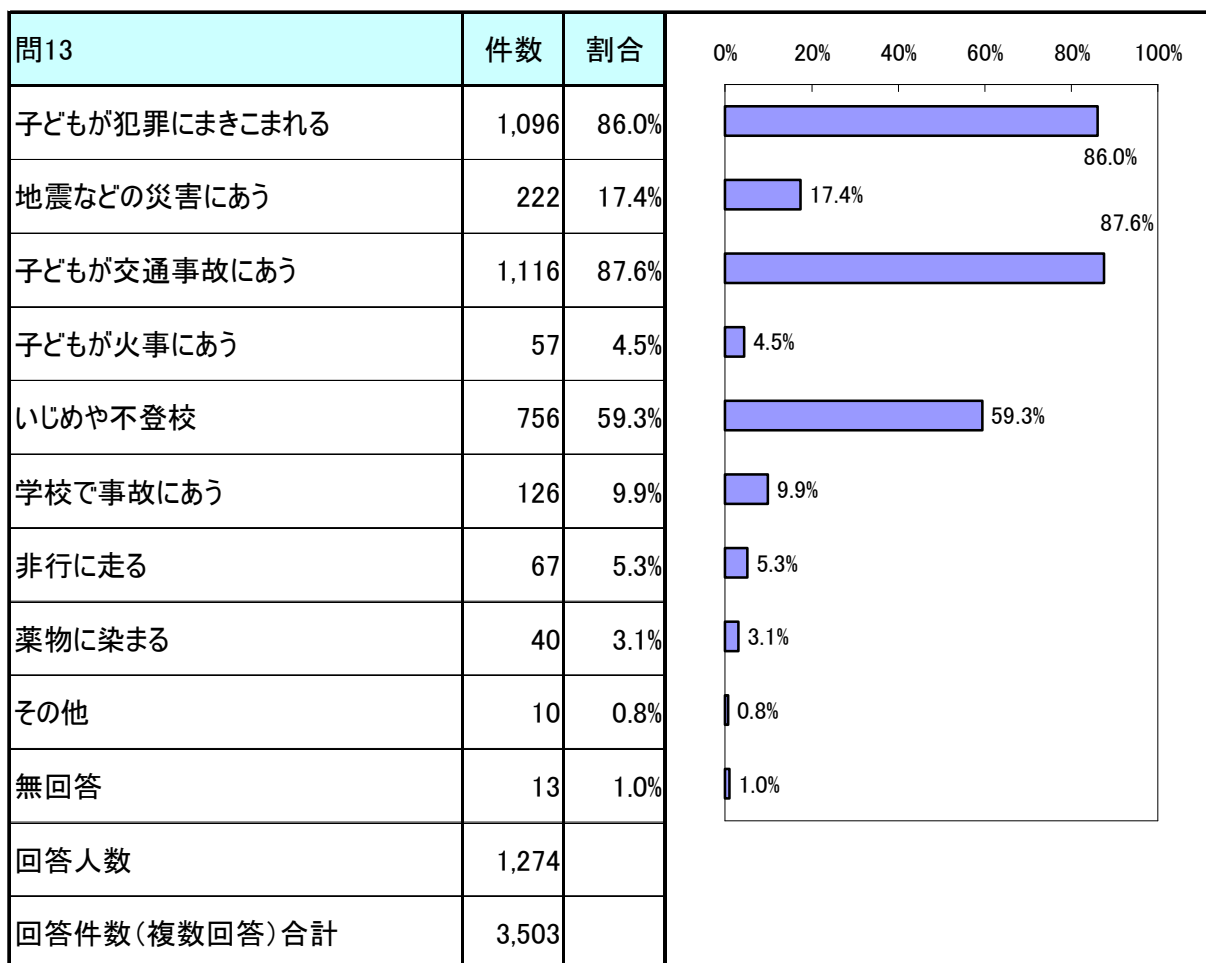
## 問12-3 子どもの安全教育について（ひとつに○）



子どもの安全教育についての考え方については、「子どもの安全教育は、家庭と保育園・幼稚園、行政が協同で行うべきだ」が83.4%と最も多く、次いで「子どもの安全教育は、家庭で責任を持って行うべきだ」が11.8%、「子どもの安全教育は、家庭ではなく保育園や幼稚園が行うべきだ」が0.5%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「小・中学校でも安全教育の場を作り地域と一帯となって安全に取り組むべき」等が挙げられた。

問13 あなた(保護者)が、特に不安に思うことは何ですか。(3つまで○)



不安に思うことについては、「子どもが交通事故にあう」が87.6%と最も多く、次いで「子どもが犯罪にまきこまれる」が86.0%、「いじめや不登校」が59.3%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「ネットの情報」、「子ども同士のケンカによるけが」等が挙げられた。

## 問 14 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

「いかのおすし」は幼稚園のときに教わりました。子どものけがはある程度は仕方の無いものだと思います。犯罪被害、交通事故は小さい頃から教育の現場で学んでいます、いじめも早いうちから教育が必要なのではないかと思います。

普段歩いていて、事故がおこりそうで子どもが歩くには危ない場所があちこちあるので、こういって調査でもいいので意見が言える機会があるといいです。

3人の子を持つ母親としては、家庭、学校だけでなく、地域や行政等も子どもたちの安心安全なまちづくりに協力してくれるということは、とても嬉しく思っています。家庭だけでは補うことの出来ない事故やけがの予防策、宜しく願います。

改めて、家庭で行う安全教育について考えさせられました。親として子どもの安全を守る意識をもっと高めたいと思います。さまざまな情報にアンテナをはって、子どもにもしっかり情報を伝えていけるようにしたいと思います。

危ないことをしている子どもを叱ってくれる近所の大人が減ってしまったと思う。近所の方が声を掛けてくださるだけで、全ての事故に関して予防の役に立つと思います。

あまり、普段は意識したことがありませんでしたが、多々子どもと一緒に考えていかなければならないことだと思いました。これからの日本、世界を担っていく子どもたちをみんなで守っていきたいです。自分のこと、人の子も。

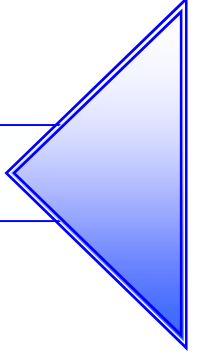
親の目の届く範囲で今は遊んでいますが、年齢が上がるにつれ危険なことにもあう可能性が出てくると思っています。学校の中でも友達がけがをしたり、骨折する話を聞くと心配になるので、見てない分、情報を皆で共有して、皆で気をつけて生活していけると良いと思います。家庭では、多少のことでは骨折しない丈夫な体を作ってあげるように食生活、体力作りもさせてあげたいです。

最近気をつけていても予想外の犯罪に巻き込まれる事件が多いので(広島のパックの事件や名古屋のマンション等)、親としては本当に不安な世の中です。親だけでは守りきれないところも多いので近所の方の見守りなどがあると心強いと思います。地域社会でわが子だけでなく全ての子どもを守るという意識が持てる社会になればいいと願います。

様々な経験や体験を通して危険を察知できるようにするのは、家庭での役割だと考えています。地域の方々の見守りがあるお陰であまり心配することなく過ごしていますが、大人が人としてモラルのある行動をとること、自分の家族だけでなく他者も思いやることのできる社会になれば違ってくるのかなと感じました。



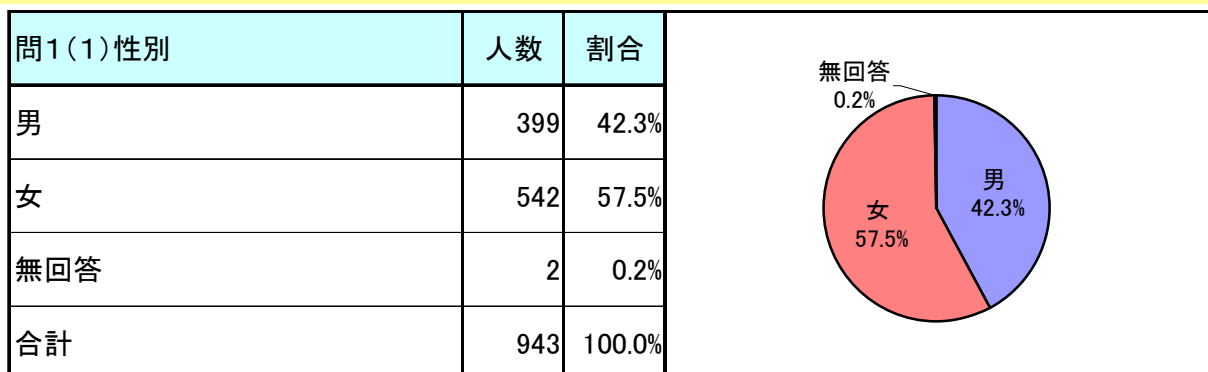




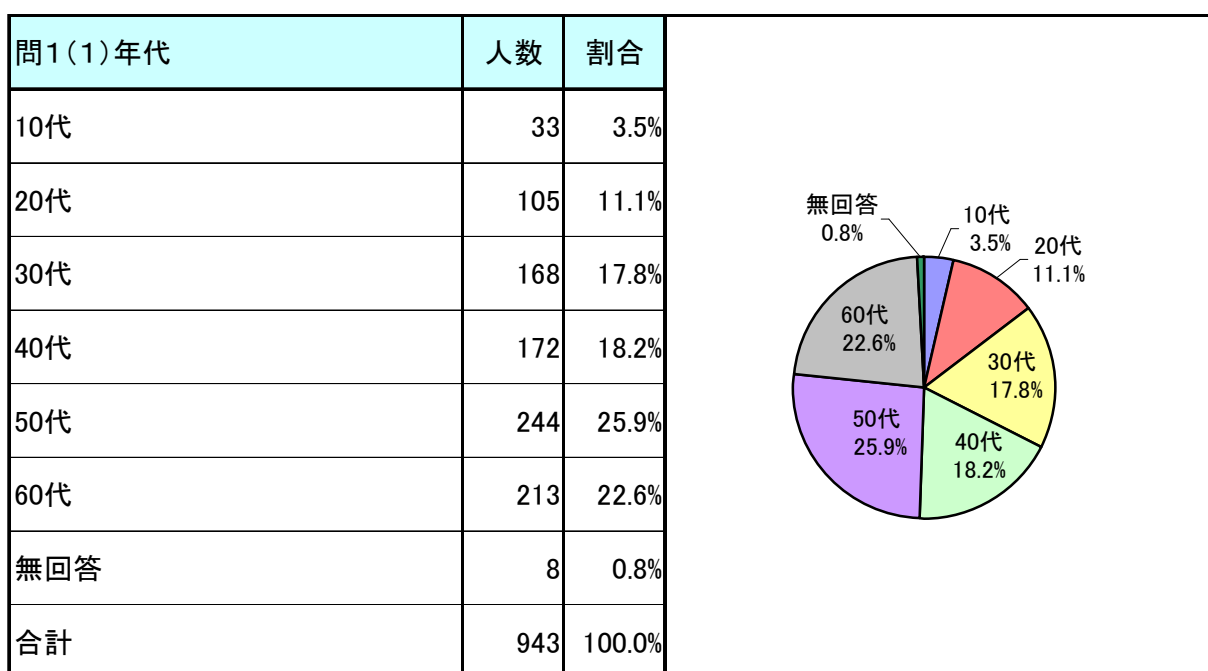
## 第4章 一般

## 1 性別、年齢、就労状況などについて

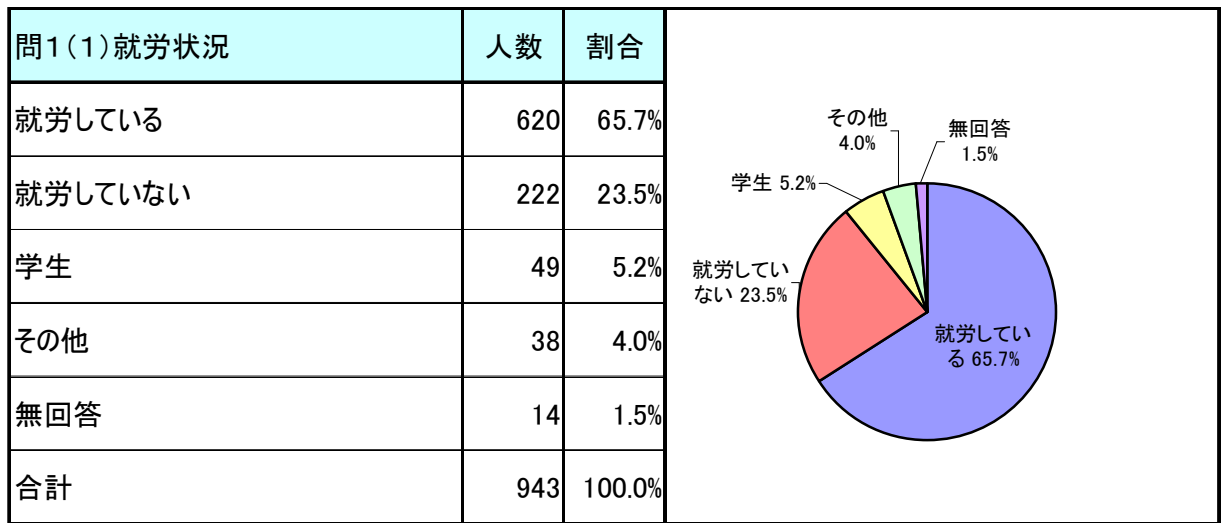
問1 あなたの性別などについてお聞きします。



性別については、「男」が42.3%、「女」が57.5%となっている。



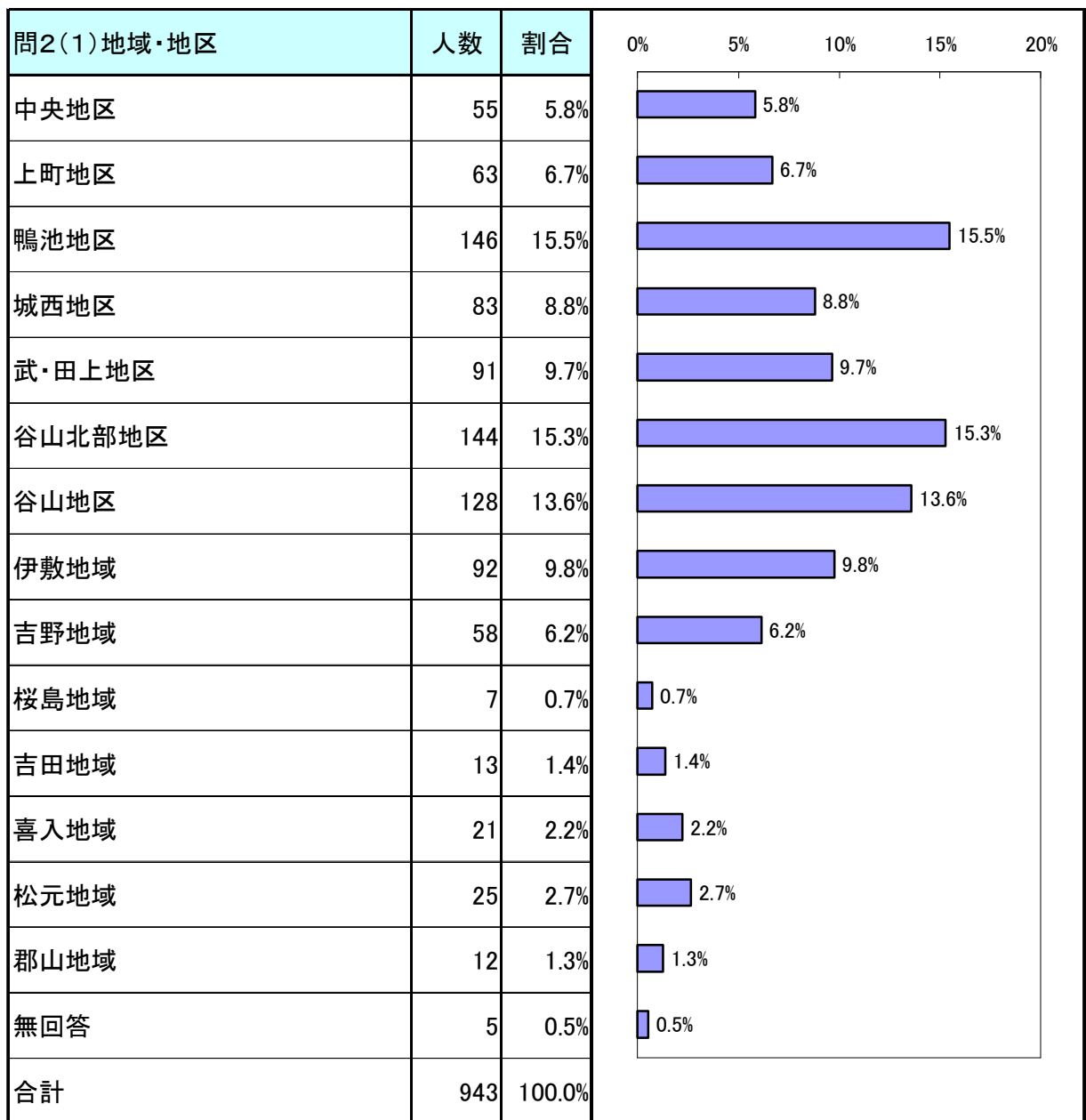
年代については、「50代」が25.9%と最も多く、次いで「60代」が22.6%、「40代」が18.2%となっている。



就労については、「就労している」が65.7%と最も多く、次いで、「就労していない」が23.5%、「学生」が5.2%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「主婦」等が挙げられた。

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

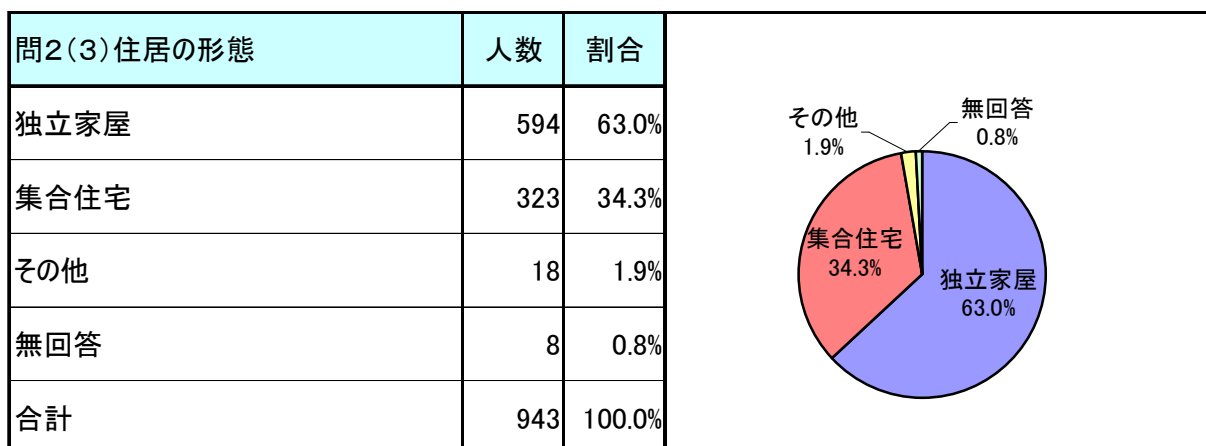


(注) 第五次総合計画に基づく地域・地区

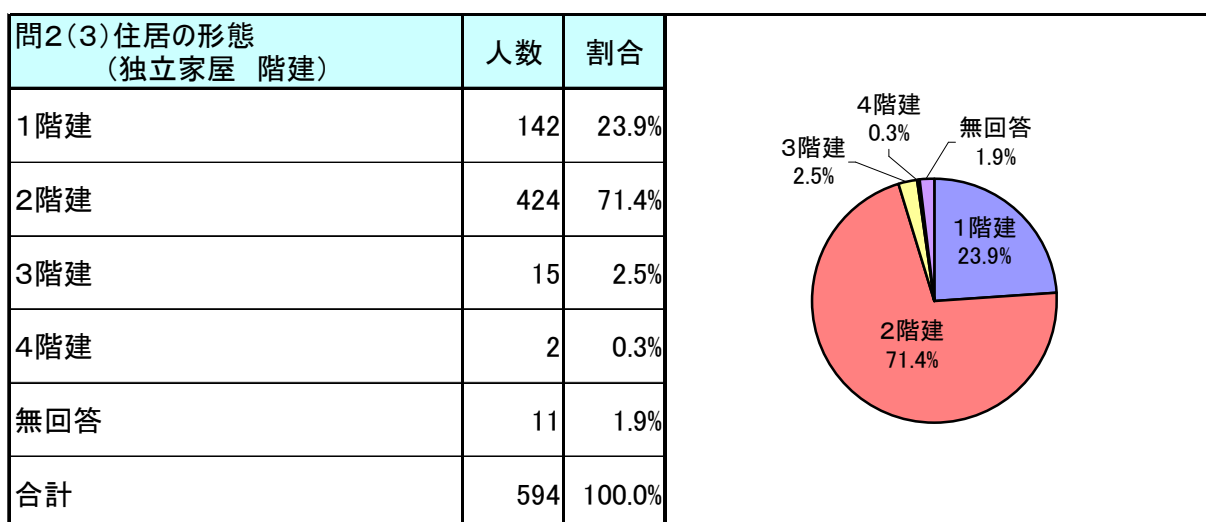
現住所地については、「鴨池地区」が 15.5%と最も多く、次いで「谷山北部地区」が 15.3%、「谷山地区」が 13.6%となっている。

## 問2(2) 小学校区

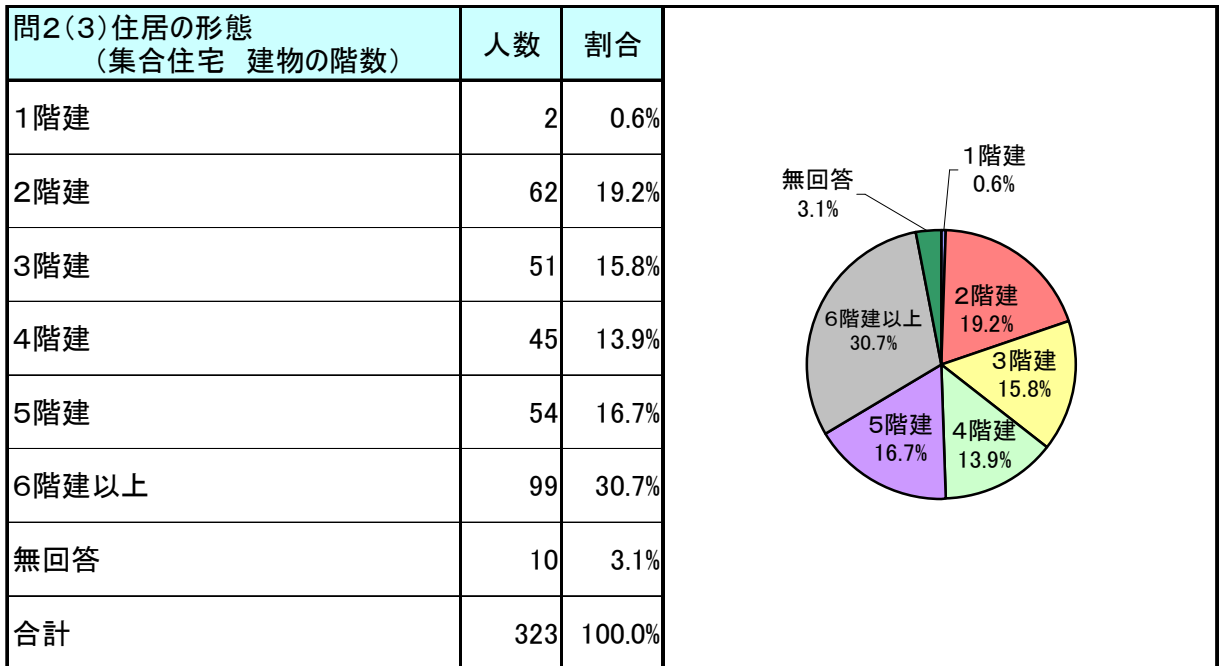
区 分	人数	割合	区 分	人数	割合
吉田小学校	8	0.8%	花野小学校	16	1.7%
本名小学校	2	0.2%	西伊敷小学校	17	1.8%
宮小学校	2	0.2%	伊敷台小学校	17	1.8%
本城小学校	0	0.0%	玉江小学校	17	1.8%
牟礼岡小学校	1	0.1%	小山田小学校	5	0.5%
南方小学校	3	0.3%	犬迫小学校	3	0.3%
花尾小学校	2	0.2%	皆与志小学校	2	0.2%
郡山小学校	5	0.5%	東桜島小学校	1	0.1%
川上小学校	15	1.6%	改新小学校	0	0.0%
吉野小学校	13	1.4%	高免小学校	0	0.0%
吉野東小学校	12	1.3%	黒神小学校	0	0.0%
大明丘小学校	10	1.1%	桜洲小学校	0	0.0%
坂元小学校	15	1.6%	桜峰小学校	4	0.4%
坂元台小学校	7	0.7%	松元小学校	11	1.2%
清水小学校	10	1.1%	東昌小学校	1	0.1%
大龍小学校	16	1.7%	春山小学校	5	0.5%
名山小学校	8	0.8%	石谷小学校	8	0.8%
山下小学校	14	1.5%	谷山小学校	26	2.8%
松原小学校	8	0.8%	西谷山小学校	19	2.0%
城南小学校	8	0.8%	東谷山小学校	22	2.3%
草牟田小学校	15	1.6%	清和小学校	26	2.8%
原良小学校	24	2.5%	和田小学校	19	2.0%
明和小学校	23	2.4%	錦江台小学校	16	1.7%
武岡小学校	9	1.0%	福平小学校	29	3.1%
武岡台小学校	7	0.7%	平川小学校	1	0.1%
西田小学校	15	1.6%	錫山小学校	1	0.1%
武小学校	25	2.7%	中山小学校	15	1.6%
田上小学校	12	1.3%	桜丘西小学校	7	0.7%
西陵小学校	14	1.5%	桜丘東小学校	5	0.5%
広木小学校	17	1.8%	星峯西小学校	12	1.3%
中洲小学校	11	1.2%	星峯東小学校	18	1.9%
荒田小学校	14	1.5%	宮川小学校	19	2.0%
八幡小学校	18	1.9%	皇徳寺小学校	6	0.6%
中郡小学校	7	0.7%	瀬々串小学校	3	0.3%
紫原小学校	14	1.5%	中名小学校	3	0.3%
西紫原小学校	28	3.0%	喜入小学校	10	1.1%
鴨池小学校	18	1.9%	前之浜小学校	1	0.1%
南小学校	8	0.8%	生見小学校	2	0.2%
宇宿小学校	14	1.5%	一倉小学校	0	0.0%
向陽小学校	11	1.2%	無回答	106	11.2%
伊敷小学校	7	0.7%	合 計	943	100.0%



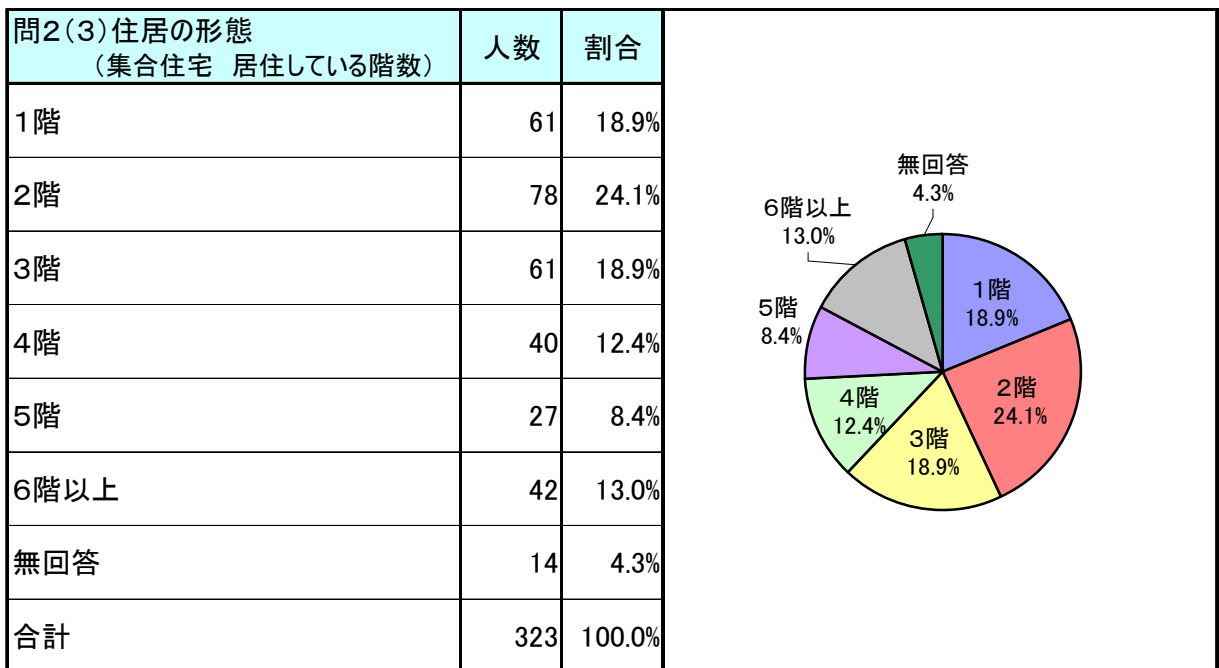
住居の形態については、「独立家屋」が63.0%、「集合住宅」が34.3%となっている。



独立家屋の住居の形態については、「2階建」が71.4%と最も多く、次いで「1階建」が23.9%、「3階建」が2.5%となっている。



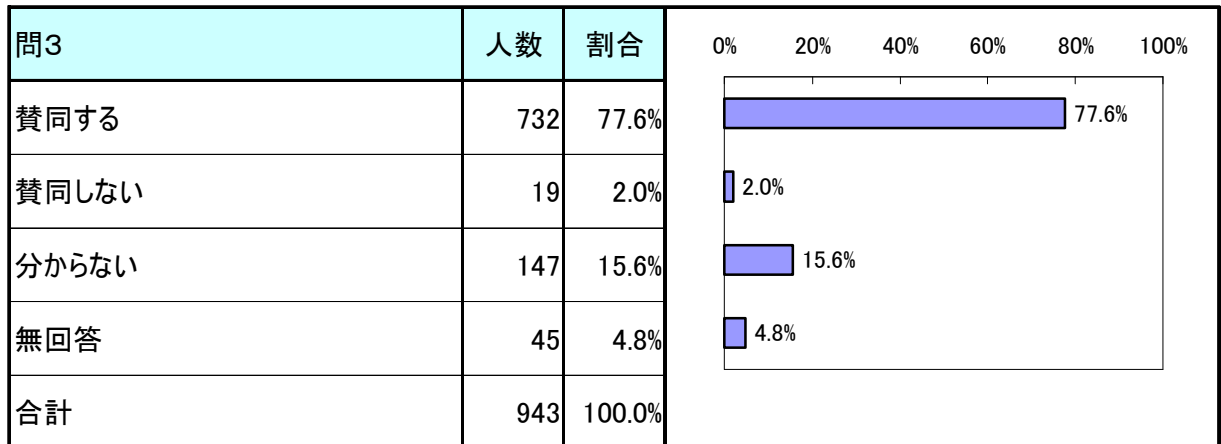
集合住宅の建物の階数については、「6階建以上」が30.7%と最も多く、次いで「2階建」が19.2%、「5階建」が16.7%となっている。



集合住宅の居住している階数については、「2階」が24.1%と最も多く、次いで「1階」と「3階」が18.9%となっている。

## 2 セーフコミュニティについて

問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなたは、この考えについてどう思いますか。(ひとつに○)



セーフコミュニティの考えについては、「賛同する」が77.6%となっている。

### 【属性別特徴】

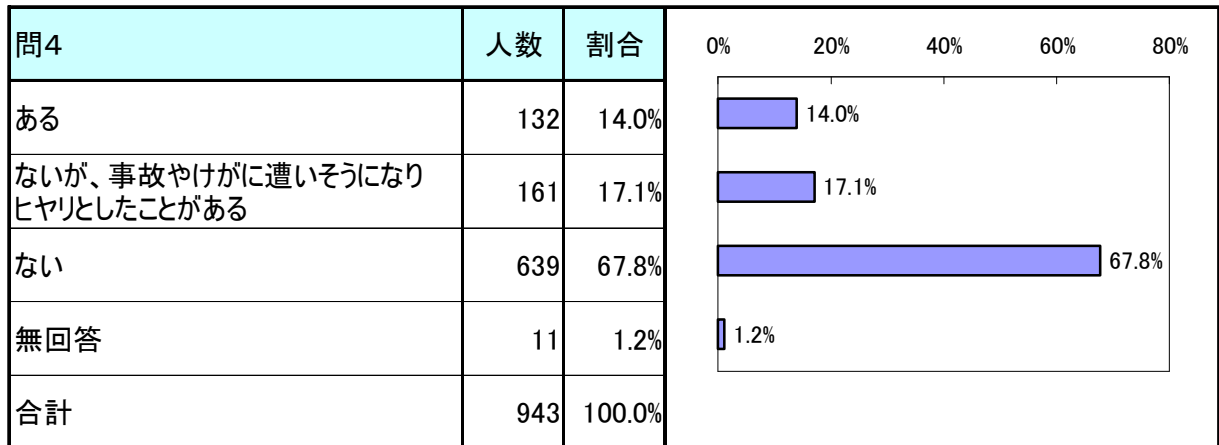
性別・年齢別ともに、大きな違いはみられない。

問3	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
賛同する	732	77.6%	312	78.2%	418	77.1%	238	77.8%	492	78.2%
賛同しない	19	2.0%	10	2.5%	9	1.7%	10	3.3%	9	1.4%
分からない	147	15.6%	56	14.0%	91	16.8%	51	16.7%	91	14.5%
無回答	45	4.8%	21	5.3%	24	4.4%	7	2.3%	37	5.9%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%



3 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）の「事故やけが」の状況についてお聞きします。この場合の事故やけがとは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけどなどをいいます。（捻挫、打撲などで、医療機関にかからなかったものも対象とします。）

問4 あなたは、この1年間に事故やけがの経験がありますか。（ひとつに○）



1年間の事故やけがの経験については、「ある」が14.0%、「ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある」が17.1%、「ない」が67.8%となっている。

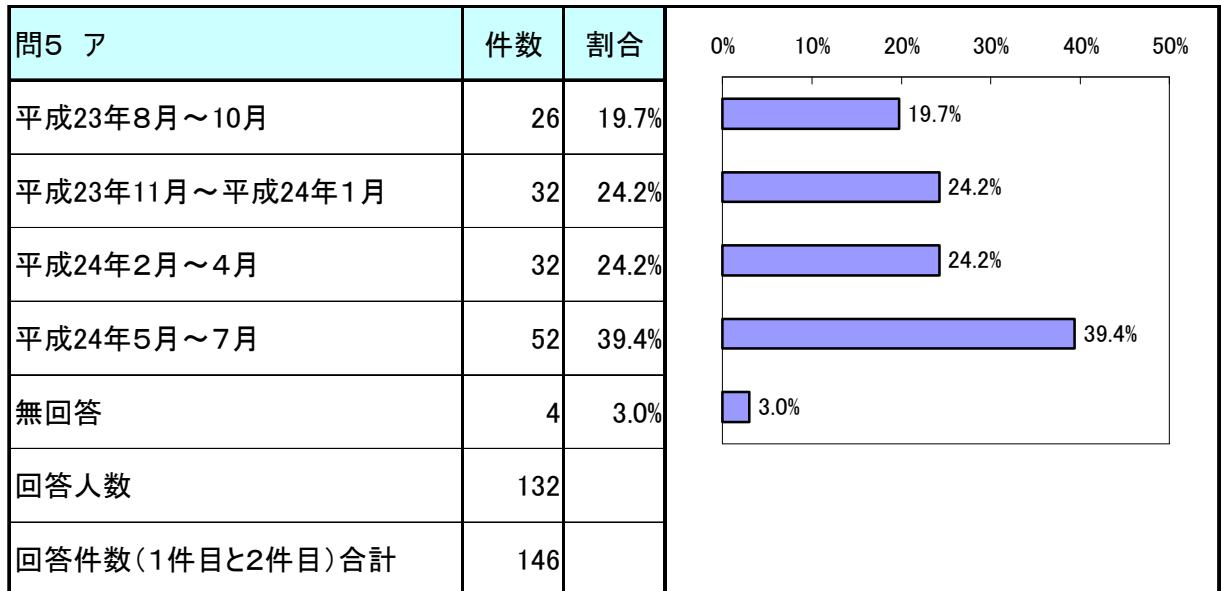
【属性別特徴】

性別・年齢別ともに、大きな違いはみられない。

問4	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	132	14.0%	49	12.3%	82	15.1%	46	15.0%	86	13.7%
ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある	161	17.1%	76	19.0%	85	15.7%	62	20.3%	98	15.6%
ない	639	67.8%	267	66.9%	371	68.5%	195	63.7%	437	69.5%
無回答	11	1.2%	7	1.8%	4	0.7%	3	1.0%	8	1.3%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

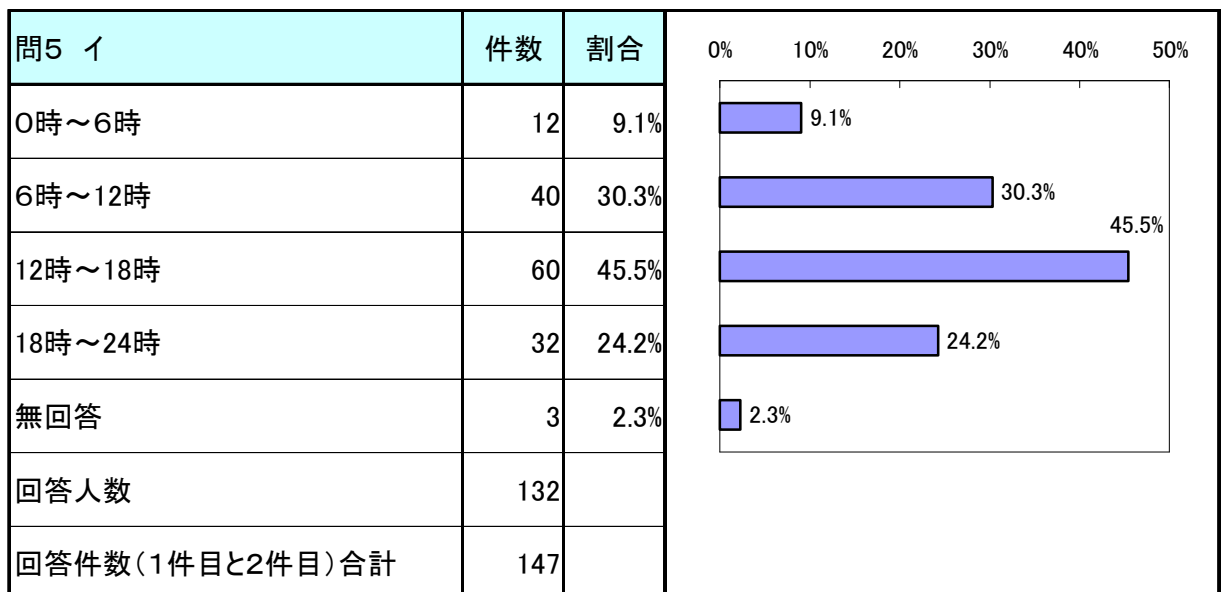
問5 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）にあった事故やけがについて、ア～サをそれぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

問5 ア 事故やけがをした時期



事故やけがをした時期については、「平成24年5月～7月」が39.4%と最も多く、次いで「平成23年11月～平成24年1月」と「平成24年2月～4月」が24.2%、「平成23年8月～10月」が19.7%となっている。

問5 イ 事故やけがをした時間



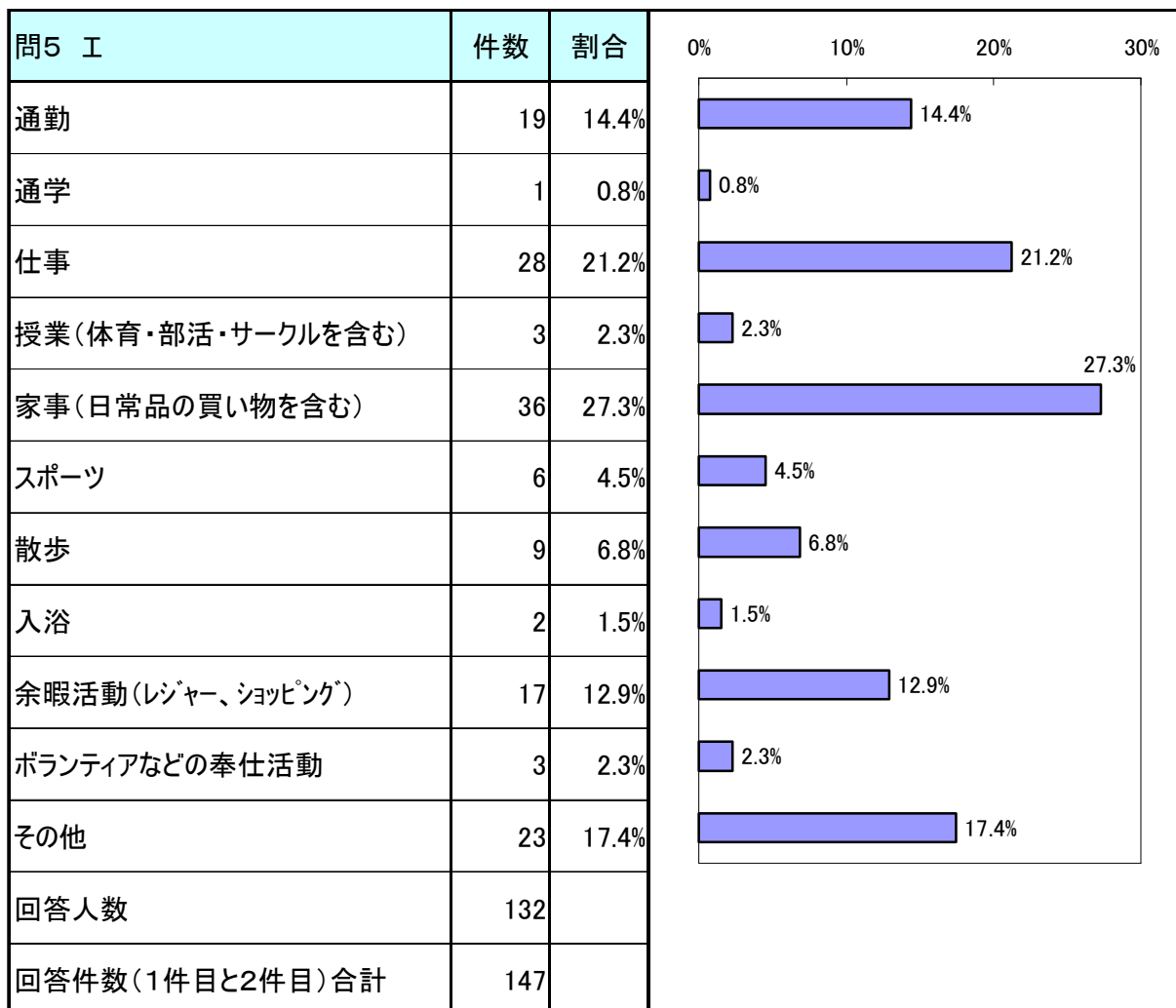
事故やけがをした時間については、「12時～18時」が45.5%と最も多く、次いで「6時～12時」が30.3%、「18時～24時」が24.2%となっている。

## 問5 ウ 事故やけがをしたときの天気

問5 ウ	件数	割合
晴	98	74.2%
曇	18	13.6%
雨	13	9.8%
雪	3	2.3%
その他	10	7.6%
無回答	5	3.8%
回答人数	132	
回答件数(1件目と2件目)合計	147	

事故やけがをした天気については、「晴」が74.2%と最も多く、次いで「曇」が13.6%、「雨」が9.8%となっている。

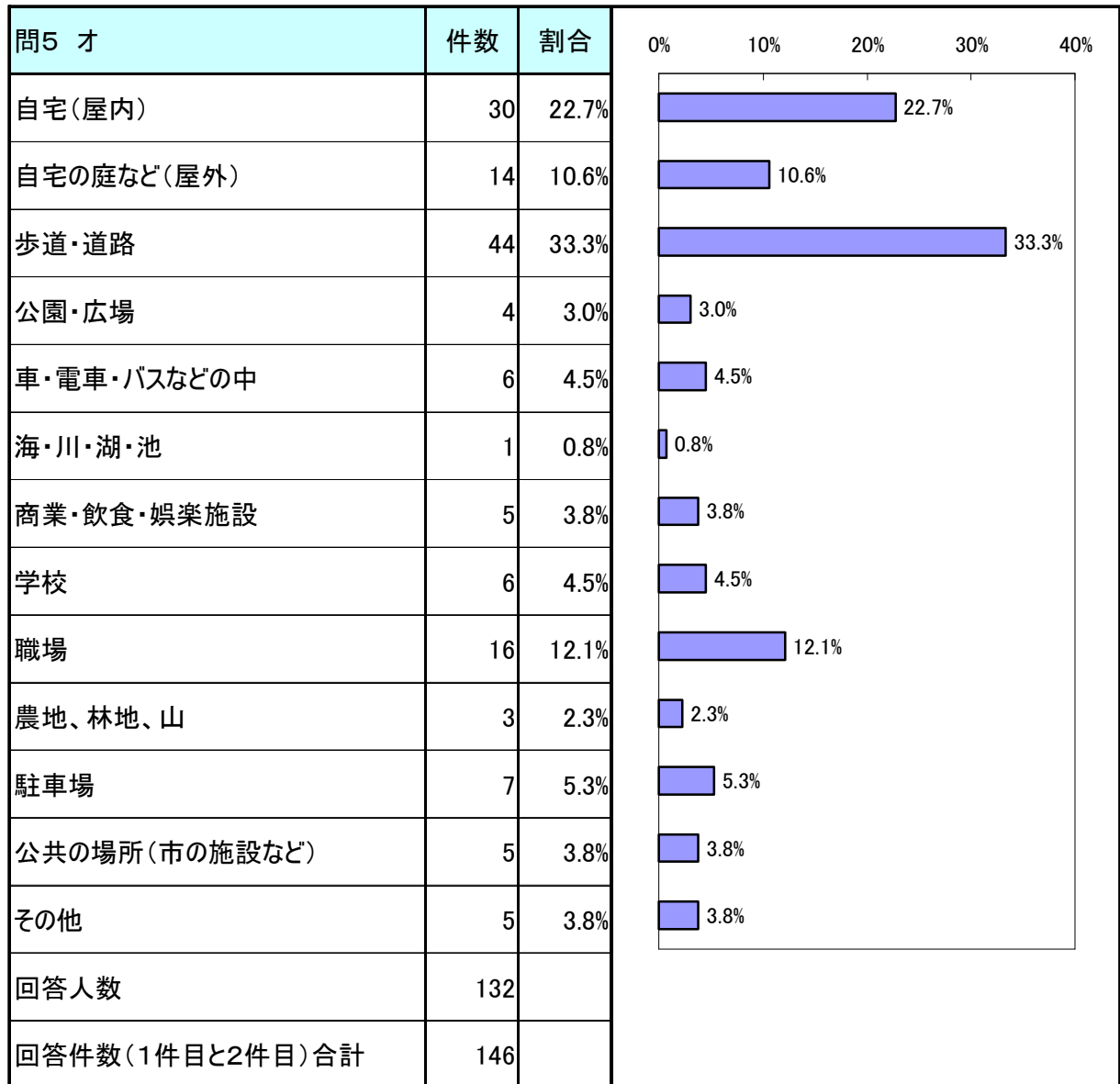
問5 エ 事故やけがをしたときの状況



事故やけがをしたときの状況については、「家事(日常品の買い物を含む)」が27.3%と最も多く、「仕事」が21.2%、「通勤」が14.4%となっている。

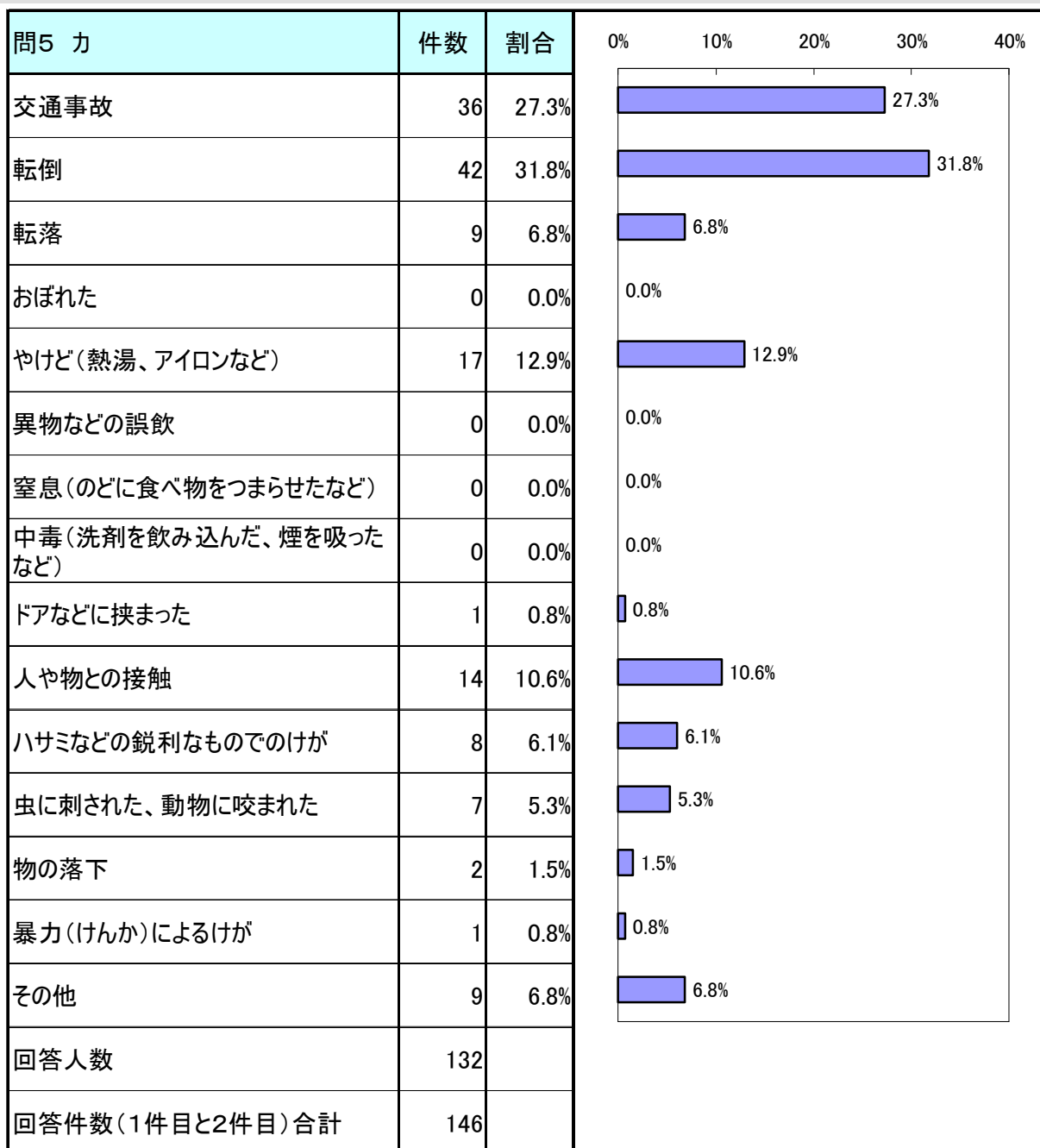
「その他」の具体的な内容としては、「就職活動中」、「習い事に行く途中」等が挙げられた。

## 問5 オ 事故やけがをした場所



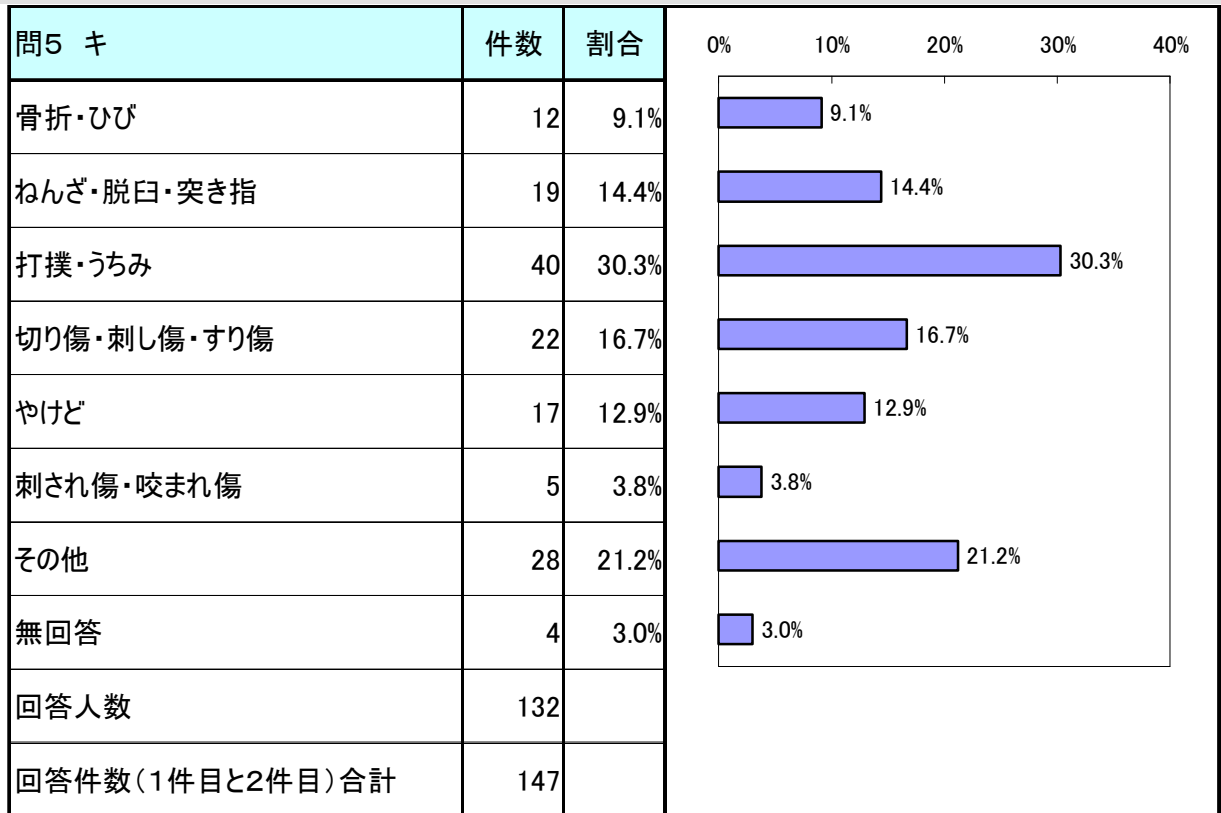
事故やけがをした場所については、「歩道・道路」が33.3%と最も多く、次いで「自宅(屋内)」が22.7%、「職場」が12.1%となっている。

問5 カ 事故やけがの種類



事故やけがの種類については、「転倒」が 31.8%と最も多く、次いで「交通事故」が 27.3%、「やけど(熱湯、アイロンなど)」が 12.9%となっている。

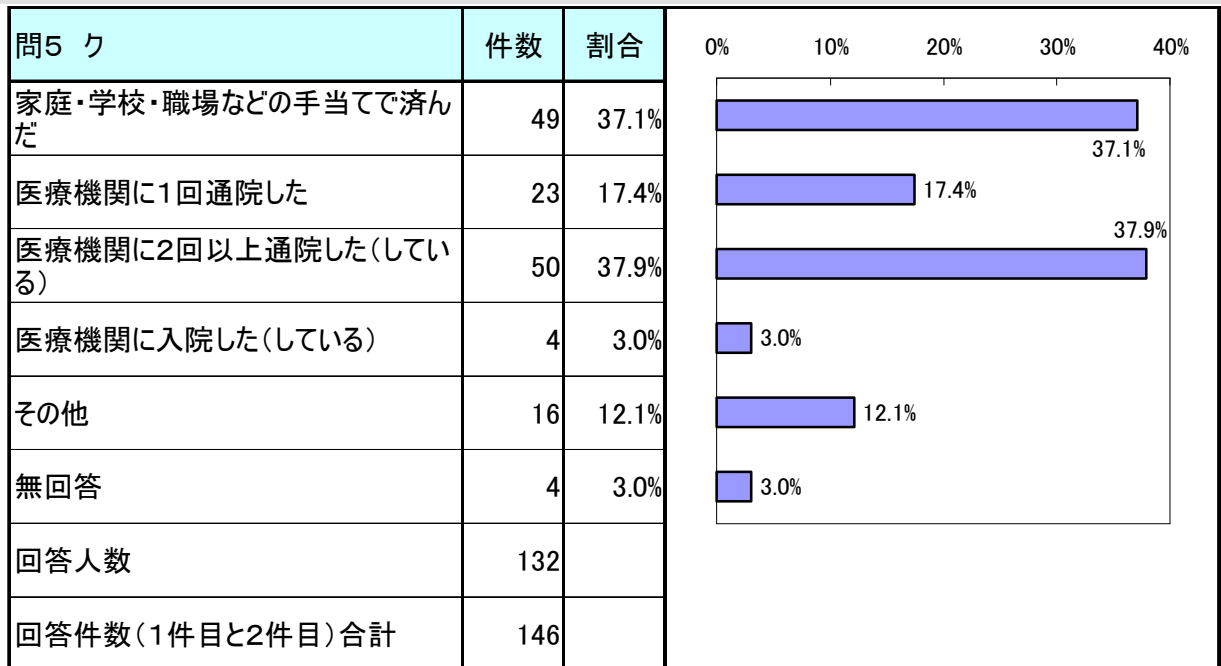
問5 キ けがの状況



けがの状況については、「打撲・うちみ」が30.3%と最も多く、「切り傷・刺し傷・すり傷」が16.7%、「ねんざ・脱臼・突き指」が14.4%となっている。

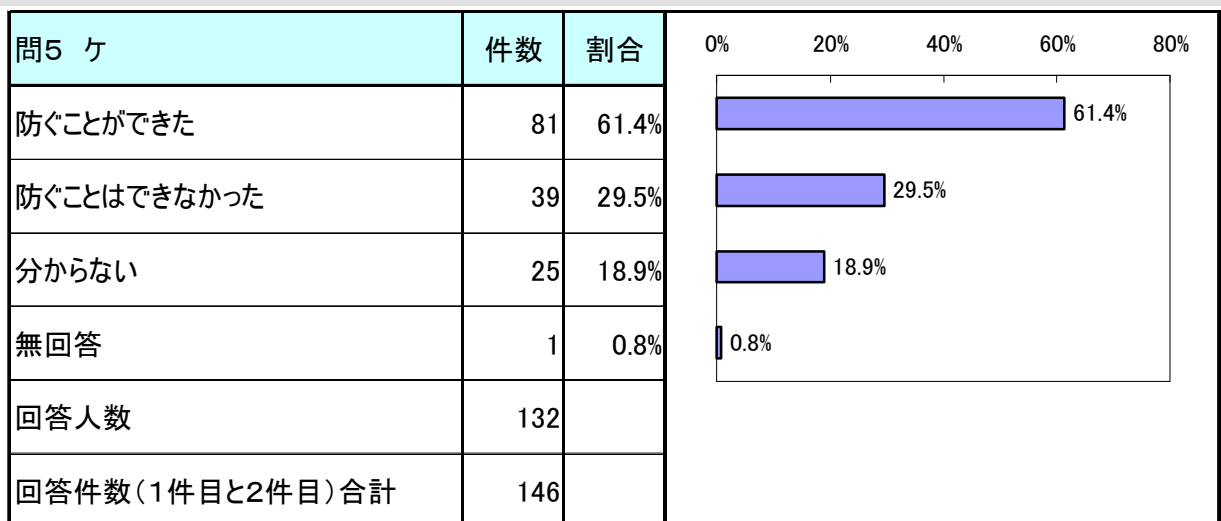
「その他」の具体的な内容としては、「肉離れ」等が挙げられた。

問5 ク 医療機関の受診



医療機関の受診については、「医療機関に2回以上通院した(している)」が37.9%と最も多く、次いで「家庭・学校・職場などの手当てで済んだ」が37.1%、「医療機関に1回通院した」が17.4%となっている。

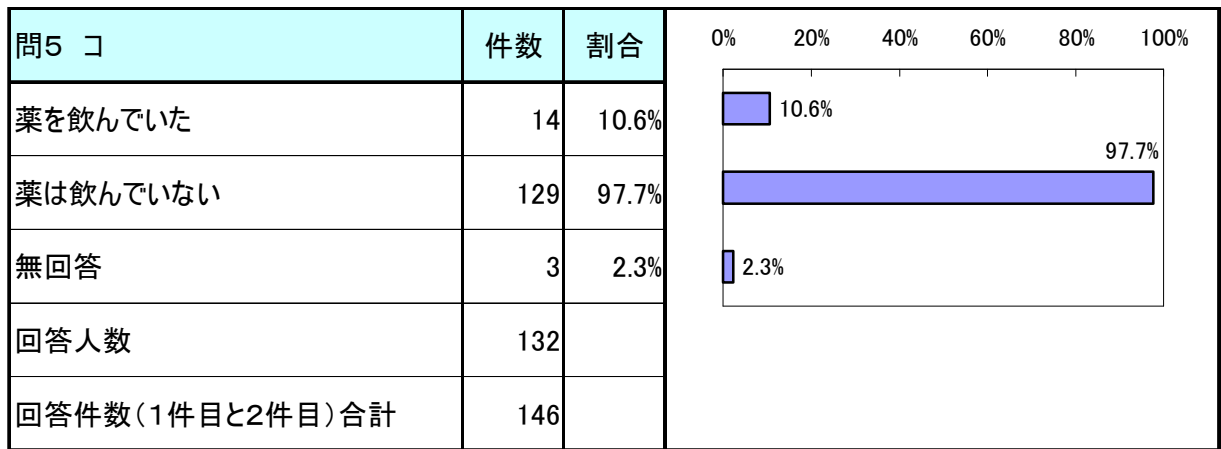
問5 ケ 未然に防ぐことができた可能性



未然に防ぐことができた可能性については、「防ぐことができた」が61.4%と最も多く、次いで「防ぐことはできなかった」が29.5%、「分からない」が18.9%となっている。

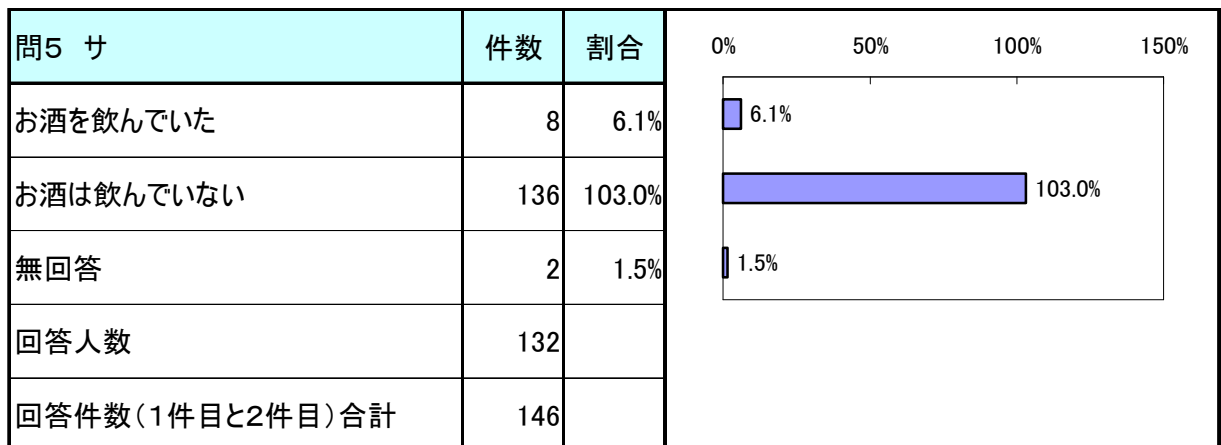


問5 コ 薬（風邪薬、鎮痛剤など）の服用状況



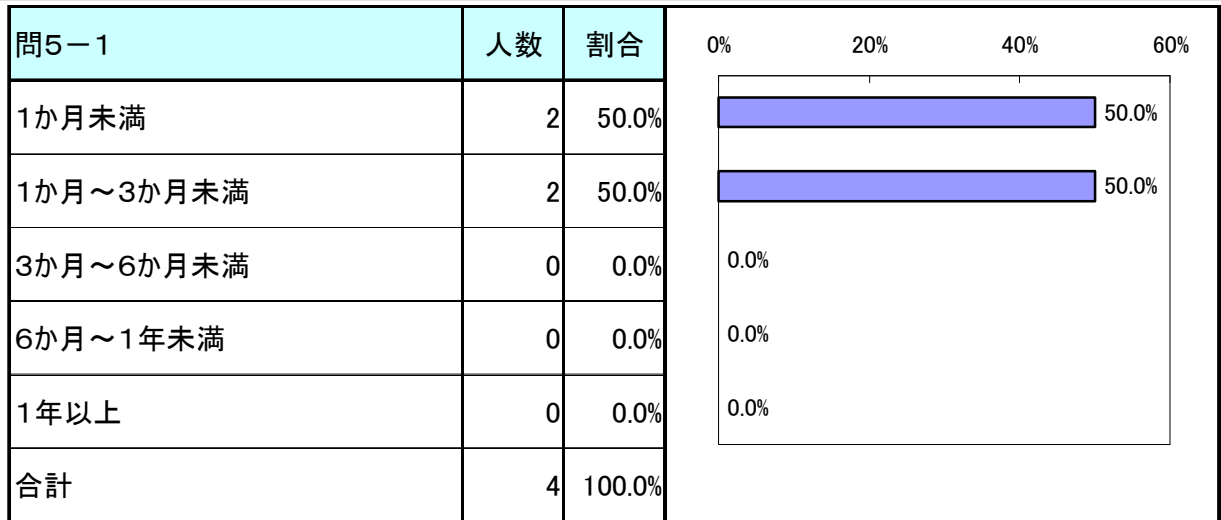
薬の服用状況については、「薬を飲んでいて」が10.6%、「薬は飲んでいない」が97.7%となっている。

問5 サ 飲酒の有無



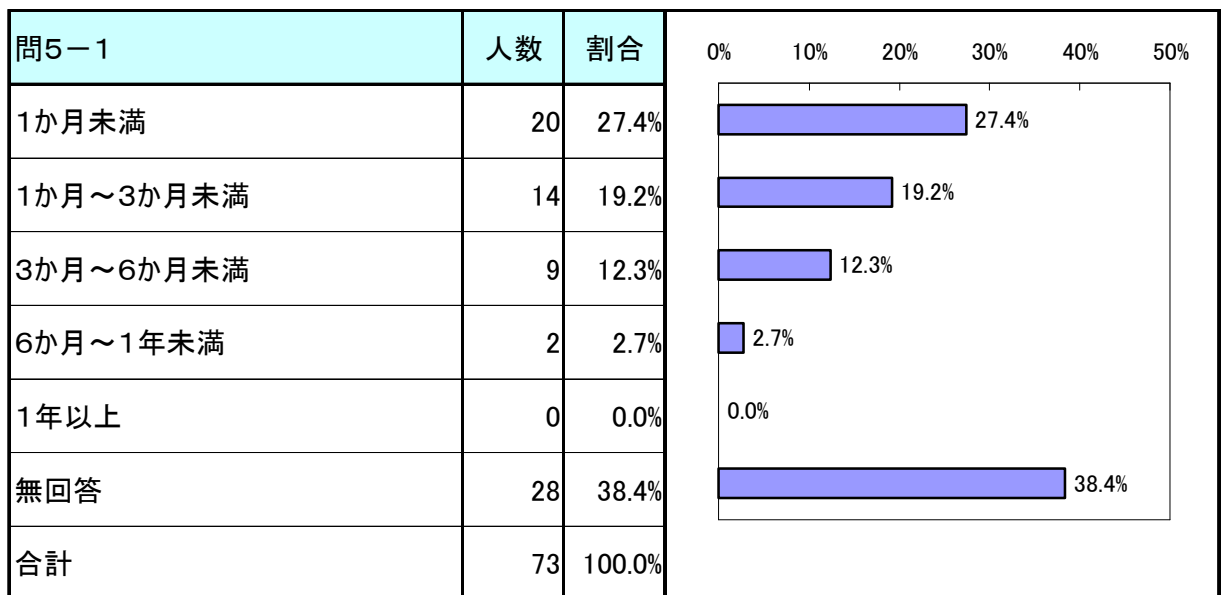
飲酒については、「お酒を飲んでいて」が6.1%、「お酒は飲んでいない」が103.0%となっている。

問5-1 医療機関にはどのくらい入院されました(されています)か。(ひとつに○)



入院した期間については、「1か月未満」と「1か月～3か月未満」が50.0%となっている。

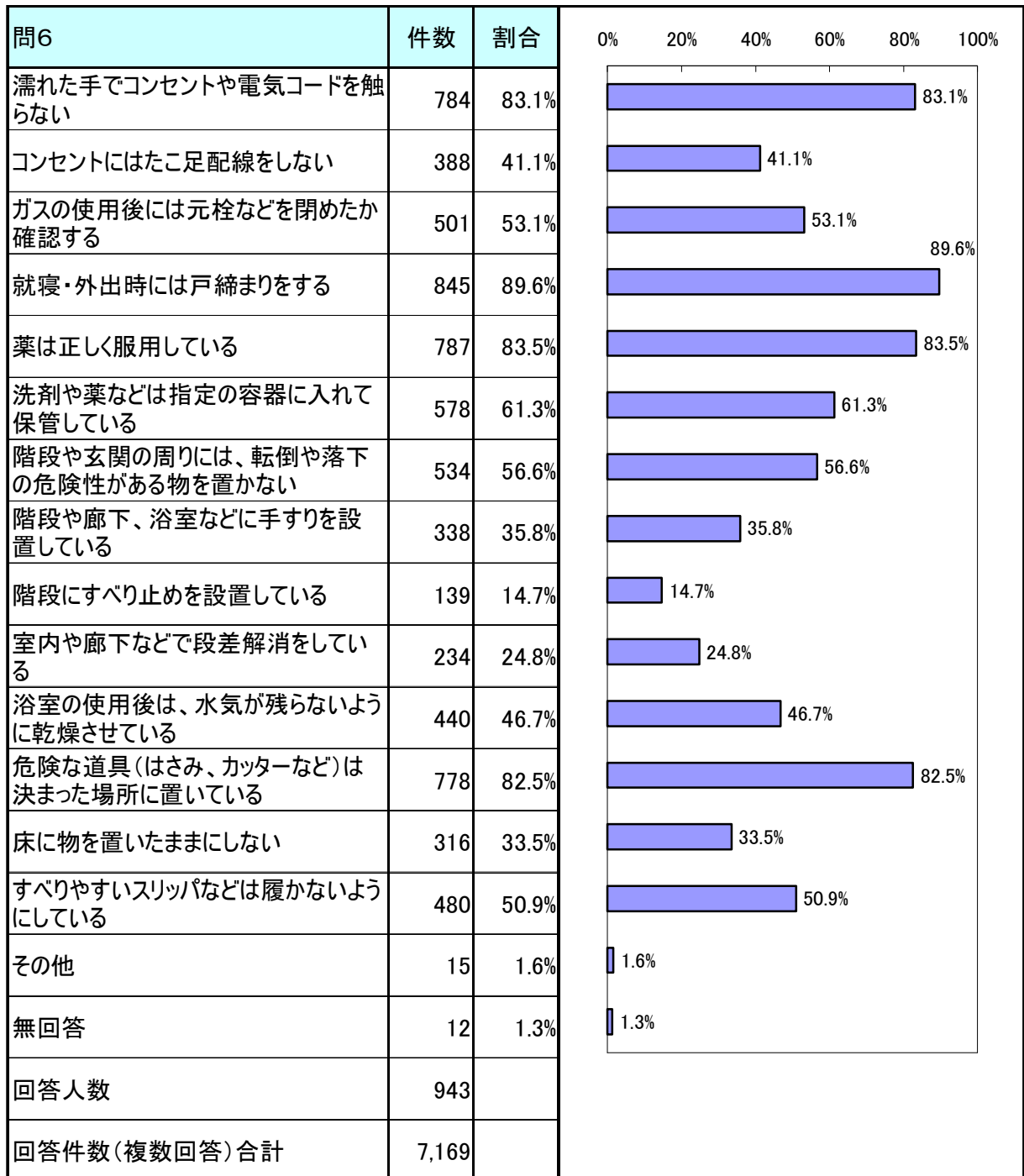
問5-1 医療機関にはどのくらい通院されました(されています)か。(ひとつに○)



通院の期間については、「1か月未満」が27.4%、「1か月～3か月未満」が19.2%、「3か月～6か月未満」が12.3%となっている。

## 4 家庭の安全対策に関する考え方について

問6 あなたの家庭の安全対策に関して、実践しているものをご回答ください。  
(あてはまるものすべてに○)



家庭で実践している安全対策については、「就寝・外出時には戸締まりをする」が89.6%と最も多く、次いで「薬は正しく服用している」が83.5%、「濡れた手でコンセントや電気コードを触らない」が83.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「就寝場所には高さのある家具を置かない。庭の暗い場所にセンサーライトを付けている」等が挙げられた。

【属性別特徴】

性別では、女の「洗剤や薬などは指定の容器に入れて保管している」が68.6%で、男の51.4%に比べて高くなっている。また、女の「濡れた手でコンセントや電気コードを触らない」が88.6%で、男の75.7%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない」が62.5%で、40歳未満の44.1%に比べて高くなっている。また、40歳～64歳の「床に物を置いたままにしない」が37.5%で、40歳未満の24.8%に比べて高くなっている

問6	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
濡れた手でコンセントや電気コードを触らない	784	83.1%	302	75.7%	480	88.6%	248	81.0%	530	84.3%
コンセントにはたこ足配線をししない	388	41.1%	161	40.4%	226	41.7%	101	33.0%	284	45.2%
ガスの使用後には元栓などを閉めたか確認する	501	53.1%	190	47.6%	310	57.2%	158	51.6%	339	53.9%
就寝・外出時には戸締まりをする	845	89.6%	354	88.7%	489	90.2%	268	87.6%	569	90.5%
薬は正しく服用している	787	83.5%	321	80.5%	464	85.6%	247	80.7%	533	84.7%
洗剤や薬などは指定の容器に入れて保管している	578	61.3%	205	51.4%	372	68.6%	178	58.2%	395	62.8%
階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない	534	56.6%	208	52.1%	324	59.8%	135	44.1%	393	62.5%
階段や廊下、浴室などに手すりを設置している	338	35.8%	136	34.1%	201	37.1%	88	28.8%	248	39.4%
階段にすべり止めを設置している	139	14.7%	62	15.5%	77	14.2%	29	9.5%	109	17.3%
室内や廊下などで段差解消をしている	234	24.8%	109	27.3%	125	23.1%	55	18.0%	177	28.1%
浴室の使用後は、水気が残らないように乾燥させている	440	46.7%	200	50.1%	239	44.1%	140	45.8%	293	46.6%
危険な道具(はさみ、カッターなど)は決まった場所に置いている	778	82.5%	320	80.2%	457	84.3%	241	78.8%	529	84.1%
床に物を置いたままにしない	316	33.5%	128	32.1%	188	34.7%	76	24.8%	236	37.5%
すべりやすいスリッパなどは履かないようにしている	480	50.9%	175	43.9%	304	56.1%	132	43.1%	345	54.8%
その他	15	1.6%	5	1.3%	10	1.8%	7	2.3%	8	1.3%
無回答	12	1.3%	7	1.8%	5	0.9%	3	1.0%	9	1.4%
回答人数	943		399		542		306		629	
回答件数(複数回答)合計	7,169		2,883		4,271		2,106		4,997	

問7 防災、防犯、事故防止などに関する情報を掲載した冊子「わが家の安心安全ガイドブック」を平成24年3月に各世帯に配付しておりますがご存知ですか。  
(ひとつに○)

問7	人数	割合	
知っている	428	45.4%	
知らない	485	51.4%	
無回答	30	3.2%	
合計	943	100.0%	

「わが家の安心安全ガイドブック」の認知度については、「知っている」が45.4%、「知らない」が51.4%となっている。

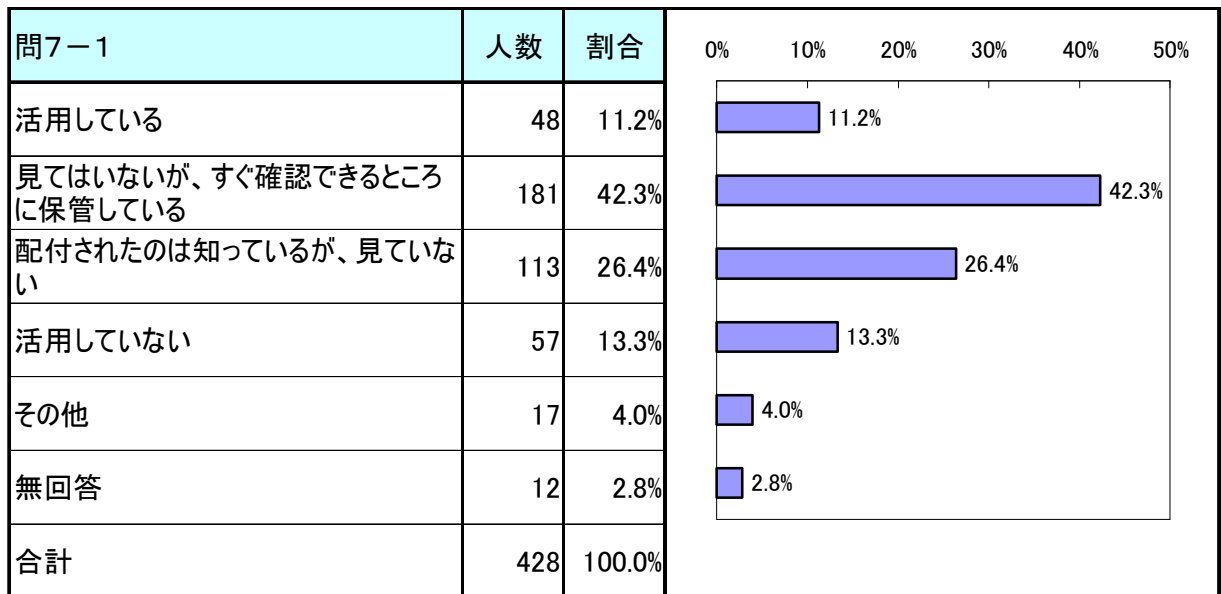
【属性別特徴】

性別では、女の「知っている」が53.3%で、男の34.8%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が51.4%で、40歳未満の32.7%に比べて高くなっている。

問7	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	428	45.4%	139	34.8%	289	53.3%	100	32.7%	323	51.4%
知らない	485	51.4%	244	61.2%	239	44.1%	201	65.7%	282	44.8%
無回答	30	3.2%	16	4.0%	14	2.6%	5	1.6%	24	3.8%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問7-1 「わが家の安心安全ガイドブック」を活用していますか。(ひとつに○)



「わが家の安心安全ガイドブック」の活用については、「見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している」が42.3%と最も多く、次いで「配付されたのは知っているが、見ていない」が26.4%、「活用していない」が13.3%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「一読して保管している」等が挙げられた。

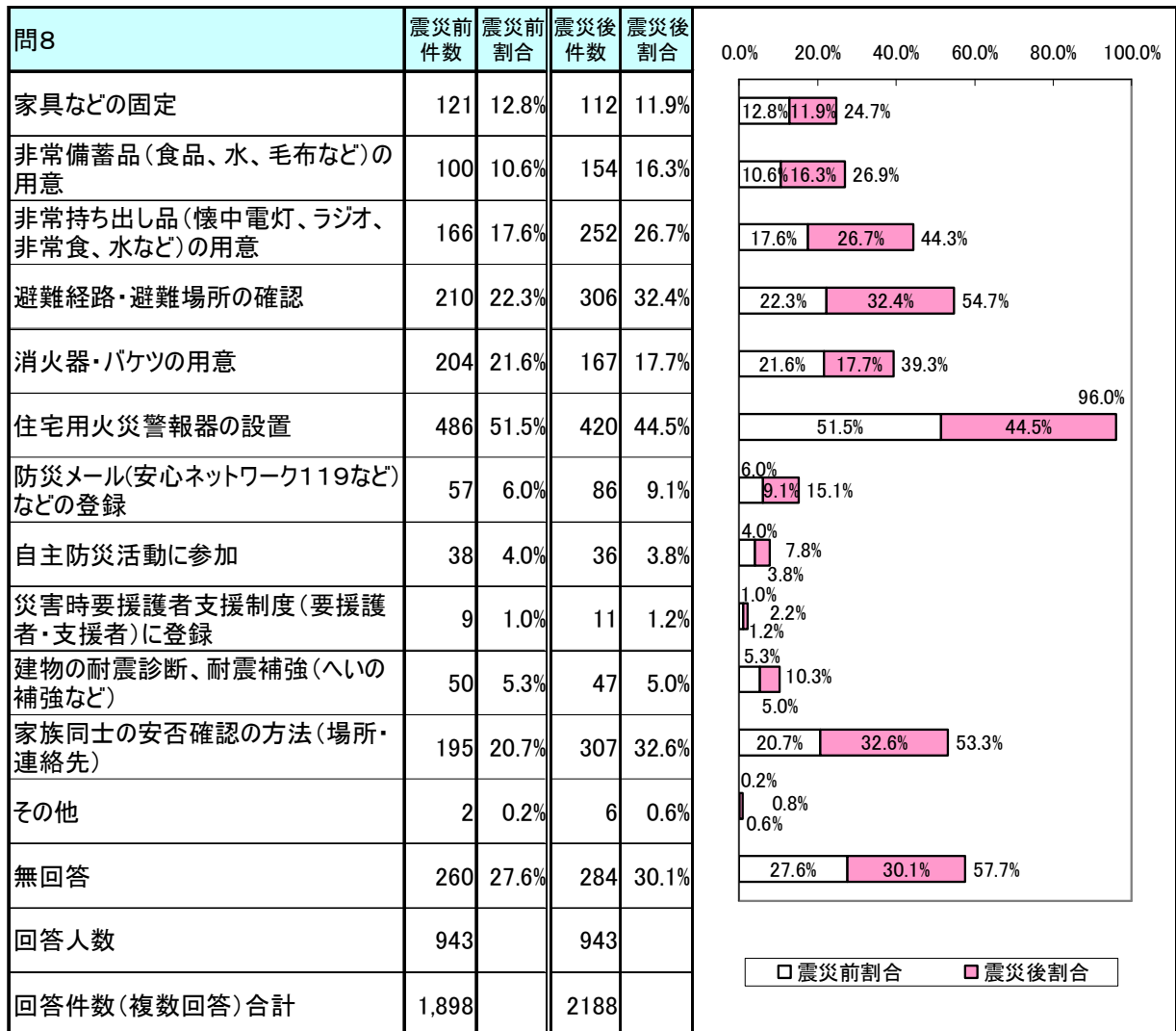
【属性別特徴】

性別では、女の「見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している」が45.0%で、男の36.7%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問7-1	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
活用している	48	11.2%	19	13.7%	29	10.0%	11	11.0%	37	11.5%
見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している	181	42.3%	51	36.7%	130	45.0%	44	44.0%	136	42.1%
配付されたのは知っているが、見ていない	113	26.4%	40	28.8%	73	25.3%	30	30.0%	82	25.4%
活用していない	57	13.3%	20	14.4%	37	12.8%	12	12.0%	43	13.3%
その他	17	4.0%	3	2.2%	14	4.8%	2	2.0%	15	4.6%
無回答	12	2.8%	6	4.3%	6	2.1%	1	1.0%	10	3.1%
合計	428	100.0%	139	100.0%	289	100.0%	100	100.0%	323	100.0%

問8 あなたの家庭では、災害に備えて、東日本大震災の前はどのような対策をとっていましたか。また、東日本大震災後は新たにどのような対策をとっていますか。(あてはまるものすべてに○)



家庭での災害対策としては、設置が義務づけられた「住宅用火災警報器の設置」が震災前・後を通じて一番多くなっている。

その他の災害対策については、「避難経路・避難場所の確認」や「家族同士の安否確認の方法(場所・連絡先)」が多くなっている。

また、「防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録」や「自主防災活動に参加」などについては、取組みの割合が低くなっている。

「震災前」

【属性別特徴】

性別では、女の「避難経路・避難場所の確認」が24.5%で、男の19.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「消火器・バケツの用意」が24.8%で、40歳未満の14.4%に比べて高くなっている。また、40歳～64歳の「避難経路・避難場所の確認」が25.1%で、40歳未満の17.0%に比べてやや高くなっている。

問8 震災前	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家具などの固定	121	12.8%	50	12.5%	70	12.9%	31	10.1%	89	14.1%
非常備蓄品(食品、水、毛布など)の用意	100	10.6%	38	9.5%	61	11.3%	26	8.5%	73	11.6%
非常持ち出し品(懐中電灯、ラジオ、非常食、水など)の用意	166	17.6%	71	17.8%	93	17.2%	39	12.7%	126	20.0%
避難経路・避難場所の確認	210	22.3%	77	19.3%	133	24.5%	52	17.0%	158	25.1%
消火器・バケツの用意	204	21.6%	83	20.8%	120	22.1%	44	14.4%	156	24.8%
住宅用火災警報器の設置	486	51.5%	207	51.9%	279	51.5%	150	49.0%	333	52.9%
防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録	57	6.0%	27	6.8%	30	5.5%	20	6.5%	36	5.7%
自主防災活動に参加	38	4.0%	19	4.8%	19	3.5%	12	3.9%	26	4.1%
災害時要援護者支援制度(要援護者・支援者)に登録	9	1.0%	7	1.8%	2	0.4%	3	1.0%	6	1.0%
建物の耐震診断、耐震補強(へいの補強など)	50	5.3%	19	4.8%	31	5.7%	12	3.9%	38	6.0%
家族同士の安否確認の方法(場所・連絡先)	195	20.7%	72	18.0%	123	22.7%	56	18.3%	139	22.1%
その他	2	0.2%	1	0.3%	1	0.2%	1	0.3%	1	0.2%
無回答	260	27.6%	120	30.1%	140	25.8%	96	31.4%	161	25.6%
回答人数	943		399		542		306		629	
回答件数(複数回答)合計	1,898		791		1,102		542		1,342	



## 「震災後」

## 【属性別特徴】

性別では、女の「避難経路・避難場所の確認」が38.0%で、男の25.1%に比べて高くなっている。また、女の「家族同士の安否確認の方法（場所・連絡先）」が37.1%で、男の26.6%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録」が13.1%で、40歳～64歳の7.2%に比べてやや高くなっている。

問8 震災後	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家具などの固定	112	11.9%	49	12.3%	63	11.6%	38	12.4%	74	11.8%
非常備蓄品(食品、水、毛布など)の用意	154	16.3%	59	14.8%	94	17.3%	52	17.0%	101	16.1%
非常持ち出し品(懐中電灯、ラジオ、非常食、水など)の用意	252	26.7%	99	24.8%	152	28.0%	78	25.5%	171	27.2%
避難経路・避難場所の確認	306	32.4%	100	25.1%	206	38.0%	99	32.4%	204	32.4%
消火器・バケツの用意	167	17.7%	68	17.0%	99	18.3%	47	15.4%	118	18.8%
住宅用火災警報器の設置	420	44.5%	163	40.9%	257	47.4%	136	44.4%	281	44.7%
防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録	86	9.1%	36	9.0%	50	9.2%	40	13.1%	45	7.2%
自主防災活動に参加	36	3.8%	20	5.0%	16	3.0%	11	3.6%	24	3.8%
災害時要援護者支援制度(要援護者・支援者)に登録	11	1.2%	6	1.5%	5	0.9%	2	0.7%	9	1.4%
建物の耐震診断、耐震補強(へいの補強など)	47	5.0%	14	3.5%	33	6.1%	14	4.6%	33	5.2%
家族同士の安否確認の方法(場所・連絡先)	307	32.6%	106	26.6%	201	37.1%	108	35.3%	196	31.2%
その他	6	0.6%	0	0.0%	6	1.1%	2	0.7%	3	0.5%
無回答	284	30.1%	142	35.6%	141	26.0%	78	25.5%	203	32.3%
回答人数	943		399		542		306		629	
回答件数(複数回答)合計	2,188		862		1,323		705		1,462	

問9 その他、ご家族で「事故やけが」を防止するために、工夫していることなどありましたら、ご記入ください。

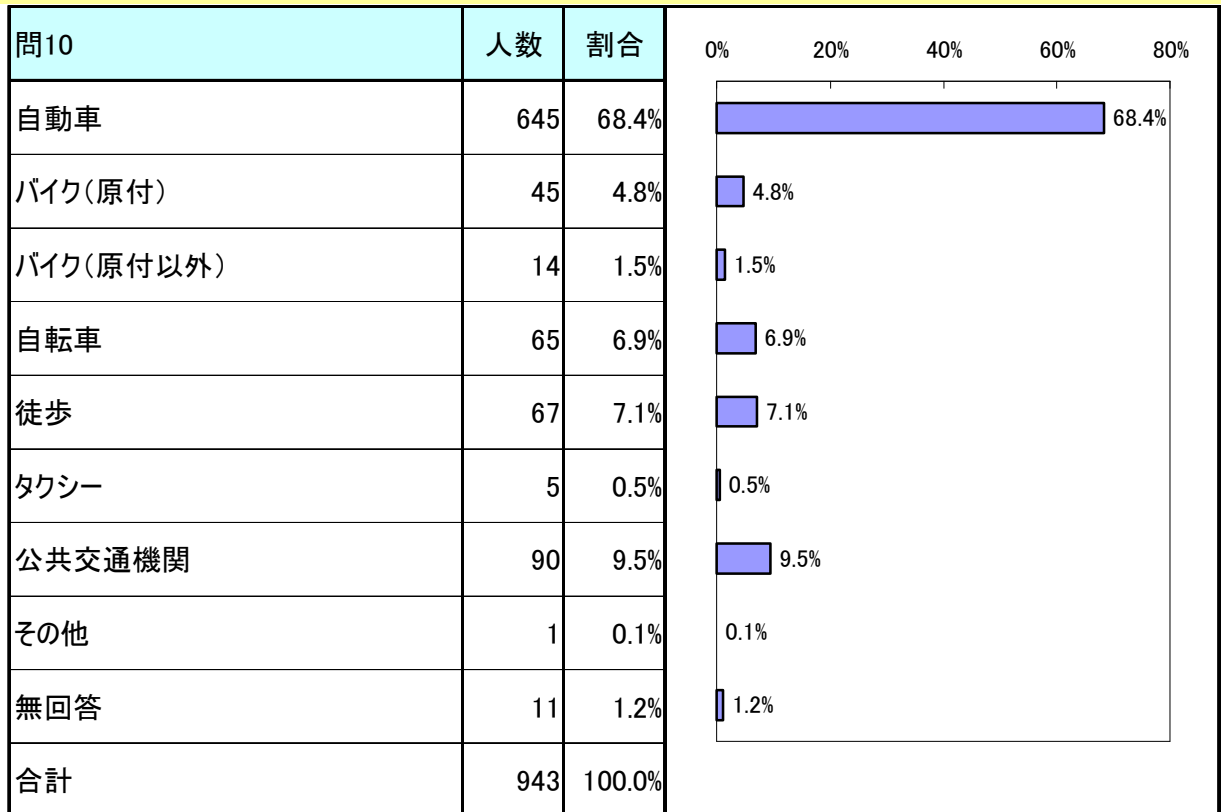
【事故やけが防止の工夫(主な項目)】

項目	具体例
注意喚起	・家族に注意を呼びかける。
	・時間に余裕をもって行動する。
	・交通安全を守る。
	・常に注意しながら行動する。
環境改善	・通路や高い所に物を置かない。
	・刃物などの管理保管には、特に注意している。
	・和室とフローリングの段差に三角板を固定。 ・玄関・トイレ・浴室・廊下などに手すりを設置。
子どもの事故防止のための配慮	・夕方には子ども一人で外出させない。
	・子どもの手の届くところに危ない物を置かない。
	・角があるものをスポンジで覆う。
	・交通安全に注意させる。
交通安全	・時間に余裕をもって運転する。
	・自転車に乗るときはヘルメットを着用する。
コンセント、ガス等に対する注意	・コンセントのホコリをとる。
	・コンセントをこまめに抜く。

事故やけが防止の工夫については、「家族に注意を呼びかける」、「時間に余裕をもって行動する」などの『注意喚起』に関することや、「通路や高い所に物を置かない」、「刃物などの管理保管には、特に注意している」などの『環境改善』に関することや、「夕方には子ども一人で外出させない」、「子どもの手の届くところに危ない物を置かない」などの『子どもの事故防止のための配慮』に関することなどが挙げられた。

## 5 交通安全について

問10 あなたが最も利用する移動手段は何ですか。(ひとつに○)



最も利用する移動手段については、「自動車」が68.4%と最も多く、次いで「公共交通機関」が9.5%、「徒歩」が7.1%となっている。

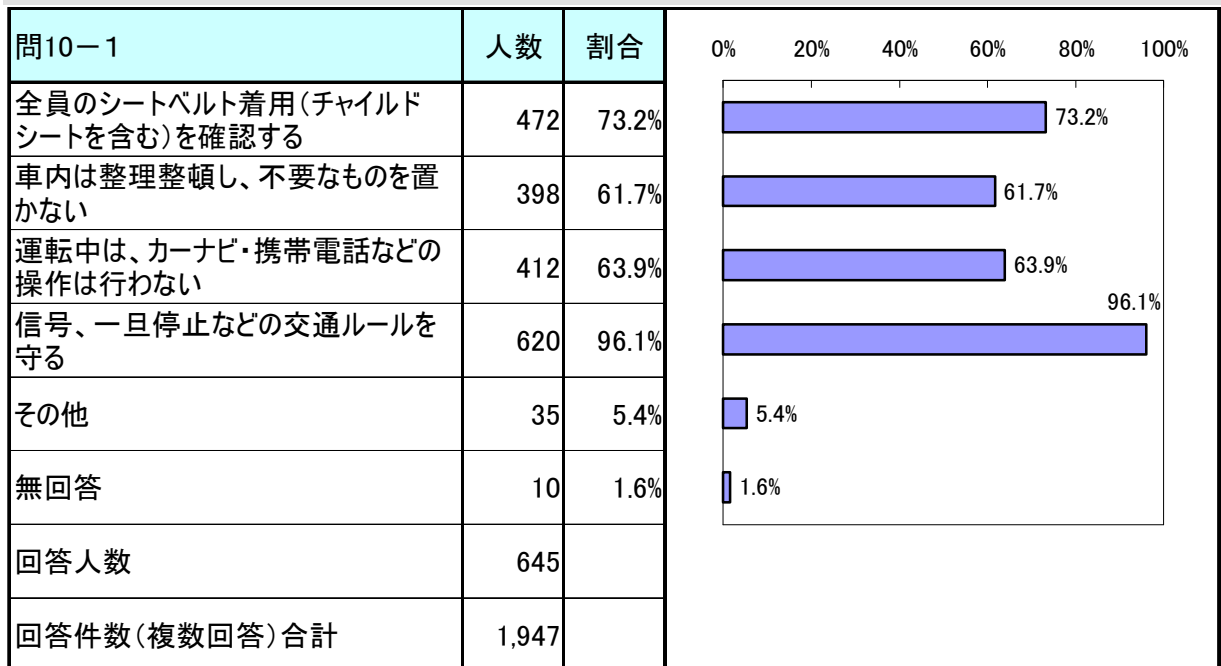
【属性別特徴】

性別では、女の「公共交通機関」が 13.8%で、男の 3.8%に比べて高くなっている。  
また、男の「自動車」が 72.7%で、女の 65.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「自動車」が 72.3%で、40歳未満の 60.8%に比べて高くなっている。

問10	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自動車	645	68.4%	290	72.7%	354	65.3%	186	60.8%	455	72.3%
バイク(原付)	45	4.8%	26	6.5%	19	3.5%	20	6.5%	24	3.8%
バイク(原付以外)	14	1.5%	13	3.3%	1	0.2%	8	2.6%	5	0.8%
自転車	65	6.9%	28	7.0%	37	6.8%	30	9.8%	35	5.6%
徒歩	67	7.1%	19	4.8%	47	8.7%	22	7.2%	43	6.8%
タクシー	5	0.5%	3	0.8%	2	0.4%	1	0.3%	4	0.6%
公共交通機関	90	9.5%	15	3.8%	75	13.8%	37	12.1%	53	8.4%
その他	1	0.1%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
無回答	11	1.2%	4	1.0%	7	1.3%	2	0.7%	9	1.4%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 10-1 あなたが、自動車を運転する際に実行していることをご回答ください。  
(あてはまるものすべてに○)



自動車の運転の際に実行していることについては、「信号、一旦停止などの交通ルールを守る」が 96.1%と最も多く、次いで「全員のシートベルト着用（チャイルドシートを含む）を確認する」が 73.2%、「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない」が 63.9%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「運転中はタバコ禁止」、「心が落ち着かない時は運転しない」等が挙げられた。

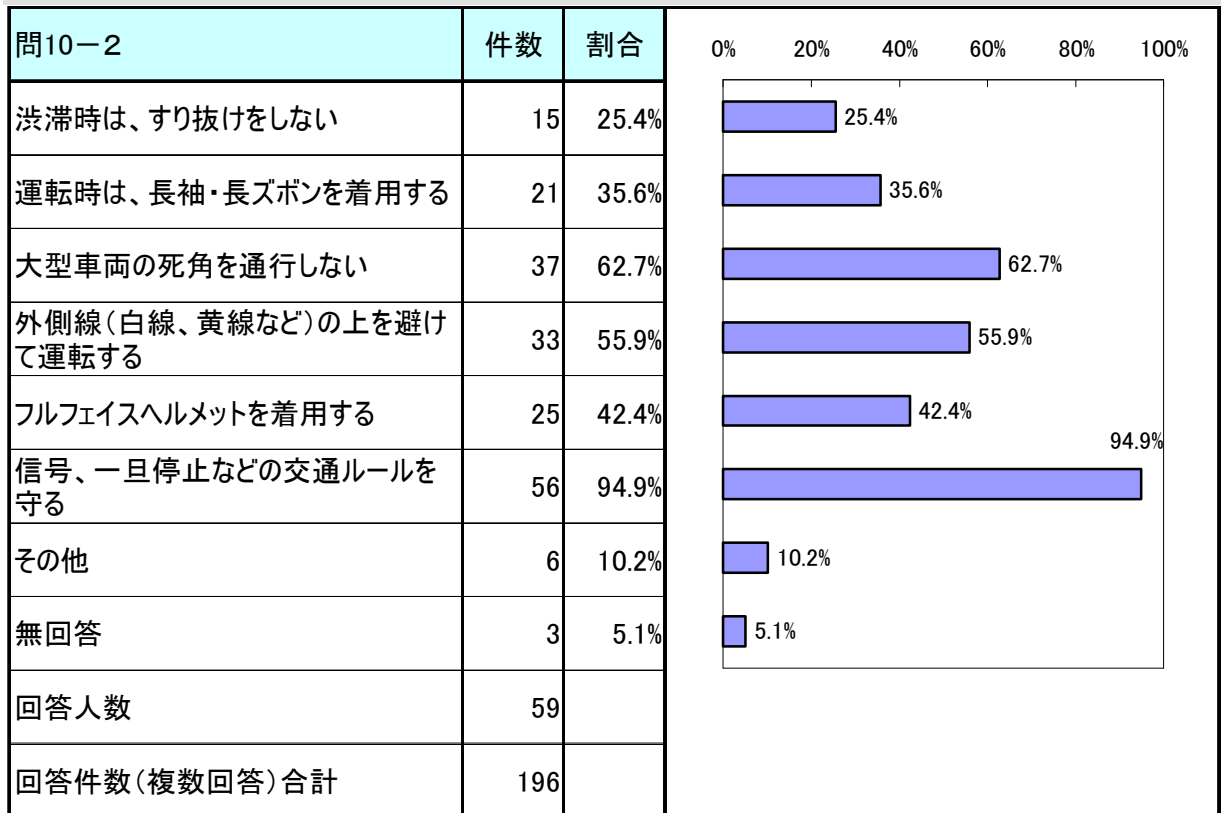
【属性別特徴】

性別では、女の「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない」が71.2%で、男の54.8%に比べて高くなっている。また、女の「車内は整理整頓し、不要なものを置かない」が65.3%で、男の57.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない」が67.7%で、40歳未満の55.4%に比べて高くなっている。また、40歳～64歳の「車内は整理整頓し、不要なものを置かない」が65.1%で、40歳未満の53.2%に比べて高くなっている。

問10-1	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全員のシートベルト着用(チャイルドシートを含む)を確認する	472	73.2%	211	72.8%	260	73.4%	141	75.8%	329	72.3%
車内は整理整頓し、不要なものを置かない	398	61.7%	166	57.2%	231	65.3%	99	53.2%	296	65.1%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない	412	63.9%	159	54.8%	252	71.2%	103	55.4%	308	67.7%
信号、一旦停止などの交通ルールを守る	620	96.1%	277	95.5%	342	96.6%	182	97.8%	435	95.6%
その他	35	5.4%	13	4.5%	22	6.2%	10	5.4%	25	5.5%
無回答	10	1.6%	3	1.0%	7	2.0%	1	0.5%	8	1.8%
回答人数	645		290		354		186		455	
回答件数(複数回答)合計	1,947		829		1,114		536		1,401	

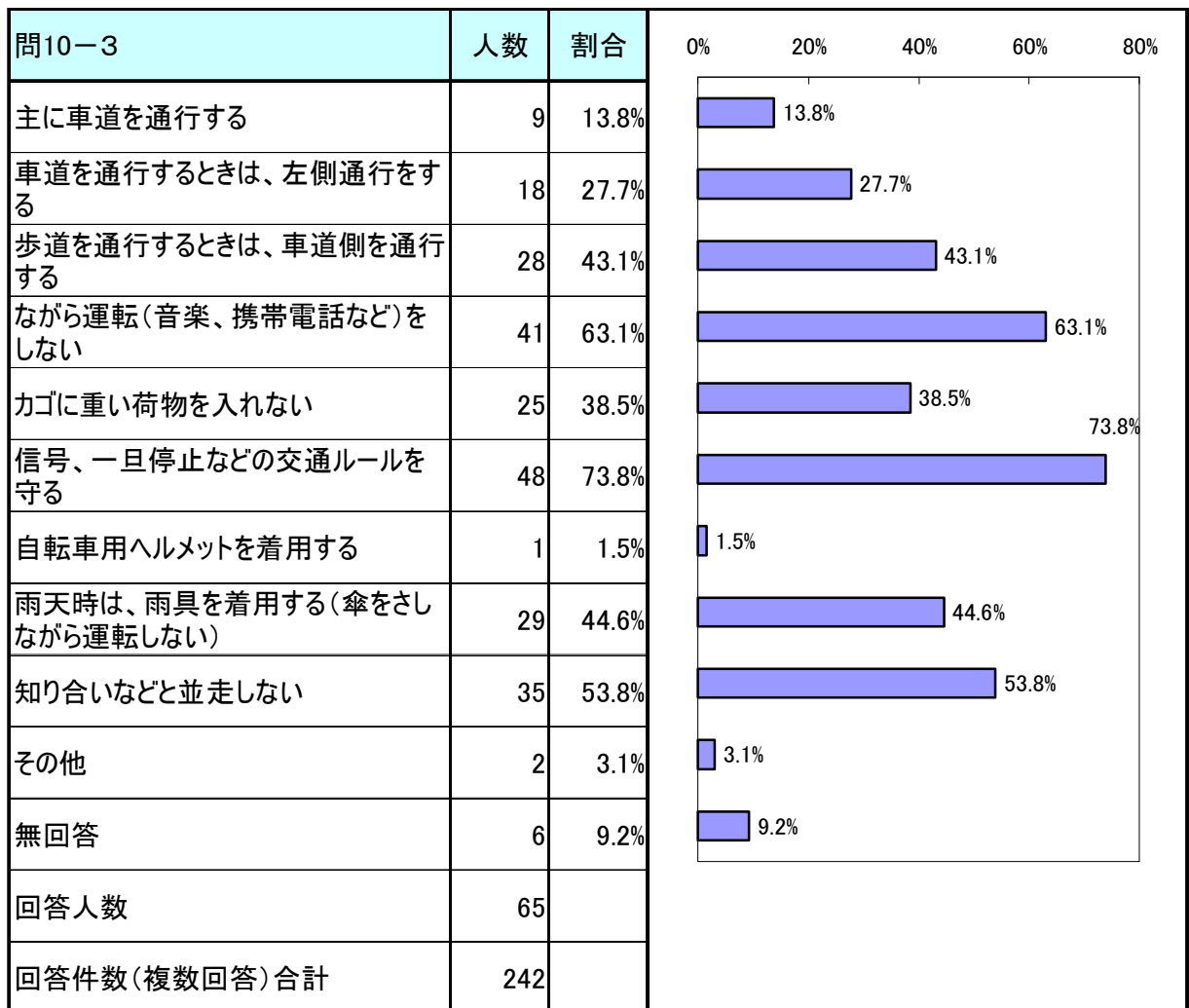
問 10-2 あなたが、バイクを運転する際に実行していることをご回答ください。  
(あてはまるものすべてに○)



バイク等の運転の際に実行していることについては、「信号、一旦停止などの交通ルールを守る」が94.9%と最も多く、次いで「大型車両の死角を通行しない」が62.7%、「外側線(白線、黄線など)の上を避けて運転する」が55.9%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「降灰が多い時はあまり端を走行しない」等が挙げられた。

問 10-3 あなたが、自転車を運転する際に実行していることをご回答ください。  
(あてはまるものすべてに○)



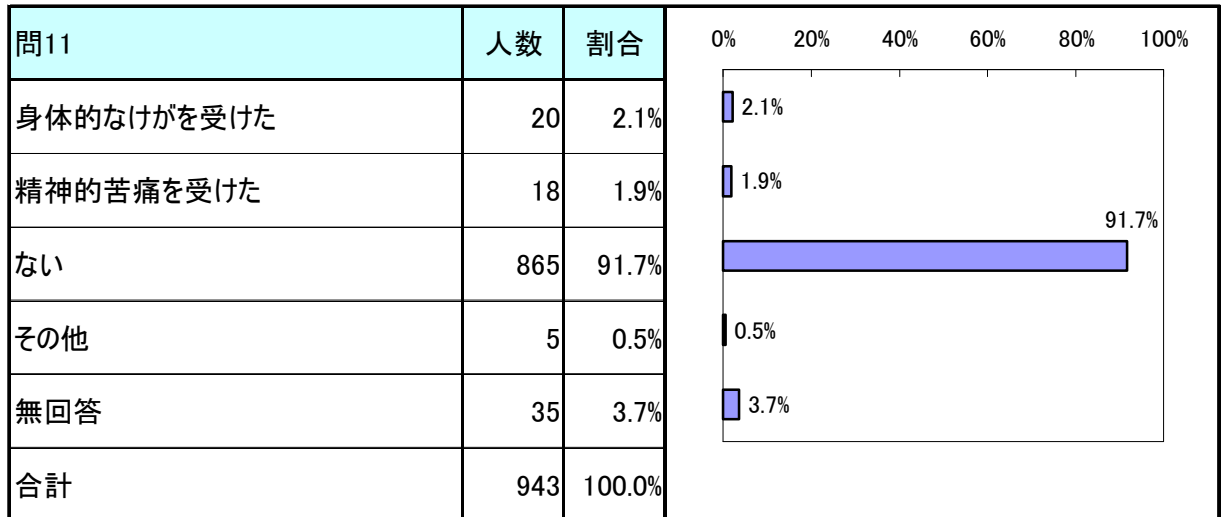
自転車の運転の際に実行していることについては、「信号、一旦停止などの交通ルールを守る」が 73.8%と最も多く、次いで「ながら運転(音楽、携帯電話など)をしない」が 63.1%、「知り合いなどと並走しない」が 53.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「雨の日は自転車に乗らない」等が挙げられた。



## 6 その他の事故やけがについて（犯罪・暴力・自殺）

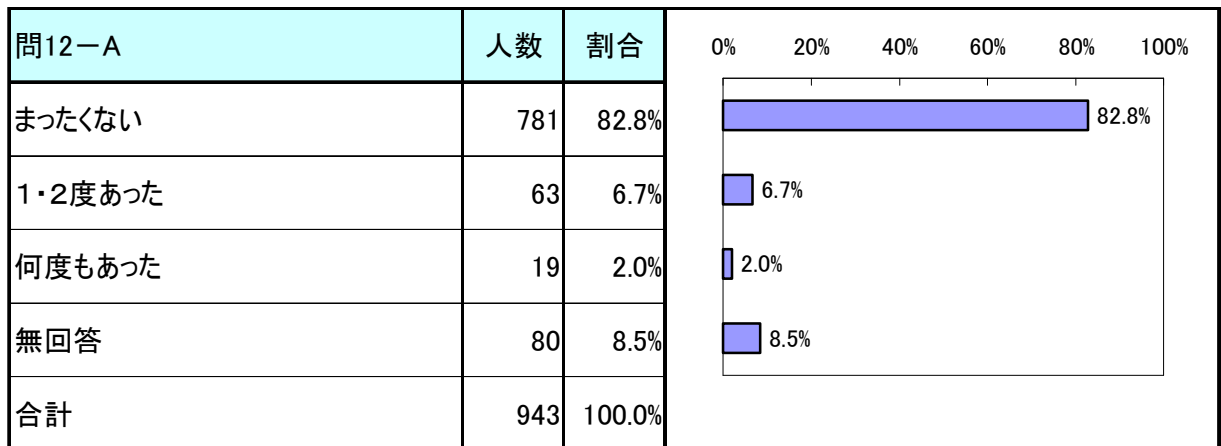
問 11 あなたはこれまでに、犯罪による事故やけがの経験がありますか。  
（ひとつに○）



犯罪による事故やけがの経験については、「ない」が 91.7%と最も多く、「身体的なけがを受けた」が 2.1%、「精神的苦痛を受けた」が 1.9%となっている。

問 12 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(ひとつに○)

問 12-A なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた。(ひとつに○)



身体に対する暴力を受けた経験については、「まったくない」が 82.8%と最も多く、「1・2度あった」が 6.7%、「何度もあった」が 2.0%となっている。

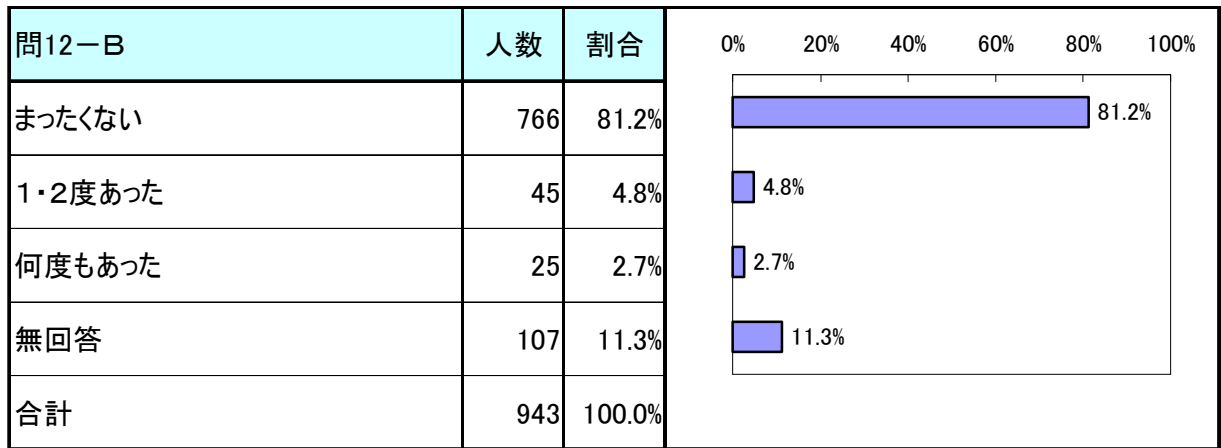
【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」、「何度もあった」の割合が、男の割合に比べていずれも高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問12-A	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
まったくない	781	82.8%	349	87.5%	432	79.7%	259	84.6%	515	81.9%
1・2度あった	63	6.7%	10	2.5%	53	9.8%	23	7.5%	40	6.4%
何度もあった	19	2.0%	3	0.8%	16	3.0%	7	2.3%	12	1.9%
無回答	80	8.5%	37	9.3%	41	7.6%	17	5.6%	62	9.9%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 12-B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視されるなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。(ひとつに○)



精神的苦痛を受けた経験については、「まったくない」が81.2%と最も多く、「1・2度あった」が4.8%、「何度もあった」が2.7%となっている。

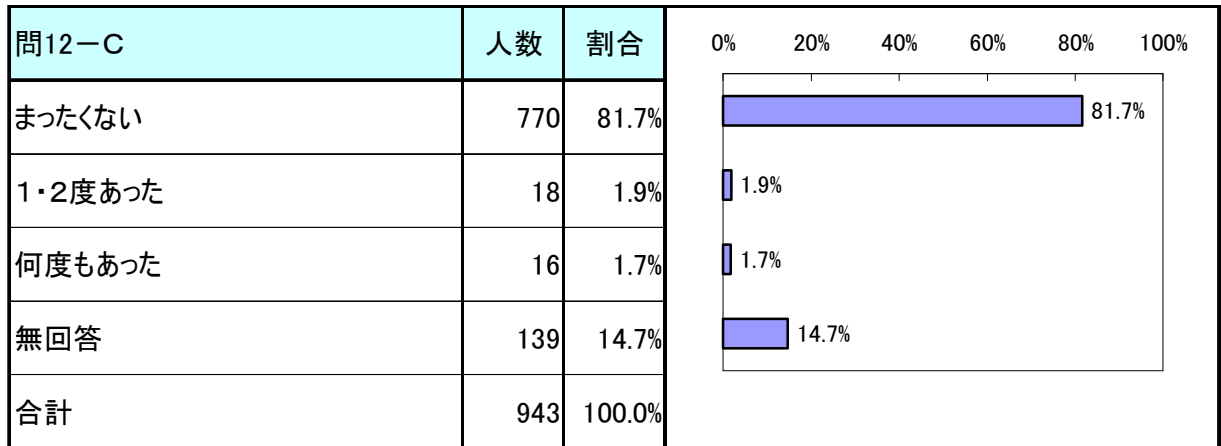
【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」、「何度もあった」の割合が、男の割合に比べていずれも高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問12-B	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
まったくない	766	81.2%	334	83.7%	432	79.7%	258	84.3%	501	79.7%
1・2度あった	45	4.8%	12	3.0%	33	6.1%	14	4.6%	31	4.9%
何度もあった	25	2.7%	5	1.3%	20	3.7%	11	3.6%	14	2.2%
無回答	107	11.3%	48	12.0%	57	10.5%	23	7.5%	83	13.2%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 12-C 避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された。  
(ひとつに○)



性的行為の強要等の経験については、「まったくない」が81.7%と最も多く、「1・2度あった」が1.9%、「何度もあった」が1.7%となっている。

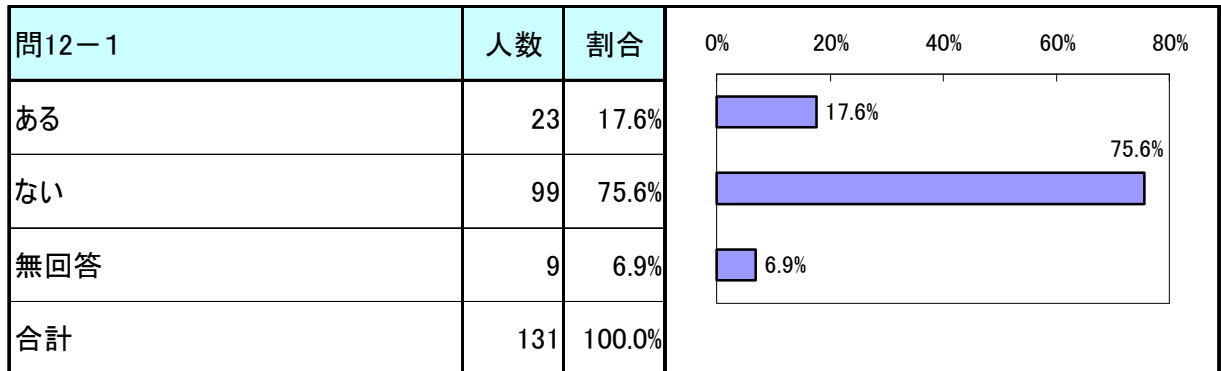
【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」、「何度もあった」の割合が、男の割合に比べていずれも高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

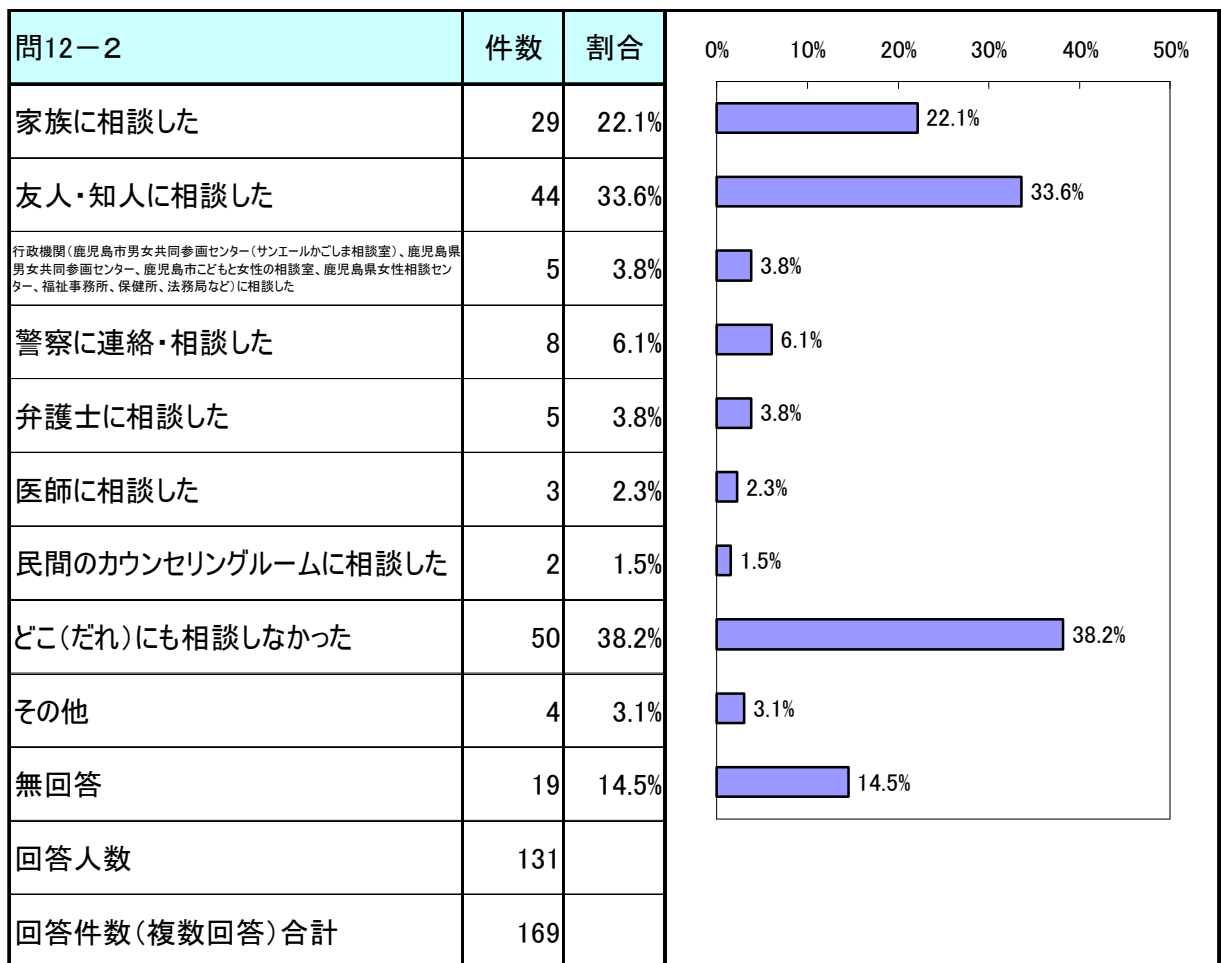
問12-C	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
まったくない	770	81.7%	329	82.5%	441	81.4%	265	86.6%	498	79.2%
1・2度あった	18	1.9%	0	0.0%	18	3.3%	4	1.3%	14	2.2%
何度もあった	16	1.7%	1	0.3%	15	2.8%	8	2.6%	8	1.3%
無回答	139	14.7%	69	17.3%	68	12.5%	29	9.5%	109	17.3%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 12-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(ひとつに○)



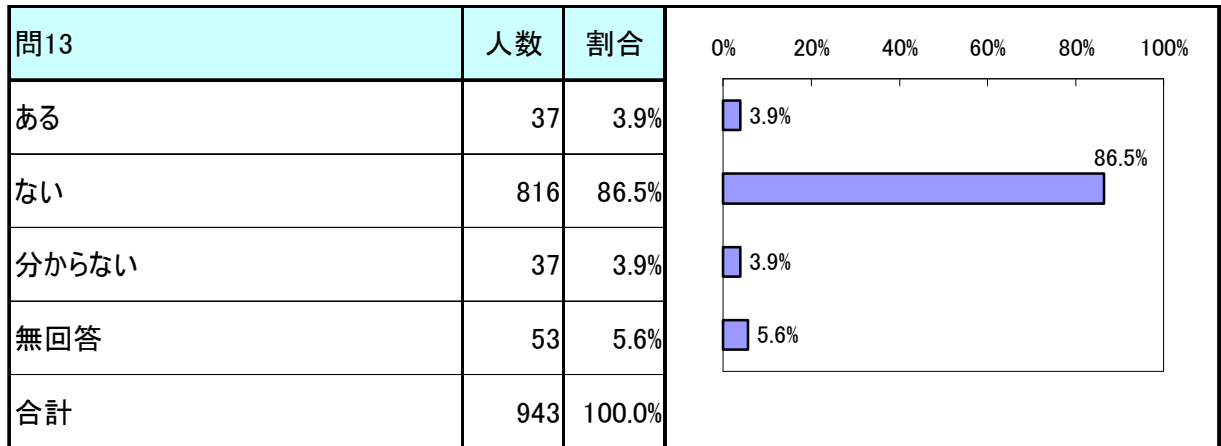
命の危険を感じたことがあるかについては、「ある」が17.6%、「ない」が75.6%となっている。

問 12-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)



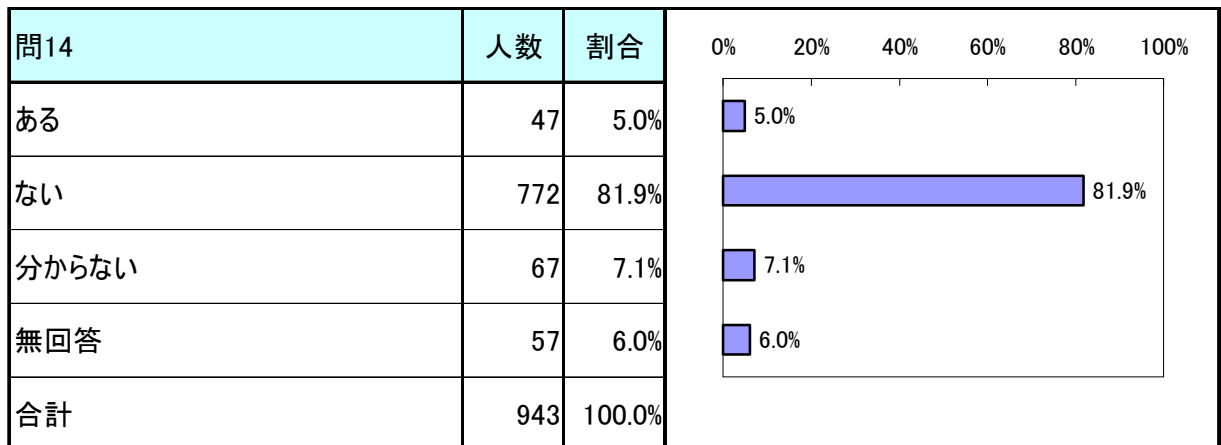
相談先については、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が38.2%と最も多く、次いで「友人・知人に相談した」が33.6%、「家族に相談した」が22.1%となっている。

問 13 あなたはこれまでに、家族から「虐待だったかもしれない」と思う行為を受けた経験がありますか。(ひとつに○)



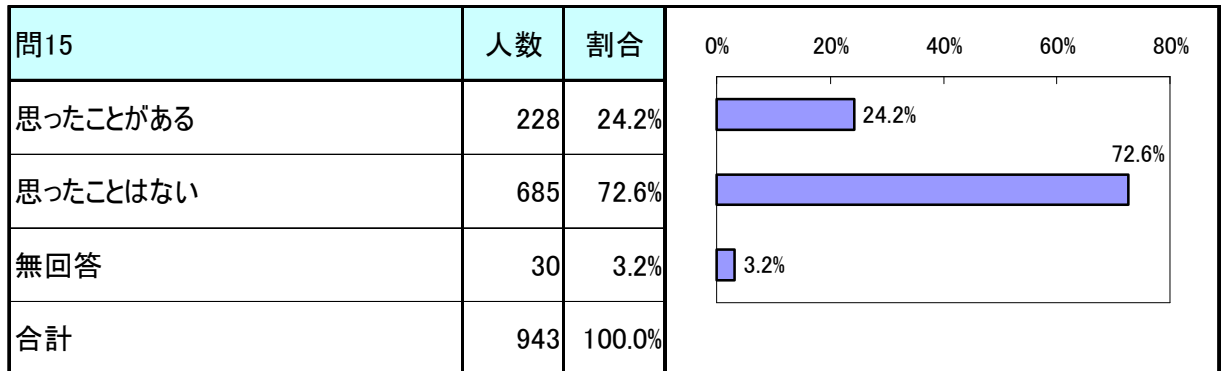
家族からの虐待だったかもしれないと思う行為を受けた経験については、「ある」が3.9%、「ない」が86.5%となっている。

問 14 あなたはこれまでに、家族に対し「虐待だったかもしれない」と思う行為をした経験がありますか。(ひとつに○)



家族への虐待だったかもしれないと思う行為をした経験については、「ある」が5.0%、「ない」が81.9%となっている。

問 15 あなたはこれまでに、自殺したい（死にたい）と思ったことがありますか。  
（ひとつに○）



自殺したいと思った経験については、「思ったことがある」が 24.2%、「思ったことはない」が 72.6%となっている。

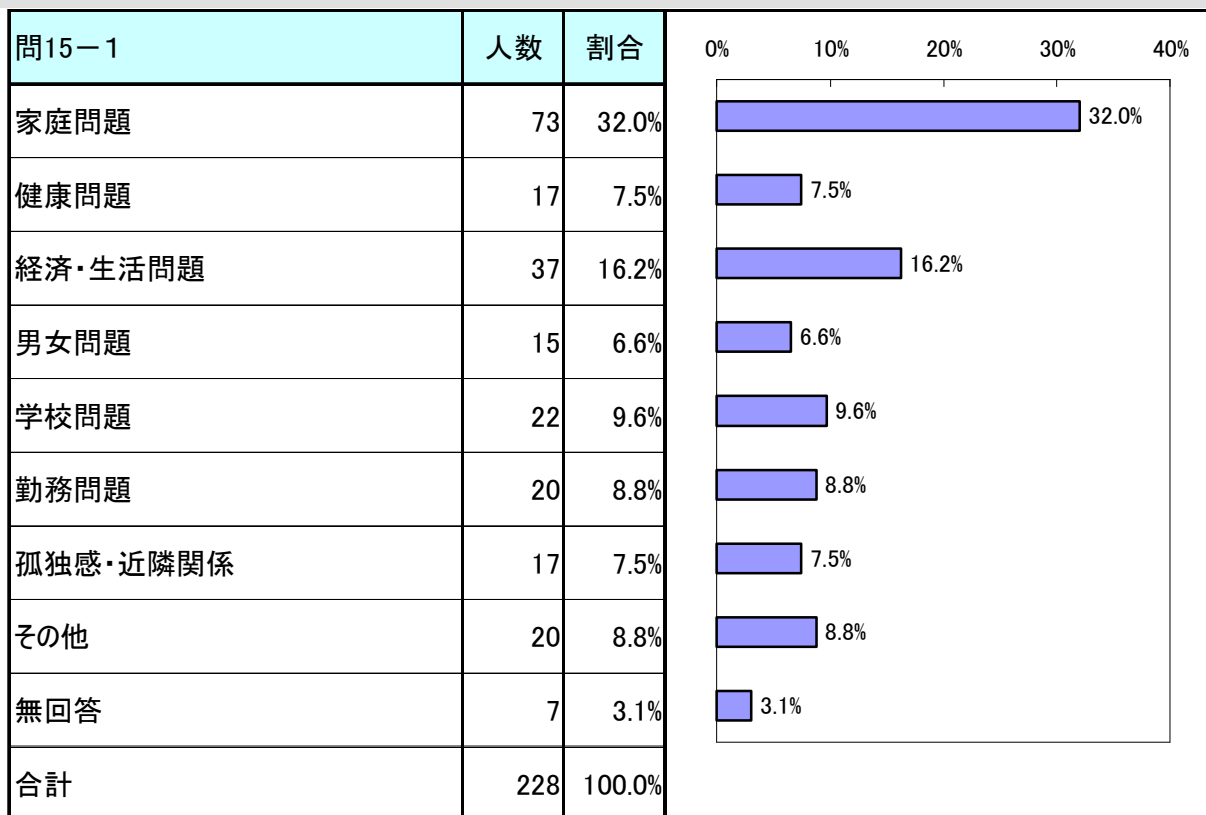
【属性別特徴】

性別では、女の「思ったことがある」が 27.3%で、男の 19.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「思ったことがある」が 28.1%で、40歳～64歳の 22.4%に比べてやや高くなっている。

問15	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
思ったことがある	228	24.2%	79	19.8%	148	27.3%	86	28.1%	141	22.4%
思ったことはない	685	72.6%	306	76.7%	379	69.9%	216	70.6%	462	73.4%
無回答	30	3.2%	14	3.5%	15	2.8%	4	1.3%	26	4.1%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 15-1 自殺したいと思ったときの一番の原因は何ですか。(ひとつに○)

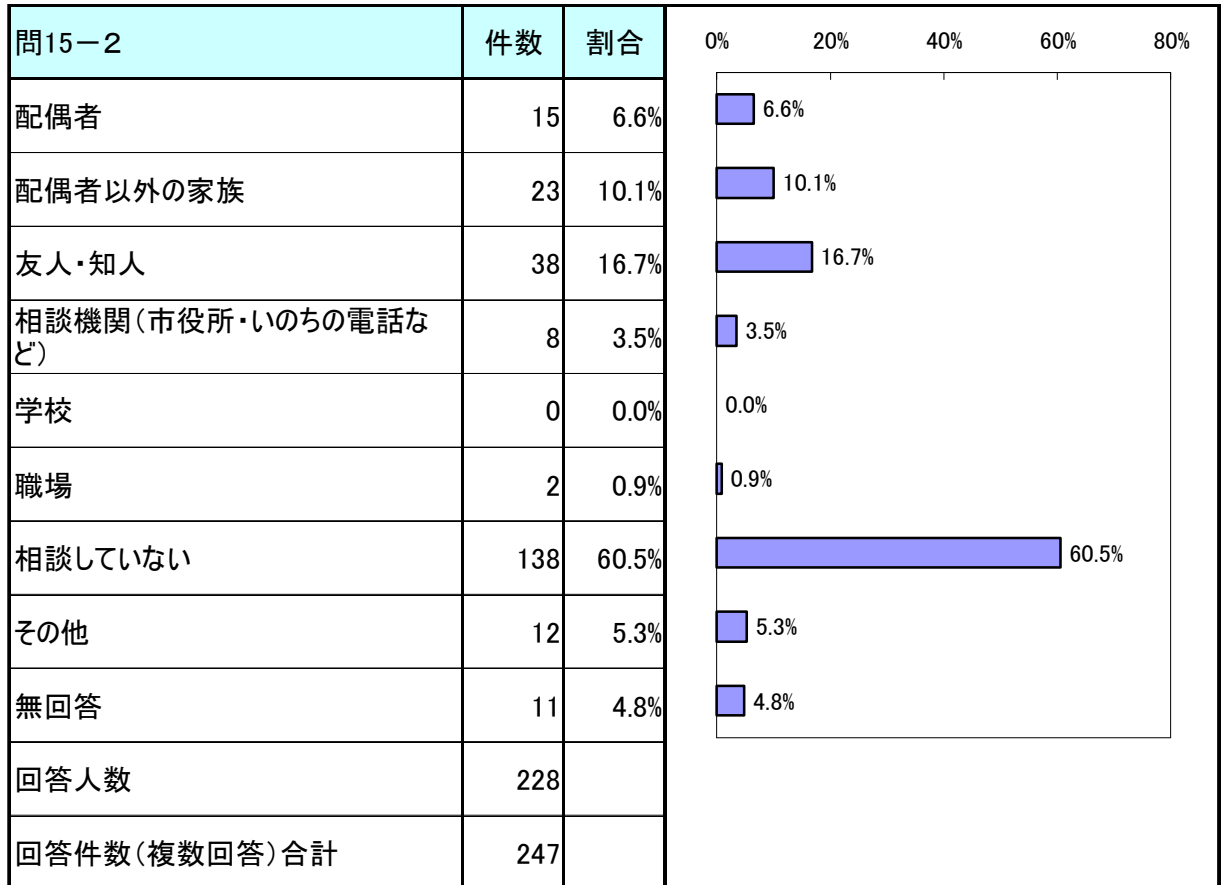


自殺したいと思った一番の原因については、「家庭問題」が 32.0%と最も多く、次いで「経済・生活問題」が 16.2%、「学校問題」が 9.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「人間関係」等が挙げられた。



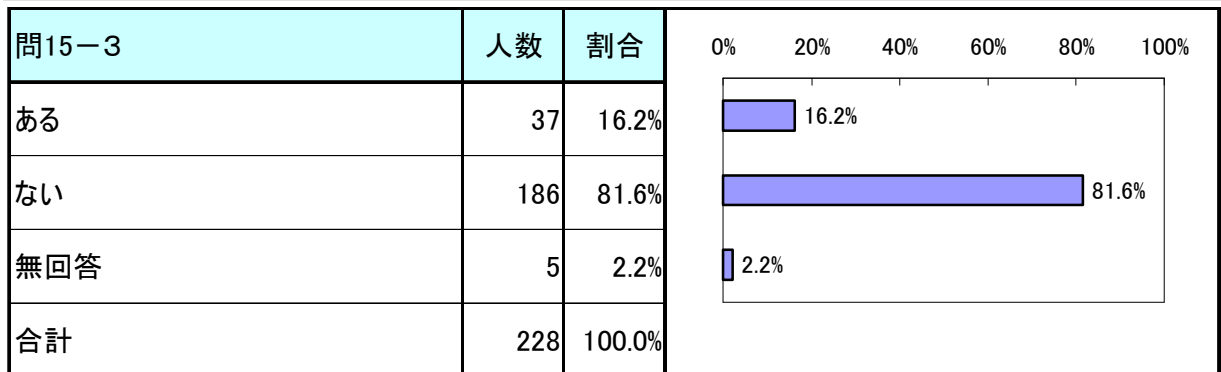
問 15-2 あなたは、自殺したいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。  
（あてはまるものすべてに○）



自殺したいと思ったときの相談先については、「相談していない」が60.5%と最も多く、次いで「友人・知人」が16.7%、「配偶者以外の家族」が10.1%となっている。

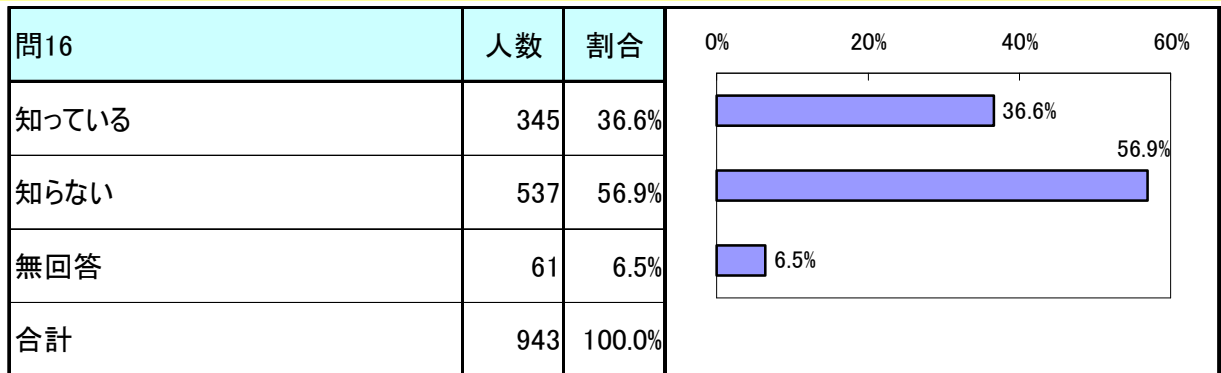
「その他」の具体的な内容としては、「カウンセラー」「病院」等が挙げられた。

問 15-3 あなたは、自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。（ひとつに○）



医療機関の受診については、「ある」が16.2%、「ない」が81.6%となっている。

問 16 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。(ひとつに○)



自殺に関する相談先の認知度については、「知っている」が36.6%、「知らない」が56.9%となっている。

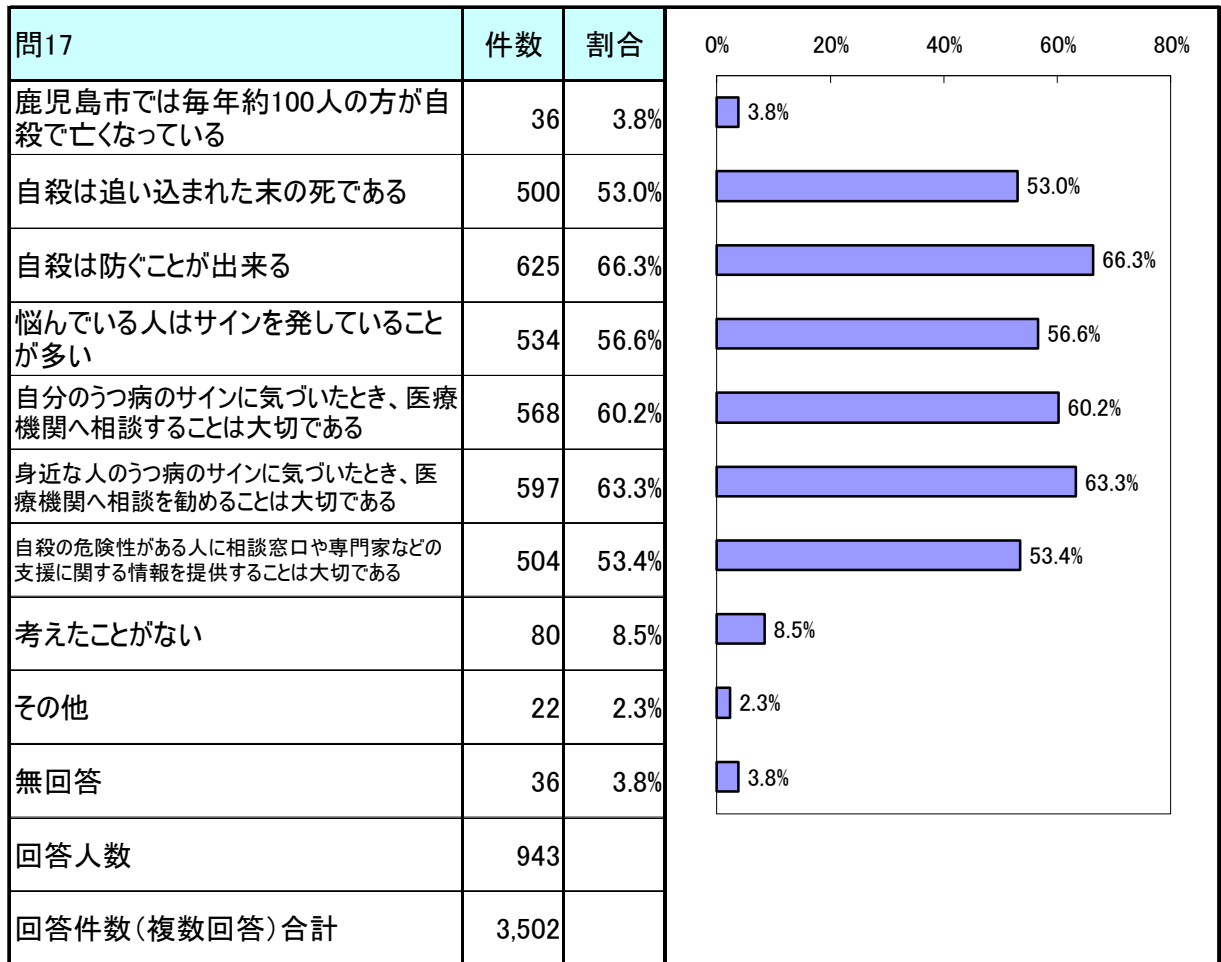
【属性別特徴】

性別では、女の「知っている」が40.8%で、男の31.1%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が39.0%で、40歳未満の32.7%に比べてやや高くなっている。

問16	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	345	36.6%	124	31.1%	221	40.8%	100	32.7%	245	39.0%
知らない	537	56.9%	249	62.4%	287	53.0%	194	63.4%	335	53.3%
無回答	61	6.5%	26	6.5%	34	6.3%	12	3.9%	49	7.8%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 17 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



自殺について知っていることについては、「自殺は防ぐことができる」が 66.3%と最も多く、次いで「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談を勧めることは大切である」が 63.3%、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が 60.2%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「日本では3万人超が自殺で亡くなっている」、「聞いてあげる事が大切」等が挙げられた。

【属性別特徴】

性別では、女の「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が66.2%で、男の52.4%に比べて高くなっている。また、女の「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談を勧めることは大切である」が68.3%で、男の56.9%に比べて高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問17	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
鹿児島市では毎年約100人の方が自殺で亡くなっている	36	3.8%	14	3.5%	22	4.1%	7	2.3%	29	4.6%
自殺は追い込まれた末の死である	500	53.0%	209	52.4%	291	53.7%	170	55.6%	327	52.0%
自殺は防ぐことができる	625	66.3%	248	62.2%	377	69.6%	205	67.0%	415	66.0%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	534	56.6%	211	52.9%	323	59.6%	170	55.6%	360	57.2%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	568	60.2%	209	52.4%	359	66.2%	190	62.1%	376	59.8%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談を勧めることは大切である	597	63.3%	227	56.9%	370	68.3%	195	63.7%	399	63.4%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	504	53.4%	203	50.9%	301	55.5%	158	51.6%	344	54.7%
考えたことがない	80	8.5%	45	11.3%	34	6.3%	25	8.2%	52	8.3%
その他	22	2.3%	10	2.5%	12	2.2%	6	2.0%	16	2.5%
無回答	36	3.8%	18	4.5%	17	3.1%	5	1.6%	30	4.8%
回答人数	943		399		542		306		629	
回答件数(複数回答)合計	3,502		1,394		2,106		1,131		2,348	

問 18 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

相手のある事故の場合はどうしようも無いと考えていたが、お互いが気をつけることによって未然に防ぐということは有り得るんだと思えた。

けがの予防はやはり体力づくりが必要だと思う。事故防止は、体調を整え、急がず緊張感をもってと常に思う。

今回のアンケートで「事故やけがは予防できる」ということを考えさせられました。これまでは「けがをしちゃった」で終わっていたのですが、予防できるという視点から周囲のことを見直すことが大切だと気付かされました。

時間に余裕を持って行動する。人の話を聞く。落ち着いて行動する。

仕事や家事等で重い物を持ったり、中腰になったりすることが多い人は事前に腰にベルトをつけておくと少しは予防になると思います。

事故やけがはやはり自分自身の不注意から起こるのが一番だと思います。心に余裕を持ち慌てずゆっくりと注意すれば未然に防げるのでは！

一人一人が気を付けていれば事故やけがは防げると思います。

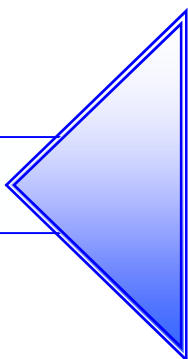
精神的に落ち込んでいるとき、身体が疲れていて気持ちが緩みがちなときに、事故やけががおこりやすいので、心と時間に余裕を持って、何事にも取り組むように、日頃から気をつけることが良いと思います。

常に気持ちにゆとりを持って譲り合いの精神が必要だと思います。

とにかく気配りだと思います。子どもには子どもに対して、老人には老人に対しての気配り。一言でもいいから挨拶したり、世間話を交わすことだと思います。

子どもをもって、事故やけがをしないように自宅の導線や環境整備を気にかけるようになりました。

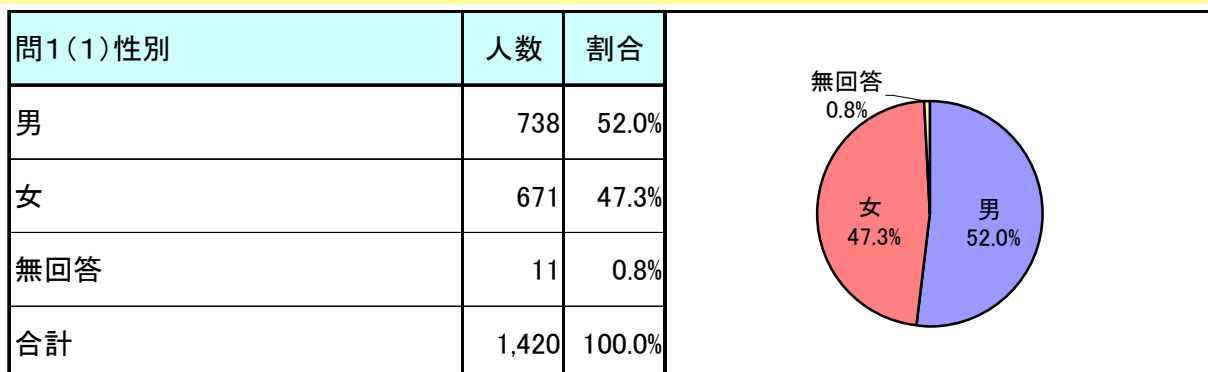




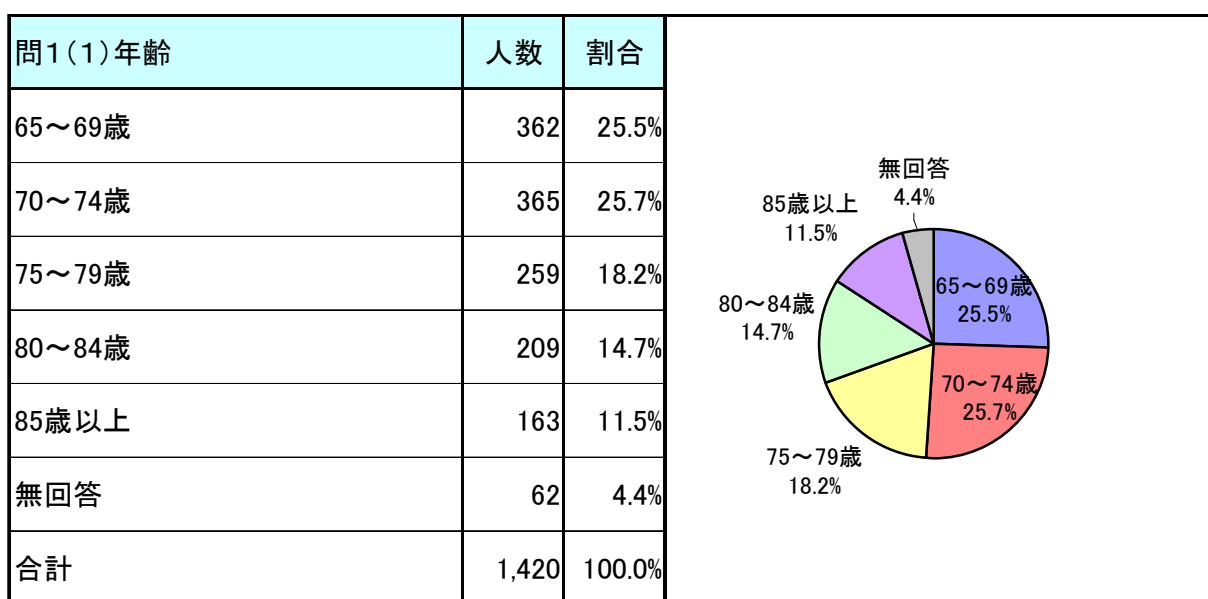
**第5章 高齡者**

## 1 性別、年齢、就労状況などについて

問1 あなたの性別や世帯構成などについてお聞きします。

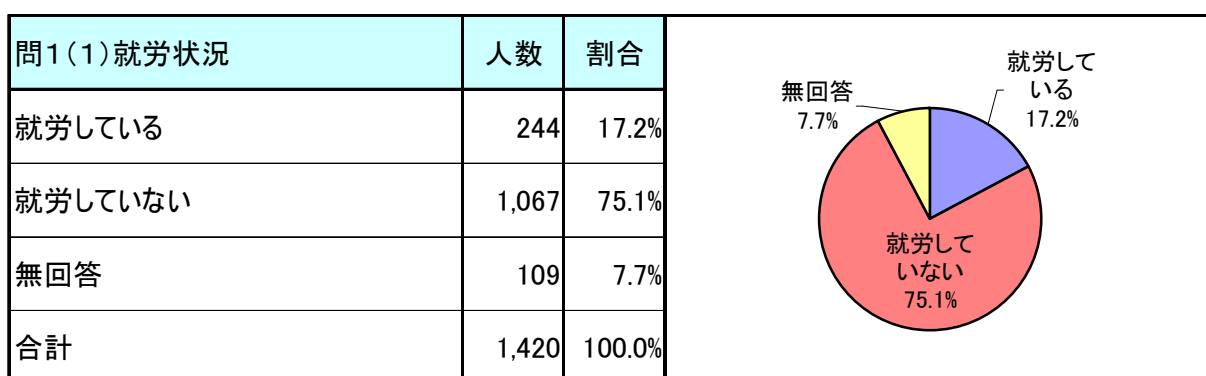


性別については、「男」が52.0%、「女」が47.3%となっている。

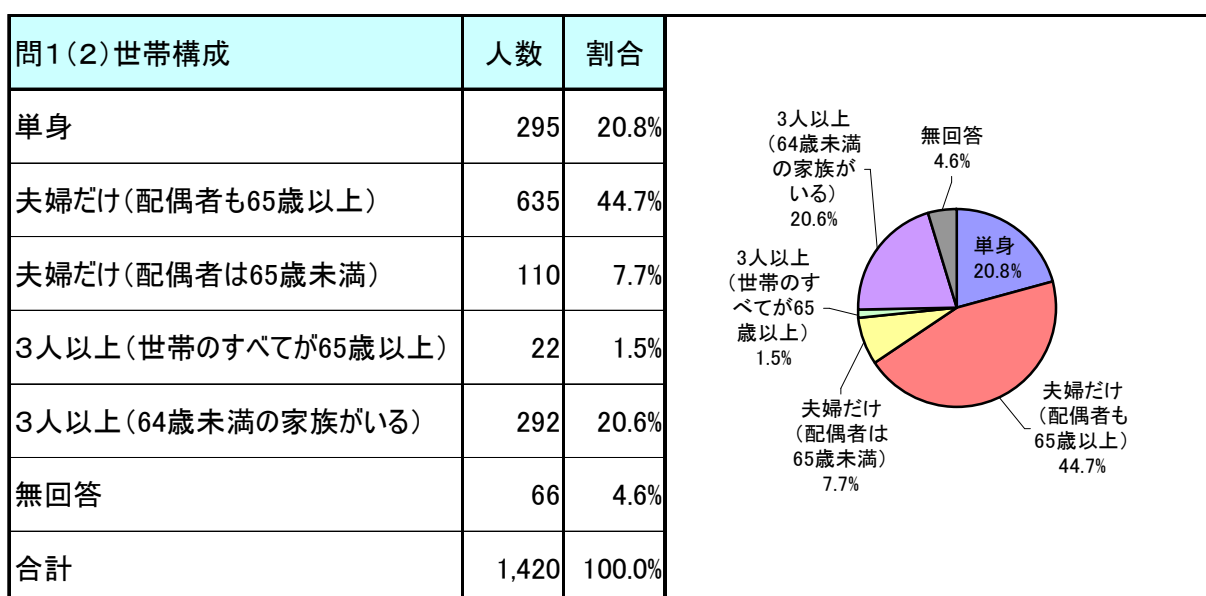


年齢については、「70～74歳」が25.7%と最も多く、次いで「65～69歳」が25.5%、「75～79歳」が18.2%となっている。



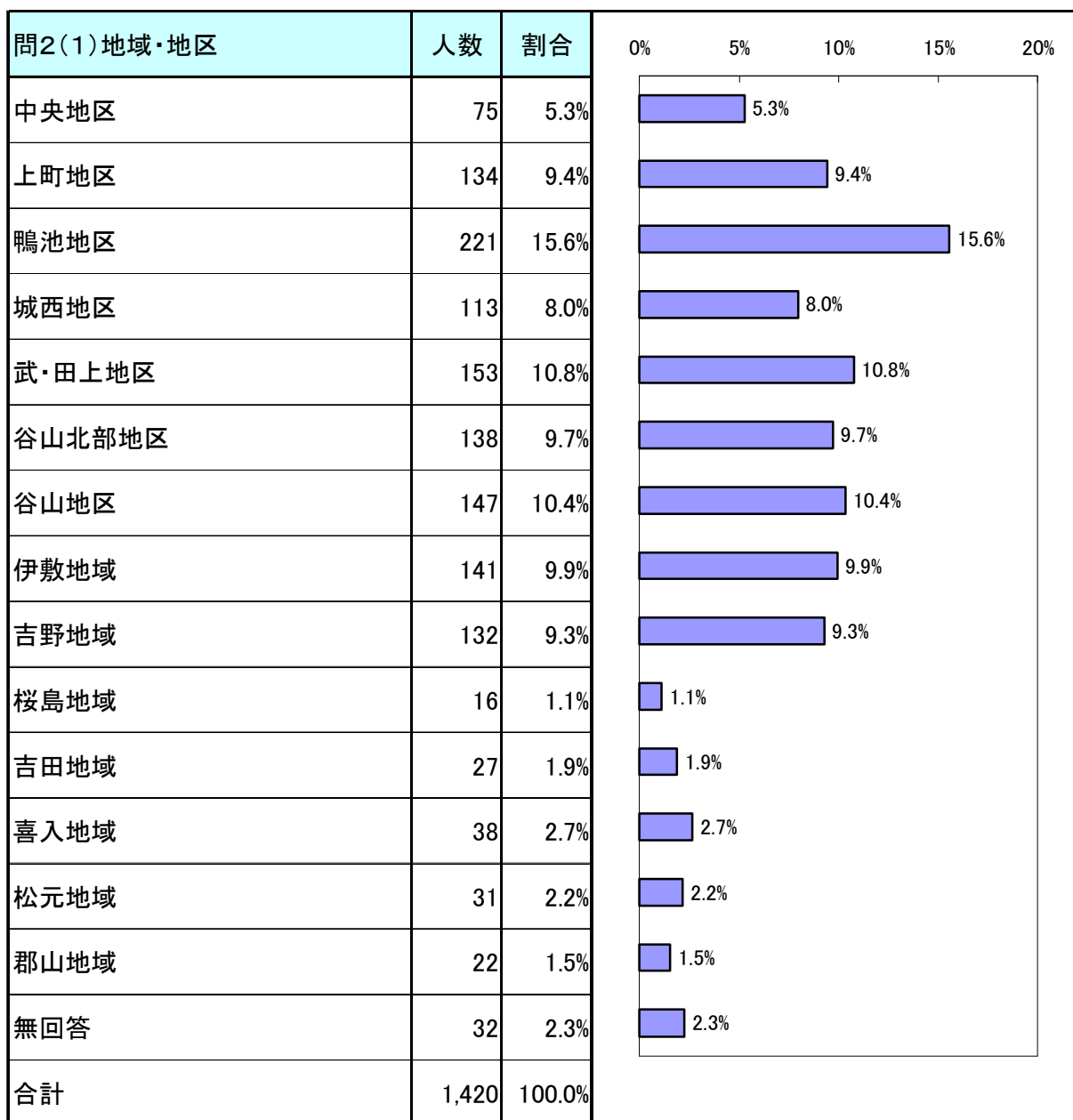


就労については、「就労している」が17.2%、「就労していない」が75.1%となっている。



世帯構成については、「夫婦だけ(配偶者も65歳以上)」が44.7%と最も多く、次いで「単身」が20.8%、「3人以上(64歳未満の家族がいる)」が20.6%となっている。

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

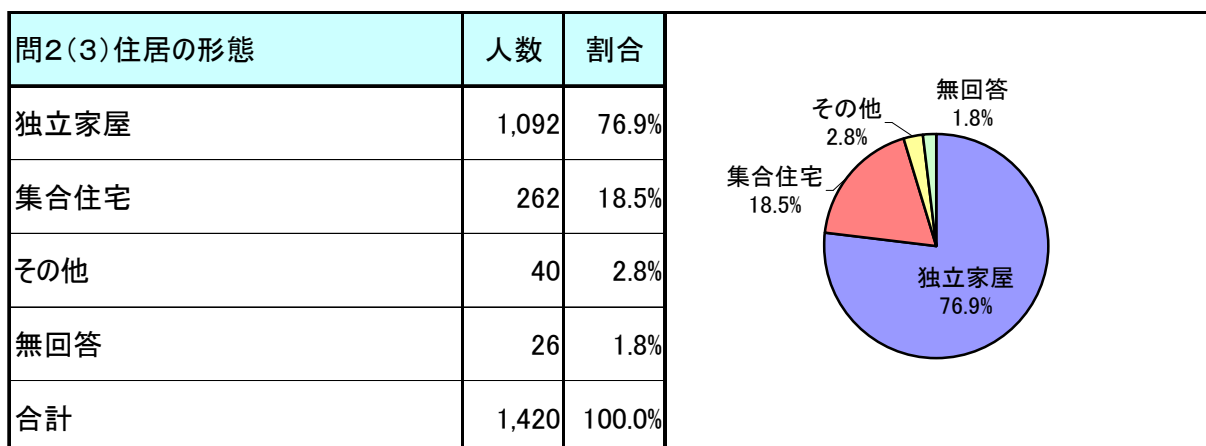


(注) 第五次総合計画に基づく地域・地区

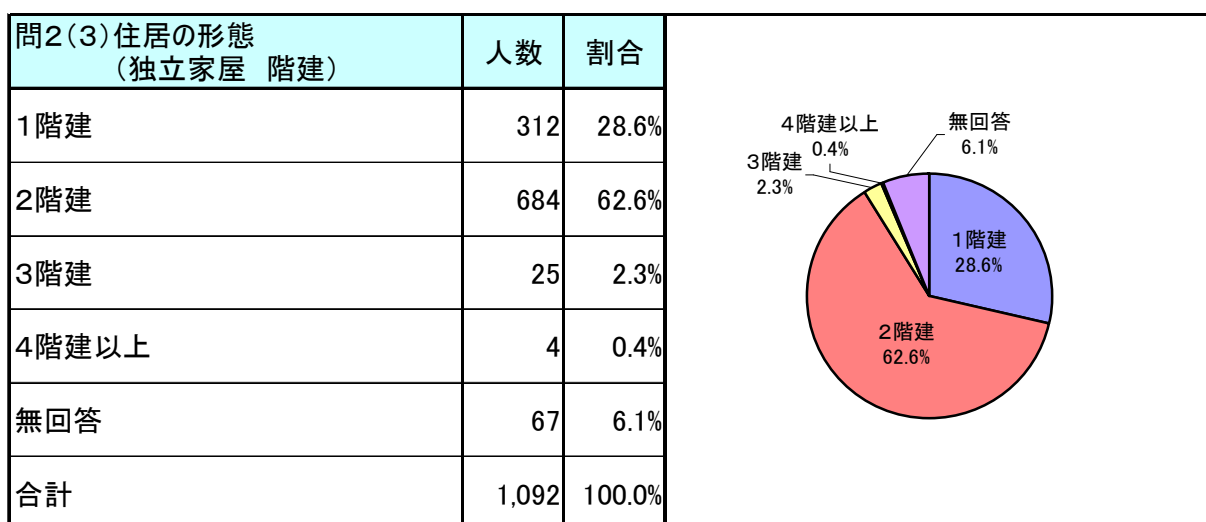
現住所地については、「鴨池地区」が 15.6%と最も多く、次いで「武・田上地区」が 10.8%、「谷山地区」が 10.4%となっている。

## 問2 (2) 小学校区

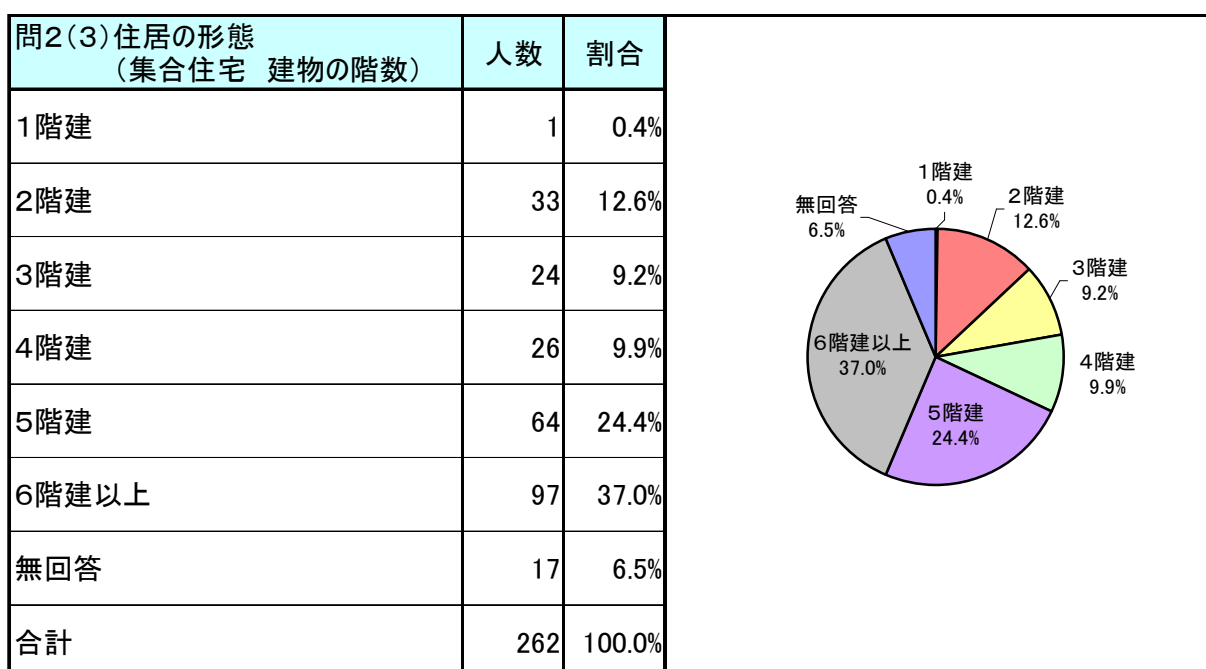
区 分	人数	割合	区 分	人数	割合
吉田小学校	7	0.5%	花野小学校	13	0.9%
本名小学校	2	0.1%	西伊敷小学校	32	2.3%
宮小学校	3	0.2%	伊敷台小学校	14	1.0%
本城小学校	5	0.4%	玉江小学校	29	2.0%
牟礼岡小学校	7	0.5%	小山田小学校	6	0.4%
南方小学校	5	0.4%	犬迫小学校	6	0.4%
花尾小学校	2	0.1%	皆与志小学校	2	0.1%
郡山小学校	14	1.0%	東桜島小学校	3	0.2%
川上小学校	43	3.0%	改新小学校	0	0.0%
吉野小学校	29	2.0%	高免小学校	0	0.0%
吉野東小学校	22	1.5%	黒神小学校	0	0.0%
大明丘小学校	17	1.2%	桜洲小学校	6	0.4%
坂元小学校	31	2.2%	桜峰小学校	4	0.3%
坂元台小学校	20	1.4%	松元小学校	11	0.8%
清水小学校	27	1.9%	東昌小学校	5	0.4%
大龍小学校	10	0.7%	春山小学校	10	0.7%
名山小学校	9	0.6%	石谷小学校	6	0.4%
山下小学校	14	1.0%	谷山小学校	37	2.6%
松原小学校	13	0.9%	西谷山小学校	12	0.8%
城南小学校	20	1.4%	東谷山小学校	29	2.0%
草牟田小学校	36	2.5%	清和小学校	17	1.2%
原良小学校	21	1.5%	和田小学校	21	1.5%
明和小学校	30	2.1%	錦江台小学校	26	1.8%
武岡小学校	35	2.5%	福平小学校	38	2.7%
武岡台小学校	17	1.2%	平川小学校	2	0.1%
西田小学校	32	2.3%	錫山小学校	0	0.0%
武小学校	14	1.0%	中山小学校	17	1.2%
田上小学校	27	1.9%	桜丘西小学校	6	0.4%
西陵小学校	34	2.4%	桜丘東小学校	5	0.4%
広木小学校	22	1.5%	星峯西小学校	7	0.5%
中洲小学校	6	0.4%	星峯東小学校	2	0.1%
荒田小学校	21	1.5%	宮川小学校	2	0.1%
八幡小学校	28	2.0%	皇徳寺小学校	11	0.8%
中郡小学校	25	1.8%	瀬々串小学校	8	0.6%
紫原小学校	32	2.3%	中名小学校	9	0.6%
西紫原小学校	25	1.8%	喜入小学校	12	0.8%
鴨池小学校	30	2.1%	前之浜小学校	5	0.4%
南小学校	15	1.1%	生見小学校	0	0.0%
宇宿小学校	16	1.1%	一倉小学校	2	0.1%
向陽小学校	11	0.8%	無回答	204	14.4%
伊敷小学校	24	1.7%	合 計	1,420	100.0%



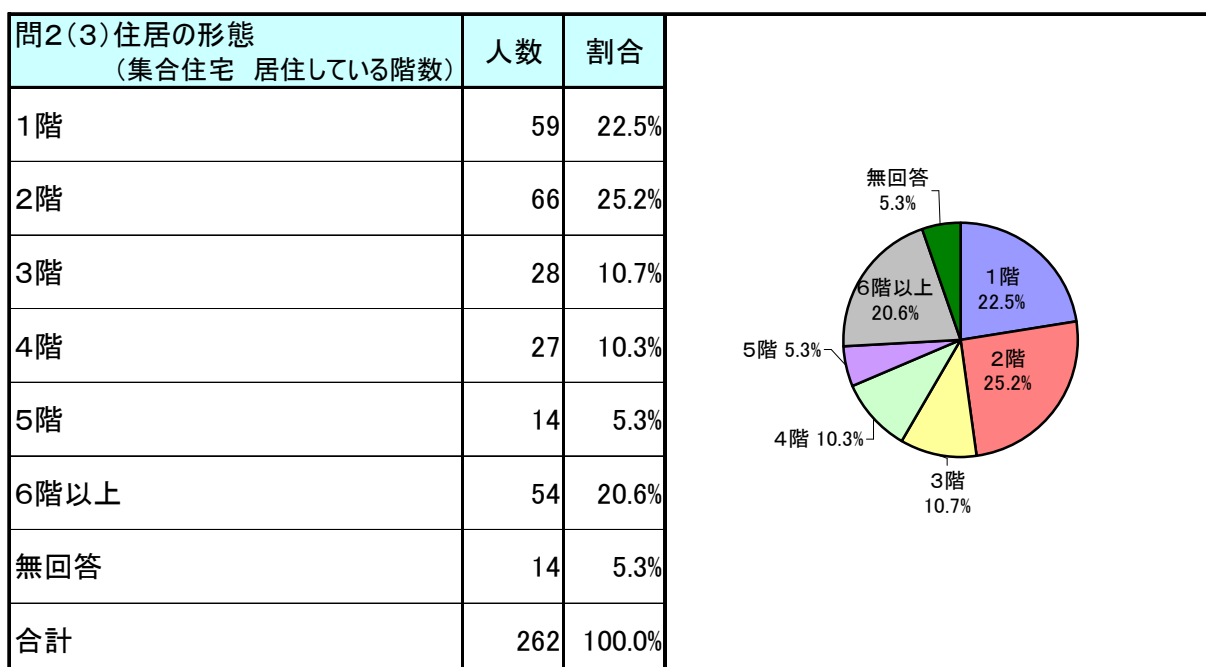
住居の形態については、「独立家屋」が76.9%、「集合住宅」が18.5%となっている。



独立家屋の住居の形態については、「2階建」が62.6%と最も多く、「1階建」が28.6%、「3階建」が2.3%となっている。



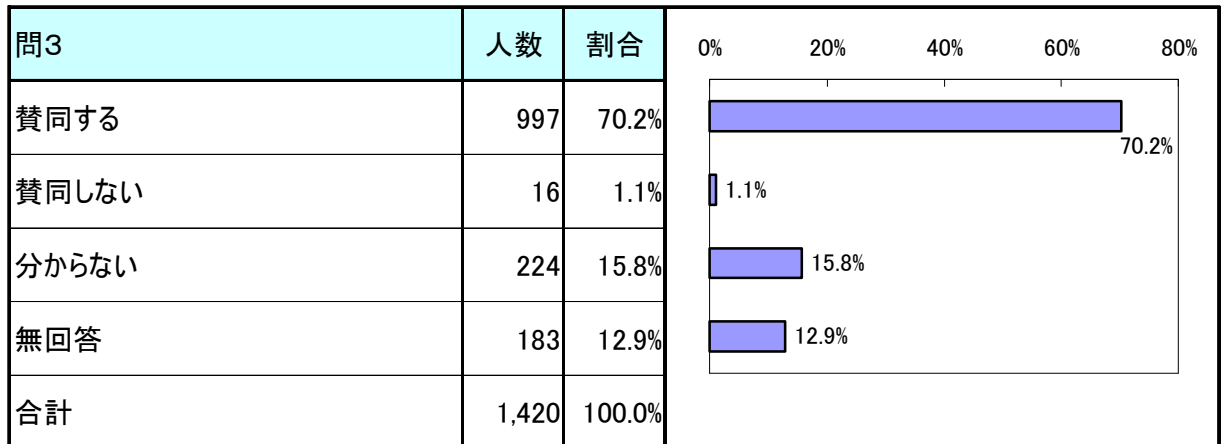
集合住宅の建物の階数については、「6階建以上」が37.0%と最も多く、次いで「5階建」が24.4%、「2階建」が12.6%となっている。



集合住宅の居住している階数については、「2階」が25.2%と最も多く、次いで「1階」が22.5%、「6階以上」が20.6%となっている。

## 2 セーフコミュニティについて

問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなたは、この考えについてどう思いますか。(ひとつに○)



セーフコミュニティの考えについては、「賛同する」が70.2%となっている。

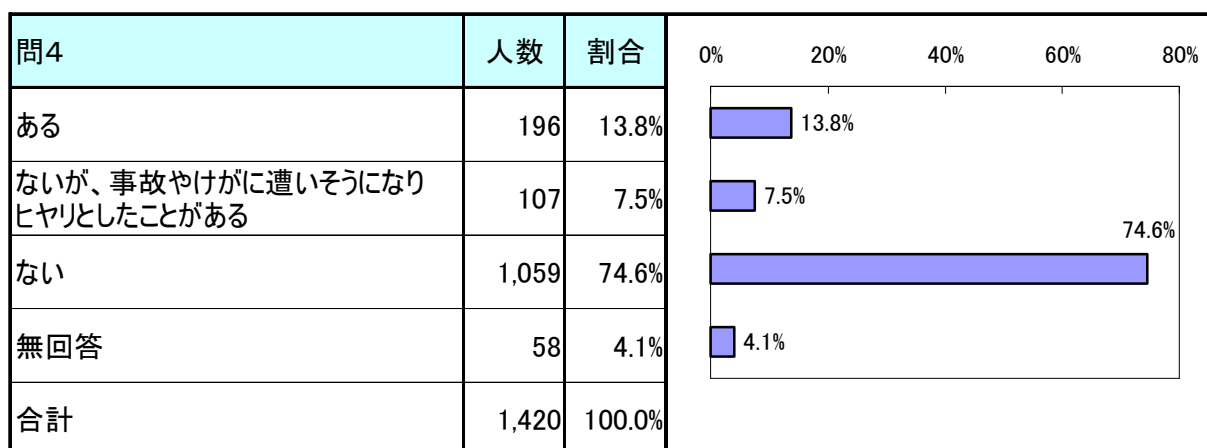
### 【属性別特徴】

性別では、男の「賛同する」が74.9%で、女の65.4%に比べてやや高くなっている。年齢別では、大きな違いはみられない。

問3	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
賛同する	997	70.2%	553	74.9%	439	65.4%	528	72.6%	435	68.9%
賛同しない	16	1.1%	10	1.4%	5	0.7%	11	1.5%	2	0.3%
分からない	224	15.8%	97	13.1%	127	18.9%	110	15.1%	104	16.5%
無回答	183	12.9%	78	10.6%	100	14.9%	78	10.7%	90	14.3%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

3 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）の「事故やけが」の状況についてお聞きします。この場合の事故やけがとは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけどなどをいいます。（捻挫、打撲などで、医療機関にかからなかったものも対象とします。）

問4 あなたは、この1年間に事故やけがの経験がありますか。（ひとつに○）



1年間の事故やけがの経験については、「ある」が13.8%、「ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある」が7.5%、「ない」が74.6%となっている。

【属性別特徴】

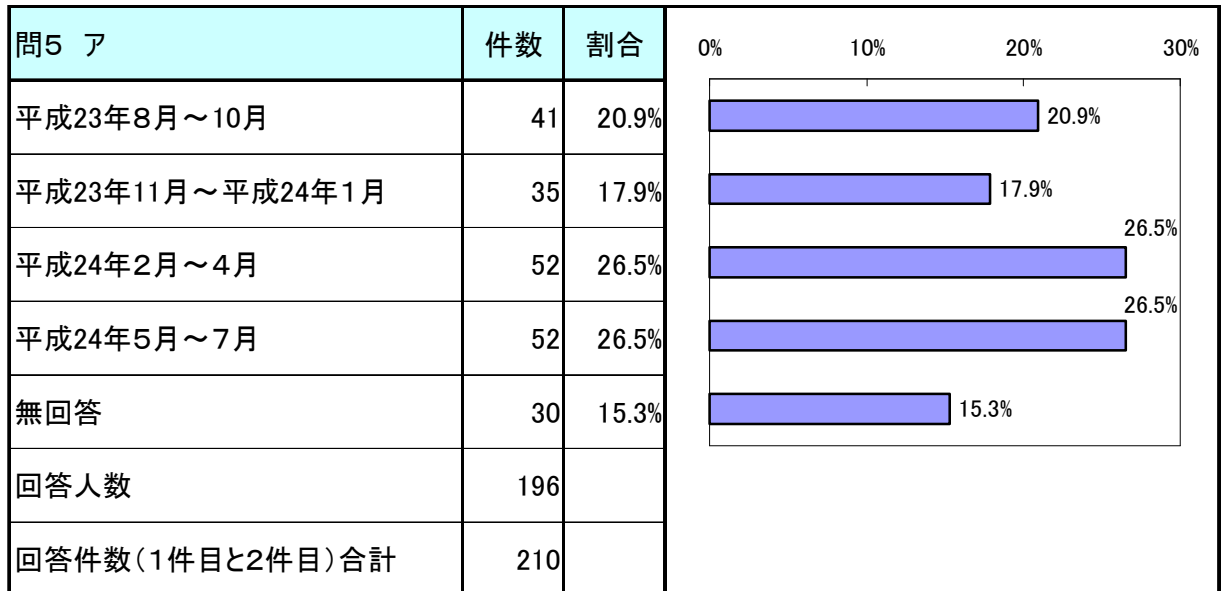
性別では、大きな違いはみられない。

年齢別では、75歳以上の「ある」が17.3%で、65歳～74歳の10.9%に比べてやや高くなっている。

問4	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	196	13.8%	88	11.9%	107	15.9%	79	10.9%	109	17.3%
ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある	107	7.5%	57	7.7%	50	7.5%	60	8.3%	46	7.3%
ない	1,059	74.6%	568	77.0%	483	72.0%	562	77.3%	451	71.5%
無回答	58	4.1%	25	3.4%	31	4.6%	26	3.6%	25	4.0%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

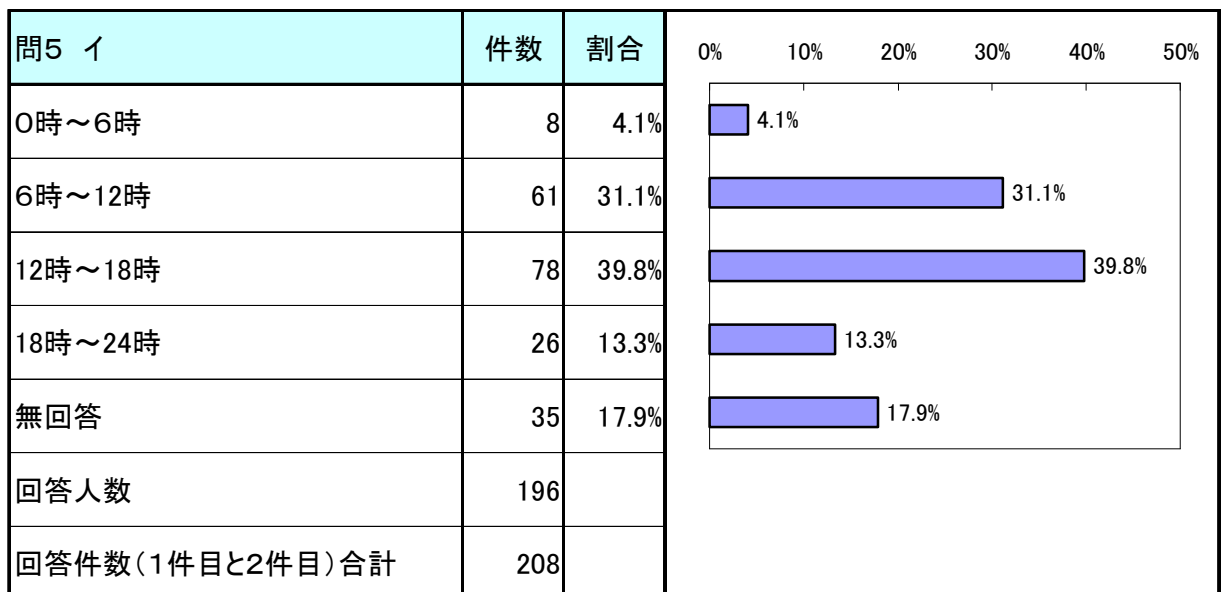
問5 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）にあった事故やけがについて、ア～サをそれぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

問5 ア 事故やけがをした時期



事故やけがをした時期については、「平成24年2月～4月」と「平成24年5月～7月」が26.5%と最も多く、次いで「平成23年8月～10月」が20.9%、「平成23年11月～平成24年1月」が17.9%となっている。

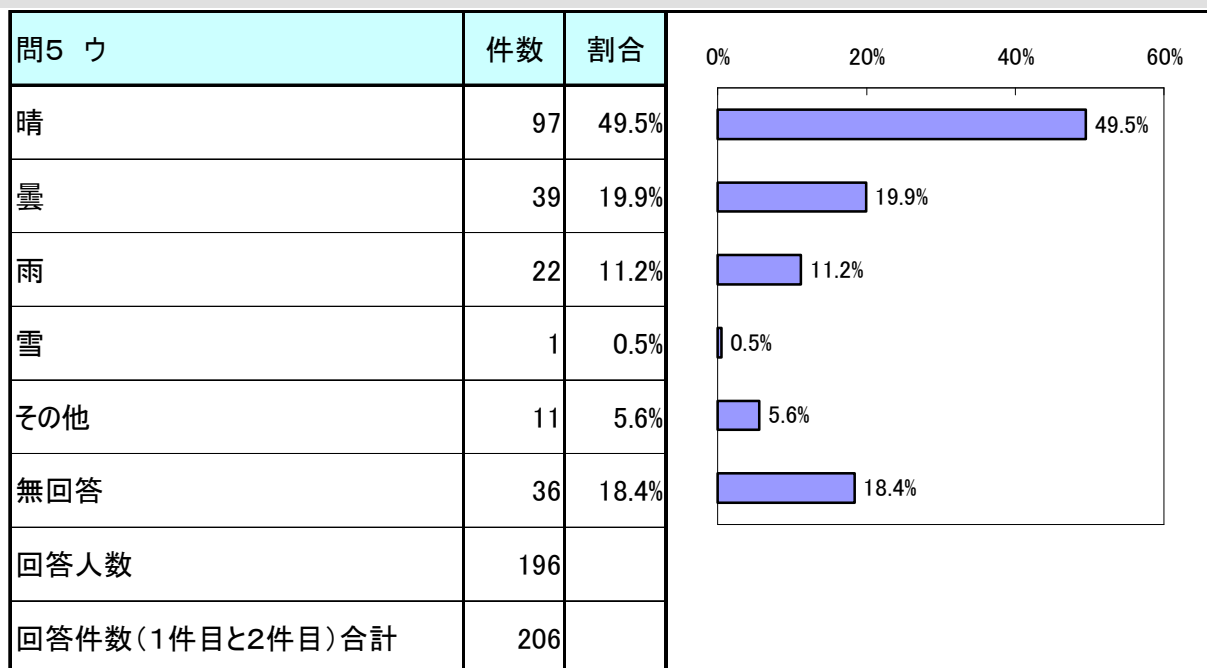
問5 イ 事故やけがをした時間



事故やけがをした時間については、「12時～18時」が39.8%と最も多く、「6時～12時」が31.1%、「18時～24時」が13.3%となっている。

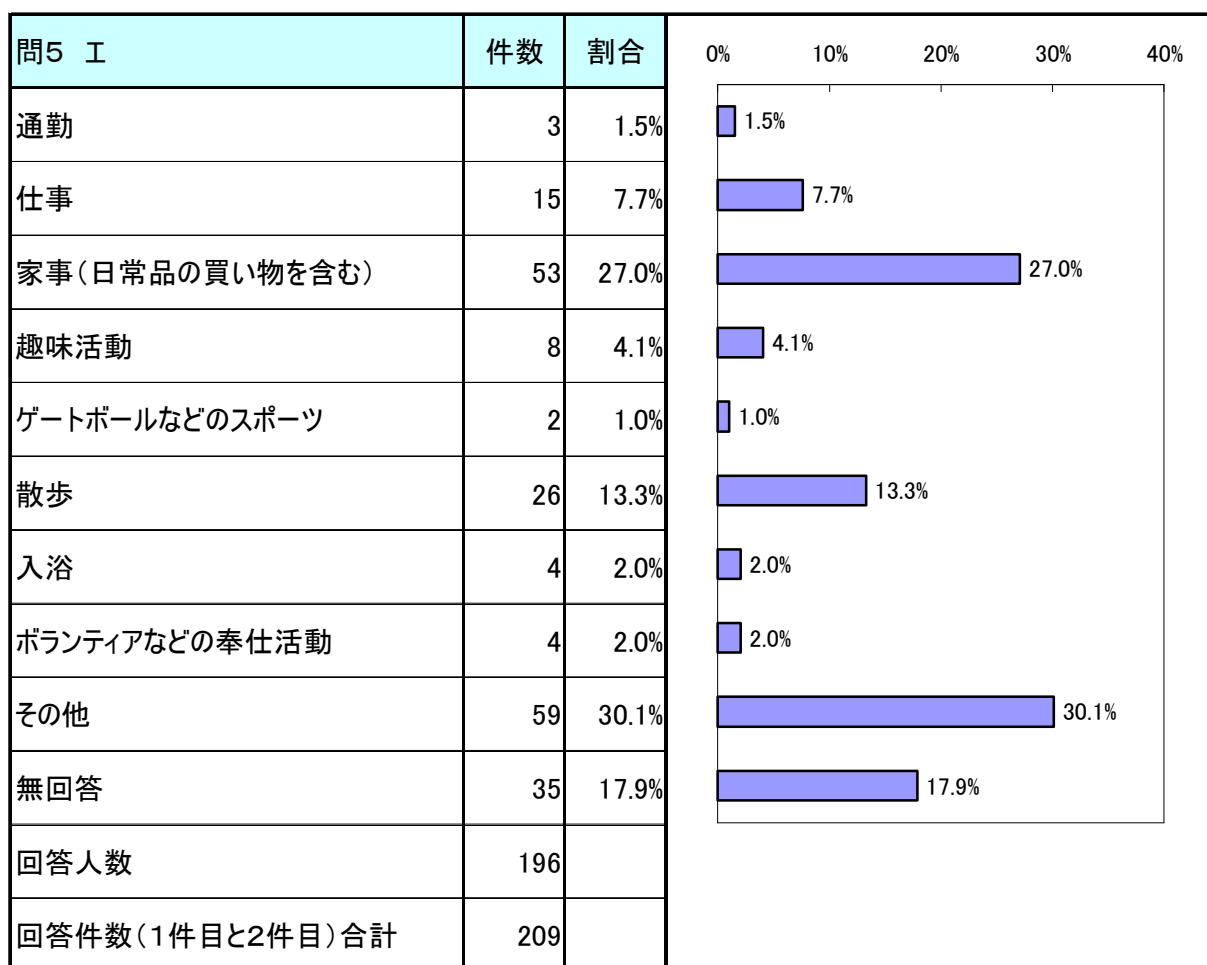


## 問5 ウ 事故やけがをしたときの天気



事故やけがをした時の天気については、「晴」が49.5%と最も多く、「曇」が19.9%、「雨」が11.2%となっている。

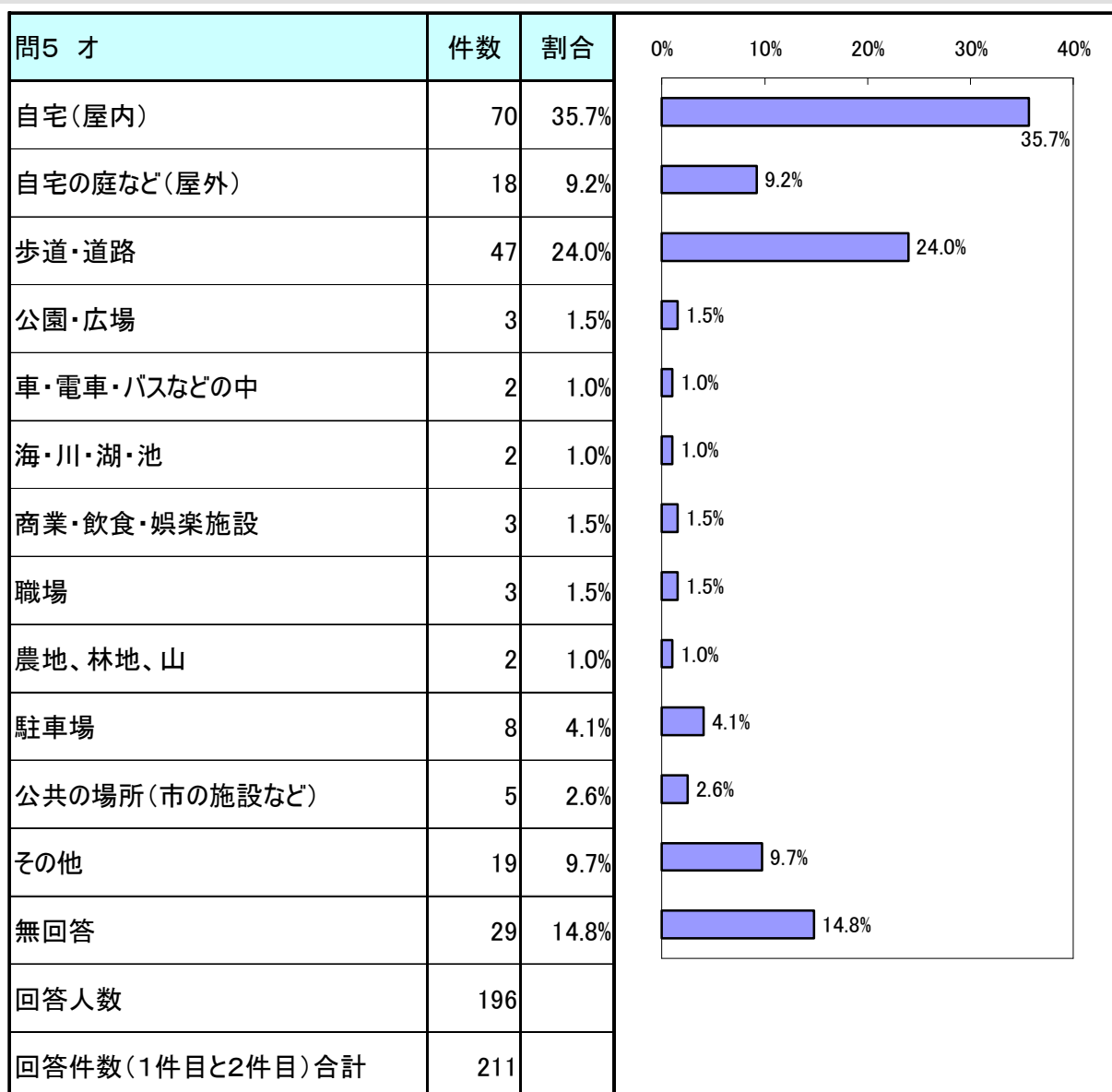
問5 エ 事故やけがをしたときの状況



事故やけがをした時の状況については、「家事(日常品の買い物を含む)」が27.0%、「散歩」が13.3%、「仕事」が7.7%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「食事中」、「畑作業」等が挙げられた。

## 問5 オ 事故やけがをした場所



事故やけがをした場所については、「自宅(屋内)」が35.7%と最も多く、「歩道・道路」が24.0%、「自宅の庭など(屋外)」が9.2%となっている。

問5 カ 事故やけがの種類

問5 カ	件数	割合
交通事故	20	10.2%
転倒	104	53.1%
転落	14	7.1%
おぼれた	0	0.0%
やけど(熱湯、アイロンなど)	7	3.6%
異物などの誤飲	0	0.0%
窒息(のどに食べ物をつまらせたなど)	0	0.0%
中毒(洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど)	0	0.0%
ドアなどに挟まった	1	0.5%
人や物との接触	11	5.6%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	2	1.0%
虫に刺された、動物に咬まれた	5	2.6%
物の落下	1	0.5%
暴力(けんか)によるけが	0	0.0%
その他	10	5.1%
無回答	34	17.3%
回答人数	196	
回答件数(1件目と2件目)合計	209	

事故やけがの種類については、「転倒」が 53.1%と最も多く、「交通事故」が 10.2%、「転落」が 7.1%となっている。

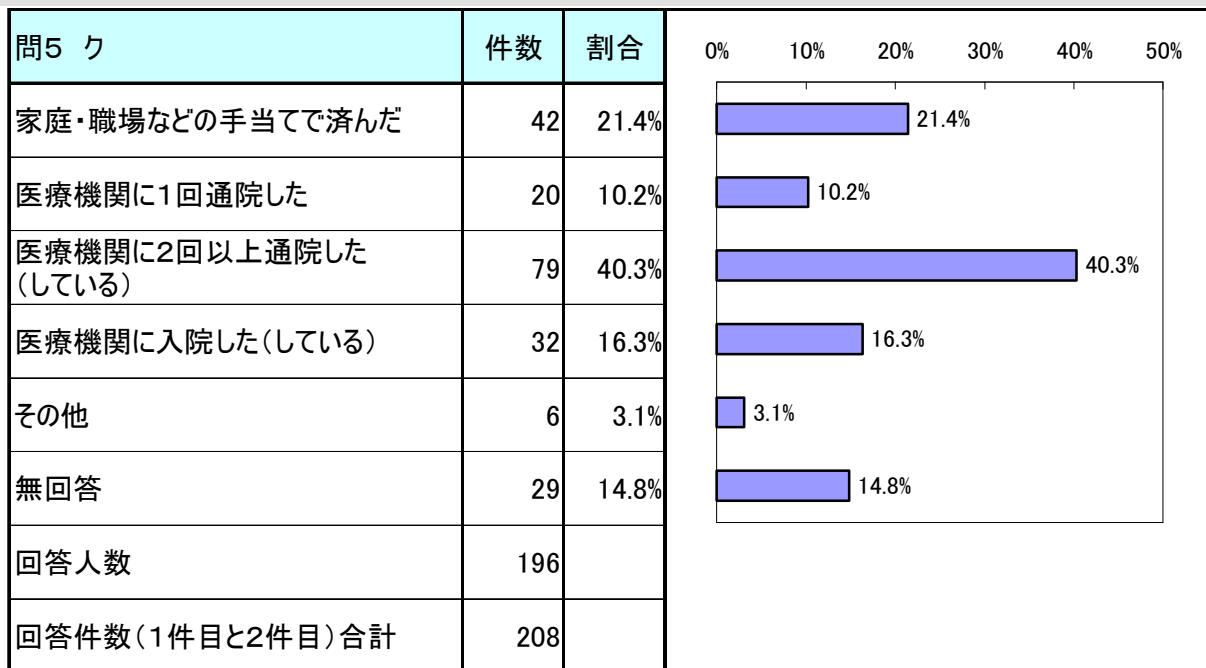
「その他」の具体的な内容としては、「重い物を持ち上げて腰を痛めた」等が挙げられた。

## 問5 キ けがの状況

問5 キ	件数	割合	
骨折・ひび	51	26.0%	26.0%
ねんざ・脱臼・突き指	19	9.7%	9.7%
打撲・うちみ	60	30.6%	30.6%
切り傷・刺し傷・すり傷	21	10.7%	10.7%
やけど	7	3.6%	3.6%
刺され傷・咬まれ傷	5	2.6%	2.6%
その他	14	7.1%	7.1%
無回答	30	15.3%	15.3%
回答人数	196		
回答件数(1件目と2件目)合計	207		

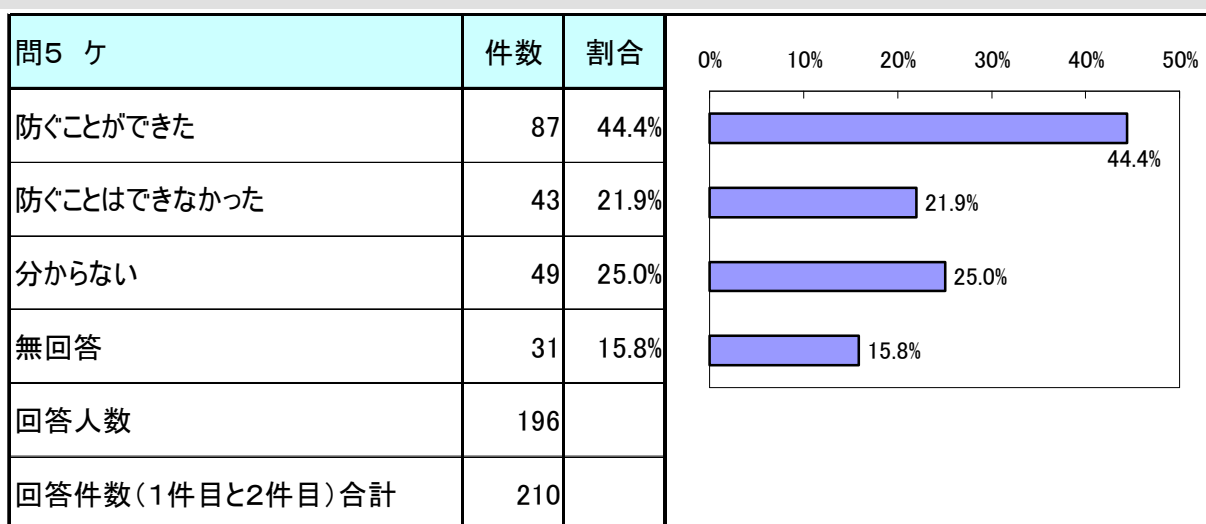
けがの状況については、「打撲・うちみ」が30.6%と最も多く、「骨折・ひび」が26.0%、「切り傷・刺し傷・すり傷」が10.7%となっている。

問5 ク 医療機関の受診



医療機関の受診については、「医療機関に2回以上通院した(している)」が40.3%と最も多く、次いで「家庭・職場などの手当てで済んだ」が21.4%、「医療機関に入院した(している)」が16.3%となっている。

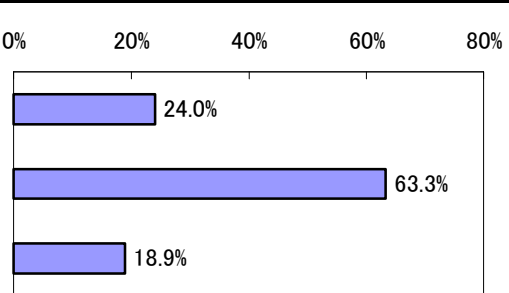
問5 ケ 未然に防ぐことができた可能性



未然に防ぐことができた可能性については、「防ぐことができた」が44.4%と最も多く、次いで「分からない」が25.0%、「防ぐことはできなかった」が21.9%となっている。

## 問5 コ 薬（風邪薬、鎮痛剤など）の服用状況

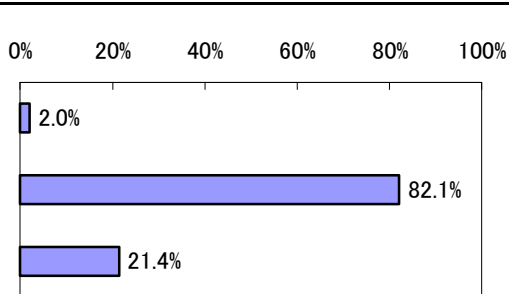
問5 コ	件数	割合
薬を飲んでいて	47	24.0%
薬は飲んでいない	124	63.3%
無回答	37	18.9%
回答人数	196	
回答件数(1件目と2件目)合計	208	



薬の服用状況については、「薬を飲んでいて」が24.0%、「薬は飲んでいない」が63.3%となっている。

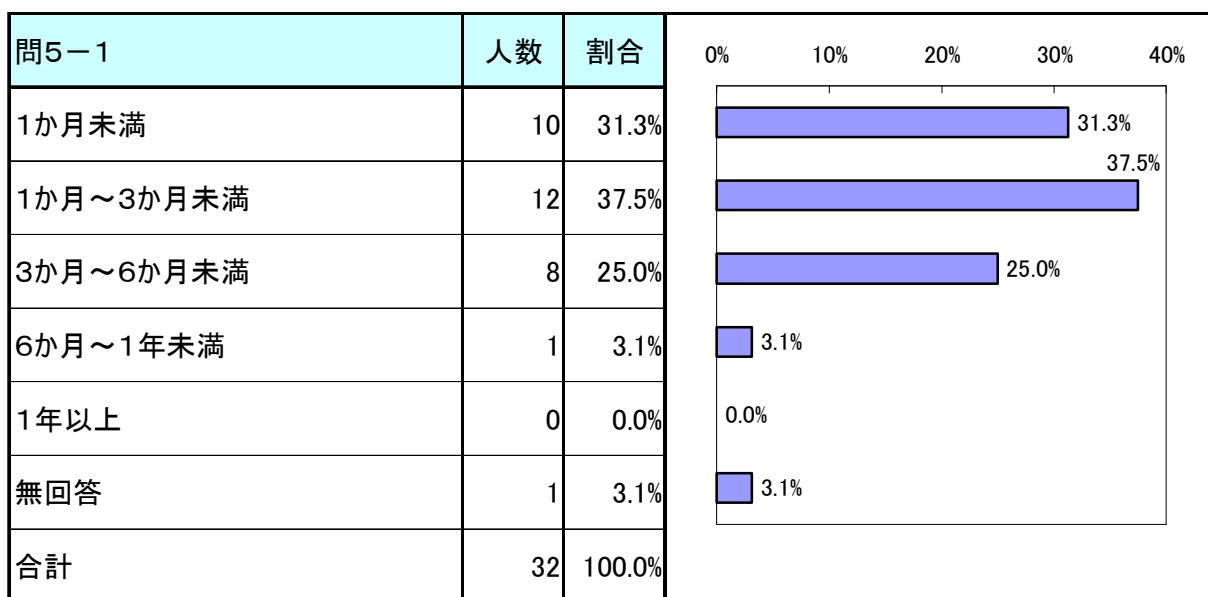
## 問5 サ 飲酒の有無

問5 サ	件数	割合
お酒を飲んでいて	4	2.0%
お酒は飲んでいない	161	82.1%
無回答	42	21.4%
回答人数	196	
回答件数(1件目と2件目)合計	207	



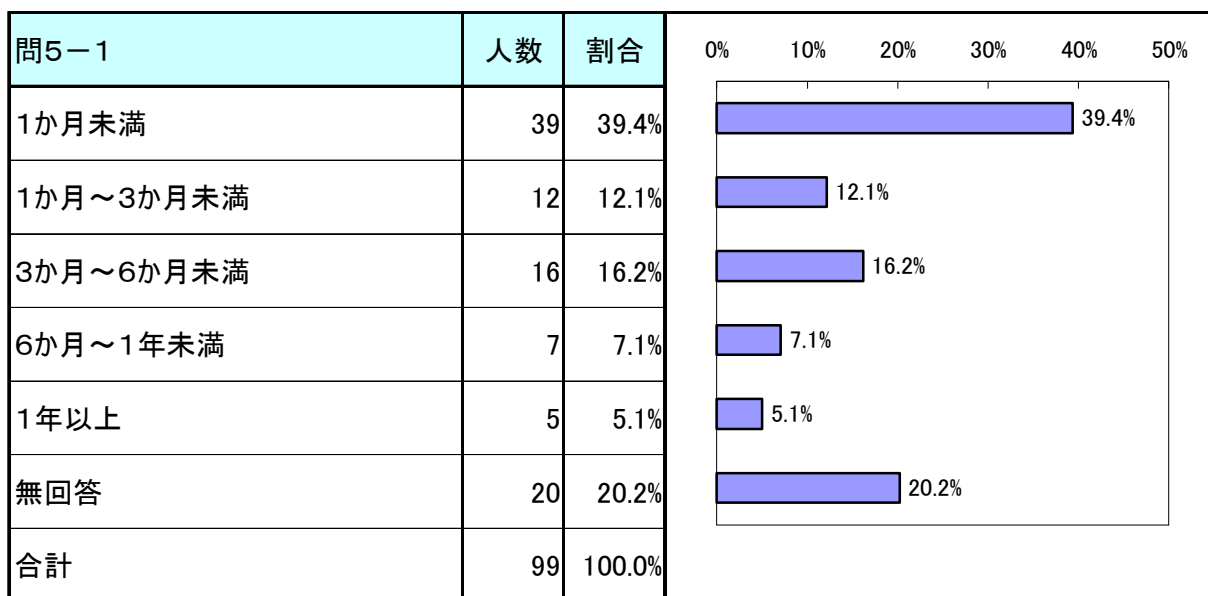
飲酒については、「お酒を飲んでいて」が2.0%、「お酒は飲んでいない」が82.1%となっている。

問5-1 医療機関にはどのくらい入院されました(されています)か。(ひとつに○)



入院については、「1か月～3か月未満」が37.5%と最も多く、次いで「1か月未満」が31.3%、「3か月～6か月未満」が25.0%となっている。

問5-1 医療機関にはどのくらい通院されました(されています)か。(ひとつに○)

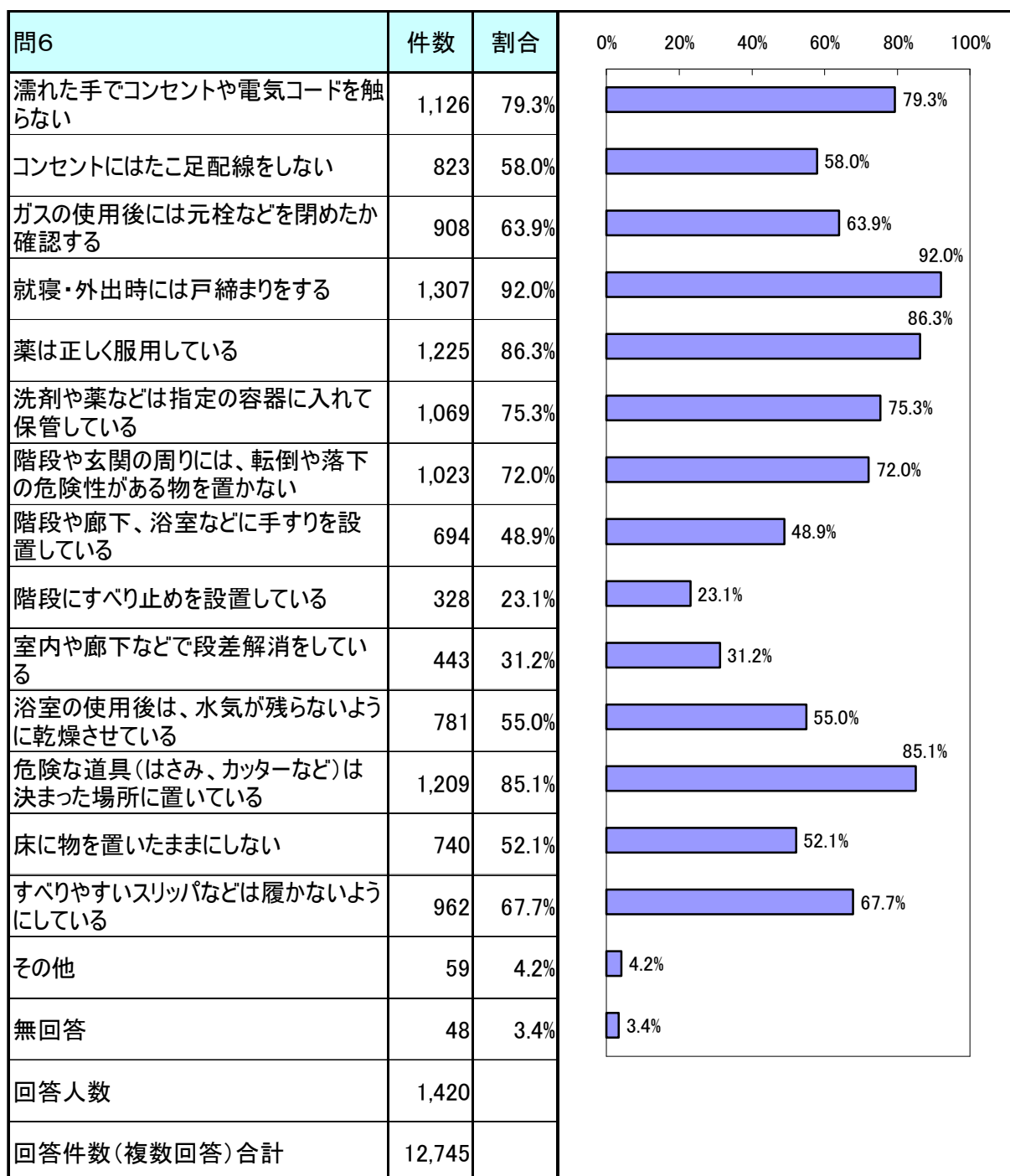


通院については、「1か月未満」が39.4%と最も多く、「3か月～6か月未満」が16.2%、「1か月～3か月未満」が12.1%となっている。



## 4 家庭の安全対策に関する考え方について

問6 あなたの家庭の安全対策に関して、実践しているものをご回答ください。  
(あてはまるものすべてに○)



家庭で実践している安全対策については、「就寝・外出時には戸締まりをする」が92.0%と最も多く、次いで「薬は正しく服用している」が86.3%、「危険な道具(はさみ、カッターなど)は決まった場所に置いている」が85.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「高いところに物を置かない」、「階段の段差に光るテープを貼っている」等が挙げられた。

【属性別特徴】

性別では、女の「すべりやすいスリッパなどは履かないようにしている」が74.7%で、男の61.8%に比べて高くなっている。また、女の「階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない」が76.3%で、男の68.4%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「階段や廊下、浴室などに手すりを設置している」が55.0%で、65歳～74歳の44.6%に比べて高くなっている。また、75歳以上の「ガスの使用後は元栓などを閉めたか確認する」が66.9%で、65歳～74歳の60.5%に比べてやや高くなっている。

問6	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
濡れた手でコンセントや電気コードを触らない	1,126	79.3%	568	77.0%	550	82.0%	582	80.1%	500	79.2%
コンセントにはたこ足配線をしない	823	58.0%	414	56.1%	402	59.9%	427	58.7%	364	57.7%
ガスの使用後は元栓などを閉めたか確認する	908	63.9%	453	61.4%	449	66.9%	440	60.5%	422	66.9%
就寝・外出時には戸締まりをする	1,307	92.0%	682	92.4%	616	91.8%	684	94.1%	572	90.6%
薬は正しく服用している	1,225	86.3%	638	86.4%	579	86.3%	628	86.4%	549	87.0%
洗剤や薬などは指定の容器に入れて保管している	1,069	75.3%	529	71.7%	534	79.6%	546	75.1%	482	76.4%
階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない	1,023	72.0%	505	68.4%	512	76.3%	523	71.9%	460	72.9%
階段や廊下、浴室などに手すりを設置している	694	48.9%	364	49.3%	327	48.7%	324	44.6%	347	55.0%
階段にすべり止めを設置している	328	23.1%	178	24.1%	148	22.1%	152	20.9%	162	25.7%
室内や廊下などで段差解消をしている	443	31.2%	210	28.5%	231	34.4%	215	29.6%	212	33.6%
浴室の使用後は、水気が残らないように乾燥させている	781	55.0%	405	54.9%	371	55.3%	416	57.2%	331	52.5%
危険な道具(はさみ、カッターなど)は決まった場所に置いている	1,209	85.1%	607	82.2%	594	88.5%	634	87.2%	526	83.4%
床に物を置いたままにしない	740	52.1%	363	49.2%	372	55.4%	367	50.5%	341	54.0%
すべりやすいスリッパなどは履かないようにしている	962	67.7%	456	61.8%	501	74.7%	482	66.3%	445	70.5%
その他	59	4.2%	32	4.3%	27	4.0%	28	3.9%	30	4.8%
無回答	48	3.4%	25	3.4%	21	3.1%	15	2.1%	25	4.0%
回答人数	1,420		738		671		727		631	
回答件数(複数回答)合計	12,745		6,429		6,234		6,463		5,768	

問7 防災、防犯、事故防止などに関する情報を掲載した冊子「わが家の安心安全ガイドブック」を平成24年3月に各世帯に配付しておりますがご存知ですか。  
(ひとつに○)

問7	人数	割合	
知っている	780	54.9%	
知らない	477	33.6%	
無回答	163	11.5%	
合計	1,420	100.0%	

「わが家の安心安全ガイドブック」の認知度については、「知っている」が54.9%、「知らない」が33.6%となっている。

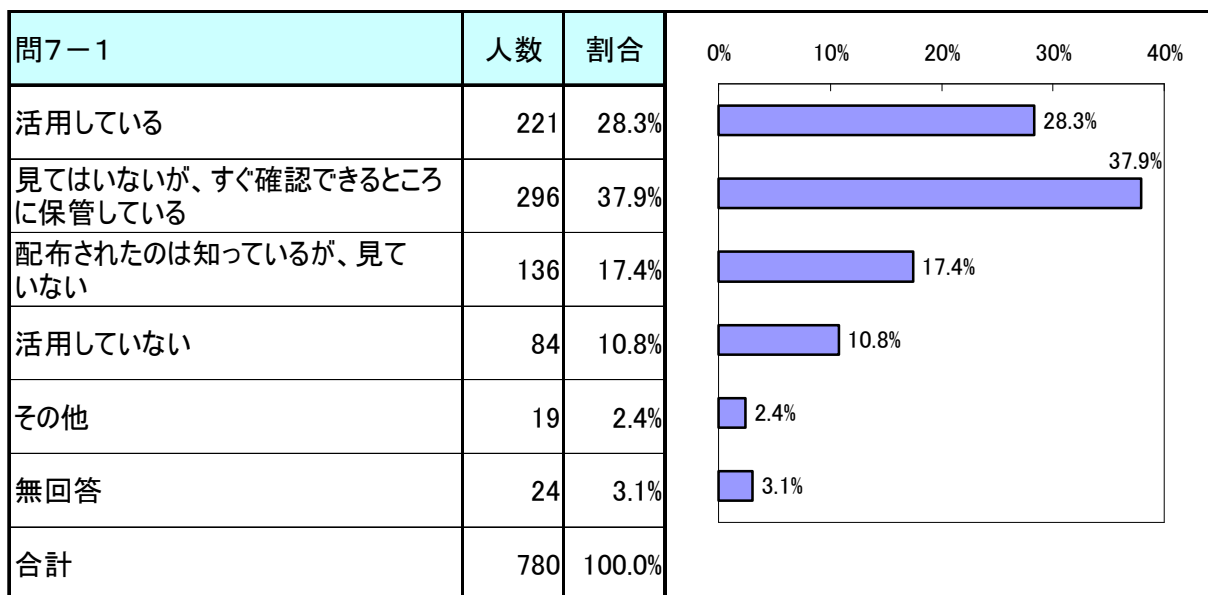
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「知っている」が57.9%で、75歳以上の52.1%に比べてやや高くなっている。

問7	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	780	54.9%	402	54.5%	376	56.0%	421	57.9%	329	52.1%
知らない	477	33.6%	264	35.8%	207	30.8%	235	32.3%	219	34.7%
無回答	163	11.5%	72	9.8%	88	13.1%	71	9.8%	83	13.2%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問7-1 「わが家の安心安全ガイドブック」を活用していますか。(ひとつに○)



「わが家の安心安全ガイドブック」の活用については、「見てはないが、すぐ活用できるところに保管している」が37.9%と最も多く、次いで「活用している」が28.3%、「配布されたのは知っているが、見ていない」が17.4%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「見て、すぐ確認できる所に保管している」等が挙げられた。

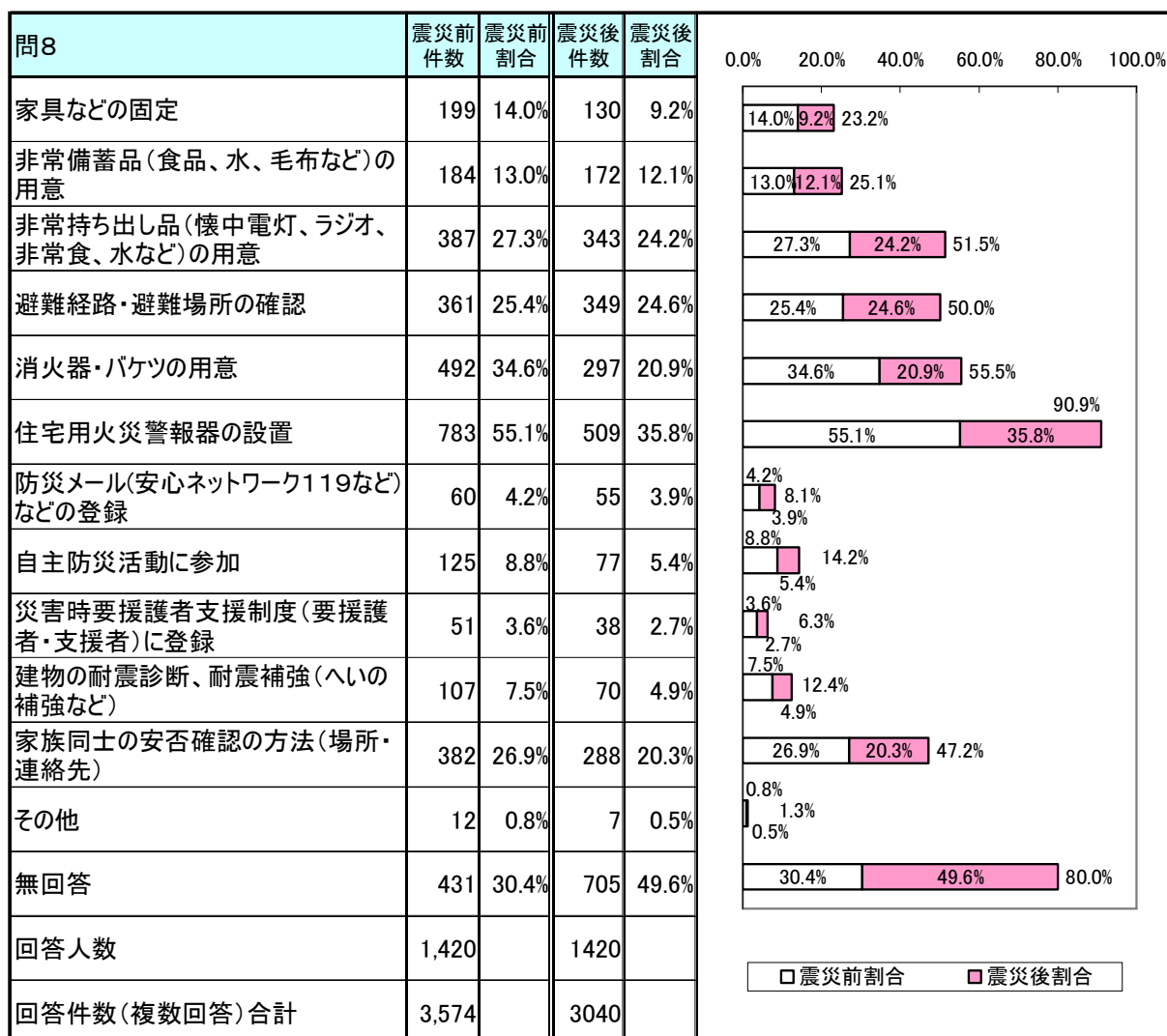
【属性別特徴】

性別では、女の「見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している」が43.4%で、男の32.8%に比べて高くなっている。また、男の「活用している」が32.6%で、女の23.7%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「活用している」が33.7%で、65歳～74歳の24.9%に比べてやや高くなっている。

問7-1	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
活用している	221	28.3%	131	32.6%	89	23.7%	105	24.9%	111	33.7%
見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している	296	37.9%	132	32.8%	163	43.4%	160	38.0%	121	36.8%
配布されたのは知っているが、見ていない	136	17.4%	77	19.2%	59	15.7%	82	19.5%	48	14.6%
活用していない	84	10.8%	37	9.2%	47	12.5%	50	11.9%	31	9.4%
その他	19	2.4%	8	2.0%	11	2.9%	13	3.1%	6	1.8%
無回答	24	3.1%	17	4.2%	7	1.9%	11	2.6%	12	3.6%
合計	780	100.0%	402	100.0%	376	100.0%	421	100.0%	329	100.0%

問8 あなたの家庭では、災害に備えて、東日本大震災の前はどのような対策をとっていましたか。また、東日本大震災後は新たにどのような対策をとっていますか。(あてはまるものすべてに○)



家庭での災害対策としては、設置が義務づけられた「住宅用火災警報器の設置」が震災前・後を通じて一番多くなっている。

その他の災害対策については、「避難経路・避難場所の確認」や「非常持ち出し品(懐中電灯、ラジオ、非常食、水など)の用意」が多くなっている。

また、「防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録」や「自主防災活動に参加」などについては、取組みの割合が低くなっている。

「震災前」

【属性別特徴】

性別では、男の「非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、非常食、水など）の用意」が30.5%で、女の23.4%に比べてやや高くなっている。また、男の「消火器・バケツの用意」が37.3%で、女の31.7%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問8 震災前	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家具などの固定	199	14.0%	121	16.4%	78	11.6%	102	14.0%	88	13.9%
非常備蓄品（食品、水、毛布など）の用意	184	13.0%	96	13.0%	86	12.8%	98	13.5%	79	12.5%
非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、非常食、水など）の用意	387	27.3%	225	30.5%	157	23.4%	199	27.4%	174	27.6%
避難経路・避難場所の確認	361	25.4%	196	26.6%	162	24.1%	185	25.4%	164	26.0%
消火器・バケツの用意	492	34.6%	275	37.3%	213	31.7%	266	36.6%	208	33.0%
住宅用火災警報器の設置	783	55.1%	426	57.7%	351	52.3%	418	57.5%	333	52.8%
防災メール（安心ネットワーク119など）などの登録	60	4.2%	29	3.9%	31	4.6%	34	4.7%	23	3.6%
自主防災活動に参加	125	8.8%	77	10.4%	46	6.9%	64	8.8%	56	8.9%
災害時要援護者支援制度（要援護者・支援者）に登録	51	3.6%	30	4.1%	21	3.1%	21	2.9%	30	4.8%
建物の耐震診断、耐震補強（へいの補強など）	107	7.5%	60	8.1%	46	6.9%	55	7.6%	48	7.6%
家族同士の安否確認の方法（場所・連絡先）	382	26.9%	199	27.0%	180	26.8%	185	25.4%	180	28.5%
その他	12	0.8%	7	0.9%	5	0.7%	3	0.4%	8	1.3%
無回答	431	30.4%	211	28.6%	215	32.0%	194	26.7%	210	33.3%
回答人数	1,420		738		671		727		631	
回答件数（複数回答）合計	3,574		1,952		1,591		1,824		1,601	

## 「震災後」

## 【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「住宅用火災警報器の設置」が39.1%で、75歳以上の32.6%に比べてやや高くなっている。また、65歳～74歳の「非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、非常食、水など）の用意」が27.4%で、75歳以上の21.1%に比べてやや高くなっている。

問8 震災後	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家具などの固定	130	9.2%	82	11.1%	47	7.0%	73	10.0%	51	8.1%
非常備蓄品（食品、水、毛布など）の用意	172	12.1%	77	10.4%	94	14.0%	105	14.4%	59	9.4%
非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、非常食、水など）の用意	343	24.2%	181	24.5%	160	23.8%	199	27.4%	133	21.1%
避難経路・避難場所の確認	349	24.6%	175	23.7%	173	25.8%	199	27.4%	140	22.2%
消火器・バケツの用意	297	20.9%	161	21.8%	134	20.0%	162	22.3%	119	18.9%
住宅用火災警報器の設置	509	35.8%	259	35.1%	249	37.1%	284	39.1%	206	32.6%
防災メール（安心ネットワーク119など）などの登録	55	3.9%	28	3.8%	26	3.9%	36	5.0%	15	2.4%
自主防災活動に参加	77	5.4%	45	6.1%	32	4.8%	47	6.5%	28	4.4%
災害時要援護者支援制度（要援護者・支援者）に登録	38	2.7%	20	2.7%	17	2.5%	21	2.9%	16	2.5%
建物の耐震診断、耐震補強（へいの補強など）	70	4.9%	38	5.1%	32	4.8%	40	5.5%	29	4.6%
家族同士の安否確認の方法（場所・連絡先）	288	20.3%	144	19.5%	143	21.3%	159	21.9%	116	18.4%
その他	7	0.5%	3	0.4%	3	0.4%	3	0.4%	3	0.5%
無回答	705	49.6%	375	50.8%	323	48.1%	319	43.9%	351	55.6%
回答人数	1,420		738		671		727		631	
回答件数（複数回答）合計	3,040		1,588		1,433		1,647		1,266	

問9 その他、ご家族で「事故やけが」を防止するために、工夫していることなどありましたら、ご記入ください。

【事故やけが防止の工夫(主な項目)】

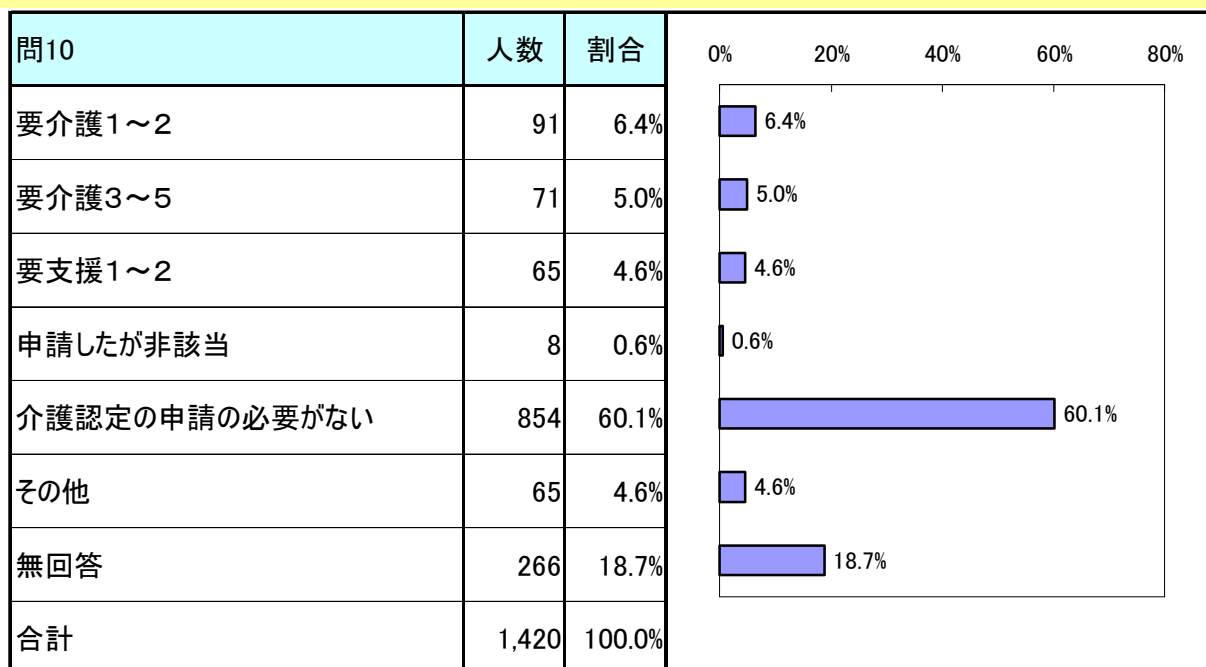
項目	具体例
注意喚起	・家族に注意を呼びかける。
	・常に気を付けて行動する。
	・何事も落ち着いて行動する。
	・交通安全を守る。
環境改善	・玄関・トイレ・浴室・廊下・ベッドなどに手すりを設置。
	・玄関の縁側に高さがあるため踏台を設置。
	・床に物を置かない。(特に滑りやすいもの)
	・刃物・薬品などの管理保管に注意している。
体力・健康づくり	・転倒防止のため体操(ストレッチ)をしている。
	・早寝早起など、規則正しい生活を心掛けている。
	・毎日歩いている。
交通安全	・右側通行で歩道を歩く。
	・安全運転を心がける。
	・遠くても横断歩道を利用する。
コンセント、ガス等に対する注意	・ガスをつけている時は離れない。
	・使わないコンセントを抜く。

事故やけが防止の工夫については、「家族に注意を呼びかける」、「常に気を付けて行動する」などの『注意喚起』に関することや、「玄関・トイレ・浴室・廊下・ベッドなどに手すりを設置」、「玄関の縁側に高さがあるため踏台を設置」などの『環境改善』に関することや、「転倒防止のため体操(ストレッチ)をしている」、「早寝早起など、規則正しい生活を心掛けている」などの『体力・健康づくり』に関することなどが挙げられた。



## 5 日常生活について

問10 あなたは、介護保険の介護認定を受けていますか。(ひとつに○)



介護認定については、「介護認定の申請の必要がない」が60.1%と最も多く、「要介護1～2」が6.4%、「要介護3～5」が5.0%となっている。

【属性別特徴】

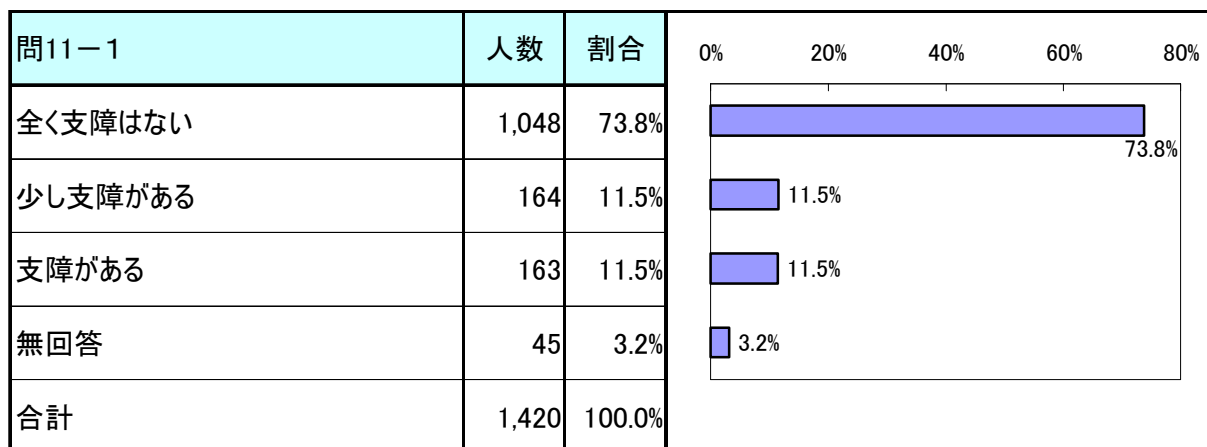
性別では、女の「要介護1～2」と「要介護3～5」と「要支援1～2」の合計が20.4%で、男の合計の12.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「要介護1～2」と「要介護3～5」と「要支援1～2」の合計が29.8%で、65歳～74歳の合計の4.7%に比べて高くなっている。

問10	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
要介護1～2	91	6.4%	36	4.9%	55	8.2%	12	1.7%	77	12.2%
要介護3～5	71	5.0%	28	3.8%	43	6.4%	13	1.8%	56	8.9%
要支援1～2	65	4.6%	26	3.5%	39	5.8%	9	1.2%	55	8.7%
申請したが非該当	8	0.6%	6	0.8%	2	0.3%	3	0.4%	5	0.8%
介護認定の申請の必要がない	854	60.1%	482	65.3%	368	54.8%	531	73.0%	294	46.6%
その他	65	4.6%	32	4.3%	32	4.8%	32	4.4%	29	4.6%
無回答	266	18.7%	128	17.3%	132	19.7%	127	17.5%	115	18.2%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問 11 あなたの普段の日常生活にかかわる動作についてお聞きします。次の問 11-1～問 11-12 の動作について、支障なく行うことができますか。

問 11-1 一人での外出（ひとつに○）



一人での外出については「全く支障はない」が 73.8%と最も多く、次いで「少し支障がある」と「支障がある」が 11.5%となっている。

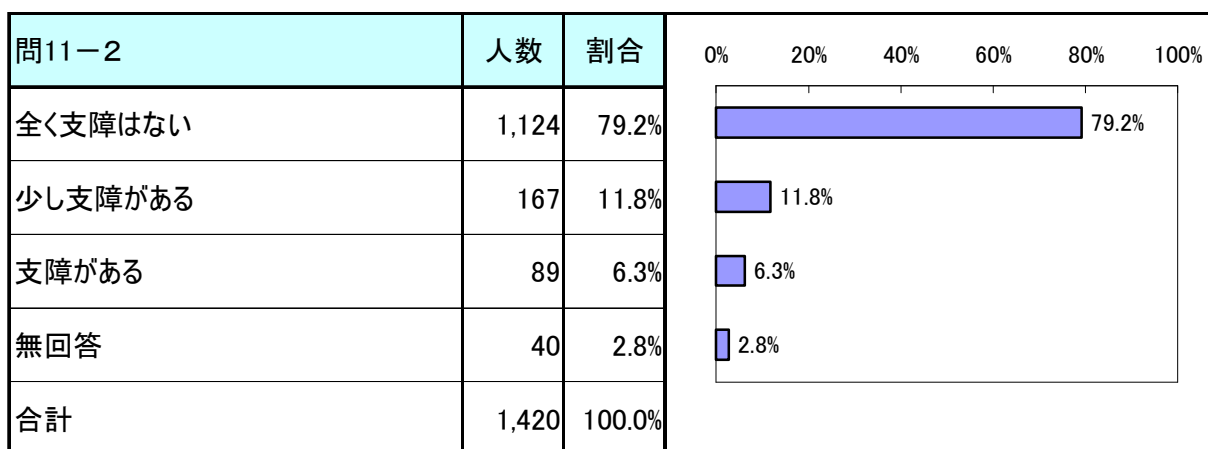
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が 29.0%で、男の合計の 18.0%に比べて高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が 38.2%で、65歳～74歳の合計の 10.2%に比べて高くなっている。

問11-1	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1,048	73.8%	584	79.1%	454	67.7%	640	88.0%	360	57.1%
少し支障がある	164	11.5%	69	9.3%	95	14.2%	42	5.8%	118	18.7%
支障がある	163	11.5%	64	8.7%	99	14.8%	32	4.4%	123	19.5%
無回答	45	3.2%	21	2.8%	23	3.4%	13	1.8%	30	4.8%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-2 室内歩行（ひとつに○）



室内歩行については、「全く支障はない」が79.2%と最も多く、次いで「少し支障がある」が11.8%、「支障がある」が6.3%となっている。

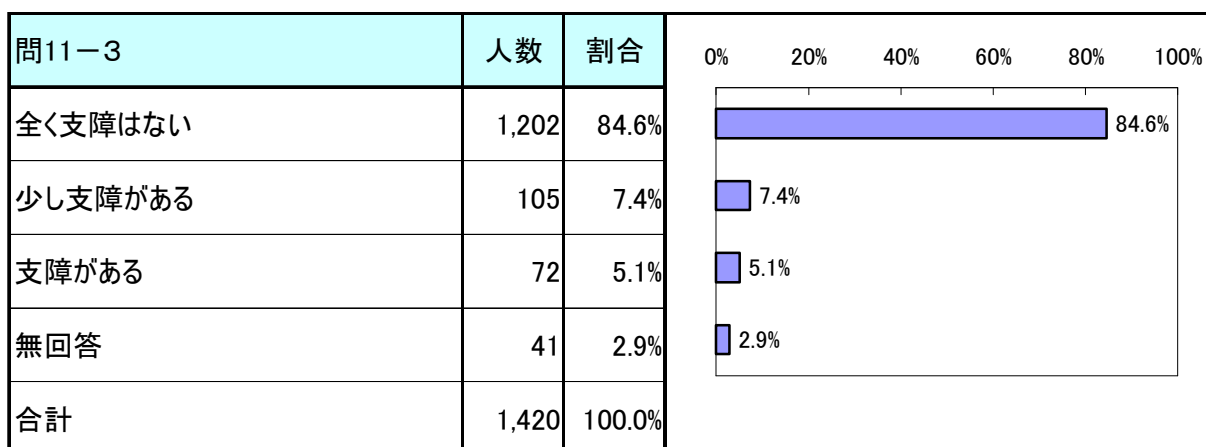
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が22.9%で、男の合計の13.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が29.3%で、65歳～74歳の合計の8.7%に比べて高くなっている。

問11-2	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1,124	79.2%	618	83.7%	496	73.9%	650	89.4%	423	67.0%
少し支障がある	167	11.8%	67	9.1%	100	14.9%	43	5.9%	117	18.5%
支障がある	89	6.3%	35	4.7%	54	8.0%	20	2.8%	68	10.8%
無回答	40	2.8%	18	2.4%	21	3.1%	14	1.9%	23	3.6%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-3 トイレの利用（ひとつに○）



トイレの利用については、「全く支障はない」が84.6%と最も多く、次いで「少し支障がある」が7.4%、「支障がある」が5.1%となっている。

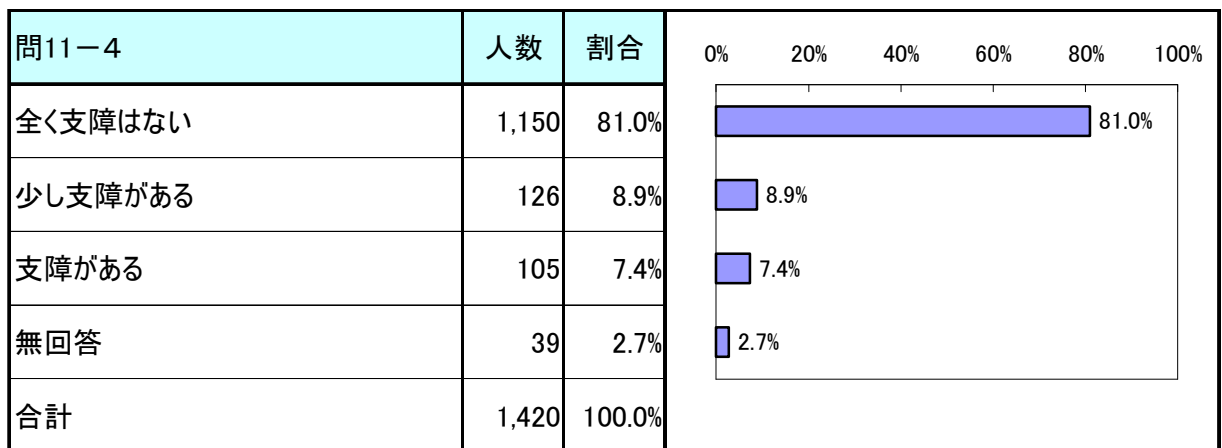
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が20.0%で、65歳～74歳の合計の5.9%に比べて高くなっている。

問11-3	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1,202	84.6%	643	87.1%	549	81.8%	669	92.0%	483	76.5%
少し支障がある	105	7.4%	48	6.5%	57	8.5%	25	3.4%	73	11.6%
支障がある	72	5.1%	30	4.1%	42	6.3%	18	2.5%	53	8.4%
無回答	41	2.9%	17	2.3%	23	3.4%	15	2.1%	22	3.5%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-4 入浴（ひとつに○）



入浴については、「全く支障はない」が81.0%と最も多く、次いで「少し支障がある」が8.9%、「支障がある」が7.4%となっている。

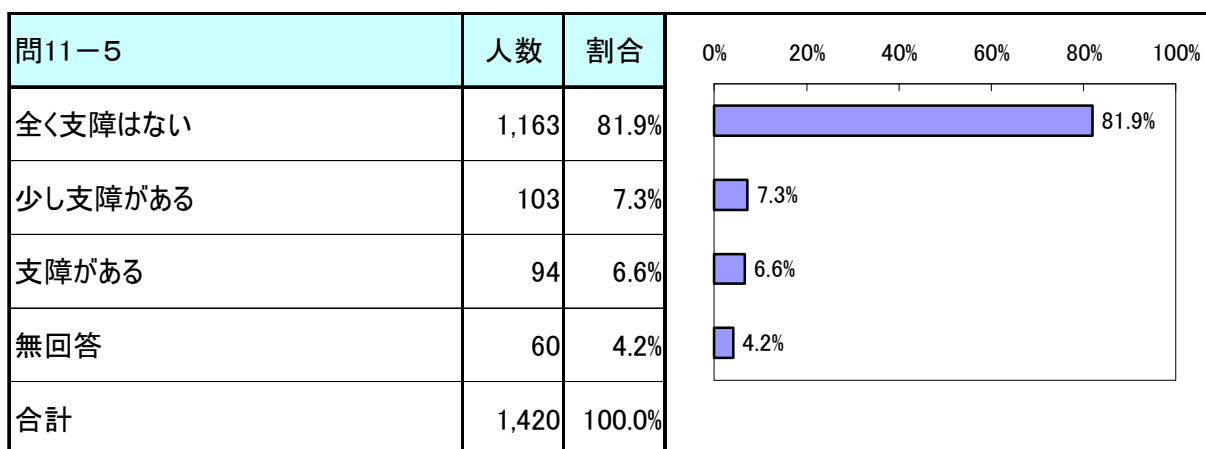
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が20.8%で、男の合計の12.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が26.5%で、65歳～74歳の合計の7.6%に比べて高くなっている。

問11-4	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1,150	81.0%	628	85.1%	512	76.3%	659	90.6%	441	69.9%
少し支障がある	126	8.9%	52	7.0%	74	11.0%	34	4.7%	87	13.8%
支障がある	105	7.4%	39	5.3%	66	9.8%	21	2.9%	80	12.7%
無回答	39	2.7%	19	2.6%	19	2.8%	13	1.8%	23	3.6%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-5 シャワー（ひとつに○）



シャワーについては「全く支障はない」が81.9%と最も多く、次いで「少し支障がある」が7.3%、「支障がある」が6.6%となっている。

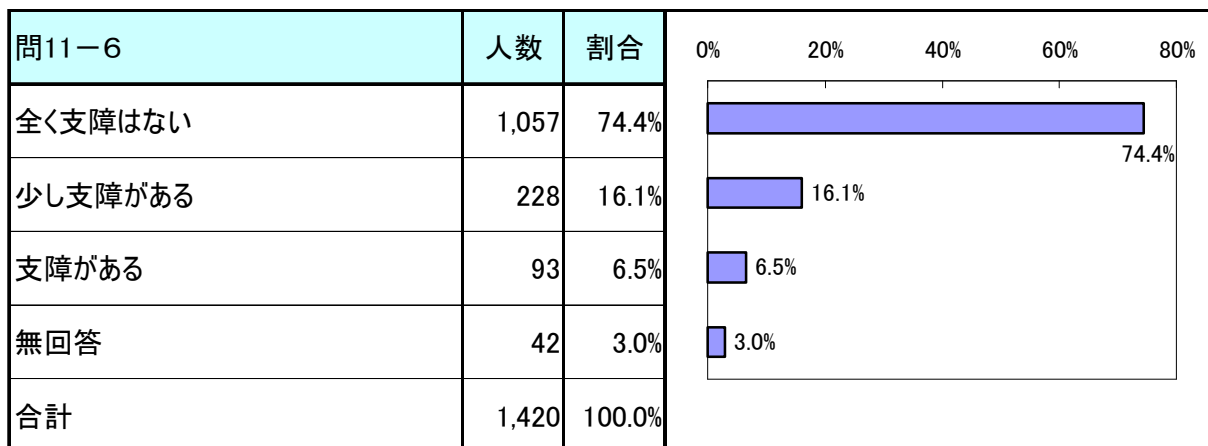
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が17.7%で、男の合計の10.6%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が23.0%で、65歳～74歳の合計の6.4%に比べて高くなっている。

問11-5	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1,163	81.9%	633	85.8%	520	77.5%	665	91.5%	446	70.7%
少し支障がある	103	7.3%	42	5.7%	61	9.1%	26	3.6%	73	11.6%
支障がある	94	6.6%	36	4.9%	58	8.6%	20	2.8%	72	11.4%
無回答	60	4.2%	27	3.7%	32	4.8%	16	2.2%	40	6.3%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-6 椅子からの立ち上がり（ひとつに○）



椅子からの立ち上がりについては「全く支障はない」が74.4%と最も多く、次いで「少し支障がある」が16.1%、「支障がある」が6.5%となっている。

【属性別特徴】

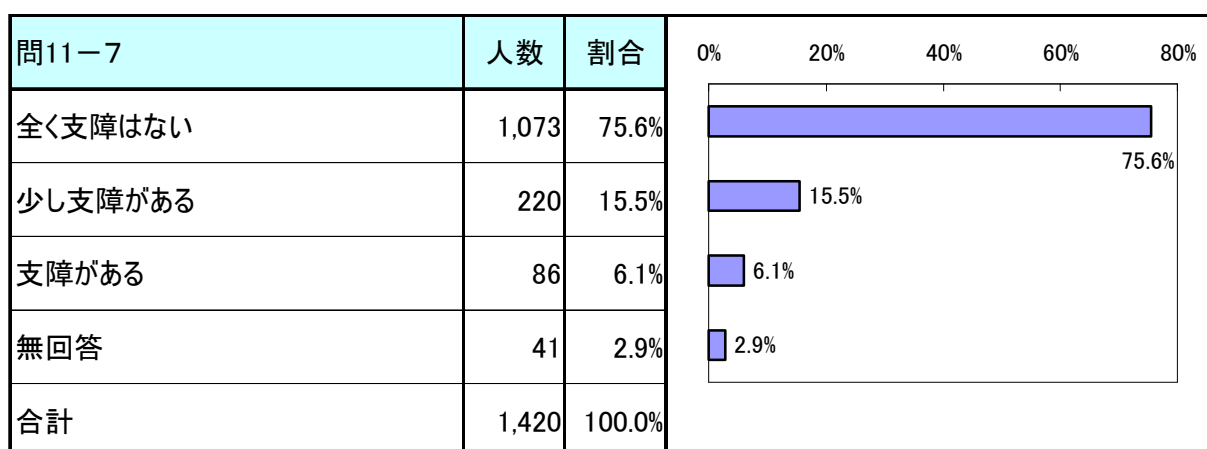
性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が28.1%で、男の合計の17.6%に比べて高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が35.5%で、65歳～74歳の合計の11.6%に比べて高くなっている。

問11-6	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1,057	74.4%	589	79.8%	460	68.6%	629	86.5%	383	60.7%
少し支障がある	228	16.1%	93	12.6%	133	19.8%	61	8.4%	157	24.9%
支障がある	93	6.5%	37	5.0%	56	8.3%	23	3.2%	67	10.6%
無回答	42	3.0%	19	2.6%	22	3.3%	14	1.9%	24	3.8%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%



問11-7 布団（ベッド）からの起き上がり（ひとつに○）



布団（ベッド）からの起き上がりについては「全く支障はない」が75.6%と最も多く、次いで「少し支障がある」が15.5%、「支障がある」が6.1%となっている。

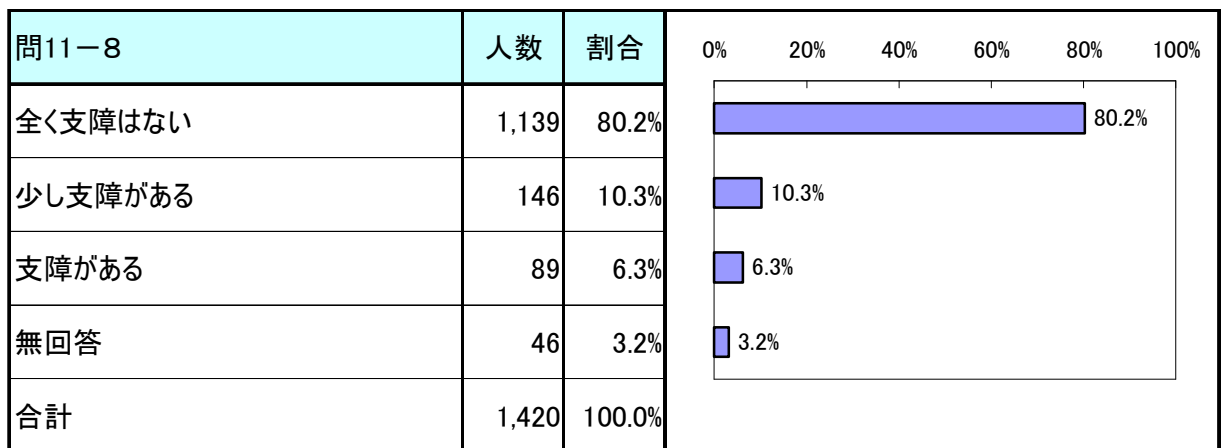
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が25.4%で、男の合計の18.0%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が33.9%で、65歳～74歳の合計の10.9%に比べて高くなっている。

問11-7	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1,073	75.6%	586	79.4%	479	71.4%	633	87.1%	394	62.4%
少し支障がある	220	15.5%	99	13.4%	119	17.7%	58	8.0%	153	24.2%
支障がある	86	6.1%	34	4.6%	52	7.7%	21	2.9%	61	9.7%
無回答	41	2.9%	19	2.6%	21	3.1%	15	2.1%	23	3.6%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-8 食器棚の中の物をとる（ひとつに○）



食器棚の中の物をとることについては、「全く支障はない」が80.2%と最も多く、次いで「少し支障がある」が10.3%、「支障がある」が6.3%となっている。

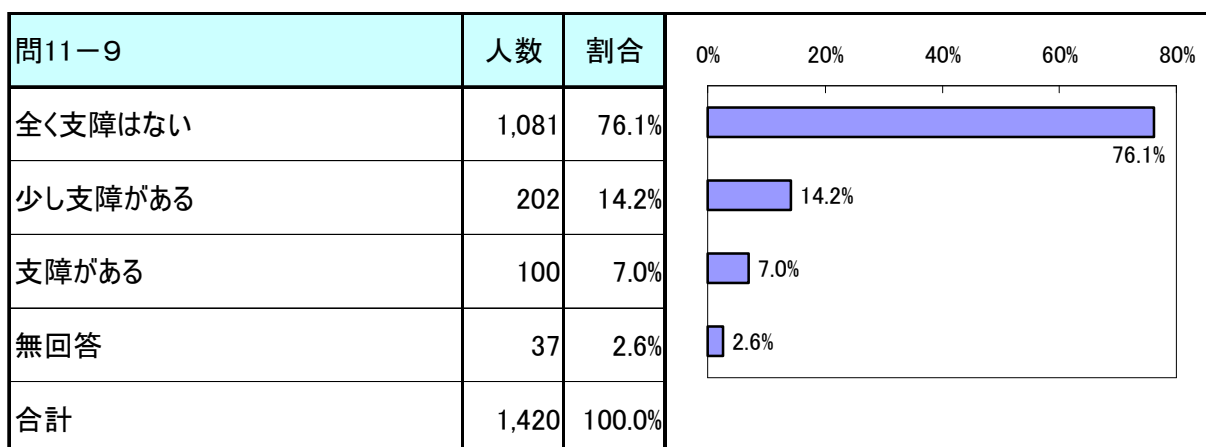
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が20.8%で、男の合計の12.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が27.6%で、65歳～74歳の合計の7.1%に比べて高くなっている。

問11-8	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1,139	80.2%	622	84.3%	507	75.6%	661	90.9%	429	68.0%
少し支障がある	146	10.3%	60	8.1%	86	12.8%	33	4.5%	107	17.0%
支障がある	89	6.3%	35	4.7%	54	8.0%	19	2.6%	67	10.6%
無回答	46	3.2%	21	2.8%	24	3.6%	14	1.9%	28	4.4%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-9 床に落ちた物を拾う（ひとつに○）



床に落ちた物を拾うについては、「全く支障はない」が76.1%と最も多く、次いで「少し支障がある」が14.2%、「支障がある」が7.0%となっている。

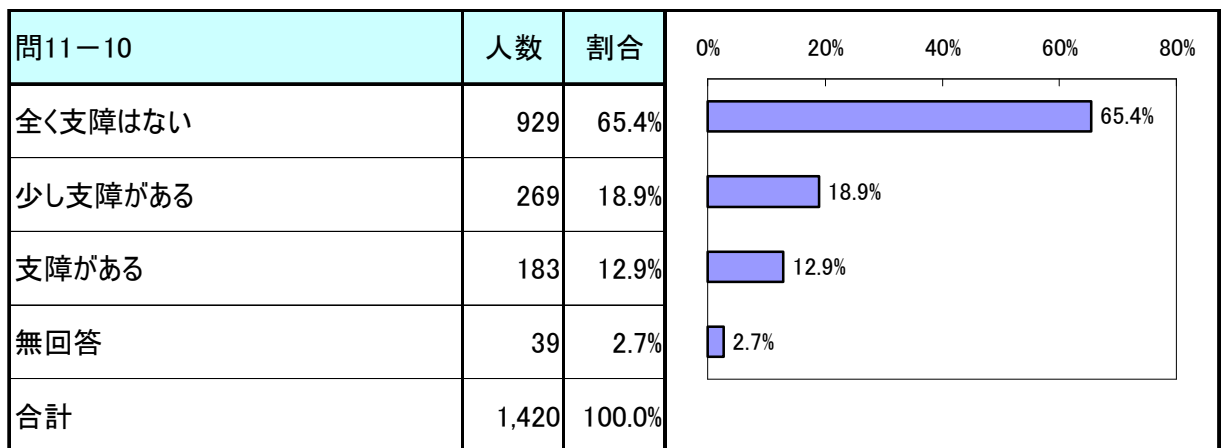
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が26.0%で、男の合計の16.9%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が33.4%で、65歳～74歳の合計の11.0%に比べて高くなっている。

問11-9	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1,081	76.1%	596	80.8%	477	71.1%	635	87.3%	398	63.1%
少し支障がある	202	14.2%	83	11.2%	117	17.4%	58	8.0%	137	21.7%
支障がある	100	7.0%	42	5.7%	58	8.6%	22	3.0%	74	11.7%
無回答	37	2.6%	17	2.3%	19	2.8%	12	1.7%	22	3.5%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-10 階段を上る（ひとつに○）



階段を上るについては、「全く支障はない」が65.4%と最も多く、次いで「少し支障がある」が18.9%、「支障がある」が12.9%となっている。

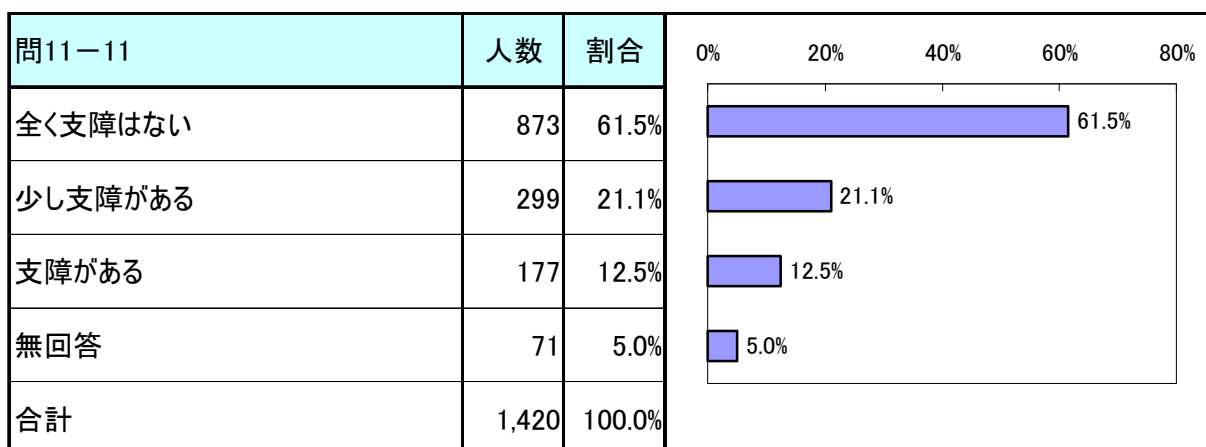
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が38.7%で、男の合計の25.6%に比べて高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が49.1%で、65歳～74歳の合計の17.2%に比べて非常に高くなっている。

問11-10	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	929	65.4%	530	71.8%	392	58.4%	588	80.9%	299	47.4%
少し支障がある	269	18.9%	121	16.4%	145	21.6%	89	12.2%	170	26.9%
支障がある	183	12.9%	68	9.2%	115	17.1%	36	5.0%	140	22.2%
無回答	39	2.7%	19	2.6%	19	2.8%	14	1.9%	22	3.5%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-11 階段を下りる（ひとつに○）



階段を下りるについては、「全く支障はない」が61.5%と最も多く、次いで「少し支障がある」が21.1%、「支障がある」が12.5%となっている。

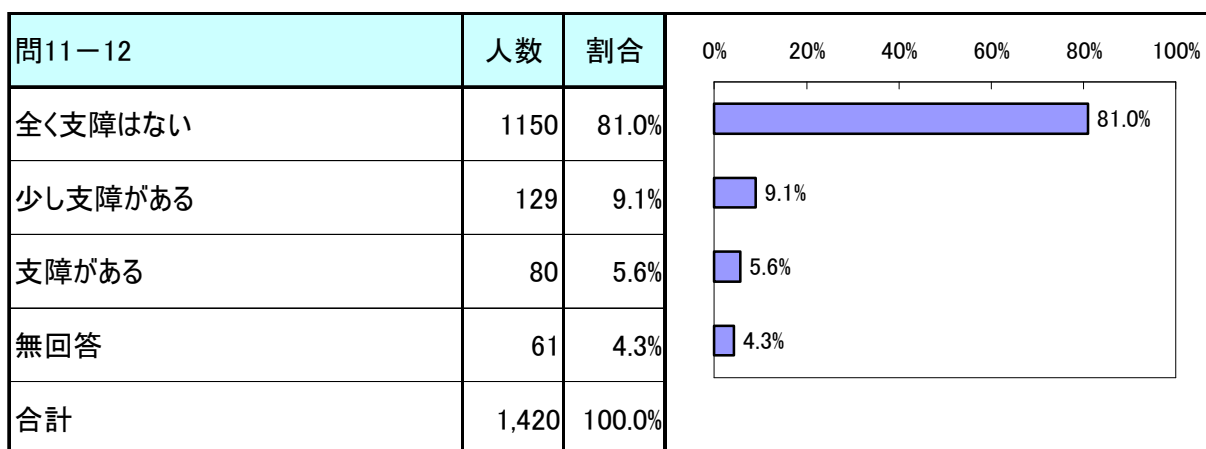
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が42.7%で、男の合計の25.3%に比べて高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が50.3%で、65歳～74歳の合計の19.4%に比べて非常に高くなっている。

問11-11	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	873	61.5%	513	69.5%	352	52.5%	561	77.2%	271	42.9%
少し支障がある	299	21.1%	125	16.9%	172	25.6%	107	14.7%	181	28.7%
支障がある	177	12.5%	62	8.4%	115	17.1%	34	4.7%	136	21.6%
無回答	71	5.0%	38	5.1%	32	4.8%	25	3.4%	43	6.8%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問11-12 一人での着替え（ひとつに○）



一人で着替えるについては、「全く支障はない」が81.0%と最も多く、次いで「少し支障がある」が9.1%、「支障がある」が5.6%となっている。

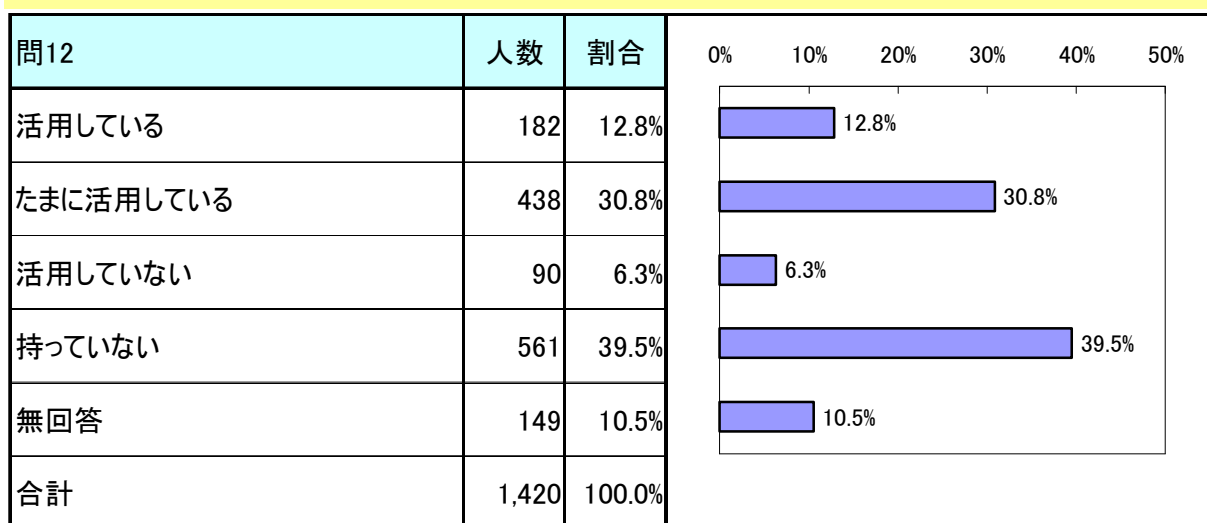
【属性別特徴】

性別では、女の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が18.6%で、男の合計の11.4%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計が24.2%で、65歳～74歳の合計の6.7%に比べて高くなっている。

問11-12	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全く支障はない	1150	81.0%	620	84.0%	520	77.5%	655	90.1%	444	70.4%
少し支障がある	129	9.1%	51	6.9%	78	11.6%	28	3.9%	96	15.2%
支障がある	80	5.6%	33	4.5%	47	7.0%	20	2.8%	57	9.0%
無回答	61	4.3%	34	4.6%	26	3.9%	24	3.3%	34	5.4%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問12 あなたは、夜間や薄暗いときの散歩などに、反射材がついたものを活用していますか。(ひとつに○)



反射材の活用については、「持っていない」が39.5%と最も多く、次いで「たまに活用している」が30.8%、「活用している」が12.8%となっている。

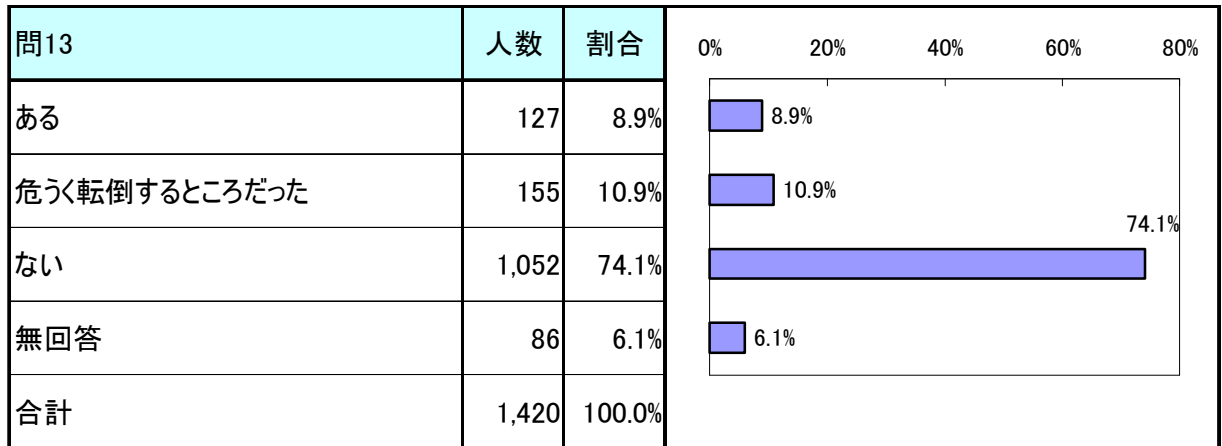
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「活用している」と「たまに活用している」の合計が47.4%で、75歳以上の合計の39.0%に比べてやや高くなっている。

問12	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
活用している	182	12.8%	98	13.3%	80	11.9%	102	14.0%	71	11.3%
たまに活用している	438	30.8%	230	31.2%	205	30.6%	243	33.4%	175	27.7%
活用していない	90	6.3%	57	7.7%	33	4.9%	43	5.9%	44	7.0%
持っていない	561	39.5%	288	39.0%	270	40.2%	283	38.9%	257	40.7%
無回答	149	10.5%	65	8.8%	83	12.4%	56	7.7%	84	13.3%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問13 あなたは、この1年間（平成23年8月～平成24年7月）に、自宅で転倒した経験はありますか。（ひとつに○）



1年間に自宅で転倒した経験については、「ない」が74.1%と最も多く、次いで「危うく転倒するところだった」が10.9%、「ある」が8.9%となっている。

【属性別特徴】

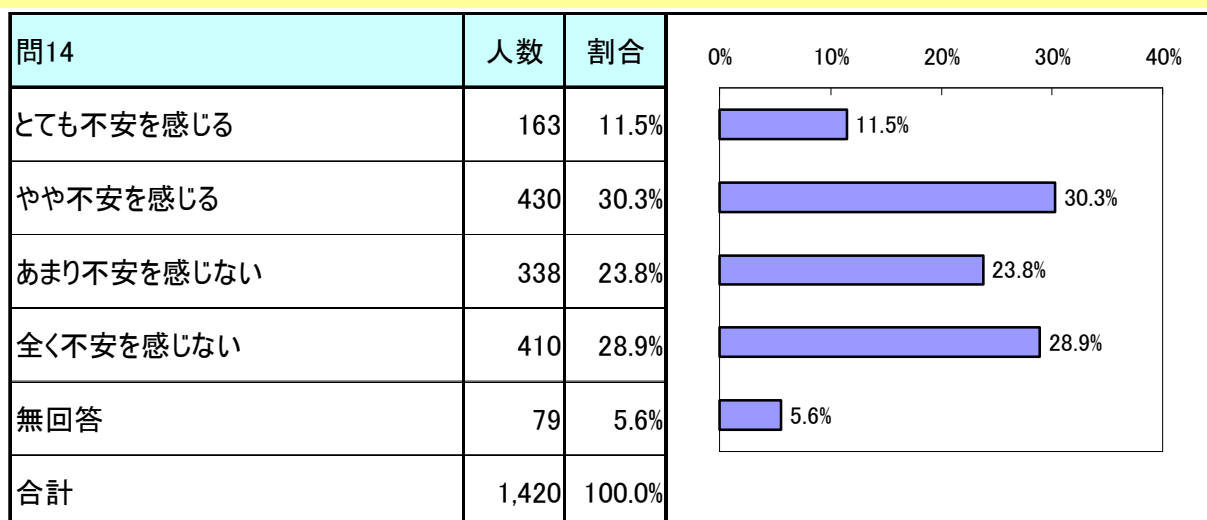
性別では、女の「ある」が11.9%で、男の6.4%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「ある」と「危うく転倒するところだった」の合計が23.8%で、65歳～74歳の合計の16.1%に比べてやや高くなっている。

問13	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	127	8.9%	47	6.4%	80	11.9%	50	6.9%	73	11.6%
危うく転倒するところだった	155	10.9%	78	10.6%	75	11.2%	67	9.2%	77	12.2%
ない	1,052	74.1%	565	76.6%	480	71.5%	574	79.0%	437	69.3%
無回答	86	6.1%	48	6.5%	36	5.4%	36	5.0%	44	7.0%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%



問14 あなたは、転倒（転ぶ・倒れる）に対する不安感がありますか。（ひとつに○）



転倒に対する不安感については、「やや不安を感じる」が30.3%と最も多く、次いで「全く不安を感じない」が28.9%、「あまり不安を感じない」が23.8%となっている。

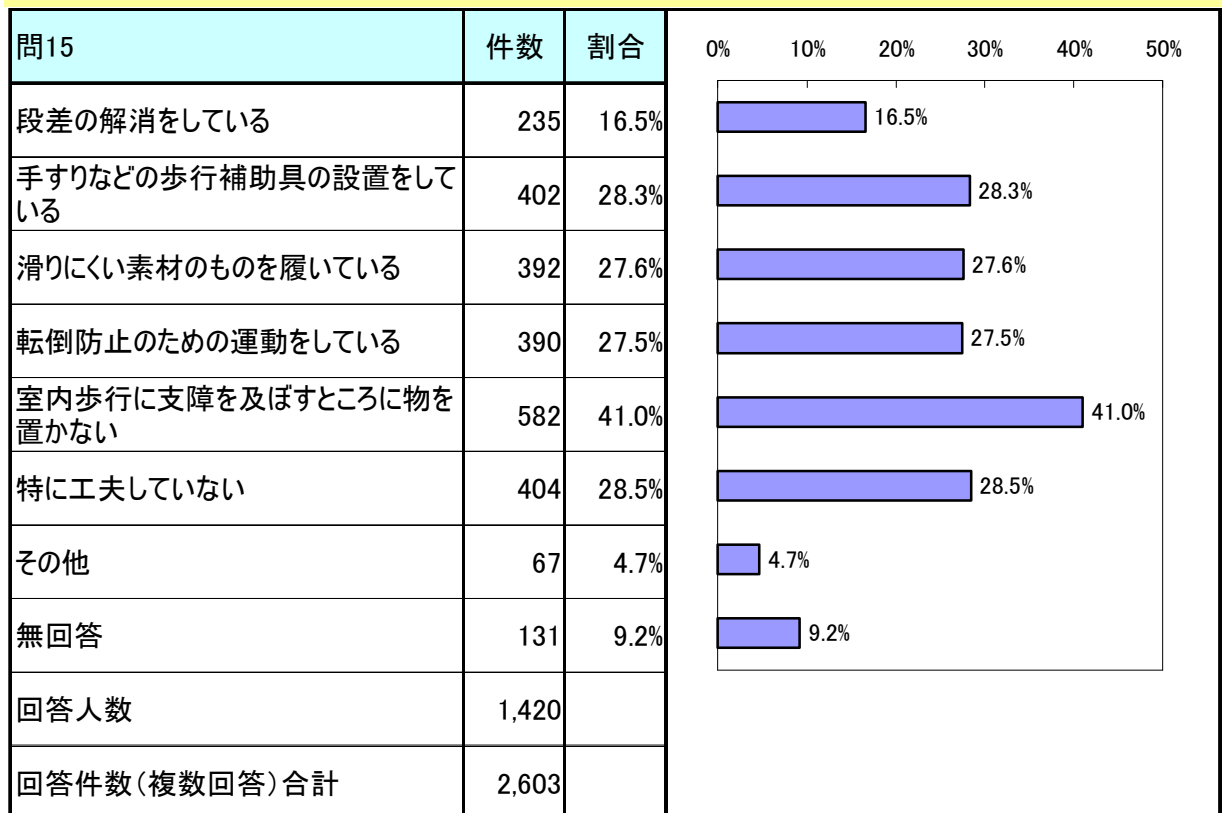
【属性別特徴】

性別では、女の「とても不安を感じる」と「やや不安を感じる」の合計が51.6%で、男の合計の33.3%に比べて高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「とても不安を感じる」と「やや不安を感じる」の合計が54.2%で、65歳～74歳の合計の31.1%に比べて高くなっている。

問14	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
とても不安を感じる	163	11.5%	49	6.6%	114	17.0%	50	6.9%	109	17.3%
やや不安を感じる	430	30.3%	197	26.7%	232	34.6%	176	24.2%	233	36.9%
あまり不安を感じない	338	23.8%	182	24.7%	152	22.7%	194	26.7%	131	20.8%
全く不安を感じない	410	28.9%	267	36.2%	138	20.6%	272	37.4%	119	18.9%
無回答	79	5.6%	43	5.8%	35	5.2%	35	4.8%	39	6.2%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問 15 あなたは、転倒防止のために、工夫していることがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)



転倒防止の工夫については、「室内歩行に支障を及ぼすところに物を置かない」が41.0%と最も多く、次いで「特に工夫していない」が28.5%、「手すりなどの歩行補助具の設置をしている」が28.3%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「階段に発光性テープを張っている」、「健康体操教室に行っている」等が挙げられた。

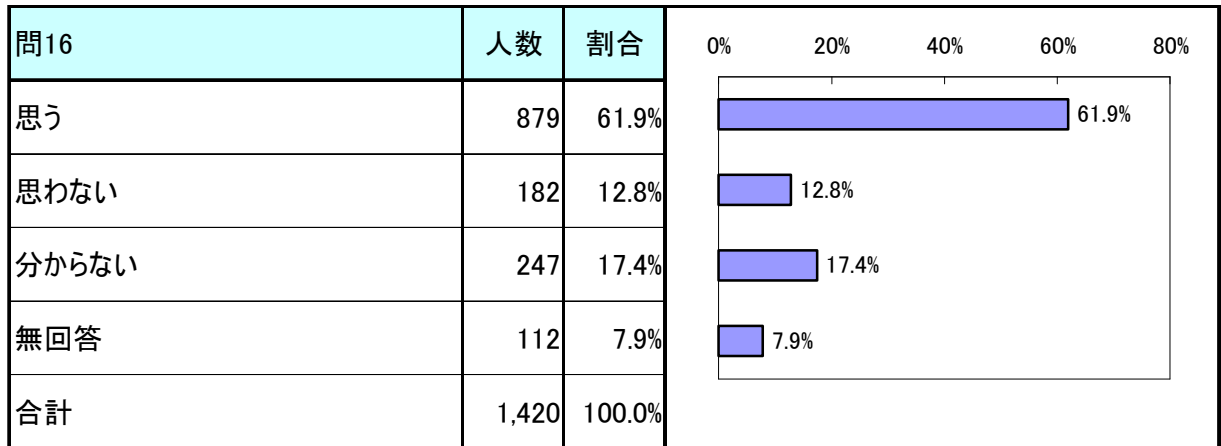
## 【属性別特徴】

性別では、男の「特に工夫していない」が34.3%で、女の21.9%に比べて高くなっている。

年齢別では、65歳～74歳の「特に工夫していない」が32.9%で、75歳以上の23.5%に比べてやや高くなっている。

問15	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
段差の解消をしている	235	16.5%	107	14.5%	126	18.8%	101	13.9%	129	20.4%
手すりなどの歩行補助具の設置をしている	402	28.3%	205	27.8%	196	29.2%	160	22.0%	227	36.0%
滑りにくい素材のものを履いている	392	27.6%	155	21.0%	233	34.7%	188	25.9%	191	30.3%
転倒防止のための運動をしている	390	27.5%	200	27.1%	188	28.0%	213	29.3%	166	26.3%
室内歩行に支障を及ぼすところに物を置かない	582	41.0%	273	37.0%	308	45.9%	283	38.9%	283	44.8%
特に工夫していない	404	28.5%	253	34.3%	147	21.9%	239	32.9%	148	23.5%
その他	67	4.7%	28	3.8%	39	5.8%	26	3.6%	36	5.7%
無回答	131	9.2%	69	9.3%	60	8.9%	60	8.3%	60	9.5%
回答人数	1,420		738		671		727		631	
回答件数(複数回答)合計	2,603		1,290		1,297		1,270		1,240	

問 16 あなたは、転倒する（あやうく転倒しそうになる）原因は運動不足にあると思いますか。（ひとつに○）



運動不足が転倒の原因と思うかについては、「思う」が61.9%と最も多く、次いで「分からない」が17.4%、「思わない」が12.8%となっている。

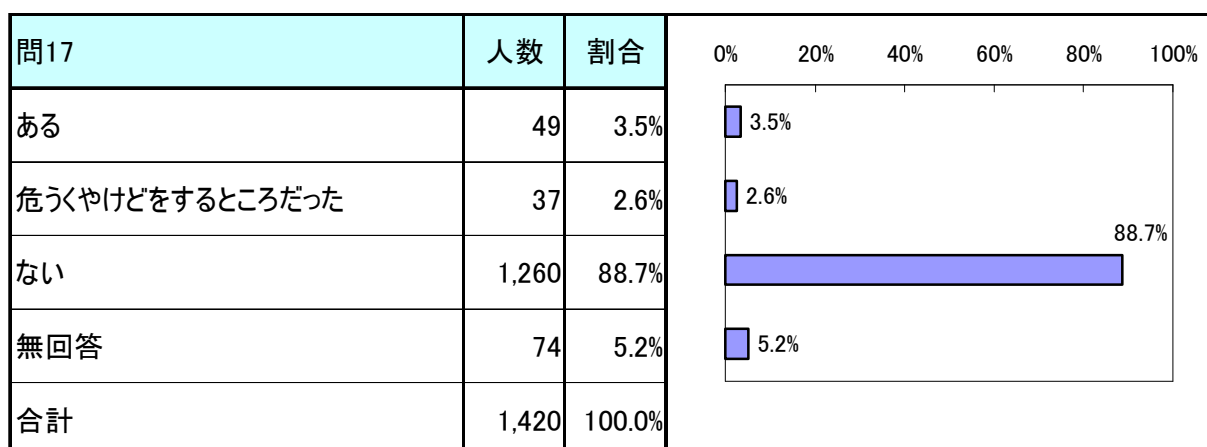
【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「思う」が66.3%で、75歳以上の58.8%に比べてやや高くなっている。

問16	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
思う	879	61.9%	466	63.1%	409	61.0%	482	66.3%	371	58.8%
思わない	182	12.8%	107	14.5%	72	10.7%	88	12.1%	86	13.6%
分からない	247	17.4%	110	14.9%	135	20.1%	115	15.8%	115	18.2%
無回答	112	7.9%	55	7.5%	55	8.2%	42	5.8%	59	9.4%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問17 あなたは、この1年間（平成23年8月～平成24年7月）に、自宅でやけどの経験がありますか。（ひとつに○）



1年間のやけどの経験については、「ない」が88.7%と最も多く、「ある」が3.5%、「危うくやけどをすところだった」が2.6%となっている。

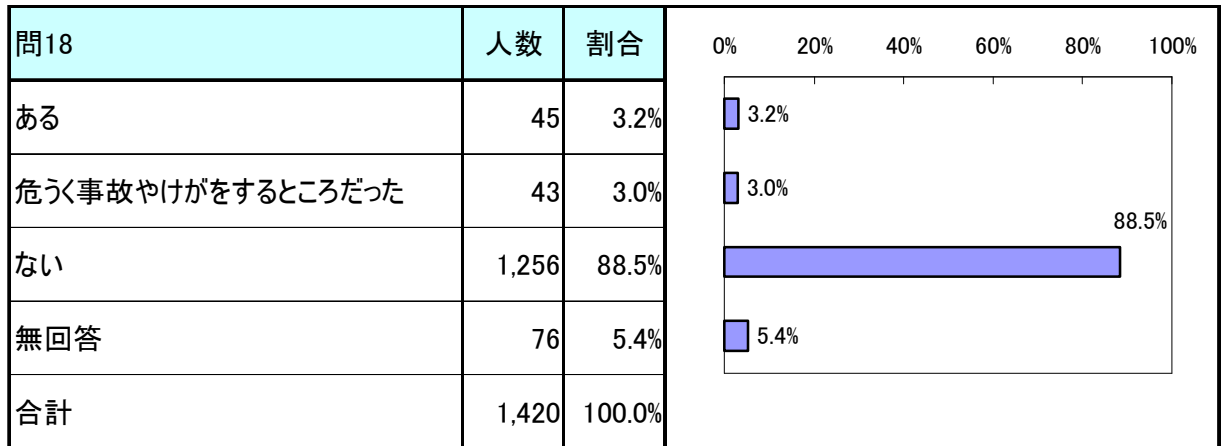
【属性別特徴】

性別では、女の「ある」と「危うくやけどをすところだった」の合計が8.5%で、男の合計の3.9%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問17	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	49	3.5%	20	2.7%	29	4.3%	25	3.4%	23	3.6%
危うくやけどをすところだった	37	2.6%	9	1.2%	28	4.2%	17	2.3%	18	2.9%
ない	1,260	88.7%	669	90.7%	582	86.7%	655	90.1%	553	87.6%
無回答	74	5.2%	40	5.4%	32	4.8%	30	4.1%	37	5.9%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問18 あなたは、この1年間（平成23年8月～平成24年7月）に、歩行中や自動車などに乗っているときに、事故やけがをした経験がありますか。（ひとつに○）



1年間の歩行中や自動車などの乗用中の事故・けがの経験については、「ない」が88.5%と最も多く、「ある」が3.2%、「危うく事故やけがをすところだった」が3.0%となっている。

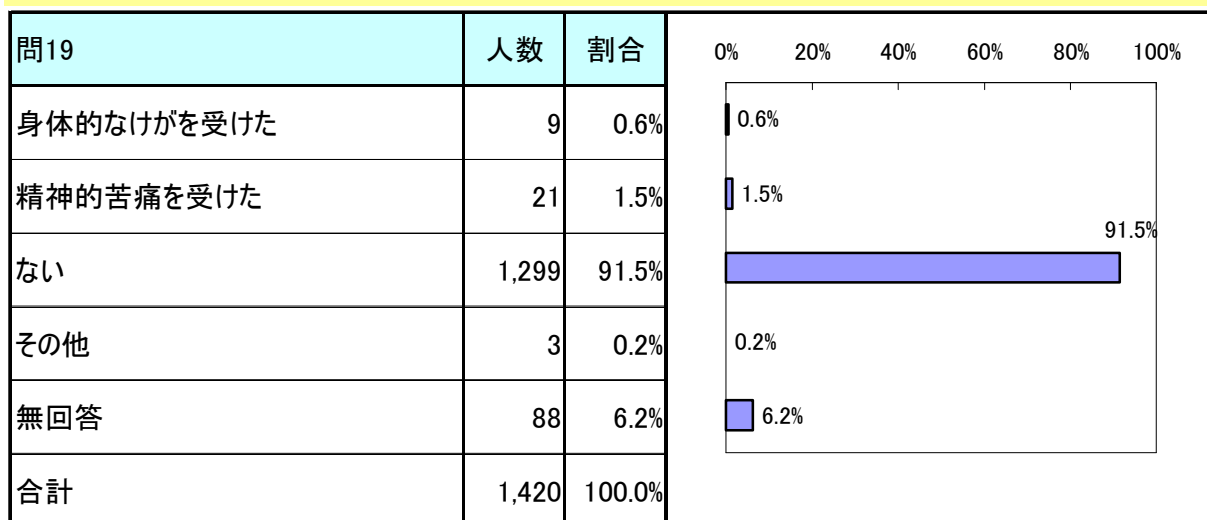
【属性別特徴】

性別・年齢別ともに、大きな違いはみられない。

問18	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	45	3.2%	23	3.1%	22	3.3%	19	2.6%	24	3.8%
危うく事故やけがをすところだった	43	3.0%	25	3.4%	17	2.5%	20	2.8%	21	3.3%
ない	1,256	88.5%	649	87.9%	598	89.1%	654	90.0%	549	87.0%
無回答	76	5.4%	41	5.6%	34	5.1%	34	4.7%	37	5.9%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

## 6 その他の事故やけがについて（犯罪・暴力・自殺）

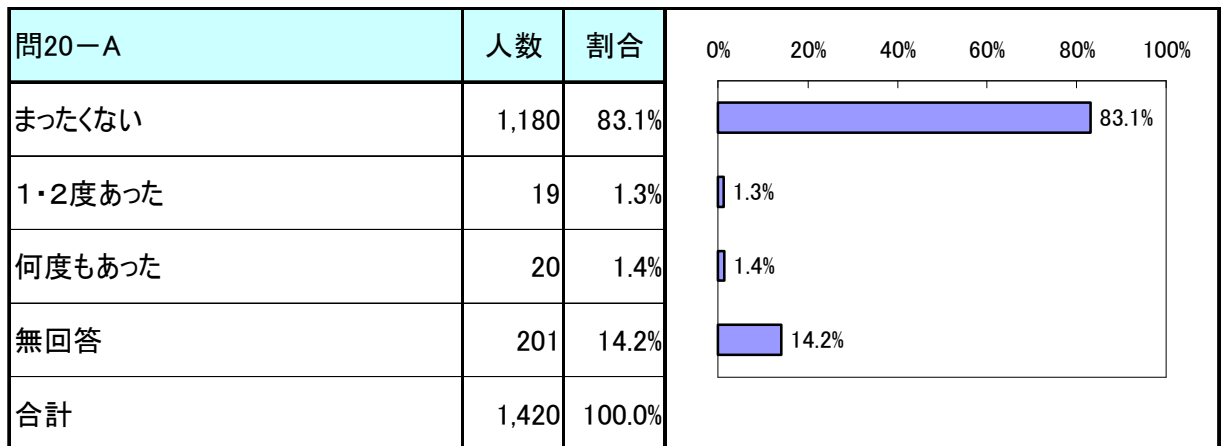
問19 あなたはこれまでに、犯罪による事故やけがの経験がありますか。（ひとつに○）



犯罪による事故やけがの経験については、「ない」が91.5%と最も多く、「精神的苦痛を受けた」が1.5%、「身体的なけがを受けた」が0.6%となっている。

問 20 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(ひとつに○)

問 20-A なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた。(ひとつに○)



身体に対する暴力を受けた経験については、「まったくない」が83.1%と最も多く、「何度もあった」が1.4%、「1・2度あった」が1.3%となっている。

【属性別特徴】

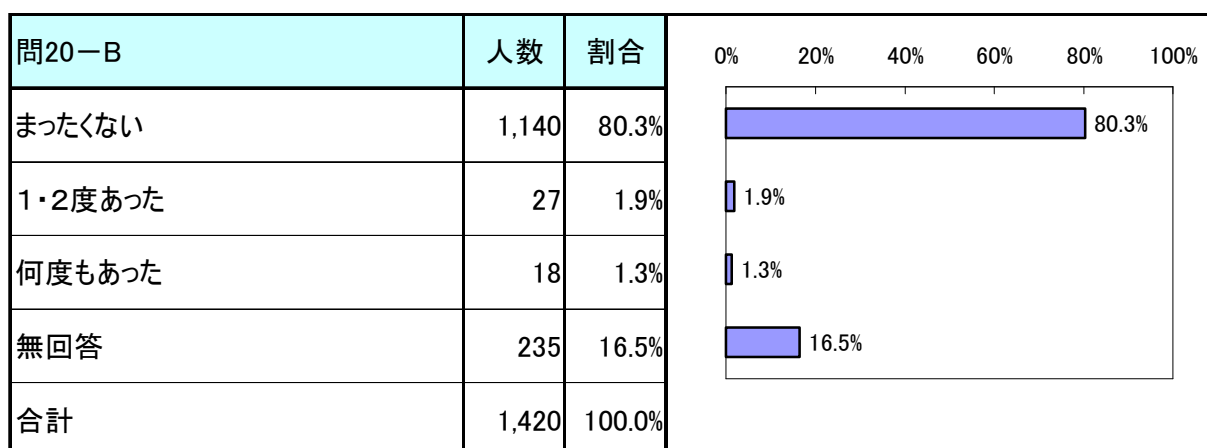
性別では、女の「1・2度あった」、「何度もあった」の割合が、男の割合に比べていずれも高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問20-A	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
まったくない	1,180	83.1%	638	86.4%	534	79.6%	629	86.5%	506	80.2%
1・2度あった	19	1.3%	5	0.7%	14	2.1%	9	1.2%	9	1.4%
何度もあった	20	1.4%	1	0.1%	18	2.7%	10	1.4%	7	1.1%
無回答	201	14.2%	94	12.7%	105	15.6%	79	10.9%	109	17.3%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%



問 20-B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視されるなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。(ひとつに○)



精神的苦痛を受けた経験については、「まったくない」が80.3%と最も多く、「1・2度あった」が1.9%、「何度もあった」が1.3%となっている。

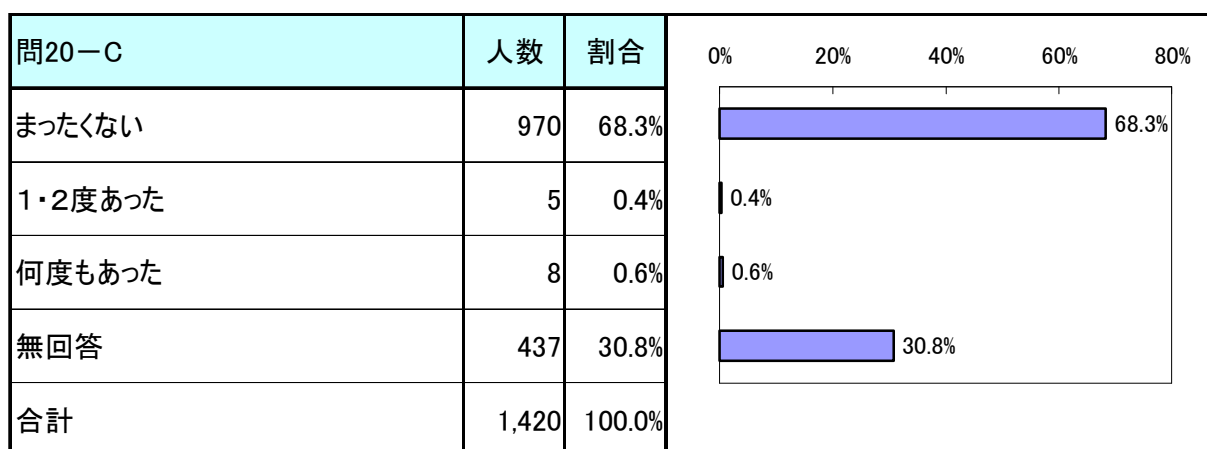
【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」、「何度もあった」の割合が、男の割合に比べていずれも高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問20-B	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
まったくない	1,140	80.3%	615	83.3%	517	77.0%	614	84.5%	482	76.4%
1・2度あった	27	1.9%	7	0.9%	19	2.8%	12	1.7%	13	2.1%
何度もあった	18	1.3%	6	0.8%	11	1.6%	11	1.5%	6	1.0%
無回答	235	16.5%	110	14.9%	124	18.5%	90	12.4%	130	20.6%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問 20-C 避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された。  
(ひとつに○)



性的行為の強要等の経験については、「まったくない」が68.3%と最も多く、「何度もあった」が0.6%、「1・2度あった」が0.4%となっている。

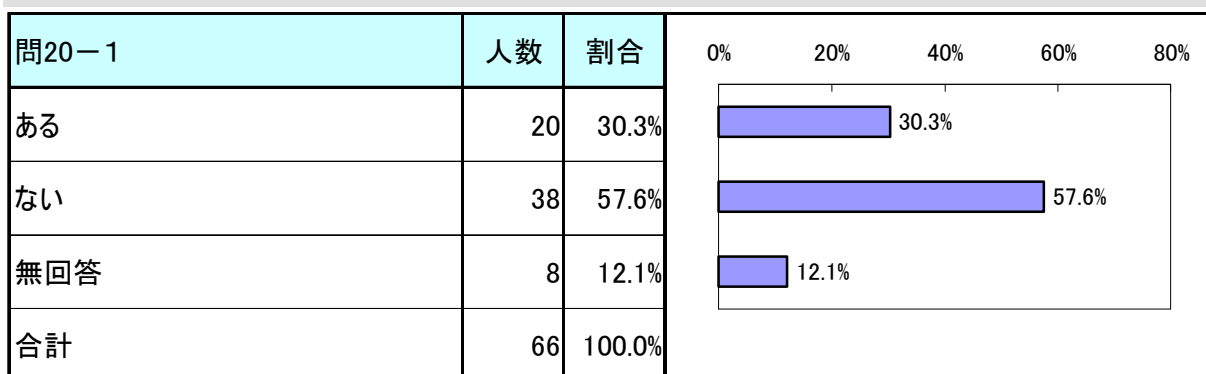
【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」、「何度もあった」の割合が、男の割合に比べていずれも高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

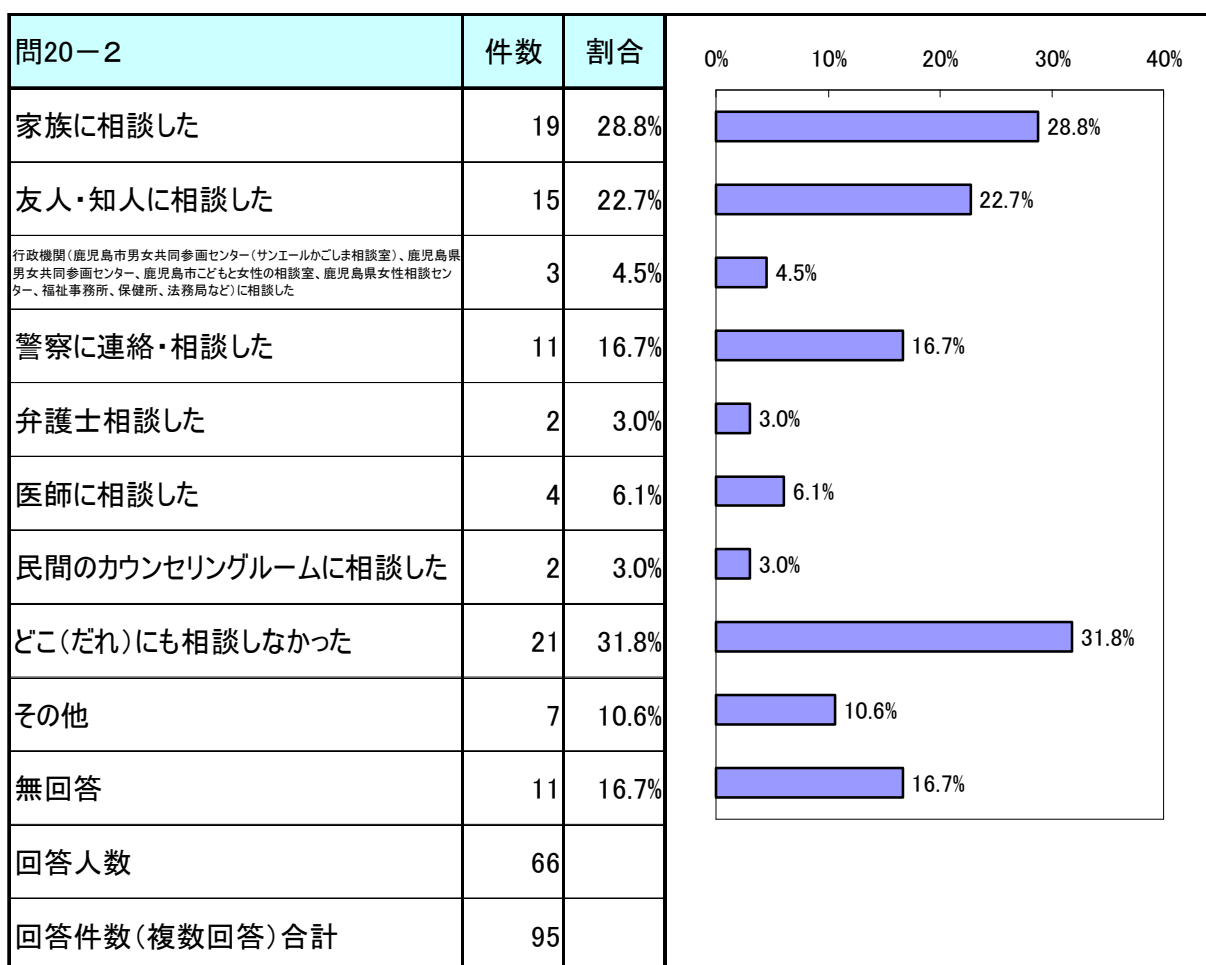
問20-C	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
まったくない	970	68.3%	497	67.3%	467	69.6%	541	74.4%	394	62.4%
1・2度あった	5	0.4%	0	0.0%	5	0.7%	4	0.6%	1	0.2%
何度もあった	8	0.6%	0	0.0%	8	1.2%	5	0.7%	3	0.5%
無回答	437	30.8%	241	32.7%	191	28.5%	177	24.3%	233	36.9%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問 20-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(ひとつに○)



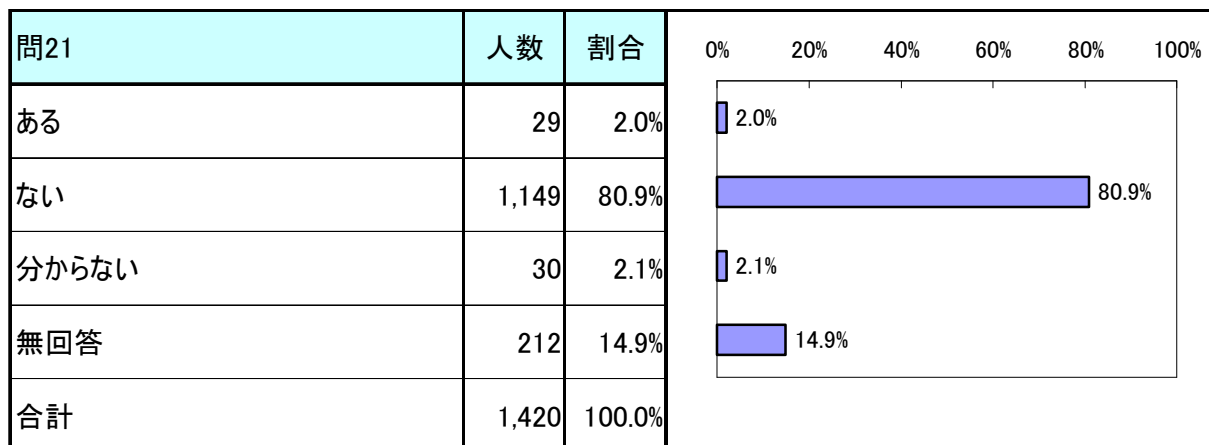
命の危険を感じたことがあるかについては、「ある」が30.3%、「ない」が57.6%となっている。

問 20-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)



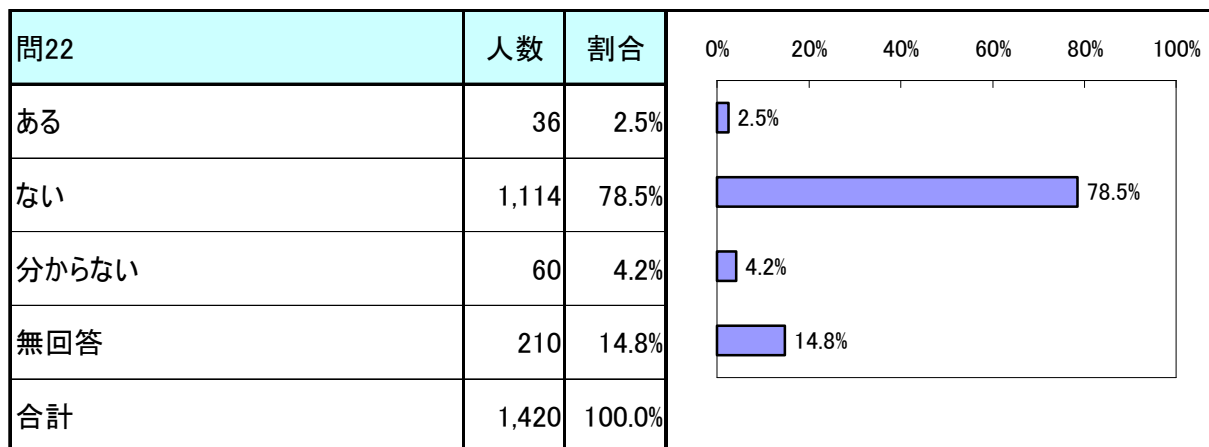
相談先については、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が31.8%と最も多く、次いで「家族に相談した」が28.8%、「友人・知人に相談した」が22.7%となっている。

問 21 あなたはこれまでに、家族から「虐待だったかもしれない」と思う行為を受けた経験がありますか。(ひとつに○)



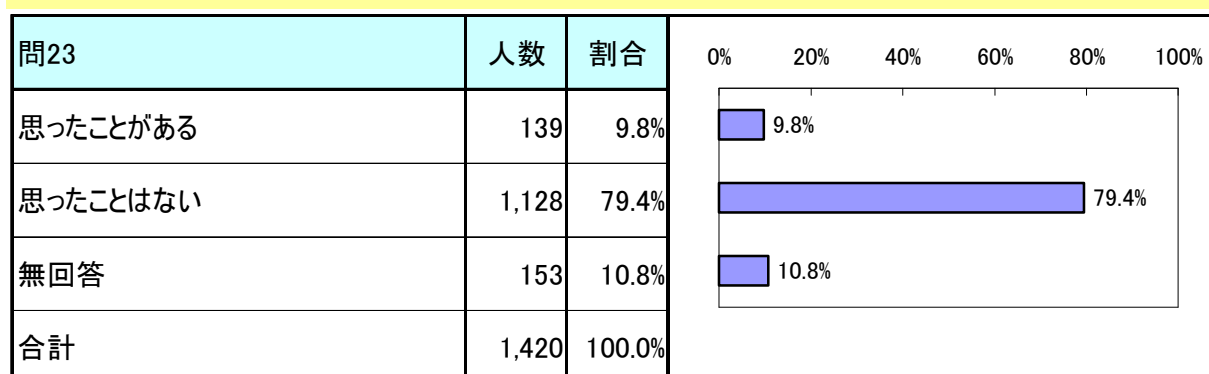
家族からの虐待だったかもしれない行為を受けた経験については、「ある」が 2.0%、「ない」が 80.9%となっている。

問 22 あなたはこれまでに、家族に対し「虐待だったかもしれない」と思う行為をした経験がありますか。(ひとつに○)



家族への虐待だったかもしれないと思う行為をした経験については、「ある」が 2.5%、「ない」が 78.5%となっている。

問 23 あなたはこれまでに、自殺したい（死にたい）と思ったことがありますか。  
（ひとつに○）



自殺したいと思った経験については、「思ったことがある」が9.8%、「思ったことはない」が79.4%となっている。

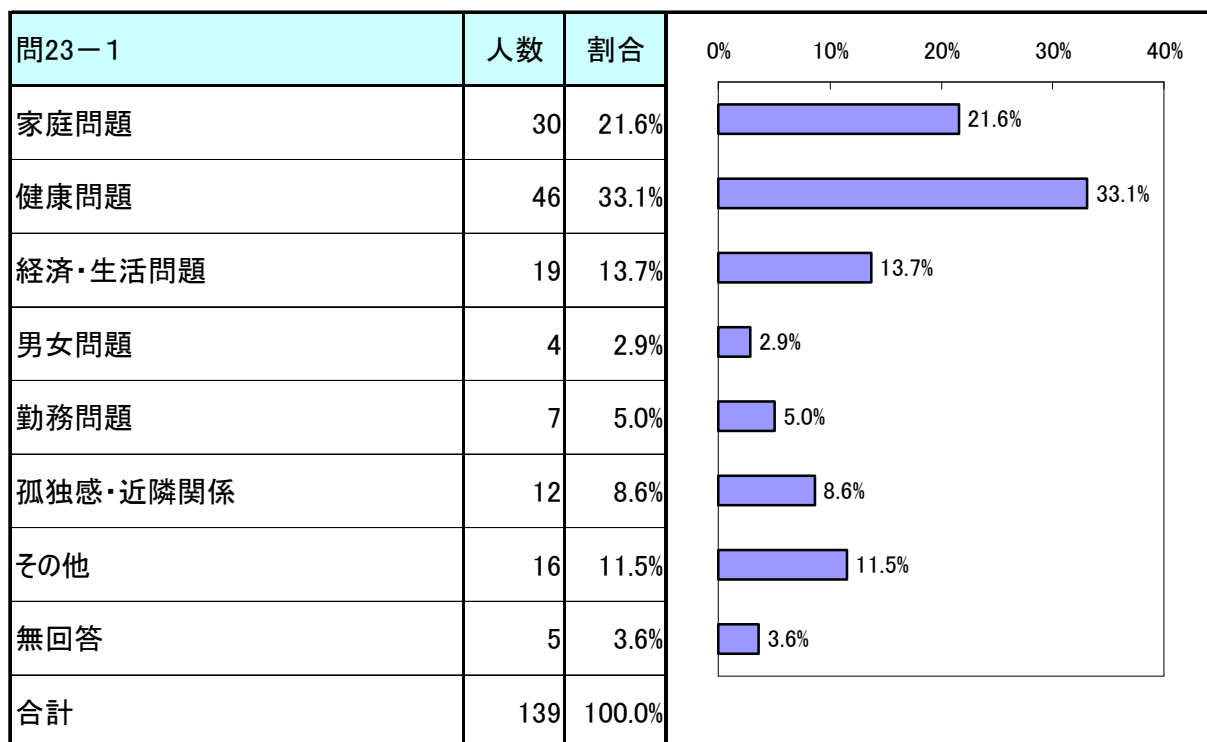
【属性別特徴】

性別では、女の「思ったことがある」が13.0%で、男の6.9%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

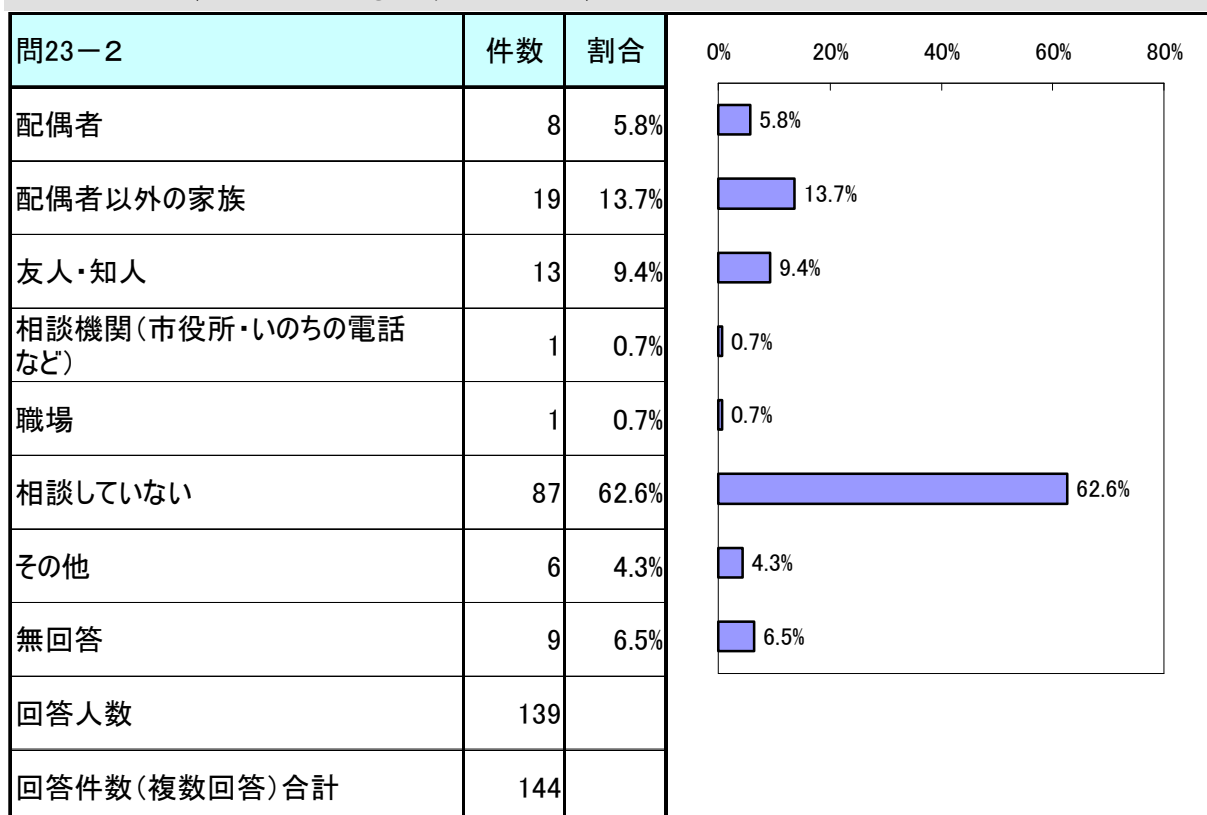
問23	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
思ったことがある	139	9.8%	51	6.9%	87	13.0%	81	11.1%	53	8.4%
思ったことはない	1,128	79.4%	617	83.6%	504	75.1%	597	82.1%	485	76.9%
無回答	153	10.8%	70	9.5%	80	11.9%	49	6.7%	93	14.7%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%

問23-1 自殺したいと思ったときの一番の原因は何ですか。(ひとつに○)



自殺したいと思った一番の原因については、「健康問題」が33.1%と最も多く、次いで「家庭問題」が21.6%、「経済・生活問題」が13.7%となっている。

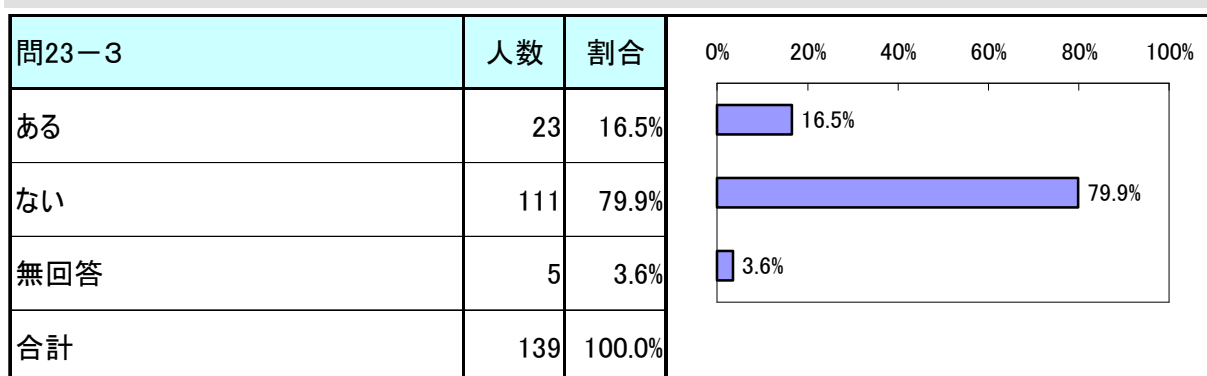
問23-2 あなたは、自殺したいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。  
（あてはまるものすべてに○）



自殺したいと思ったときの相談先については、「相談していない」が62.6%と最も多く、次いで「配偶者以外の家族」が13.7%、「友人・知人」が9.4%となっている。

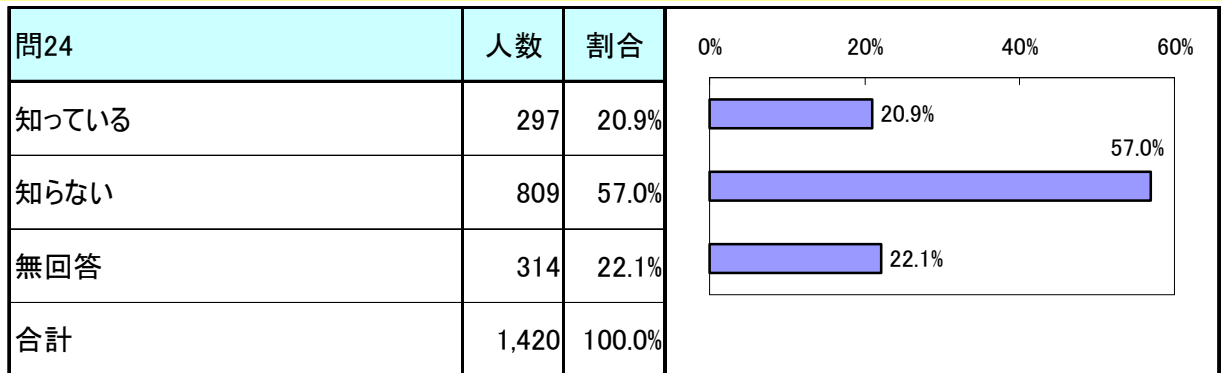
「その他」の具体的な内容としては、「看護師」、「病院」等が挙げられた。

問23-3 あなたは、自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。（ひとつに○）



医療機関の受診については、「ある」が16.5%、「ない」が79.9%となっている。

問24 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。(ひとつに○)



自殺に関する相談先の認知度については、「知っている」が20.9%、「知らない」が57.0%となっている。

【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「知っている」が25.0%で、75歳以上の16.5%に比べてやや高くなっている。

問24	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	297	20.9%	167	22.6%	129	19.2%	182	25.0%	104	16.5%
知らない	809	57.0%	425	57.6%	378	56.3%	427	58.7%	350	55.5%
無回答	314	22.1%	146	19.8%	164	24.4%	118	16.2%	177	28.1%
合計	1,420	100.0%	738	100.0%	671	100.0%	727	100.0%	631	100.0%



## 問 25 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

問25	件数	割合	
鹿児島市では毎年約100人の方が自殺で亡くなっている	92	6.5%	6.5%
自殺は追い込まれた末の死である	517	36.4%	36.4%
自殺は防ぐことが出来る	689	48.5%	48.5%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	424	29.9%	29.9%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	598	42.1%	42.1%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である	612	43.1%	43.1%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	559	39.4%	39.4%
考えたことがない	292	20.6%	20.6%
その他	29	2.0%	2.0%
無回答	260	18.3%	18.3%
回答人数	1,420		
回答件数(複数回答)合計	4,072		

自殺について知っていることについては、「自殺は防ぐことが出来る」が48.5%と最も多く、次いで「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が43.1%、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が42.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「周囲からの声かけや親身な対応、思いやりが大切」等が挙げられた。

【属性別特徴】

性別では、男の「自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である」が42.4%で、女の36.4%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、65歳～74歳の「悩んでいる人はサインを発していることが多い」が37.0%で、75歳以上の23.5%に比べて高くなっている。また、65歳～74歳の「自殺は追い込まれた末の死である」が42.4%で、75歳以上の30.3%に比べて高くなっている。

問25	全体		性別				年齢			
			男		女		65歳～74歳		75歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
鹿児島市では毎年約100人の方が自殺で亡くなっている	92	6.5%	63	8.5%	29	4.3%	40	5.5%	49	7.8%
自殺は追い込まれた末の死である	517	36.4%	280	37.9%	236	35.2%	308	42.4%	191	30.3%
自殺は防ぐことができる	689	48.5%	380	51.5%	308	45.9%	391	53.8%	274	43.4%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	424	29.9%	237	32.1%	185	27.6%	269	37.0%	148	23.5%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	598	42.1%	314	42.5%	282	42.0%	342	47.0%	239	37.9%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である	612	43.1%	333	45.1%	276	41.1%	346	47.6%	245	38.8%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	559	39.4%	313	42.4%	244	36.4%	324	44.6%	224	35.5%
考えたことがない	292	20.6%	143	19.4%	148	22.1%	135	18.6%	143	22.7%
その他	29	2.0%	13	1.8%	16	2.4%	11	1.5%	16	2.5%
無回答	260	18.3%	119	16.1%	134	20.0%	95	13.1%	146	23.1%
回答人数	1,420		738		671		727		631	
回答件数(複数回答)合計	4,072		2,195		1,858		2,261		1,675	

## 問 26 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

足腰・筋肉の弱体化は、そのままでは加齢とともに進行するのも自然の成り行きであるが、それを少しでもくい止め、年齢よりも少し強化し長寿につなげていくのは、個々の自覚と健康増進への実践によることが大きい。

例えば①ウォーキング②室内でのストレッチ③医院等での指導を参考にして自宅で実践すること。

他人に事故やけがをさせないために日々意識して行動する。

意識が薄くならないためにはどうしたらいいかを自分自身考えて行動する。

急がずに自分で出来る範囲の行動をとることが大事。

車の運転等睡眠を充分にとっていることが大事。慌てないこと。

家庭円満であること、イライラは禁物。向こう三軒両隣間の気持ちの良い付き合いが肝心。

関係団体や行政が取り組む活動も大切であるが基本的には個人個人が事故やけがに遭わないように注意することが一番大切だと思う。

近所の人を大切に何時も仲良く、声をかけ合って生活することが大切に思います。

様々な態様があるので予防も千差万別の対応が必要であるが、自助、共助、公助の言葉通り平素から家庭、地域社会それぞれの立場で予防措置を考えておくことが大切である。

仕事上、長年数多くの交通事故等で被害者及び加害者が受けたダメージを見てきて双方の悲惨さを痛感してきました。運転する人、歩行者もお互いに心の余裕を持ち譲り合い、思いやりで行動すれば必ず事故防止につながると思います。私は夜間の外出は避けています。横断歩道で青信号で停止して下さった人に必ず有難うの感謝を込めて頭を下げて通過する様に常に心掛けています。

事故に遭わないように心がけ、けがしないように自身が用心していく気持ちを基本に自分自身が予防に心がけ、それが全うされることが続けば、地域の輪のために何か尽力できることがあればやりたいと思う。

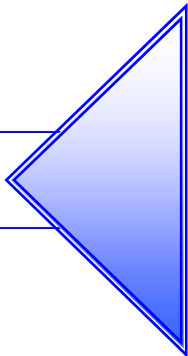
事故やけがの予防は本人の自覚も大切だと思う。自分は若いのだと自負することなく常に危険に対してアンテナをはり自覚する必要があると思う。

事故やけがを防止するために、日頃から健康管理に気配りしている。特に歩くことで足を強くし、病気予防のため体重の安定に努めています。自動車事故防止のため学校、子どもたちの横断では、子ども優先にしています。

日々体を動かすことを目標に、自分で出来ることは自分です。また毎日決まった時間に、無理しない年齢相応の散歩で足腰を鍛え、そこで人と人との出会いがあり、楽しい会話ありで生きがいを感じています。

夜間の散歩は反射材を身に付けることは常識だと思います。自分の身を守るためだけでなく相手の思いやりとも思います。





第6章 総括

## 【乳幼児・小中学生・一般・高齢者調査共通項目】

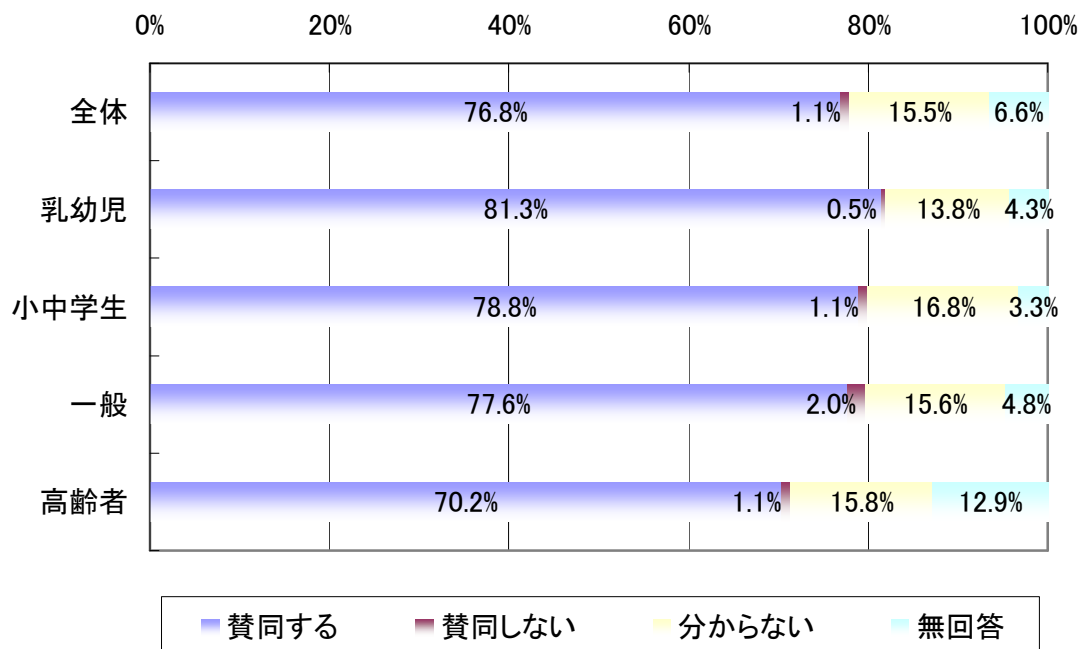
### 1 セーフコミュニティについて

セーフコミュニティの考え（事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができるという理念に基づいた取組）への賛否については、乳幼児区分において「賛同する」割合が81.3%で最も高くなっている。

「賛同する」割合が最も低い高齢者区分でも70.2%となっている。

全体でみると、「賛同する」割合は76.8%となり、4分の3以上が賛同するという結果となっており、事故やけがは未然に防止できるという理念に対する理解の高さがうかがわれる。

	全体		乳幼児		小中学生		一般		高齢者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
賛同する	3,803	76.8%	1,070	81.3%	1,004	78.8%	732	77.6%	997	70.2%
賛同しない	56	1.1%	7	0.5%	14	1.1%	19	2.0%	16	1.1%
分からない	767	15.5%	182	13.8%	214	16.8%	147	15.6%	224	15.8%
無回答	327	6.6%	57	4.3%	42	3.3%	45	4.8%	183	12.9%
合計	4,953	100.0%	1,316	100.0%	1,274	100.0%	943	100.0%	1,420	100.0%



## 2 「事故やけが」の状況について

(1) 過去1年間（平成23年8月～平成24年7月）における事故やけがの経験、入院、通院、ヒヤリ体験の状況について

乳幼児、小中学生は、事故やけがの経験有が多く、また、通院やヒヤリ体験も多くなっている。

高齢者は、乳幼児に比べ事故やけがの経験有の人数は少ないが、入院の割合が高くなっている。

区分	回答数	事故やけがの経験有	入院	通院	ヒヤリ
乳幼児	1,316	394	3	149	667
小中学生	1,274	353	4	194	517
一般	943	132	4	73	161
高齢者	1,420	196	32	99	107
全体	4,953	1,075	43	515	1,452

※ 入院及び通院の人数は、「事故やけがの経験がある」と回答された人が、その事故やけがについて入院または通院と回答した実人数となっている。

(2) 本市の事故やけがの全体像の推計

上記(1)の調査結果と人口動態統計による死亡者数を組み合わせて、本市の事故やけがの全体像を推計すると下記のとおりとなる。

区分	人口	死亡実数	入院推計	通院推計	ヒヤリ推計
乳幼児	28,665	2	65	3,246	14,529
小中学生	57,585	3	181	8,769	23,368
一般	389,206	41	1,651	30,129	66,450
高齢者	129,664	109	2,922	9,040	9,770
全体	605,120	155	4,819	51,184	114,117

※ 各区分の人口は町丁別住民基本台帳人口（平成24年3月末現在）による

※ 人口は、乳幼児（0～4歳）、小中学生（5～14歳）、一般（15～64歳）、高齢者（65歳以上）

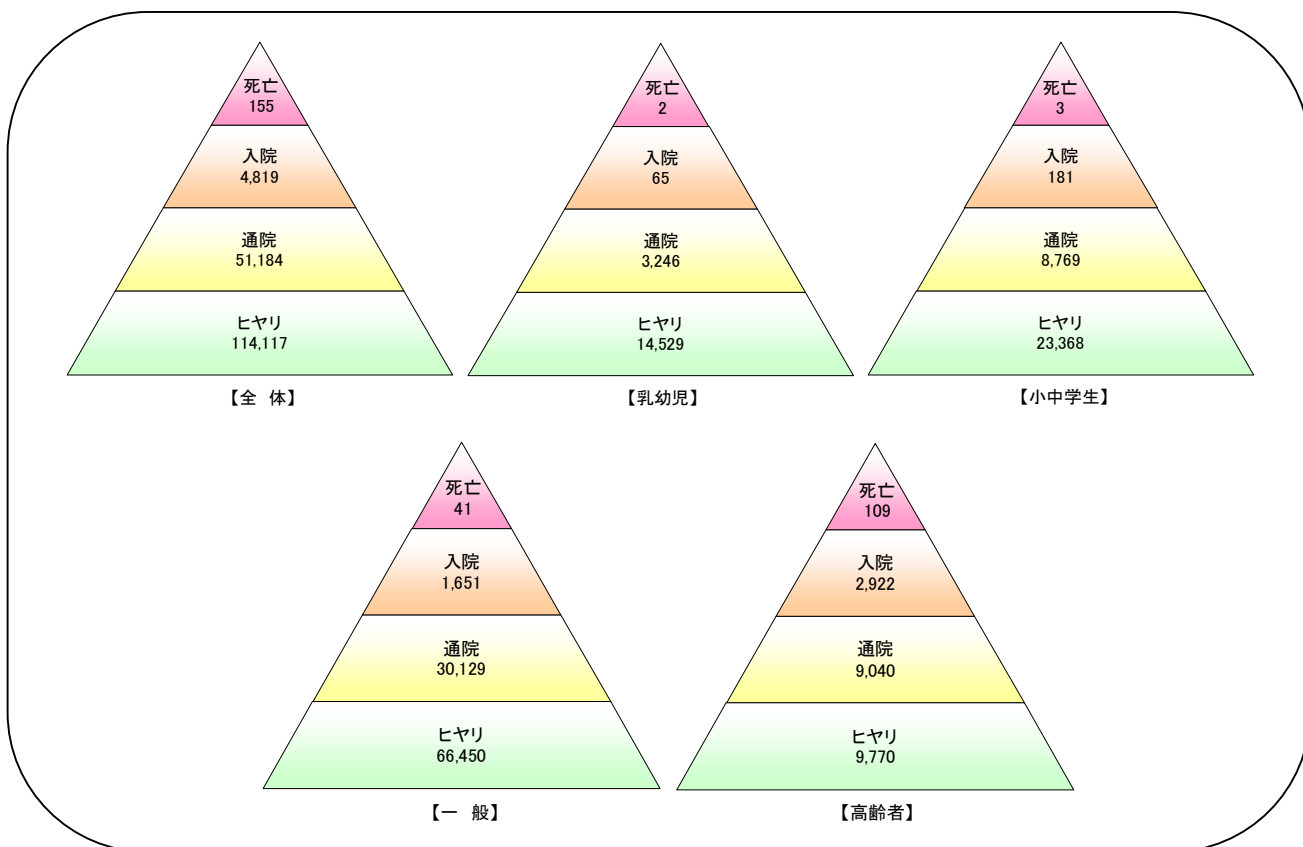
※ アンケート調査結果に基づく、本市の人口ベースでの推計値を算出する計算式については以下のとおり

〈例〉 乳幼児入院推計値の算出式

今回のアンケート調査（1,316人のうち、3人が入院）に基づき、本市における乳幼児（28,665人）の推計値を算出している。  $28,665 \times 3 / 1,316 \approx 65$

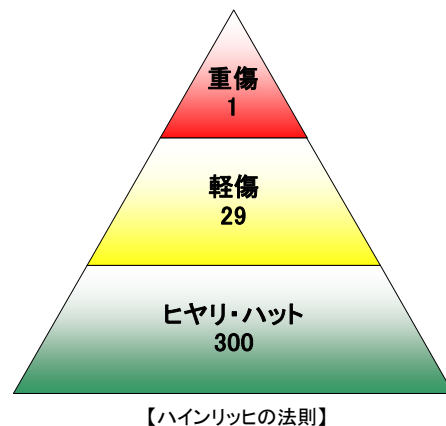
以下、乳幼児の通院、ヒヤリ、小中学生、一般、高齢者も上記同様に算出。全体については、乳幼児、小中学生、一般、高齢者のそれぞれの和

各区分の推計値を図化すると下記のとおりになり、死亡の背景には、重大事故に繋がる恐れのあるヒヤリ・ハットが多数存在していることがうかがわれる。



※ 参考 ハイน์リッヒの法則

- 労働災害における経験則の一つで、1つの重大事故の背後には29の軽微な事故があり、その背景には300のヒヤリ・ハットが存在するというもの。
- ハイน์リッヒが導き出した法則で、彼は、ある工場で発生した労働災害5,000件余を統計学的に調べ、計算し、「災害」について「1:29:300」という法則を導いた。「重傷」以上の事故が1件あったら、その背後には、29件の「軽傷」を伴う事故が起こり、300件もの「ヒヤリ・ハット」(危うく大惨事になる)傷害のない事故が起きていたということになる。
- 重大事故の防止のためには、事故や災害の発生が予測されたヒヤリ・ハットの段階で対処していくことが必要である。



※ 出典:Wikipedia



(3) 事故やけがの未然防止の可能性について

過去1年間（平成23年8月～平成24年7月）に経験した事故やけがを未然に防止できたとする回答の割合は、次のとおりである。

- ① 全回答の53.2%
- ② 事故やけがにより入院したと回答した人の37.2%
- ③ 事故やけがにより通院したと回答した人の48.7%

経験した事故やけがについて、半数を超える人が未然に防止できたと思っている。一方、入院と通院の経験者だけでみると、いずれも「防ぐことができた」と回答した割合は、半数を下回っている。

	「事故やけがの経験がある」と回答した件数	「事故やけがを防ぐことができた可能性」について回答した件数	左記のうち「防ぐことができた」と回答した件数	「防ぐことができた」と回答した割合	「入院した」と回答した件数	左記のうち「防ぐことができた」と回答した件数	「防ぐことができた」と回答した割合	「通院した」と回答した件数	左記のうち「防ぐことができた」と回答した件数	「防ぐことができた」と回答した割合
乳幼児	394	524	324	61.8%	3	1	33.3%	202	115	56.9%
小中学生	353	435	208	47.8%	4	2	50.0%	213	95	44.6%
一般	132	146	81	55.5%	4	1	25.0%	73	31	42.5%
高齢者	196	210	87	41.4%	32	12	37.5%	99	45	45.5%
全体	1,075	1,315	700	53.2%	43	16	37.2%	587	286	48.7%
	実件数 (人数)	延件数								

※ 延件数は、「事故やけがの経験がある」と回答された人が、その事故やけがについて2件まで回答できるよう設定したため、1件目と2件目の合計した数となっている。

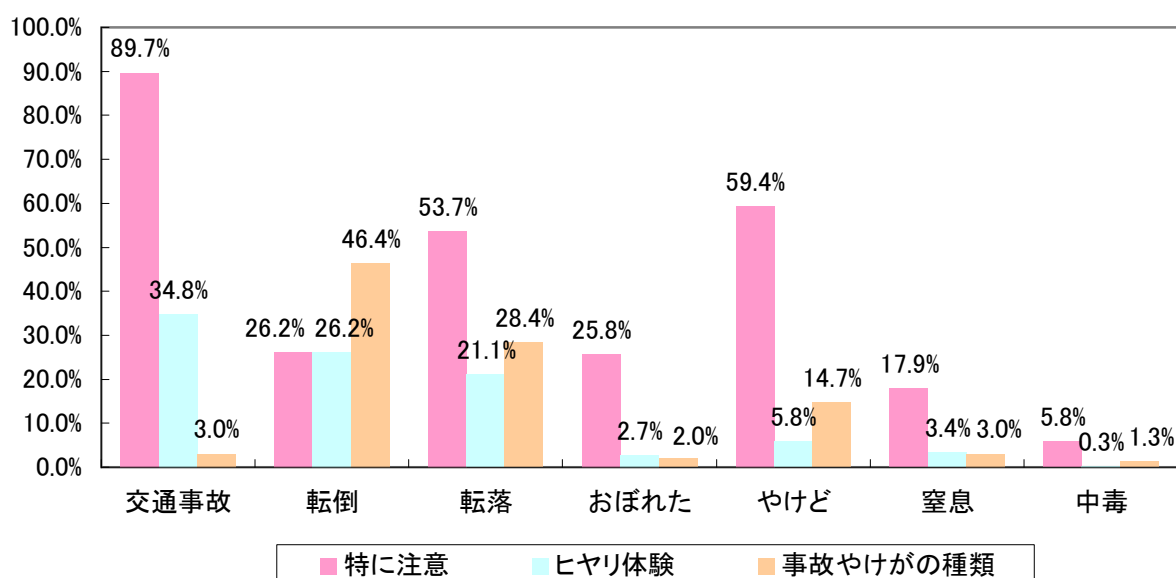
## 【乳幼児】

### 3 乳幼児の調査結果について

(1) 「特に注意している不慮の事故」・「一番多くヒヤリとした体験」・「経験した事故やけが」について (P14、P18、P23 参照)

- ・「特に注意している不慮の事故 (3つまで○)」については、約9割 (89.7%) が「交通事故」と回答している。
- ・「一番多くヒヤリとした体験 (ひとつに○)」については、約3人に1人 (34.8%) が「交通事故」、約4人に1人 (26.2%) が「転倒」、約5人に1人 (21.1%) が「転落」と回答している。
- ・「経験した事故やけがの種類 (1件目と2件目合計)」については、約半数 (46.4%) が「転倒」と回答している。

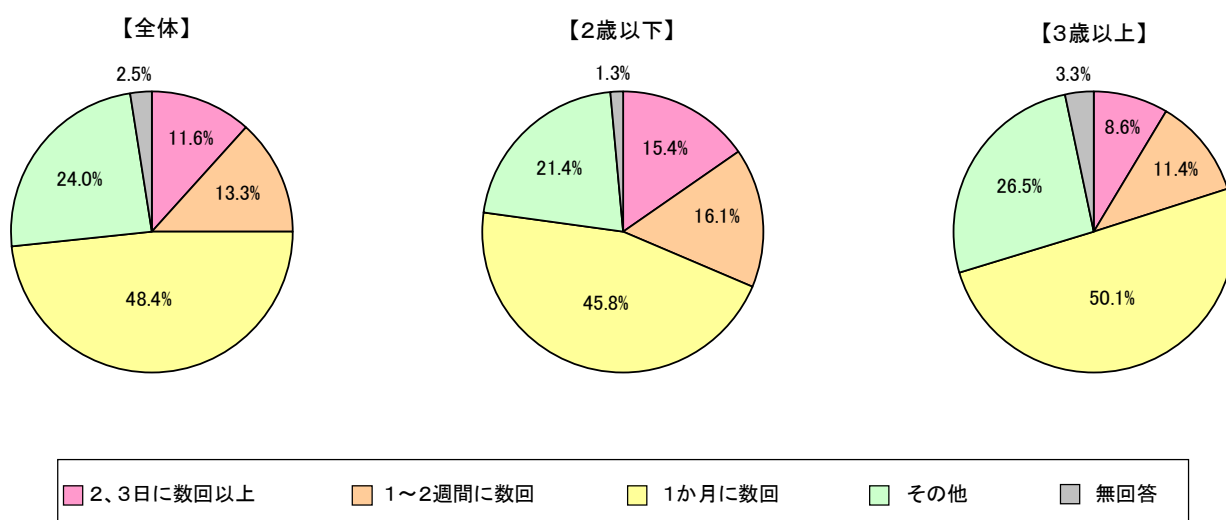
	特に注意している 不慮の事故	一番多く ヒヤリとした体験	経験した 事故やけがの種類
交通事故	89.7%	34.8%	3.0%
転倒	26.2%	26.2%	46.4%
転落	53.7%	21.1%	28.4%
おぼれた	25.8%	2.7%	2.0%
やけど	59.4%	5.8%	14.7%
窒息	17.9%	3.4%	3.0%
中毒	5.8%	0.3%	1.3%



(2) ヒヤリとした頻度について (P16 参照)

- ・ 1年間のヒヤリとした頻度を年齢別で比較すると、2歳以下の「2、3日に数回以上」と「1～2週間に数回」の割合が、どちらも3歳以上を上回っており、2歳以下のヒヤリとした頻度の高さがうかがわれる。

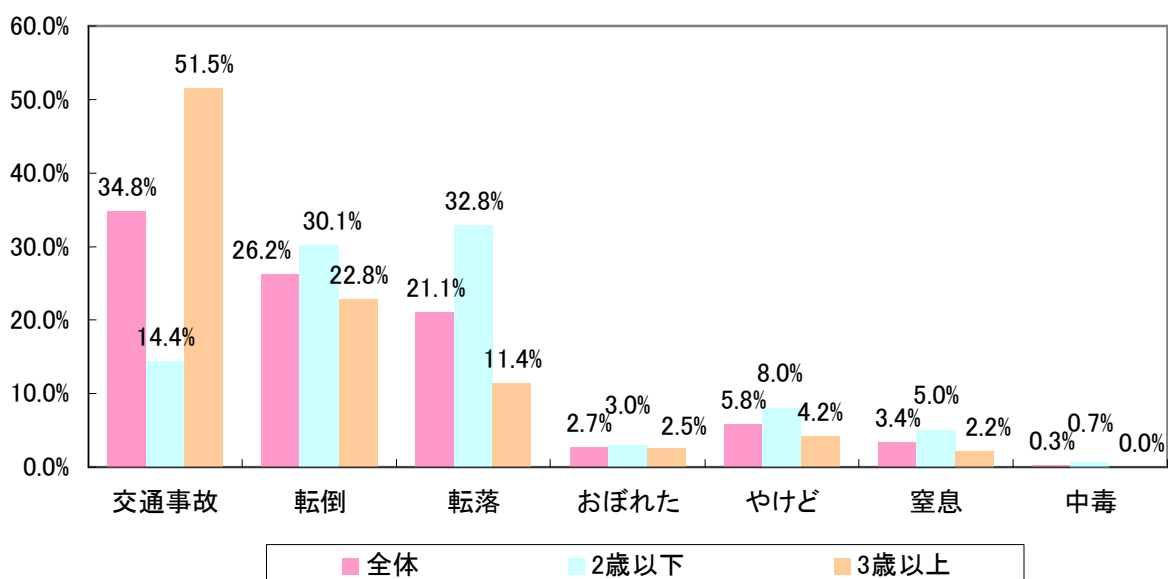
	全体	2歳以下	3歳以上
2、3日に数回以上	11.6%	15.4%	8.6%
1～2週間に数回	13.3%	16.1%	11.4%
1か月に数回	48.4%	45.8%	50.1%
その他	24.0%	21.4%	26.5%
無回答	2.5%	1.3%	3.3%



(3) 一番多くヒヤリとした体験について (P19 参照)

- ・「交通事故」については、約3人に1人 (34.8%) であるが、2歳以下では約7人に1人 (14.4%)、3歳以上では約2人に1人 (51.5%) となっている。
- ・「転倒」については、約4人に1人 (26.2%) であるが、2歳以下では約3人に1人 (30.1%)、3歳以上では約4人に1人 (22.8%) となっている。
- ・「転落」については、約5人に1人 (21.1%) であるが、2歳以下では約3人に1人 (32.8%)、3歳以上では約9人に1人 (11.4%) となっている。

	全体	2歳以下	3歳以上
交通事故	34.8%	14.4%	51.5%
転倒	26.2%	30.1%	22.8%
転落	21.1%	32.8%	11.4%
おぼれた	2.7%	3.0%	2.5%
やけど	5.8%	8.0%	4.2%
窒息	3.4%	5.0%	2.2%
中毒	0.3%	0.7%	0.0%



**(4) 事故やけがの状況について (P20～P27 参照)**

- ・ 1年間の事故やけがの経験については、約3割(29.9%)が「ある」と回答している。
- ・ 事故やけがをした場所については、約6割(59.1%)が「自宅(屋内)」と回答している。年齢別では、2歳以下も同じく約8割(80.7%)が「自宅(屋内)」と回答しているが、3歳以上では約4割(38.8%)が「自宅(屋内)」と回答している。また、3歳以上では「保育所・幼稚園・その他通園施設」は27.3%と、2歳以下の4.4%に比べて高くなっている。子どもが成長するにつれ行動範囲も広がるため、事故やけがをする場所が自宅(屋内)から屋外へ移行していると推測される。
- ・ 医療機関の受診については、全体、性別、年齢別ともに「家庭などの手当てで済んだ」が最も多くなっている。年齢別では3歳以上の「医療機関に2回以上通院した(している)」が36.4%となっており、2歳以下の14.9%に比べて高くなっている。
- ・ 未然に防ぐことができた可能性については、全体、性別、年齢別ともに約8割が「防ぐことができた」と回答している。

**(5) 事故やけがの予防に関する情報源及び情報をより充実して欲しいもの (P32、P33 参照)**

- ・ 情報源としては、「家族・親戚」の61.0%、「友人・知人」の52.8%と半数以上の方が選択している。また、約2人に1人(46.0%)が「保育園・幼稚園」を選択している。
- ・ 情報をより充実して欲しいものは、「保育園・幼稚園」が41.9%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が28.8%、「病院」が26.4%となっている。
- ・ 約5人に1人(22.9%)が「無回答」であり、事故やけがの予防に関する情報源として「家族・親戚」又は「友人・知人」の存在が大きいことが1つの要因ではないかと考えられる。

(6) 子どもの安全対策について (P34 参照)

- ・子どもの年齢等により、安全対策の内容は違うと考えられるが、割合ごとに分けると以下のようなになる。

80%以上	50%以上 80%未満	50%未満
道路を歩行する際、手つなぎやだっこをする	浴槽の水は残さないようにしている	たばこを放置しない
ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている	かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにしている	トイレの中に落ちないようにする子ども用の便座やふたをしている
車に乗る際にチャイルドシートを使用する	ベランダから身をのりださないように台座などは置かないようにしている	たんす、食器棚、冷蔵庫の扉が開かないように安全グッズを設置している
		よく体をぶつけてしまう家具などの角にカバーをしている
		階段に転落防止柵を設置している(昇らないような防止柵も含む)
		自転車に乗る際にヘルメットを着用させる
		窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置している
		ドアやとびらに手を挟まないように安全グッズを設置している
		浴槽ですべって溺れないようにすべり止めを設置している
		ベッドに転落防止柵を設置している

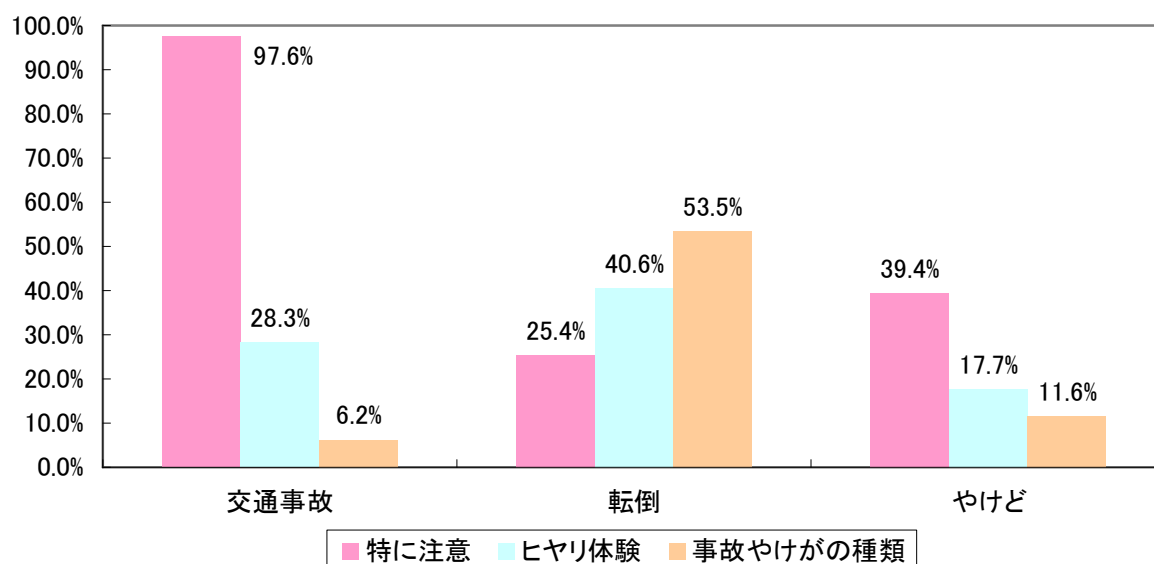
## 【小中学生】

### 4 小中学生の調査結果について

(1) 「特に注意している不慮の事故」・「ヒヤリとした体験」・「経験した事故やけが」について  
(P51、P52、P56、P58、P65 参照)

- ・「特に注意している不慮の事故(3つまで)」については、ほぼ全員に近い97.6%が「交通事故」と回答しており、交通事故に対する関心が高いことがうかがえる。
- ・「ヒヤリとした体験(ひとつに○)」については、約4割(40.6%)が「転倒」、約3割(28.3%)が「交通事故」、約2割(17.7%)が「やけど」と回答している。
- ・「経験した事故やけがの種類(1件目と2件目合計)」については、半数以上(53.5%)が「転倒」と回答している。

	特に注意している 不慮の事故	ヒヤリとした体験	経験した 事故やけがの種類
交通事故	97.6%	28.3%	6.2%
転倒	25.4%	40.6%	53.5%
やけど	39.4%	17.7%	11.6%



## (2) ヒヤリとした体験について (P52～P59 参照)

### ①交通事故

- ・交通事故に遭いそうになりヒヤリとしたことについては、約3割 (28.3%) が「ある」と回答している。学年別では、小学校低学年の約3人に1人 (33.3%)、小学校高学年並びに中学生の約4人に1人 (それぞれ25.8%、26.0%) が「ある」と回答している。
- ・交通事故に遭いそうになりヒヤリとしたことが「ある」と回答したうち54.0%が「歩行中」と回答している。学年別では、小学校低学年の71.2%、小学校高学年の47.8%、中学生の38.9%が「歩行中」と回答している。また、小学校高学年の36.3%、中学生の44.4%が「自転車に乗っているとき」と回答している。
- ・交通事故に遭いそうになりヒヤリとしたことが「ある」と回答した半数以上 (全体の54.8%、小学校低学年の56.1%、小学校高学年の54.0%、中学生の54.6%) が「車・バイクにぶつかりそうになった」と回答している。

### ②転倒

- ・転倒しそうになりヒヤリとしたことについては、約4割 (40.6%) が「ある」と回答しており、その原因については、約半数 (49.7%) が「段差、ものに足をひっかけた」と回答している。
- ・学年別でみると、小学校低学年の48.6%、小学校高学年の40.0%、中学校の33.3%が「ある」と回答しており、その原因で最も多かったのは、どの学年も「段差、ものに足をひっかけた」で、小学校低学年が50.7%、小学校高学年が47.4%、中学校が51.4%となっている。

### ③やけど

- ・やけどしそうになりヒヤリとしたことについては、約2割 (17.7%) が「ある」と回答しており、その原因については、約4人に1人 (26.7%) が「やかん・ポット」と回答している。
- ・学年別では、小学校低学年の20.1%、小学校高学年の20.3%、中学生の12.3%が「ある」と回答しており、その原因で最も多かったのは、小学校低学年の26.2%が「花火」、小学校高学年の28.1%、中学生の31.4%が「やかん・ポット」と回答している。
- ・その他、「アイロン」、「料理中 (の手伝い)」などが挙げられており、身近なところにやけどの原因となるさまざまなものが存在していることが分かる。



**(3) 事故やけがの状況について (P60~P70 参照)**

- ・ 1年間の事故やけがの経験については、約4人に1人(27.7%)が「ある」と回答している。
- ・ 事故やけがをした場所については、約半数(45.3%)が「学校」と回答している。学年別では、小学校低学年の35.0%、小学校高学年の41.8%、中学生の61.1%が「学校」と回答している。
- ・ 事故やけがの種類については、半数以上(53.5%)が「転倒」と回答している。学年別では、小学校低学年の59.3%、小学校高学年の59.0%、中学生の40.7%が「転倒」と回答している。
- ・ けがの状態については、約半数(47.6%)が「きり傷・さし傷・すり傷」と回答している。学年別では、小学校低学年の61.0%、小学校高学年の48.4%、中学生の31.5%が「きり傷・さし傷・すり傷」と回答している。
- ・ 医療機関の受診については、約6割(57.8%)が「家庭や学校などの手当てで済んだ」と回答している。学年別では、小学校低学年の69.1%、小学校高学年の59.0%が「家庭や学校などの手当てで済んだ」と回答している。また、中学生の49.1%が「医療機関に2回以上通院した(している)」と回答している。
- ・ 事故やけがを未然に防ぐことができた可能性については、約6割(58.9%)が「防ぐことができた」と回答している。学年別では、小学校低学年の69.1%、小学校高学年の61.5%、中学生の44.4%が「防ぐことができた」と回答している。

**(4) 自転車について (P74~P76 参照)**

- ・ 約7割(68.9%)が自転車に乗っていると回答しており、そのうち約2割(18.8%)はヘルメットを「いつも着けている」、約6割(61.8%)は「着けていない」または「ヘルメットをもっていない」と回答している。
- ・ 学年別では、小学校低学年と中学生の約4割(それぞれ38.0%、44.1%)が「ヘルメットをもっていない」と回答している。
- ・ 半数以上(全体の54.2%、小学校低学年の51.7%、小学校高学年の56.2%、中学生の53.8%)が自転車に乗る際、「ルールを守っている」と回答している。

**(5) 子ども110番の家の認知度 (P77 参照)**

- ・ 約6割(59.7%)が子ども110番の家を「知っている」と回答している。学年別では、小学校高学年の約7割(69.2%)%が「知っている」と回答しているが、小学校低学年では半数以下(48.8%)となっている。

**(6) いかのおすしの認知度 (P78 参照)**

- ・ 約9割(90.1%)がいかのおすしを「知っている」と回答している。

(7) 子どもの安全対策について (P79 参照)

- ・ほとんどの項目で半数以上の方が注意喚起を図っている。
- ・子どもの年齢等により、安全対策の内容は違うと考えられるが、割合ごとに分けると以下のようなになる。

80%以上	50%以上 80%未満	50%未満
道路に飛び出さないよう注意している	暗い道をひとりで歩かないようにさせている	自転車に乗る際には、ヘルメットをかぶらせている
友だちと仲良くするように教えている	はさみなどの道具の正しい使い方を教えている	
学校の様子を聞くようにしている	水の事故について教えている	
交通ルールを教えている	ブランコや滑り台、鉄棒などの遊具の遊び方を教えている	
マッチやライターで火遊びをしないよう注意している		
車に乗る際には、シートベルトを着用するよう注意している		

**【一般】****5 一般の調査結果について****(1) 事故やけがの経験について (P93 参照)**

- ・ 1年間の事故やけがの経験については、「ある」が 14.0%、「ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある」が 17.1%となっている。

**(2) 事故やけがの状況について (P94～P100 参照)**

- ・ 事故やけがをした時期については、約 4割 (39.4%) が「平成 24 年 5 月～7 月」と回答している。
- ・ 事故やけがをした時間については、約 5割 (45.5%) が「12 時～18 時」、約 3割 (30.3%) が「6 時～12 時」と回答している。
- ・ 事故やけがをしたときの天気については、約 4人に 3人 (74.2%) が「晴」と回答している。
- ・ 事故やけがをしたときの状況については、「家事 (日常品の買い物を含む)」が 27.3%と最も多く、次いで「仕事」が 21.2%、「通勤」が 14.4%となっている。
- ・ 事故やけがをした場所については、約 3人に 1人 (33.3%) が「歩道・道路」、約 4人に 1人 (22.7%) が「自宅 (屋内)」と回答している。
- ・ 事故やけがの種類については、「転倒」が 31.8%と最も多く、次いで「交通事故」が 27.3%、「やけど (熱湯、アイロンなど)」が 12.9%となっている。
- ・ けがの状況については、「打撲・うちみ」が 30.3%と最も多く、次いで「切り傷・刺し傷・すり傷」が 16.7%、「ねんざ・脱臼・突き指」が 14.4%となっている。
- ・ 医療機関の受診については、「医療機関に 2 回以上通院した (している)」が 37.9%と最も多く、次いで「家庭・学校・職場などの手当てで済んだ」が 37.1%、「医療機関に 1 回通院した」が 17.4%となっている。
- ・ 未然に防ぐことができた可能性については、約 6割 (61.4%) が「防ぐことができた」と回答している。

(3) 家庭の安全対策の実践状況について (P103 参照)

・家庭の安全対策の実践状況を割合ごとに分けると以下のようになる。

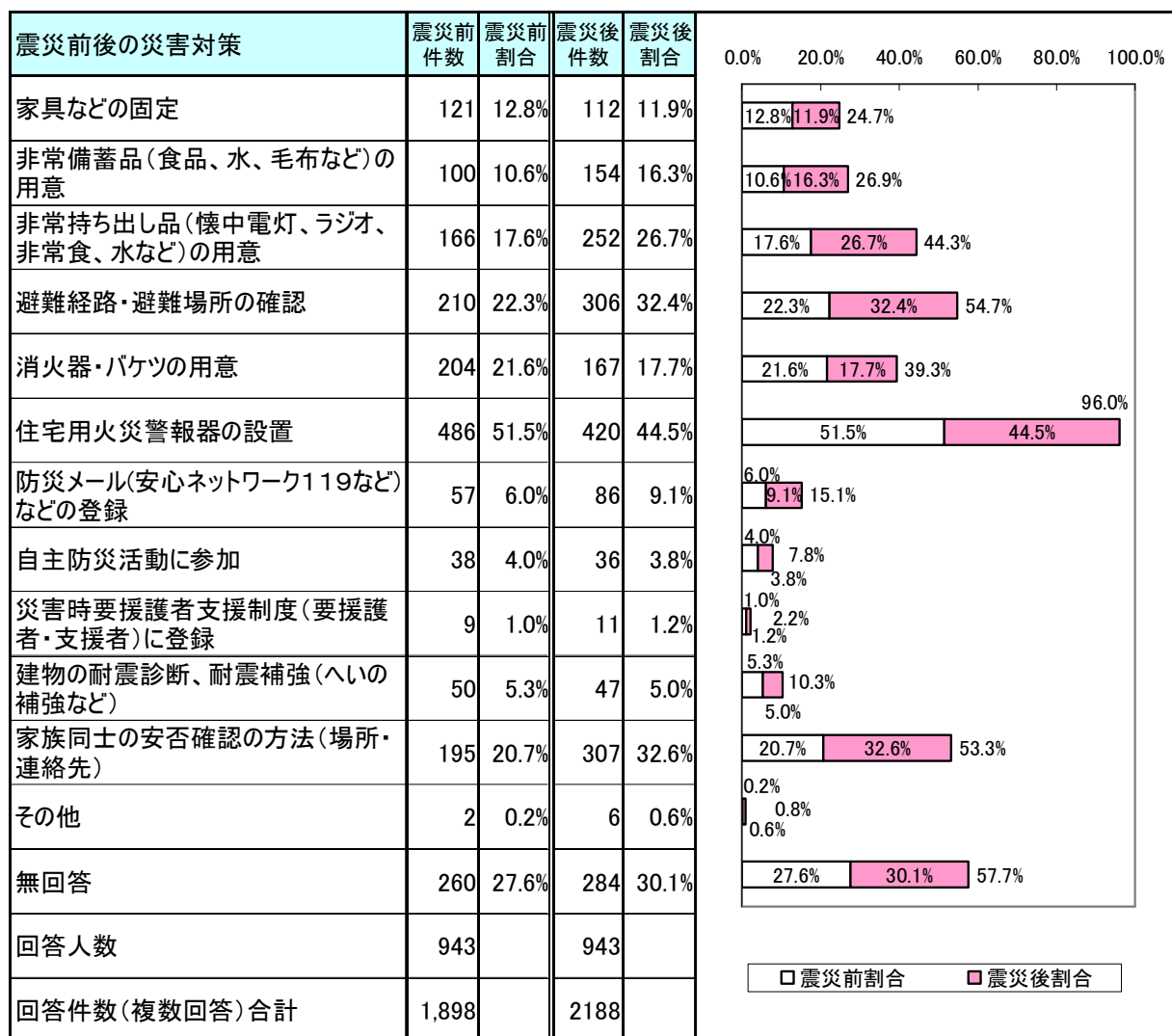
80%以上	50%以上 80%未満	50%未満
就寝・外出時には戸締まりをする	洗剤や薬などは指定の容器に入れて保管している	浴室の使用後は、水気が残らないように乾燥させている
薬は正しく服用している	階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない	コンセントにはたこ足配線をしていない
濡れた手でコンセントや電気コードを触らない	ガスの使用後には元栓などを閉めたか確認する	階段や廊下、浴室などに手すりを設置している
危険な道具(はさみ、カッターなど)は決まった場所に置いている	すべりやすいスリッパなどは履かないようにしている	床に物を置いたままにしない
		室内や廊下などで段差解消をしている
		階段にすべり止めを設置している

(4) 「わが家の安心安全ガイドブック」について (P105、P106 参照)

- ・わが家の安心安全ガイドブックの認知度については、「知っている」が 45.4%と半数を下回っている。
- ・性別では、男の6割以上(61.2%)が「知らない」と回答している。一方、女の5割以上(53.3%)が「知っている」と回答しており、「知らない」を上回っている。
- ・年齢別では、40歳未満の6割以上(65.7%)が「知らない」と回答している。一方、40歳～64歳の5割以上(51.4%)が「知っている」と回答しており、「知らない」を上回っている。
- ・ガイドブックの活用については、半数以上(53.5%)が「活用している」または「見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している」と回答している。一方、約4割(39.7%)が「配付されたのは知っているが、見ていない」または「活用していない」と回答している。

(5) 震災前後の災害対策 (P107~P109 参照)

- ・家庭での災害対策としては、設置が義務づけられた「住宅用火災警報器の設置」が震災前・後を通じて一番多くなっている。その他の災害対策については、「避難経路・避難場所の確認」や「家族同士の安否確認の方法(場所・連絡先)」が多くなっている。また、「防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録」や「自主防災活動に参加」などについては、取組みの割合が低くなっている。



(6) 交通安全について (P111~P114 参照)

- ・最も利用する移動手段については、約7割(68.4%)が「自動車」と回答している。
- ・自動車の運転の際に実行していることについては、全ての項目(「信号、一旦停止などの交通ルールを守る」(96.1%)、「全員のシートベルト着用(チャイルドシートを含む)を確認する」(73.2%)、「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない」(63.9%)、「車内は整理整頓し、不要なものを置かない」(61.7%))で6割以上となっている。

(7) 犯罪・暴力について (P117~P122 参照)

- ・犯罪による事故やけがの経験については、「身体的なけがを受けた」が2.1%、「精神的苦痛を受けた」が1.9%となっている。
- ・配偶者や交際相手から身体に対する暴力を受けた経験については、8.7%(「1・2度あった」(6.7%)、「何度もあった」(2.0%))が「あった」と回答している。
- ・配偶者や交際相手から精神的苦痛を受けた経験については、7.5%(「1・2度あった」(4.8%)、「何度もあった」(2.7%))が「あった」と回答している。
- ・配偶者や交際相手から性的行為の強要等の経験については、3.6%(「1・2度あった」(1.9%)、「何度もあった」(1.7%))が「あった」と回答している。
- ・配偶者や交際相手から相手から受けた暴力によって命の危険を感じたことがあるかについては、約2割(17.6%)が「ある」と回答している。
- ・家族からの虐待だったかもしれないと思う行為を受けた経験については、「ある」が3.9%、家族への虐待だったかもしれないと思う行為をした経験については、「ある」が5.0%となっている。

(8) 自殺について (P123~P128 参照)

- ・自殺したいと思った経験については、約4人に1人(24.2%)が「思ったことがある」と回答している。
- ・自殺したいと思った一番の原因については、約3人に1人(32.0%)が「家庭問題」と回答している。
- ・自殺したいと思ったときの相談先については、約6割(60.5%)が「相談していない」と回答している。
- ・自殺に関する相談先の認知度については、約6割(56.9%)が「知らない」と回答している。
- ・自殺について知っていることについては、「自殺は防ぐことができる」が66.3%と最も多く、次いで「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談を勧めることは大切である」が63.3%となっている。一方「鹿児島市では毎年約100人の方が自殺で亡くなっている」が3.8%で、ほとんど知られていない結果となっている。

## 【高齢者】

### 6 高齢者の調査結果について

#### (1) 事故やけがの経験 (P139 参照)

- ・ 1年間の事故やけがの経験については、「ある」が13.8%、「ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある」が7.5%となっている。

#### (2) 事故やけがの状況 (P140~P146 参照)

- ・ 事故やけがをした時期については、「平成24年2月~4月」と「平成24年5月~7月」が26.5%と最も多くなっている。
- ・ 事故やけがをした時間については、約4割(39.8%)が「12時~18時」、約3割(31.1%)が「6時~12時」と回答している。
- ・ 事故やけがをしたときの天気については、約半数(49.5%)が「晴」、約2割(19.9%)が「曇」と回答している。
- ・ 事故やけがをしたときの状況については、「家事(日常品の買い物を含む)」が27.0%と最も多く、次いで「散歩」が13.3%、「仕事」が7.7%となっている。
- ・ 事故やけがをした場所については、約3人に1人(35.7%)が「自宅(屋内)」、4人に1人(24.0%)が「歩道・道路」と回答している。
- ・ 事故やけがの種類については、約5割(53.1%)が「転倒」と回答している。
- ・ けがの状況については、「打撲・うちみ」が30.6%と最も多く、次いで「骨折・ひび」が26.0%、「切り傷・刺し傷・すり傷」が10.7%となっている。
- ・ 医療機関の受診については、「医療機関に2回以上通院した(している)」が40.3%と最も多く、次いで「家庭・職場などの手当てで済んだ」が21.4%、「医療機関に入院した(している)」が16.3%となっている。
- ・ 未然に防ぐことができた可能性については、約4割(44.4%)が「防ぐことができた」と回答している。

(3) 家庭の安全対策の実践状況 (P149 参照)

・家庭の安全対策の実践状況を割合ごとに分類すると以下のようになる。

80%以上	50%以上 80%未満	50%未満
就寝・外出時には戸締まりをする	濡れた手でコンセントや電気コードを触らない	階段や廊下、浴室などに手すりを設置している
薬は正しく服用している	洗剤や薬などは指定の容器に入れて保管している	室内や廊下などで段差解消をしている
危険な道具(はさみ、カッターなど)は決まった場所に置いている	階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない	階段にすべり止めを設置している
	すべりやすいスリッパなどは履かないようにしている	
	ガスの使用後には元栓などを閉めたか確認する	
	コンセントにはたこ足配線をしていない	
	浴室の使用後は、水気が残らないように乾燥させている	
	床に物を置いたままにしない	

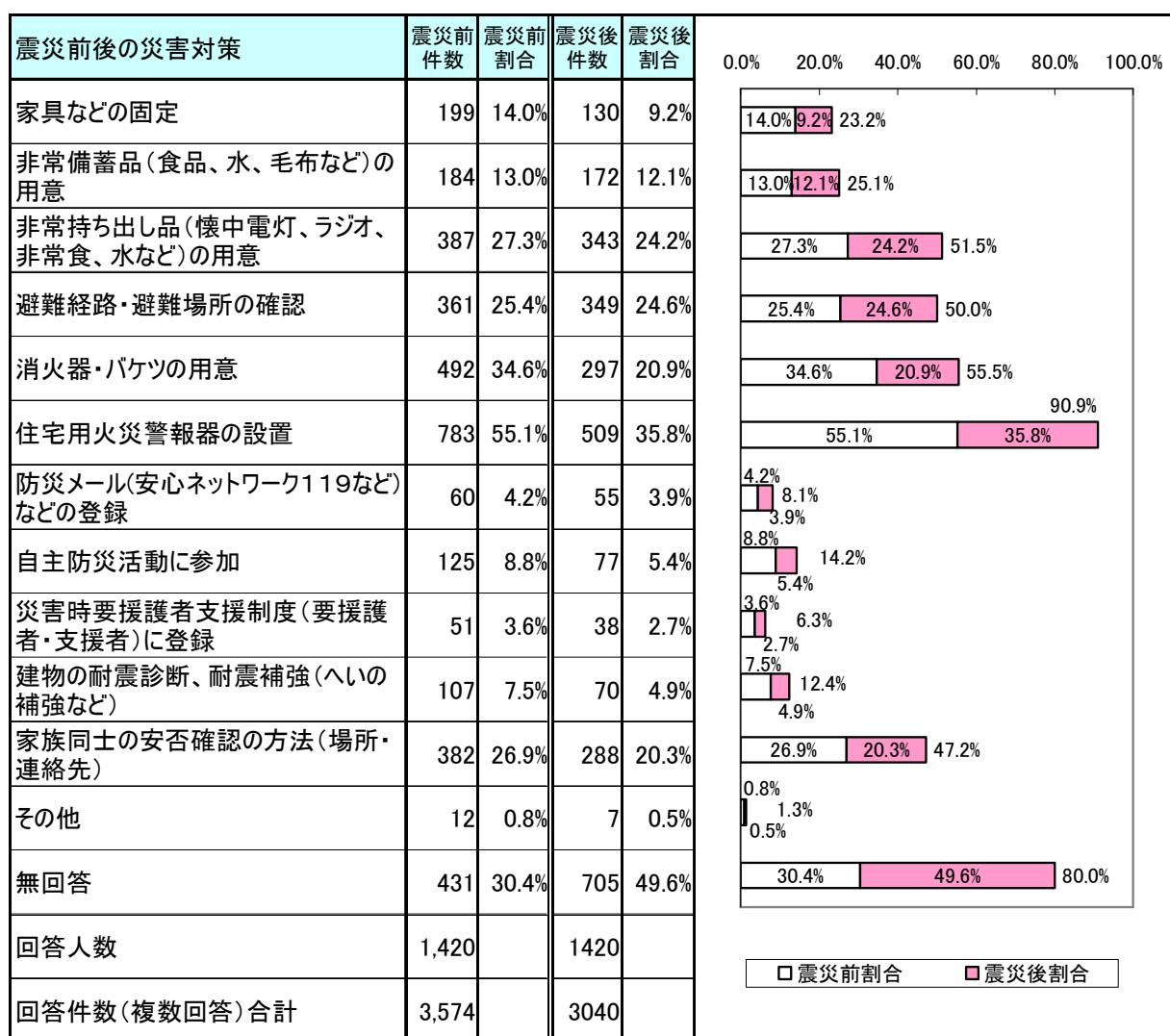
(4) 「わが家の安心安全ガイドブック」(P151～P152 参照)

- ・わが家の安心安全ガイドブックの認知度については、約5割(54.9%)が「知っている」と回答している。
- ・性別、年齢別ともに、半数以上(男(54.5%)、女(56.0%)、65歳～74歳(57.9%)、75歳以上(52.1%))が「知っている」と回答している。
- ・ガイドブックの活用については、約3人に2人(66.2%)が「活用している」または「見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している」と回答している。一方、約3割(28.2%)が「配布されたのは知っているが、見ていない」または「活用していない」と回答している。



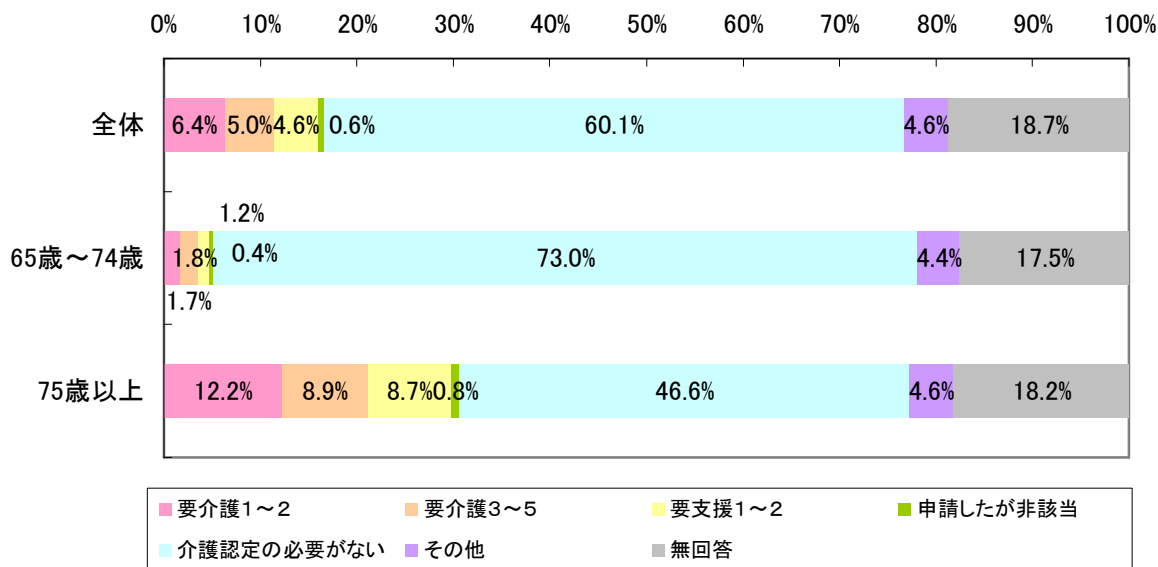
(5) 震災前後の災害対策 (P153~P155 参照)

- ・家庭での災害対策としては、設置が義務づけられた「住宅用火災警報器の設置」が震災前・後を通じて一番多くなっている。その他の災害対策については、「避難経路・避難場所の確認」や「非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、非常食、水など）の用意」が多くなっている。また、「防災メール（安心ネットワーク119など）などの登録」や「自主防災活動に参加」などについては、取組みの割合が低くなっている。



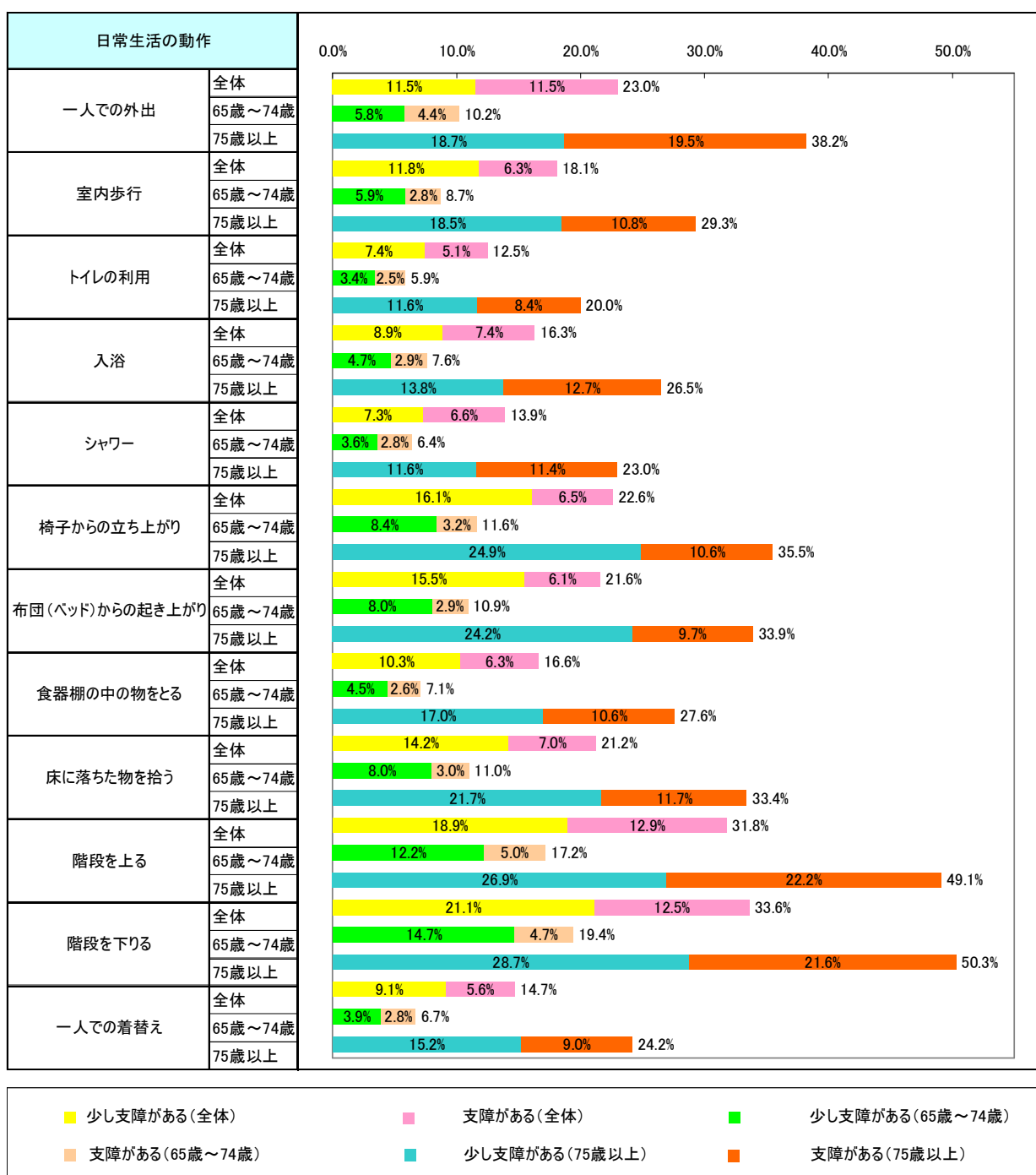
(6) 介護認定の状況 (P157~P158 参照)

- ・介護保険については、16.0% (「要介護1~2」(6.4%)、「要介護3~5」(5.0%)、「要支援1~2」(4.6%)) が要介護または要支援の認定を受けている。
- ・年齢別にみると、75歳以上で「要介護1~2」(12.2%)、「要介護3~5」(8.9%)、「要支援1~2」(8.7%) の合計が約3割 (29.8%) となっており、65歳~74歳の合計4.7%に比べ高くなっている。



(7) 日常生活の動作状況 (P159~P170 参照)

- ・ 日常生活の動作の状況を全体、65歳～74歳、75歳以上で割合ごとに分けると以下ようになる。
- ・ 年齢別にみると、全ての動作で75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計の割合が全体の合計の割合に比べて高くなっている。また、階段を上ることや階段を下りることについて75歳以上の「少し支障がある」と「支障がある」の合計の割合が約半数（それぞれ49.1%、50.3%）となっている。



(8) 反射材の活用 (P171 参照)

- ・「活用していない」と「持ってない」の合計が 45.8%で、「活用している」と「たまに活用している」の合計 43.6%を上回っている。

(9) 転倒について (P172~P176 参照)

- ・転倒の経験については、約 5 人に 1 人 (19.8%) が「ある」または「危うく転倒するところだった」と回答している。
- ・転倒に対する不安感については、約 4 割 (41.8%) が「とても不安を感じる」または「やや不安を感じる」と回答している。
- ・運動不足が転倒 (または危うく転倒しそうになる) 原因と思うかについては、約 6 割 (61.9%) が「ある」と回答している。

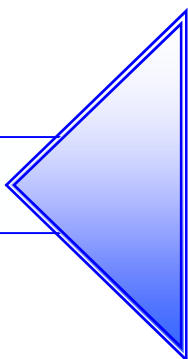
(10) 犯罪・暴力について (P179~P184 参照)

- ・犯罪による事故やけがの経験については、「精神的苦痛を受けた」が 1.5%、「身体的なけがを受けた」が 0.6%、となっている。
- ・配偶者や交際相手から身体に対する暴力を受けた経験については、2.7% (「1・2 度あった」(1.3%)、「何度もあった」(1.4%)) が「あった」と回答している。
- ・配偶者や交際相手から精神的苦痛を受けた経験については、3.2% (「1・2 度あった」(1.9%)、「何度もあった」(1.3%)) が「あった」と回答している。
- ・配偶者や交際相手から性的行為の強要等の経験については、1.0% (「1・2 度あった」(0.4%)、「何度もあった」(0.6%)) が「あった」と回答している。
- ・配偶者や交際相手から相手から受けた暴力によって命の危険を感じたことがあるかについては、約 3 割 (30.3%) が「ある」と回答している。
- ・家族からの虐待だったかもしれないと思う行為を受けた経験については、「ある」が 2.0%、家族への虐待だったかもしれないと思う行為をした経験については、「ある」が 2.5%となっている。

## (11) 自殺について (P185~P190 参照)

- 自殺したいと思った経験については、約1割(9.8%)が「思ったことがある」と回答している。
- 自殺したいと思った一番の原因については、約3人に1人(33.1%)が「健康問題」と回答している。
- 自殺したいと思ったときの相談先については、約6割(62.6%)が「相談していない」と回答している。
- 自殺に関する相談先の認知度については、約6割(57.0%)が「知らない」と回答している。
- 自殺について知っていることについては、「自殺は防ぐことができる」が48.5%と最も多く、次いで「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談を勧めることは大切である」が43.1%となっている。一方「鹿児島市では毎年約100人の方が自殺で亡くなっている」が6.5%で、ほとんど知られていない結果となっている。





第 7 章 調査票

## 乳幼児の事故やけがなどに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、今年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組むこととしております。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、乳幼児の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの乳幼児がいらっしゃる世帯の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査主旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

### ● 調査票の記入について

- 1 裏面のセーフコミュニティについての説明を読まれてからご回答ください。
- 2 調査対象にしているお子さんの保護者の方がご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、平成24年8月1日（水）現在でご回答ください。
- 4 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 5 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成24年9月10日（月）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 6 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748



※裏面をご回答前にお読みください



## 乳幼児の事故やけがなどに関する調査

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

## 1 ご家族やお住まいのことについて

問1 あなた（保護者）のご家族についてお聞きします。

(1) 対象（封書の宛名） のお子さん ※24年8月1日現在	性別 ①男 ②女 年齢 ( ) 歳 ( ) か月
(2) 家族の人数 ※回答者も含む	①2人 ②3人 ③4人 ④5人 ⑤その他 ( ) 人
(3) お子さんの人数 ※20歳未満の人数 ※対象（封書の宛名） のお子さんを含む	乳幼児 ( ) 人 小学生以上 ( ) 人 ※乳幼児：0歳～6歳までの未就学児

問2 あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	( ) 例) 山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	① ( ) 校区 ② 分からない
(3) 住居の形態	① 独立家屋 ( ) 階建 ② 集合住宅 ( ) 階建 ( ) 階 ③ その他 ( )

## 2 セーフコミュニティについて

問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなた（保護者）は、この考えについてどう思いますか。（ひとつに○）

（※セーフコミュニティについては、別添の協力のお願いの裏面をご覧ください。）

- ①賛同する      ②賛同しない      ③分からない



3 不慮の事故について

問4 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけど、窒息、中毒などをいいますが、一緒に住んでいるお子さんに対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。(3つまで○)

- ①交通事故      ②転倒      ③転落      ④おぼれた  
⑤やけど      ⑥窒息      ⑦中毒      ⑧その他 (                      )

4 対象(封筒の宛名)のお子さんのこの1年間(平成23年8月～平成24年7月)の「事故やけが」の状況についてお聞きします。この場合の「事故やけが」とは、不慮の事故によるけがなどを指します。

問5 対象のお子さんが、この1年間にもう少して「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。(ひとつに○)

- ①ある → 問5-1、2ご回答後、問6へ  
②ない → 問6へ

問5で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問5-1 この1年間に対象のお子さんで、ヒヤリとしたことは、どのくらいの頻度ありますか。(一番近いものひとつに○)

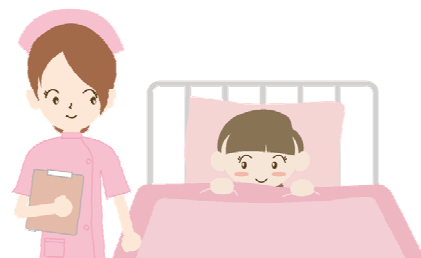
- ①毎日5回以上      ②毎日5回未満      ③2、3日に数回  
④1～2週間に数回      ⑤1か月に数回      ⑥その他 (                      )

問5-2 この1年間に対象のお子さんで、一番多くヒヤリとした体験は何ですか。(ひとつに○)

- ①交通事故      ②転倒      ③転落      ④おぼれた  
⑤やけど      ⑥窒息      ⑦中毒      ⑧その他 (                      )

問6 対象のお子さんは、この1年間に「事故やけが」の経験がありますか。(ひとつに○)

- ①ある → 問7ご回答後、問8へ  
②ない → 問8へ



問6で『①ある』とご回答された方にお聞きします。(『②ない』とご回答された方は問8へ)

問7 対象のお子さんのこの1年間(平成23年8月～平成24年7月)にあった事故やけがについて、ア：場所、イ：種類、ウ：医療機関の受診の状況、エ：その事故やけがを未然に防ぐことができた可能性を、それぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

(例) ベッドから落ちて頭を打ったため、病院に行き、しばらく通院した。その後転落防止のため、  
 →ア① →イ③ →ウ③ →エ①  
ベッドに転落防止柵を設置した。

	(例)	1件目	2件目
<b>ア 事故やけがをした場所</b> ①自宅(屋内)                      ⑥海・川・湖・池 ②自宅の庭など(屋外)            ⑦商業・飲食・娯楽施設 ③歩道・道路                      ⑧保育園・幼稚園・その他通園施設 ④公園・広場                      ⑨公共の場所(市の施設など) ⑤車・電車・バスなどの中      ⑩その他( )	①		
<b>イ 事故やけがの種類</b> ①交通事故                      ⑩人や物との接触 ②転倒                              ⑪ハサミなどの鋭利なものでのけが ③転落                              ⑫虫にさされた、動物にかまれた ④おぼれた                      ⑬物の落下 ⑤やけど(熱湯、アイロンなど) ⑭その他( ) ⑥異物などの誤飲(たばこの吸殻など) ⑦窒息(のどに食べ物をつまらせたなど) ⑧中毒(洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど) ⑨ドアなどに挟まった	③		
<b>ウ 医療機関の受診</b> ①家庭などの手当てで済んだ ②医療機関に1回通院した ③医療機関に2回以上通院した(している) ④医療機関に入院した(している) ⑤その他( )	③		
<b>エ 未然に防ぐことができた可能性</b> ①防ぐことができた ②防ぐことはできなかった ③わからない	①		

問7で『イ 事故やけがの種類』で『①交通事故』、『②転倒』、『③転落』、『④おぼれた』、『⑤やけど』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問7の『イ 事故やけがの種類』で①交通事故とご回答された方にお聞きします。

(※問7で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を①交通事故とご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。)

#### 問7-1 交通事故時の対象のお子さんの状況（ひとつに○）

- ①歩行中（保護者などが抱っこ、ベビーカーなどに乗せていた場合も含む）
- ②歩行中（自分で歩行）
- ③自転車に乗っていた（保護者などが運転）
- ④自転車または三輪車などに乗っていた（自分で運転）
- ⑤車でチャイルドシートに座っていた
- ⑥車でチャイルドシートに座っていなかった
- ⑦その他（ )

#### 問7-2 交通事故の原因（ひとつに○）

- ①自転車との接触
- ②車・バイクとの接触
- ③歩行者との接触
- ④壁や電柱などとの接触
- ⑤自分で転倒した
- ⑥その他（ )

問7の『イ 事故やけがの種類』で②転倒とご回答された方にお聞きします。

(※問7で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を②転倒とご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。)

#### 問7-3 転倒の原因（ひとつに○）

- ①段差、ものに足をひっかけた
- ②友だちなどに押された
- ③手をひっぱられた（犬の散歩など）
- ④すべった
- ⑤人や物との接触
- ⑥その他（ )

**問7の『イ 事故やけがの種類』で③転落とご回答された方にお聞きします。**

(※問7で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を③転落とご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。)

**問7-4 転落の原因 (ひとつに○)**

- ①ベッド、椅子、ソファから落ちた
- ②階段から落ちた
- ③ベランダ、屋上から落ちた
- ④抱き上げていて落としてしまった
- ⑤遊具 (ジャングルジムなど) で遊んでいて落ちた
- ⑥川や海などに落ちた
- ⑦その他 ( )

**問7の『イ 事故やけがの種類』で④おぼれたとご回答された方にお聞きします。**

(※問7で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を④おぼれたとご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。)

**問7-5 おぼれた場所 (ひとつに○)**

- ①お風呂場
- ②プール (子ども用プールを含む)
- ③海・川・湖・池
- ④その他 ( )

**問7の『イ 事故やけがの種類』で⑤やけどとご回答された方にお聞きします。**

(※問7で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を⑤やけどとご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。)

**問7-6 やけどの原因 (ひとつに○)**

- ①お風呂の湯・シャワー
- ②やかん・ポット
- ③花火
- ④暖房機 (ストーブなど)
- ⑤その他 ( )



問8 お子さんの事故やけがの予防に関する情報は、なに(どこ)から得ていますか。また、お子さんの事故やけがの予防のために、より充実して欲しいと思うものは、なに(どこ)ですか。(3つまで○)

項 目	3つまで○	3つまで○
	現在、得ている	充実して欲しい
①家族・親戚		
②友人・知人		
③子育てサークルなど		
④テレビ・ラジオ		
⑤育児雑誌		
⑥インターネット (SNSを含む)		
⑦子育て教室・講座		
⑧保育園・幼稚園		
⑨保健所		
⑩病院		
⑪子育て支援施設 (りぼんかん・なかまっちなど)		
⑫その他 ( )		

問9 あなた(保護者)は、日頃からどのような子どもの安全対策をとっていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

	あてはまる
①車に乗る際にチャイルドシートを使用する	
②自転車に乗る際にヘルメットを着用させる	
③道路を歩行する際、手つなぎやだっこをする	
④よく体をぶつけてしまう家具などの角にカバーをしている	
⑤たんす、食器棚、冷蔵庫の扉が開かないように安全グッズを設置している	
⑥ドアやとびらに手を挟まないように安全グッズを設置している	
⑦窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置している	
⑧階段に転落防止柵を設置している (昇らないような防止柵も含む)	
⑨ベッドに転落防止柵を設置している	
⑩ベランダから身をのりださないように台座などは置かないようにしている	
⑪トイレの中に落ちないようにする子ども用の便座やふたをしている	
⑫浴槽ですべて溺れないようにすべり止めを設置している	
⑬浴槽の水は残さないようにしている	
⑭ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いてい	
⑮たばこを放置しない	
⑯かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにしている	
⑰その他 ( )	

問10 あなた(保護者)の子どもの安全に関する考え方についてお聞きします。

問10-1 子どものけがについて(ひとつに○)

- ①子どもは小さいうちはけがをするものだ(ある程度のけがは仕方がない)
- ②大人や社会が環境を整えて、子どもには小さなけがもさせない方がいい

問10-2 子どもの安全について(ひとつに○)

- ①子どもの安全は、家庭が責任を持って確保すべきだ
- ②子どもの安全は、家庭だけでなく地域も一体となって取り組むべきだ
- ③その他 ( )



問 10-3 子どもの安全教育について（ひとつに○）

- ①子どもの安全教育は、家庭で責任を持って行うべきだ
- ②子どもの安全教育は、家庭ではなく保育園や幼稚園が行うべきだ
- ③子どもの安全教育は、家庭と保育園・幼稚園、行政が協同で行うべきだ
- ④その他（    ）

問 11 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ**9月10日（月）**までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いします。



## 小学生・中学生の事故やけがなどに関する調査へのご協力のお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、今年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組むこととしております。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、小学生・中学生の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの小学生・中学生がいらっしゃる世帯の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査主旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

### ● 調査票の記入について

- 1 裏面のセーフコミュニティについての説明を読まれてからご回答ください。
- 2 調査対象にしているお子さんと一緒に保護者の方がご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、平成24年8月1日（水）現在でご回答ください。
- 4 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 5 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成24年9月10日（月）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 6 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748



※裏面をご回答前にお読みください

小学生・中学生の事故やけがなどに関する調査

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 ご家族やお住まいのことについて

問1 あなた(保護者)のご家族についてお聞きします。

(1) 対象(封書の宛名) のお子さん ※24年8月1日現在	性別	①男	②女		
	年齢	( ) 歳			
	学年	①小学1年生	④小学4年生	⑦中学1年生	
		②小学2年生	⑤小学5年生	⑧中学2年生	
	③小学3年生	⑥小学6年生	⑨中学3年生		
(2) 家族の人数 ※回答者も含む	①2人	②3人	③4人	④5人	⑤その他( )人
(3) お子さんの人数 ※20歳未満の人数 ※対象(封書の宛名) のお子さんを含む	小学生	( ) 人			
	中学生	( ) 人			
	小・中学生以外	( ) 人			

問2 あなた(保護者)のお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	( ) 例) 山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	① ( ) 校区      ② 分からない
(3) 住居の形態	① 独立家屋 ( ) 階建
	② 集合住宅 ( ) 階建 ( ) 階
	③ その他 ( )

**2 セーフコミュニティについて**

問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなた（保護者）は、この考えについてどう思いますか。（ひとつに○）

（※セーフコミュニティについては、別添の協力のお願いの裏面をご覧ください。）

- ①賛同する            ②賛同しない            ③分からない

**3 不慮の事故について**

問4 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけど、窒息、中毒などをいいますが、対象（封筒の宛名）のお子さん対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。

（3つまで○）

- ①交通事故            ②転倒            ③転落            ④おぼれた  
⑤やけど            ⑥窒息            ⑦中毒            ⑧その他（            ）

4 対象(封筒の宛名)のお子さんのこの1年間(平成23年8月～平成24年7月)の「事故やけが」の状況についてお聞きします。この場合の「事故やけが」とは、不慮の事故によるけがなどを指します。

**問5から問10までは、保護者の方が対象のお子さんと一緒に、問11からは、保護者の方がご回答ください。**

問5 対象のお子さんが、この1年間に次の事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。(ひとつに○)

交通事故	①ある → 何をしているときですか → 何でヒヤリとしましたか ①歩行中 ②ない ②自転車に乗っていて ③車に乗っていて ④その他 ( ) ①車・バイクにぶつかりそうになった ②自転車にぶつかりそうになった ③歩行者にぶつかりそうになった ④看板・電柱にぶつかりそうになった ⑤転倒しそうになった ⑥すべりそうになった ⑦その他 ( )
転倒	①ある → ヒヤリとした原因は何でしたか ①段差、ものに足をひっかけた ②ない ②友だちなどに押された ③手をひっぱられた(犬の散歩など) ④すべりそうになった ⑤人や物との接触 ⑥その他 ( )
やけど	①ある → ヒヤリとした原因は何でしたか ①お風呂の湯・シャワー ②ない ②やかん・ポット ③花火 ④暖房機(ストーブなど) ⑤その他 ( )

問6 対象のお子さんは、この1年間に「事故やけが」の経験がありますか。(ひとつに○)

①ある → 問7ご回答後、問8へ

②ない → 問8へ





	(例)	1 件目	2 件目
<b>エ けがの状態</b> ①骨折・ひび ②ねんざ・脱臼・突き指 ③打撲・うちみ ④きり傷・さし傷・すり傷 ⑤やけど ⑥さされ傷・かまれ傷 ⑦その他 ( )	①		
<b>オ 医療機関の受診</b> ①家庭や学校などの手当てで済んだ ②医療機関に1回通院した ③医療機関に2回以上通院した(している) ④医療機関に入院した(している) ⑤その他 ( )	③		
<b>カ 未然に防ぐことができた可能性</b> ①防ぐことができた ②防ぐことはできなかった ③わからない	①		

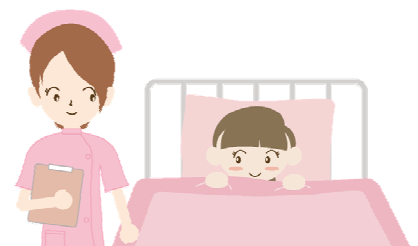
問7の『ウ 事故やけがの種類』で『①交通事故』、『②転倒』、『③転落』、『④おぼれた』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問7の『ウ 事故やけがの種類』で①交通事故とご回答された方にお聞きします。

(※問7で1件目と2件目のどちらも『ウ 事故やけがの種類』を①交通事故とご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。)

問7-1 交通事故時の対象のお子さんの状況 (ひとつに○)

- ①歩行中
- ②自転車に乗っていた(保護者などが運転)
- ③自転車に乗っていた(自分で運転)
- ④車に乗っていた
- ⑤その他 ( )



## 問7-2 交通事故の原因（ひとつに○）

- ①自転車との接触  
②車・バイクとの接触  
③歩行者との接触  
④壁や電柱などとの接触  
⑤自分で転倒した  
⑥その他（ ）

問7の『ウ 事故やけがの種類』で②転倒とご回答された方にお聞きします。

（※問7で1件目と2件目のどちらも『ウ 事故やけがの種類』を②転倒とご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。）

## 問7-3 転倒の原因（ひとつに○）

- ①段差、ものに足をひっかけた  
②友だちなどに押された  
③手をひっぱられた（犬の散歩など）  
④すべった  
⑤人や物との接触  
⑥その他（ ）

問7の『ウ 事故やけがの種類』で③転落とご回答された方にお聞きします。

（※問7で1件目と2件目のどちらも『ウ 事故やけがの種類』を③転落とご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。）

## 問7-4 転落の原因（ひとつに○）

- ①ベッドから落ちた  
②階段から落ちた  
③ベランダ、屋上から落ちた  
④遊具（ジャングルジムなど）で遊んでいて落ちた  
⑤川や海などに落ちた  
⑥その他（ ）

問7の『ウ 事故やけがの種類』で④おぼれたとご回答された方にお聞きします。

(※問7で1件目と2件目のどちらも『ウ 事故やけがの種類』を④おぼれたとご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。)

問7-5 おぼれた場所

- ①お風呂場
- ②プール
- ③海、川、湖、池
- ④その他 ( )

問8 対象のお子さんは、いつもどのくらいの頻度で自転車に乗りますか。

(一番近いものひとつに○)

- ①ほぼ毎日 (週4日以上)
  - ②週に2~3日
  - ③週に1日
  - ④ほとんど乗らない
  - ⑤自転車には乗らない・乗れない
  - ⑥自転車はもっていない
- 問8-1、2ご回答後、問9へ
- 問9へ

問8で『①ほぼ毎日 (週4日以上) から④ほとんど乗らない』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問8-1 対象のお子さんは、自転車に乗るとき、ヘルメットをつけていますか。

(ひとつに○)

- ①いつもつけている
- ②時々つけている
- ③あまりつけていない
- ④つけていない
- ⑤ヘルメットをもっていない





問 8-2 対象のお子さんは、ルールを守って自転車に乗っていますか。(ひとつに○)

- ①ルールを守っている
- ②たまにルールを守っていないことがある
- ③ルールを守っていない
- ④ルールを知らない

※ 自転車は、車のなかまです。自転車にも守るべきルールがあります。傘さし運転、走行中の携帯電話、横に並んでの走行などは禁止されています。

問 9 対象のお子さんは、通学路や遊び場付近の「子ども 110 番の家」を知っていますか。(ひとつに○)

- ①知っている
- ②聞いたことはあるけど、どこにあるのか分からない
- ③知らない

※ 「子ども 110 番の家」とは、子どもが犯罪被害にあいそうになったときなどに、助けを求めることができるように

- 犯人（又は不審者）から逃れるための緊急避難場所
- 警察への通報場所

として利用できる、通学路や公園の周辺にある商店や民家などの施設です。

問 10 対象のお子さんは、「いかのおすし」を知っていますか。(ひとつに○)

- ①知っている
- ②聞いたことはあるが、内容は知らない
- ③知らない

※ 「いかのおすし」とは、子どもを犯罪被害から守るための防犯標語です。

いか 知らない人について行か（いか）ない  
 の 知らない人の車に乗（の）らない  
 お 「助けて！」と大（お）声で叫ぶ  
 す 大人のところへす（す）ぐににげる  
 し どんな人が何をしたか家の人に知（し）らせる

問 11 あなた(保護者)は、お子さんが安全に生活するために注意してきたことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

	あてはまるもの すべてに○
①道路に飛び出さないよう注意している	
②交通ルールを教えている	
③自転車に乗る際には、ヘルメットをかぶらせている	
④車に乗る際には、シートベルトを着用するよう注意している	
⑤ブランコや滑り台、鉄棒などの遊具の遊び方を教えている	
⑥マッチやライターで火遊びをしないよう注意している	
⑦はさみなどの道具の正しい使い方を教えている	
⑧暗い道をひとりで歩かないようにさせている	
⑨学校の様子を聞くようにしている	
⑩水の事故について教えている	
⑪友だちと仲良くするように教えている	
⑫その他 ( )	

問 12 あなた(保護者)の子どもの安全に関する考え方についてお聞きします。

問 12-1 子どものけがについて (ひとつに○)

- ①子どもは、けがをするものだ(ある程度のけがは仕方がない)
- ②大人や社会が環境を整えて、子どもには小さなけがもさせない方がいい

問 12-2 子どもの安全について (ひとつに○)

- ①子どもの安全は、家庭が責任を持って確保すべきだ
- ②子どもの安全は、家庭だけでなく地域も一体となって取り組むべきだ
- ③子どもの安全は、(誰よりも)行政が責任を持つべきだ
- ④その他 ( )



## 問 12-3 子どもの安全教育について（ひとつに○）

- ①子どもの安全教育は、家庭で責任を持って行うべきだ
- ②子どもの安全教育は、家庭ではなく保育園や幼稚園が行うべきだ
- ③子どもの安全教育は、家庭と保育園・幼稚園、行政が協同で行うべきだ
- ④その他（ ）

## 問 13 あなた(保護者)が、特に不安に思うことは何ですか。（3つまで○）

- ①子どもが犯罪にまきこまれる
- ②地震などの災害にあう
- ③子どもが交通事故にあう
- ④子どもが火事にあう
- ⑤いじめや不登校
- ⑥学校で事故にあう
- ⑦非行に走る
- ⑧薬物に染まる
- ⑨その他（ ）

## 問 14 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ **9月10日（月）**までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。

## 鹿児島市民の事故やけがなどに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、今年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組むこととしております。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、市民の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの16歳から64歳までの方の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査主旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

### ● 調査票の記入について

- 1 裏面のセーフコミュニティについての説明を読まれてからご回答ください。
- 2 調査対象としている方がご回答ください。（ご本人様にご回答できない場合は、ご家族の方などが、可能な範囲で聞き取り等を行いご回答ください。）
- 3 特別の注意書きがない限り、平成24年8月1日（水）現在でご回答ください。
- 4 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 5 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成24年9月10日（月）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 6 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748



※裏面をご回答前にお読みください

## 鹿児島市民の事故やけがなどに関する調査

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

## 1 性別、年齢、就労状況などについて

問1 あなたの性別などについてお聞きします。

(1) 対象（封書の宛名） の方 ※24年8月1日現在	性別	①男	②女
	年齢	（ ）歳	
	就労状況	①就労している	③学生
		②就労していない	④その他（ ）

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	（ ）例) 山下町、谷山中央4丁目		
(2) 小学校区	①（ ）校区	② 分からない	
(3) 住居の形態	① 独立家屋（ ）階建		
	② 集合住宅（ ）階建	階）	
	③ その他（ ）		

## 2 セーフコミュニティについて

問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなたは、この考えについてどう思いますか。（ひとつに○）

（※セーフコミュニティについては、別添の協力のお願いの裏面をご覧ください。）

- ①賛同する      ②賛同しない      ③分からない



3 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）の「事故やけが」の状況についてお聞きします。この場合の事故やけがとは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけどなどをいいます。（捻挫、打撲などで、医療機関にかからなかったものも対象とします。）

問4 あなたは、この1年間に事故やけがの経験がありますか。（ひとつに○）

- ①ある → 問5ご回答後、問6へ
- ②ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある } → 問6へ
- ③ない

問4で『①ある』とご回答された方にお聞きします。（『②』『③』とご回答された方は問6へ）

問5 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）にあった事故やけがについて、ア～サをそれぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

（例）平成23年11月の午前8時頃、雨の中を通勤中、道路ですべって転倒し、足を骨折したため、ア② →イ② →ウ③ →エ① →オ③ →カ② →キ①  
病院に入院した。その後、雨の日は、すべりにくい靴を履くようにした。  
→ク④ →ケ①

	(例)	1 件目	2 件目
<b>ア 事故やけがをした時期</b> ①平成23年8月～10月 ②平成23年11月～平成24年1月 ③平成24年2月～4月 ④平成24年5月～7月	②		
<b>イ 事故やけがをした時間</b> ①0時～6時 ②6時～12時 ③12時～18時 ④18時～24時	②		
<b>ウ 事故やけがをしたときの天気</b> ①晴 ④雪 ②曇 ⑤その他（          ） ③雨	③		

	(例)	1 件目	2 件目
<b>エ 事故やけがをしたときの状況</b> ①通勤 ②通学 ③仕事 ④授業（体育・部活・サークルを含む） ⑤家事（日用品の買い物を含む） ⑥スポーツ ⑦散歩 ⑧入浴 ⑨余暇活動（レジャー、ショッピング） ⑩ボランティアなどの奉仕活動 ⑪その他（ ）	①		
<b>オ 事故やけがをした場所</b> ①自宅（屋内）                      ⑧学校 ②自宅の庭など（屋外）          ⑨職場 ③歩道・道路                        ⑩農地、林地、山 ④公園・広場                        ⑪駐車場 ⑤車・電車・バスなどの中        ⑫公共の場所（市の施設など） ⑥海・川・湖・池                   ⑬その他（ ） ⑦商業・飲食・娯楽施設	③		
<b>カ 事故やけがの種類</b> ①交通事故                            ⑬物の落下 ②転倒                                 ⑭暴力（けんか）によるけが ③転落                                 ⑮その他（ ） ④おぼれた ⑤やけど（熱湯、アイロンなど） ⑥異物などの誤飲 ⑦窒息（のどに食べ物をつまらせたなど） ⑧中毒（洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど） ⑨ドアなどに挟まった ⑩人や物との接触 ⑪ハサミなどの鋭利なものでのけが ⑫虫に刺された、動物に咬まれた	②		

	(例)	1 件目	2 件目
<b>キ けがの状況</b> ①骨折・ひび ②ねんざ・脱臼・突き指 ③打撲・うちみ ④切り傷・刺し傷・すり傷 ⑤やけど ⑥刺され傷・咬まれ傷 ⑦その他 ( )	①		
<b>ク 医療機関の受診</b> ①家庭・学校・職場などの手当てで済んだ ②医療機関に1回通院した ③医療機関に2回以上通院した(している) ④医療機関に入院した(している) ⑤その他 ( )	④		
<b>ケ 未然に防ぐことができた可能性</b> ①防ぐことができた ②防ぐことはできなかった ③分からない	①		
<b>コ 薬(風邪薬、鎮痛剤など)の服用状況</b> ①薬を飲んでいて ②薬は飲んでいない	②		
<b>サ 飲酒の有無</b> ①お酒を飲んでいて ②お酒は飲んでいない	②		



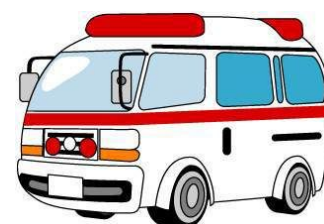
問5のクで『③医療機関に2回以上通院した（している）から⑤その他』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問5-1 医療機関にはどのくらい入院（通院）されました（されています）か。なお、問5で、1件目と2件目のどちらも『ク 医療機関の受診』を『③医療機関に2回以上通院した（している）から⑤その他』のいずれかにご回答された場合は、入院（通院）の期間が一番長かったものをご回答ください。（ひとつに○）

※退院後、通院した（している）方は、入院及び通院の両方についてご回答ください。

入院 ① 1か月未満 ③ 3か月～6か月未満 ⑤ 1年以上  
② 1か月～3か月未満 ④ 6か月～1年未満

通院 ① 1か月未満 ③ 3か月～6か月未満 ⑤ 1年以上  
② 1か月～3か月未満 ④ 6か月～1年未満



#### 4 家庭の安全対策に関する考え方について

問6 あなたの家庭の安全対策に関して、実践しているものをご回答ください。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまる
①濡れた手でコンセントや電気コードを触らない	
②コンセントにはたこ足配線をしない	
③ガスの使用後には元栓などを閉めたか確認する	
④就寝・外出時には戸締まりをする	
⑤薬は正しく服用している	
⑥洗剤や薬などは指定の容器に入れて保管している	
⑦階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない	
⑧階段や廊下、浴室などに手すりを設置している	
⑨階段にすべり止めを設置している	
⑩室内や廊下などで段差解消をしている	
⑪浴室の使用後は、水気が残らないように乾燥させている	
⑫危険な道具（はさみ、カッターなど）は決まった場所に置いている	
⑬床に物を置いたままにしない	
⑭すべりやすいスリッパなどは履かないようにしている	

⑮その他 ( )	
----------	--

問7 防災、防犯、事故防止などに関する情報を掲載した冊子「わが家の安心安全ガイドブック」を平成24年3月に各世帯に配付しておりますがご存知ですか。(ひとつに○)

- ①知っている → [問7-1 ご回答後、問8へ](#)
- ②知らない → [問8へ](#)

問7で『①知っている』とご回答された方にお聞きします。

問7-1 「わが家の安心安全ガイドブック」を活用していますか。(ひとつに○)

- ①活用している
- ②見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している
- ③配付されたのは知っているが、見ていない
- ④活用していない
- ⑤その他 ( )

問8 あなたのご家庭では、災害に備えて、東日本大震災の前はどのような対策をとっていましたか。また、東日本大震災後は新たにどのような対策をとっていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

項 目	あてはまる ものすべてに○	あてはまる ものすべてに ○
	震災前	震災後
①家具などの固定		
②非常備蓄品（食品、水、毛布など）の用意		
③非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、非常食、水など）の用意		
④避難経路・避難場所の確認		
⑤消火器・バケツの用意		
⑥住宅用火災警報器の設置		
⑦防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録		
⑧自主防災活動に参加		
⑨災害時要援護者支援制度（要援護者・支援者）に登録		
⑩建物の耐震診断、耐震補強（へいの補強など）		
⑪家族同士の安否確認の方法（場所・連絡先）		
⑫その他 ( )		

問9 その他、ご家庭で「事故やけが」を防止するために、工夫していることなどがありましたら、ご記入ください。

[ ]

## 5 交通安全について

問10 あなたが最も利用する移動手段は何ですか。(ひとつに○)

- |            |                               |         |          |
|------------|-------------------------------|---------|----------|
| ①自動車       | } → 問10-1、2、3<br>ご回答後<br>問11へ | ⑤徒歩     | } → 問11へ |
| ②バイク(原付)   |                               | ⑥タクシー   |          |
| ③バイク(原付以外) |                               | ⑦公共交通機関 |          |
| ④自転車       |                               | ⑧その他( ) |          |

問10で『①自動車』～『④自転車』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

あなたの運転中の状況についてお聞きします。

問10-1 問10で『①自動車』にご回答された方にお聞きします。あなたが、自動車を運転する際に実行していることをご回答ください。  
(あてはまるものすべてに○)

- ①全員のシートベルト着用(チャイルドシートを含む)を確認する
- ②車内は整理整頓し、不要なものを置かない
- ③運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない
- ④信号、一旦停止などの交通ルールを守る
- ⑤その他( )



問 10-2 問 10 で『②バイク（原付）』、『③バイク（原付以外）』とご回答された方にお聞きします。あなたが、バイクを運転する際に実行していることをご回答ください。（あてはまるものすべてに○）

- ①渋滞時は、すり抜けをしない
- ②運転時は、長袖・長ズボンを着用する
- ③大型車両の死角を通行しない
- ④外側線（白線、黄線など）の上を避けて運転する
- ⑤フルフェイスヘルメットを着用する
- ⑥信号、一旦停止などの交通ルールを守る
- ⑦その他（ )

問 10-3 問 10 で『④自転車』とご回答された方にお聞きします。あなたが、自転車を運転する際に実行していることをご回答ください。（あてはまるものすべてに○）

- ①主に車道を通行する
- ②車道を通行するときは、左側通行をする
- ③歩道を通行するときは、車道側を通行する
- ④ながら運転（音楽、携帯電話など）をしない
- ⑤カゴに重い荷物を入れない
- ⑥信号、一旦停止などの交通ルールを守る
- ⑦自転車用ヘルメットを着用する
- ⑧雨天時は、雨具を着用する（傘をさしながら運転しない）
- ⑨知り合いなどと並走しない
- ⑩その他（ )





自殺についてお聞きします。

問 15 あなたはこれまでに、自殺したい（死にたい）と思ったことがありますか。  
（ひとつに○）

- ①思ったことがある → 問 15-1、2、3 个回答後、問 16 へ  
②思ったことはない → 問 16 へ

問 15 で『①思ったことがある』とご回答された方にお聞きします。（『②思ったことはない』と回答された方は問 16 へ）

問 15-1 自殺したいと思ったときの一番の原因は何ですか。（ひとつに○）

- |          |                              |
|----------|------------------------------|
| ①家庭問題    | ⑤学校問題                        |
| ②健康問題    | ⑥勤務問題                        |
| ③経済・生活問題 | ⑦孤独感・近隣関係                    |
| ④男女問題    | ⑧その他（                      ） |

問 15-2 あなたは、自殺したいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

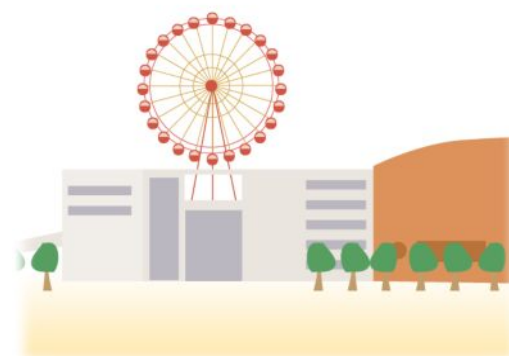
- |                     |                              |
|---------------------|------------------------------|
| ①配偶者                | ⑤学校                          |
| ②配偶者以外の家族           | ⑥職場                          |
| ③友人・知人              | ⑦相談していない                     |
| ④相談機関（市役所・いのちの電話など） | ⑧その他（                      ） |

問 15-3 あなたは、自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。（ひとつに○）

- ①ある                      ②ない

問 16 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている              ②知らない



問 17 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- ①鹿児島市では毎年約 100 人の方が自殺で亡くなっている
- ②自殺は追い込まれた末の死である
- ③自殺は防ぐことが出来る
- ④悩んでいる人はサインを発していることが多い
- ⑤自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である
- ⑥身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談を勧めることは大切である
- ⑦自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である
- ⑧考えたことがない
- ⑨その他 ( )

問 18 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

[ ]

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ **9月10日（月）**までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。



## 高齢者の事故やけがなどに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、今年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組むこととしております。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、市民の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの65歳以上の方の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査主旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

### ● 調査票の記入について

- 1 裏面のセーフコミュニティについての説明を読まれてからご回答ください。
- 2 調査対象としている方がご回答ください。（ご本人様にご回答できない場合は、ご家族の方などが、可能な範囲で聞き取り等を行いご回答ください。）
- 3 特別の注意書きがない限り、平成24年8月1日（水）現在でご回答ください。
- 4 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 5 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成24年9月10日（月）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 6 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748



※裏面をご回答前にお読みください

## 高齢者の事故やけがなどに関する調査

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

### 1 性別、年齢、就労状況などについて

問1 あなたの性別や世帯構成などについてお聞きします。

(1) 対象（封書の宛名）の方 ※24年8月1日現在	性別	①男	②女
	年齢	（ ）歳	
	就労状況	①就労している	②就労していない
(2) 世帯構成	①単身 ②夫婦だけ（配偶者も65歳以上） ③夫婦だけ（配偶者は65歳未満） ④3人以上（世帯のすべてが65歳以上） ⑤3人以上（64歳未満の家族がいる）		

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	（ ）例）山下町、谷山中央4丁目		
(2) 小学校区	①（ ）校区	② 分からない	
(3) 住居の形態	① 独立家屋（ ）階建	② 集合住宅（ ）階建	③ その他（ ）

### 2 セーフコミュニティについて

問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなたは、この考えについてどう思いますか。（ひとつに○）

（※セーフコミュニティについては、別添の協力のお願いの裏面をご覧ください。）

- ①賛同する      ②賛同しない      ③分からない



3 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）の「**事故やけが**」の状況についてお聞きします。この場合の事故やけがとは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけどなどをいいます。（捻挫、打撲などで、医療機関にかからなかったものも対象とします。）

問4 あなたは、この1年間に**事故やけが**の経験がありますか。（ひとつに○）

- ①ある → 問5 ご回答後、問6へ  
 ②ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある }  
 ③ない → 問6へ

問4で『**①ある**』とご回答された方にお聞きします。（『**②**』『**③**』とご回答された方は問6へ）

問5 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）にあった**事故やけが**について、ア～サをそれぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

（例）平成23年11月の午前8時頃、雨の中を散歩中、道路ですべて転倒し、足を骨折したため、  
 →ア②                      →イ②              →ウ③ →エ⑥ →オ③              →カ② →キ①  
病院に入院した。その後、雨の日は、すべりにくい靴を履くようにした。  
 →ク④    →ケ①

	(例)	1 件目	2 件目
<b>ア 事故やけがをした時期</b> ①平成23年8月～10月 ②平成23年11月～平成24年1月 ③平成24年2月～4月 ④平成24年5月～7月	②		
<b>イ 事故やけがをした時間</b> ①0時～6時 ②6時～12時 ③12時～18時 ④18時～24時	②		
<b>ウ 事故やけがをしたときの天気</b> ①晴                                  ④雪 ②曇                                  ⑤その他（                                  ） ③雨	③		

	(例)	1 件目	2 件目
<b>エ 事故やけがをしたときの状況</b> ①通勤 ②仕事 ③家事（日常品の買い物を含む） ④趣味活動 ⑤ゲートボールなどのスポーツ ⑥散歩 ⑦入浴 ⑧ボランティアなどの奉仕活動 ⑨その他（ ）	⑥		
<b>オ 事故やけがをした場所</b> ①自宅（屋内）                      ⑦商業・飲食・娯楽施設 ②自宅の庭など（屋外）          ⑧職場 ③歩道・道路                        ⑨農地、林地、山 ④公園・広場                        ⑩駐車場 ⑤車・電車・バスなどの中        ⑪公共の場所（市の施設など） ⑥海・川・湖・池                   ⑫その他（ ）	③		
<b>カ 事故やけがの種類</b> ①交通事故                           ⑪ハサミなどの鋭利なものでのけが ②転倒                                ⑫虫に刺された、動物に咬まれた ③転落                                ⑬物の落下 ④おぼれた                           ⑭暴力（けんか）によるけが ⑤やけど（熱湯、アイロンなど） ⑮その他（ ）                      ② ⑥異物などの誤飲 ⑦窒息（のどに食べ物をつまらせたなど） ⑧中毒（洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど） ⑨ドアなどに挟まった ⑩人や物との接触			
<b>キ けがの状況</b> ①骨折・ひび                        ⑥刺され傷・咬まれ傷 ②ねんざ・脱臼・突き指          ⑦その他（ ）                      ① ③打撲・うちみ ④切り傷・刺し傷・すり傷 ⑤やけど			

	(例)	1 件目	2 件目
<b>ク 医療機関の受診</b> ①家庭・職場などの手当てで済んだ ②医療機関に1回通院した ③医療機関に2回以上通院した（している） ④医療機関に入院した（している） ⑤その他（ ）	④		
<b>ケ 未然に防ぐことができた可能性</b> ①防ぐことができた ②防ぐことはできなかった ③分からない	①		
<b>コ 薬（風邪薬、鎮痛剤など）の服用状況</b> ①薬を飲んでいて ②薬は飲んでいない	②		
<b>サ 飲酒の有無</b> ①お酒を飲んでいて ②お酒は飲んでいない	②		

問5のクで『③医療機関に2回以上通院した（している）から⑤その他』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問5-1 医療機関にはどのくらい入院（通院）されました（されています）か。なお、問5で、1件目と2件目のどちらも『ク 医療機関の受診』を『③医療機関に2回以上通院した（している）から⑤その他』のいずれかにご回答された場合は、入院（通院）の期間が一番長かったものをご回答ください。（ひとつに○）

※退院後、通院した（している）方は、入院及び通院の両方についてご回答ください。

- |    |             |             |        |
|----|-------------|-------------|--------|
| 入院 | ① 1か月未満     | ③ 3か月～6か月未満 | ⑤ 1年以上 |
|    | ② 1か月～3か月未満 | ④ 6か月～1年未満  |        |
| 通院 | ① 1か月未満     | ③ 3か月～6か月未満 | ⑤ 1年以上 |
|    | ② 1か月～3か月未満 | ④ 6か月～1年未満  |        |

4 家庭の安全対策に関する考え方について

問6 あなたの家庭の安全対策に関して、実践しているものをご回答ください。  
 (あてはまるものすべてに○)

	あてはまる ものすべてに ○
①濡れた手でコンセントや電気コードを触らない	
②コンセントにはたこ足配線をしない	
③ガスの使用後には元栓などを閉めたか確認する	
④就寝・外出時には戸締まりをする	
⑤薬は正しく服用している	
⑥洗剤や薬などは指定の容器に入れて保管している	
⑦階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない	
⑧階段や廊下、浴室などに手すりを設置している	
⑨階段にすべり止めを設置している	
⑩室内や廊下などで段差解消をしている	
⑪浴室の使用後は、水気が残らないように乾燥させている	
⑫危険な道具 (はさみ、カッターなど) は決まった場所に置いている	
⑬床に物を置いたままにしない	
⑭すべりやすいスリッパなどは履かないようにしている	
⑮その他 ( )	

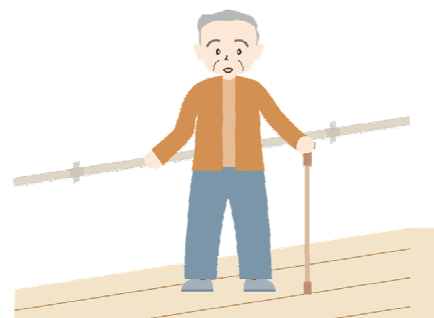
問7 防災、防犯、事故防止などに関する情報を掲載した冊子「わが家の安心安全ガイドブック」を平成24年3月に各世帯に配付しておりますがご存知ですか。(ひとつに○)

- ①知っている → [問7-1 ご回答後、問8へ](#)
- ②知らない → [問8へ](#)

問7で『①知っている』とご回答された方にお聞きします。

問7-1 「わが家の安心安全ガイドブック」を活用していますか。(ひとつに○)

- ①活用している
- ②見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している
- ③配付されたのは知っているが、見ていない
- ④活用していない
- ⑤その他 ( )



問8 あなたのご家庭では、災害に備えて、東日本大震災の前はどのような対策をとって  
 ましたか。また、東日本大震災後は新たにどのような対策をとっていますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

項 目	あてはまる ものすべてに○	あてはまる ものすべてに ○
	震災前	震災後
①家具などの固定		
②非常備蓄品（食品、水、毛布など）の用意		
③非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、非常食、水など）の用意		
④避難経路・避難場所の確認		
⑤消火器・バケツの用意		
⑥住宅用火災警報器の設置		
⑦防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録		
⑧自主防災活動に参加		
⑨災害時要援護者支援制度（要援護者・支援者）に登録		
⑩建物の耐震診断、耐震補強（へいの補強など）		
⑪家族同士の安否確認の方法（場所・連絡先）		
⑫その他（ ）		

問9 その他、ご家庭で「事故やけが」を防止するために、工夫していることなどがありましたら、ご記入ください。

5 日常生活について

問10 あなたは、介護保険の介護認定を受けていますか。(ひとつに○)

- ①要介護1～2
- ④申請したが非該当
- ②要介護3～5
- ⑤介護認定の申請の必要がない
- ③要支援1～2
- ⑥その他（ ）

問 11 あなたの普段の日常生活にかかわる動作についてお聞きします。  
次の問 11-1～問 11-12 の動作について、支障なく行うことができますか。

問 11-1 一人での外出（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-2 室内歩行（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-3 トイレの利用（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-4 入浴（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-5 シャワー（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-6 椅子からの立ち上がり（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-7 布団（ベッド）からの起き上がり（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-8 食器棚の中の物をとる（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-9 床に落ちた物を拾う（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-10 階段を上る（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある





問 11-11 階段を下りる（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 11-12 一人での着替え（ひとつに○）

- ①全く支障はない                      ②少し支障がある                      ③支障がある

問 12 あなたは、夜間や薄暗いときの散歩などに、反射材がついたものを活用していますか。  
（ひとつに○）

- ①活用している                      ③活用していない  
②たまに活用している                      ④持っていない

問 13 あなたは、この1年間（平成23年8月～平成24年7月）に、自宅で転倒した経験  
はありますか。（ひとつに○）

- ①ある                      ②危うく転倒するところだった                      ③ない

問 14 あなたは、転倒（転ぶ・倒れる）に対する不安感がありますか。（ひとつに○）

- ①とても不安を感じる                      ③あまり不安を感じない  
②やや不安を感じる                      ④全く不安を感じない

問 15 あなたは、転倒防止のために、工夫していることがありますか。  
（あてはまるものすべてに○）

- ①段差の解消をしている  
②手すりなどの歩行補助具の設置をしている  
③滑りにくい素材のものを履いている  
④転倒防止のための運動をしている  
⑤室内歩行に支障を及ぼすところに物を置かない  
⑥特に工夫していない  
⑦その他（                      ）

問 16 あなたは、転倒する（あやうく転倒しそうになる）原因は運動不足にあると思いま  
すか。（ひとつに○）

- ①思う                      ②思わない                      ③分からない



問 20 で『② 1・2 度あった』または『③ 何度もあった』とご回答された方にお聞きします。

問 20-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(ひとつに○)

- ①ある                                  ②ない

問 20-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

- ①家族に相談した  
②友人・知人に相談した  
③行政機関（鹿児島市男女共同参画センター（サンエールかごしま相談室）、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市こどもと女性の相談室、鹿児島県女性相談センター、福祉事務所、保健所、法務局など）に相談した  
④警察に連絡・相談した  
⑤弁護士に相談した  
⑥医師に相談した  
⑦民間のカウンセリングルームに相談した  
⑧どこ（だれ）にも相談しなかった  
⑨その他（                                  ）

問 21 あなたはこれまでに、家族から「虐待だったかもしれない」と思う行為を受けた経験がありますか。(ひとつに○)

- ①ある                                  ②ない                                  ③分からない

問 22 あなたはこれまでに、家族に対し「虐待だったかもしれない」と思う行為をした経験がありますか。(ひとつに○)

- ①ある                                  ②ない                                  ③分からない



自殺についてお聞きします。

問 23 あなたはこれまでに、自殺したい（死にたい）と思ったことがありますか。  
（ひとつに○）

- ①思ったことがある → 問 23-1、2、3 ご回答後、問 24 へ  
②思ったことはない → 問 24 へ

問 23 で『①思ったことがある』とご回答された方にお聞きします。（『②思ったことはない』と回答された方は問 24 へ）

問 23-1 自殺したいと思ったときの一番の原因は何ですか。（ひとつに○）

- |          |                              |
|----------|------------------------------|
| ①家庭問題    | ⑤勤務問題                        |
| ②健康問題    | ⑥孤独感・近隣関係                    |
| ③経済・生活問題 | ⑦その他（                      ） |
| ④男女問題    |                              |

問 23-2 あなたは、自殺したいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

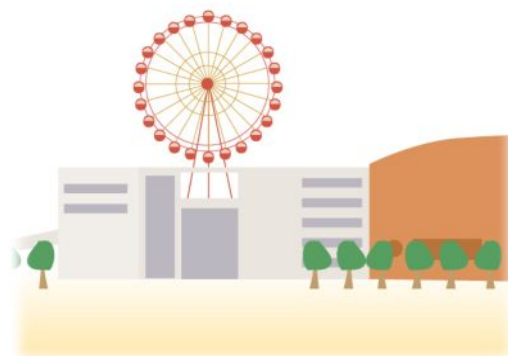
- |                     |                              |
|---------------------|------------------------------|
| ①配偶者                | ⑤職場                          |
| ②配偶者以外の家族           | ⑥相談していない                     |
| ③友人・知人              | ⑦その他（                      ） |
| ④相談機関（市役所・いのちの電話など） |                              |

問 23-3 あなたは、自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。（ひとつに○）

- ①ある                                      ②ない

問 24 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている                              ②知らない



問 25 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- ①鹿児島市では毎年約 100 人の方が自殺で亡くなっている
- ②自殺は追い込まれた末の死である
- ③自殺は防ぐことが出来る
- ④悩んでいる人はサインを発していることが多い
- ⑤自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である
- ⑥身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である
- ⑦自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である
- ⑧考えたことがない
- ⑨その他 ( )

問 26 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

[ ]

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。  
同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ **9月10日（月）**までに、  
郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。



---

---

平成 24 年度 事故やけがなどに関する調査  
報告書

---

平成25年3月

発行 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課  
〒892-8677  
鹿児島県鹿児島市山下町11番1号  
T E L 099-216-1209  
F A X 099-226-0748

---

---